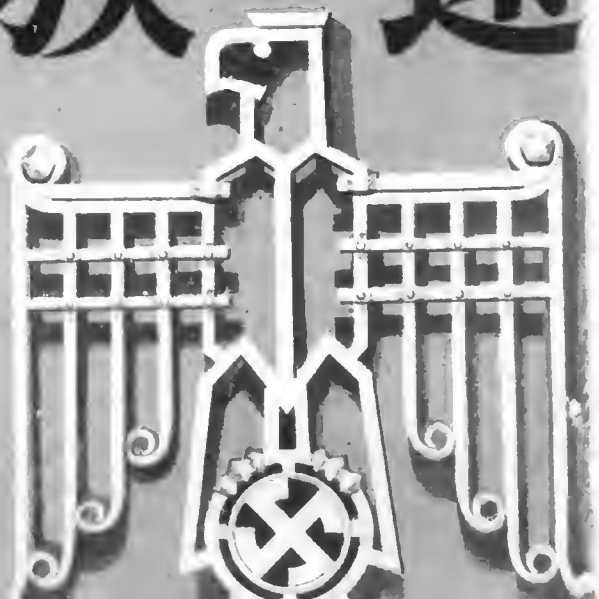


3/  
G5

# 永 遠 の 民 族





- 520



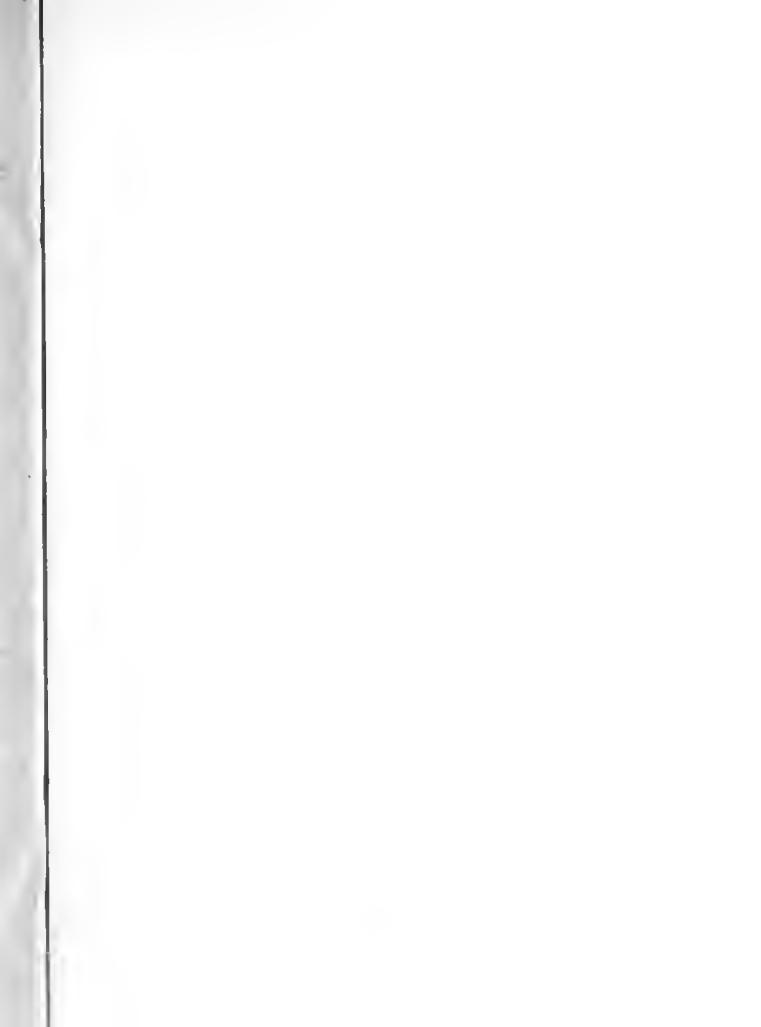
*Herzmannsdorf*



311.9  
656

永 遠 の 民 族





## まへがき

ヘルマン・ゲーリングは、ナチス・ドイツを建設するための闘争の最も激烈なる時代に、ヒトラーの忠實なる共働者として、偉大なる活動を續けて來た比類なき人物である。世の不信と無理解、憎惡と誹謗、攻撃と敵視に對して戦ひ、遂に勝利を贏ち得たところの英雄である。

ゲーリングは一八九三年、バイエルンのローゼンハイムに生れた、當年取つて四十八歳の生氣潑刺たる政治家である。第一次世界大戰當時は、飛行隊長として、その天才を發揮したが、大戰後、ミュンヘン大學にて歴史と經濟學を學んでゐた頃、ヒトラーの演説を聴き、感激し、遂にナチス黨員に加盟するに至つたのである。

一九二二年、ナチス突撃隊長となり、翌年ミュンヘンの革命に重傷を負つたことがあるが、一九二九年には選ばれて、ナチス黨を代表する國會議員となり、三二年には國會議長の地位にまで就くこととなつた。

ナチス政權獲得の一九三三年には、航空長官、プロシア首相、航空大臣、歩兵大將の要職と

名譽ある地位を次々に與へられたのであるが、これは國民社會主義労働黨が、如何にゲーリングに期待するところ大であつたかを物語るものにほかならぬ。

一九三六年には副元帥、三八年には元帥、四〇年には更に國家元帥グロイスマーといふ、軍人としての最高の榮譽が彼に附與されたのである。ゲーリングは今や躍進に躍進を續ける光輝あるナチス・ドイツの軍事及び政治上の大立者である。嘗つてヒトラーも明言した如く、ゲーリングこそ、ヒトラーの後繼者として、總統の地位に就き得るナチス最大の人物である。

本書はゲーリングの著として公刊されたる彼の論説と演説を蒐集したものであるが、これ正にドイツの歴史的な記念塔である。ドイツ國家の精神的な財寶である。ブロシア首相、航空大臣としてのみならず、四ヶ年間計畫委員長として、森林長官、狩獵長官としてのゲーリングの面影は、極めて明瞭に、本書に現れてゐるのである。直情果斷の士ゲーリングは、しかしながら他面、藝術の愛好者でもあり、保護、獎勵者であることを忘れてはなるまい。彼は歌劇、音樂、演劇のみならず、文學、及び造形美術に對しても相當の理解を持つてゐる。本書に於ても斷片的にはあるが、窺ふことが出来るであらう。

ゲーリングは觀念的な理想主義者ではない。寧ろ、それよりは情熱と感激とを以つて邁進す

ケーリングは觀念的な理想主義者ではない。それよりは、實地的、經驗的、本能的、進歩的である。ところの實行的な人間である。したがつて本書は、決して書齋の中でこね上げられたやうな種類のものではない。知的な成ひは外交的な論では勿論ない。それは體驗の瞬間から生れ、現象の必然性から生れたところの、將軍ケーリングの現實の言葉である。これ正に、國民社會主義者としてのケーリング、政治家としてのケーリング、軍人としてのケーリングの生きた姿である。

二千六百一年七月

譯者識

# 目次

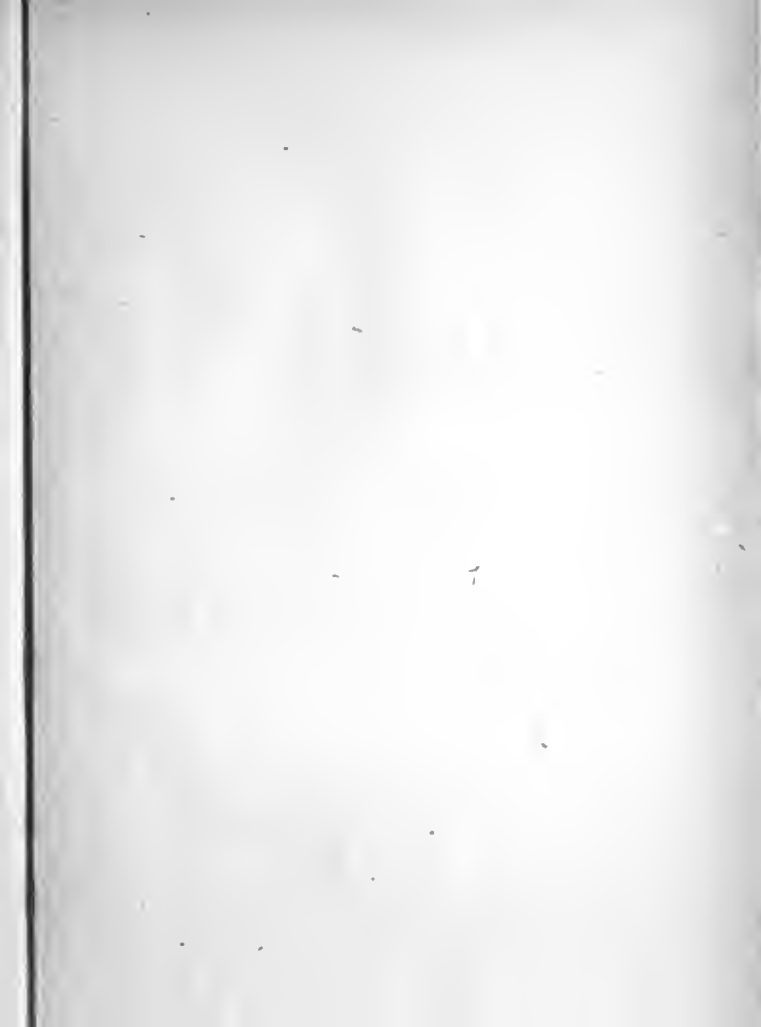
まへがき……………	一
民族の決意……………	二
民族の發足……………	三
永遠の森—永遠の民族……………	三
名譽と自由……………	七
ザールはドイツなり……………	三
總統に感謝す……………	六
全力の集注……………	七

プロシアの使命………	九
國民主義と社會主義………	二六
勝利の口………	四六
國民社會主義の國家形成………	一五
新ドイツの前進………	一八
國民と指導級………	一九
黨と國家………	一六
協働は平和を保證す………	三〇
イタリアとドイツ………	三七

大ドイツの國家記念日………	三二
四ヶ年計畫の課題………	三九
食糧の確保と四ヶ年計畫………	四九
四ヶ年計畫と自治團體………	五四
公益優先………	六五
世界經濟の新秩序………	九〇
活體解剖に對する鬭爭………	九八
藝術意志と民族感情………	一〇八
第三國家の建築物………	一二五
航空技術と航究の研究………	一三九



永遠の民族



## 民族の決意

呪ふべき犯行により、嘗てドイツ民族のために建設されたる建物から、われらは出て行くことを餘儀なくされた。暗殺によつて議事堂は擾亂された。反國家黨が如何なる動機から、かかる暗殺行爲に出でたのであるかは明瞭である。かかる暗殺は、かの十年間の國家、民族に對する憎惡の結果として現れたものに過ぎない。この暗殺は、新しい秩序と國家の再建の曙光がやつと現れたその瞬間に、ドイツに無政府と混亂とを惹起せしめんとする信號であつたものに違ひない。

われらは偉大なる時代に居るのである。數週間にして國民革命の神聖なる焰は、ドイツ民族を捉へた。宰相閣下はドイツ民族に向ひ、彼の信任によつて、ドイツ民族の指導を委任された。國民的蜂起の人々の仲間に入ることを欲するや否や、の質問を提出した。壓倒的多數のものはこの決議に参加した。彼等は從來殆んどドイツ議會史といふものを知らなかつたのである。か

かる國民的情熱の比類なき焰、かゝる熱烈なる感激の比類なき焰がドイツ民族を捉へ、かくて今や、われらが十四年間戦つて來た過去の時代も遂に幕が閉ぢられんとして居る。今や初めて議會主義的妥協、黨派的利害、從來ドイツ民族の代表が自己の民族の目の前で卑劣行爲などを持たない新しい民族の代表が現れた。今や彼等は、働くために、ドイツ民族の運命を改善するために民族を代表する。

三月二十一日といふ本日、國會が開會せられるといふことは、誠に榮光と恵みと考ふべき比類なき前兆であるに違ひない。ドイツ國會が嘗つて三月二十一日に開かれたことを知つてゐるものは恐らく諸君の中に一人もゐないかも知れない。しかもそれは、一八七一年ビスマルク公による第一回國會であつたのであつて、その日初めて、統一されたドイツ種族がドイツ國會に代表者を送つたのである。われらは、これを、われらの來たるべき仕事の前兆と考へる。その日ドイツ國家の基礎が据ゑられ、その日ドイツ民族に、全種族を綜合し抱括する框と鏡が與へられたのである。しかしこの統一する框の内部に於て、民族は徐々に破壊され、分裂し分解して行つた。今日われわれに課せられた使命は、この統一する框の内部に團結と内容の統一を齎すことである。國家のみが統一されてゐても、民族が引き裂かれ、龜裂が入つてゐては何の役

すことである。國家のみが統一されてゐても、民族が引き裂かれ、龜裂が入つてゐては何の役

にも立たない。民族の統一と團結、凡ゆる重大な問題や運命的問題に對する感情と思想の統一が再建されなければならない。したがつて、一人の男が十四年前、混亂と破壊の眞只中に於て、暗黒の眞夜中に於て、來たるべき國家に對する信仰、實踐的な一人の男がなほ將來に對する信仰を持つてゐる限りは、ドイツは滅亡するものではない、といふ信仰と希望とを新に建設せんと企圖したことに對して、われらは感謝する。この運動は、困難なる活動と、テロと彈壓に對する強力なる抗争とのうちに遂行され、その初めは七人であつたものが、千人となり、千人が一萬人となり、十萬人となり、この祖國愛の焰と、ドイツは今一度起ち上るのだ、といふ希望と信仰に促へられたものは遂に百萬人に達した。苦難の十四年、屈辱の十四年、不名譽の十四年は過去のものとなつた。嘗つてドイツで價値あつた凡てのものは蹂躪され破壊された。今やわれらは再び新時代の曙の中にゐるのである。一九一九年、人々は、ドイツは、デモクラシーと議會主義とを基礎とし、平和主義の精神を以て新しく組織されなければならないと信じたのであるが、彼等は當時それを象徴的になさんと欲したのである。當時彼等は、意識的な嫌忌と意識的な強調とを以て、ボッダムの言葉を破棄した。彼等は、ボッダムの精神からワイマールに移行すべきだと信じてゐた。かくて彼等は又、ワイマールの眞の精神を繼承する事が

出來ず、ワイマールの精神をデモクラシーの無名の多數性、議會主義の表象として理解した。

今やワイマールは征服された。そして新しき國會は、國家をして今や再び古の偉人と威嚴、名譽と自由とを取り返さしめるためには、嘗つてそこからプロシアが發生し、そのプロシアからドイツが發生したところの故郷への道、を見出さなければならぬのだといふことは、今日も亦象徴的なことである。われらはボットラムに立ち歸つた。それは、將來ボットラムの精神を以てわれらの心は満されるべきことを世界に示さんがためであり、當時嘲笑され、輕蔑されたこの精神は、決して營庭精神と關係あるものではなく、義務、訓練、勞働、純潔を意味するものであり、それはより大なるドイツを建設するために分裂せる地方を統一したところのあるものであり、如何なる艱難に遭遇するとも再び光明を與へ、ドイツをして絶えず昂揚せしめ得たものであり、われらをして、かの世界が敵となつた四年間を、確固として持ち耐へしめたものであり、嘗つてドイツに名譽と自由とを保證したものであることを聲明せんがためである。

それ故にわれらは今日、溫順しく、感謝と感激を抱いて、ボットラムに向つて行つたのである。國民革命はなほ完了したのではない。それは、わが民族の幸福のため、完成さるべきものを完成するため更に前進する。

を完成するため更に前進する。

諸君は本日このドイツ國會に於て新しい象徴を見るであらう。如何なる時代、如何なる民族も象徴を選定し、その象徴のもとに建國する。余は、ドイツに名譽と自由が跡を斷つて恥辱と不名譽が横行した瞬間に、新しき象徴を創造するため、かの光輝ある黑白赤の國旗を下した、といふ幸運に對して、感謝を表明することを躊躇するものではない。しかし、余は此處で強調したい。過去の象徴である黒Ⅱ赤Ⅱ黃を汚辱したのはわれらではなかつた。われらはそれを創造したものである。もしも一九一八年のあの大きな困難と絶望の當時、黒Ⅱ赤Ⅱ黃の旗を反抗の標として、ドイツの權威と名譽を斷乎として確守するための標として、押し樹てたのであれば、もしもこの標が、極度に緊張した力の最後の標としてわれらに與へられたのであつたならば、われはこの標を感謝して尊敬し、感謝して掲げたであらう。

しかし、この標は、征服、抑壓、恥辱、不名譽の標としてわれらに強制された。

したがつてわれらは、新獨逸が現れたる瞬間に、この標を廢棄しなければならなかつた。そして、この新しきドイツに於てわれらは今や、そのもとに二百萬のドイツ人がドイツの權威のため生命を捧げた、かの古き光輝ある旗と、十四年間の困苦と戦ひにわれらを勇氣づけ、新しき信仰、新しき希望と力とを授けてくれた、かの勝利の標とを結婚せしめた。われらは古き色

を保持した。しかし、その純白の真中に、われらの祖先の太古の標を入れ、また昂揚、純潔名譽の標としての、永遠に若返り、永遠に新しき太陽の標を入れた。かくしてこの兩つの旗は今や結婚した。そして、余は、今や全ドイツに翻るこの勝利の標のもとに、議長として本國會を開會し得ることを幸福とするものである。

本日正午われらの體驗したあの莊嚴さは、今もなほわれらの心に残つて居る。あそこのあの光輝ある場所に參列したものは、あの偉大なる光景に深く心打たれて、そこで聞いたり見たりしたことを一生忘れることは出来ないであらう。渺たるプロシアを世界的強國に築き上げ、自ら範となり、その徳と鐵の如き熱心、何ものにも屈しない義務の遂行、その勇氣、強き性格によつて、今日の如きわがドイツの基礎を築いた、かの諸帝王の靈廟に、かの老元帥が歩を進めて行つたあの瞬間は、恐らく最も感動的で、最も感激的な光景であつたであらう。われらは、畏敬の念を以て、この偉大なる帝王の前に頼いた。そして、彼の永遠の安息の場所の前で、本國會を開會する事が出来たことを、われらは開會の度毎に畏敬の念を以て想ひ出すであらう。

更にまた、われらは、本日そこでわれらの民族の宰相が、未だ嘗つて如何なるドイツ人と言ひ得なかつた言葉を言つたことに對して、心から感謝するものである。それは、われらの靈の



更にまたわれらは、本日そこでわれらの民族の宰相が、未だ嘗て如何なるドイツ人も言ひ得なかつた言葉を言つたことに對して、心から感謝するものである。それは、われらの魂の深奥に徹するものであつて、それは、われらは如何に重大なる時代にあり、如何に重大なる使命を持つものであるかを、初めてわれら一般のものに明らかにした。宰相閣下よ、余は、あなたが本日なさつた次の演説に對し、三月五日あなたに従つた百萬人の人の名前に於て、あなたに感謝する。——ドイツはその名譽を取り返した。われらは、民族が持ち得る最上にして最も光輝あるもの、即ち民族本來の名譽と自由とを得ることが出来たことを、諸君に感謝する。それは、民族が建設し得るために必要な唯一の擔保である。われらは今諸君に誓ふ、國民的盛り上りのこの國會は、その大部分、その最上の部分が諸君に従ふであらう。そして、諸君の龐大なる困難な職務や、偉大なる重荷を援助するであらう。自由と名譽は、今より後、來たるべきドイツの基礎とならなければならない。

## 民族の發足

余が今このマイクロフ・オンの前に立つてゐる間、數十萬のドイツ人は、内閣官邸の窓外に潮の如く押し寄せてゐる。それは丁度、今と同じやうに、祖國の最も高貴なる財と名譽と自由とを擁護せんがために、一民族が立ち上つた、あの一九一四年八月の日を卜して、ドイツ國が父と息子を戦争に召集しなくてはならなかつたときの感激にのみ比較さるべき氣分である。

一九三三年一月三十日は、ドイツの歴史に於て、憂苦と貧窮と侮辱と汚名の十四年の後に、國家が再び自らを見出した日として折り込まれるであらう。遂に久しく渴望された日は來たのだ。われらは今やそれを體驗してゐるのだ！　かくてわれらはドイツの歴史の最も陰慘なる頁を開き、今や新らしき一章を始めるのである。そしてわれらはこの章の上に今やあるのである。即ち自由と名譽とが、來たるべき國家の基礎である。

深き感謝の心をこめてわれらは、われらの偉大なる運動の總統を景仰する。ドイツ人の心は

る。即ち自由と名譽とが、來たるべき國家の基礎である。

深き感謝の心をこめてわれらは、われらの偉大なる運動の總統を景仰する。ドイツ人の心は彼の方へ熱地に向つて行く。しかしまたわれらは、今日の若き世代のために、確固たるしやうこ基礎を完成したヒンデンブルグ老元帥にも感謝するものである。世界大戦に於けるドイツの指導者であつた、尊敬すべき元帥の代りに、今やドイツの若き總統アドルフ・ヒトラーがある。彼は、無より起つて、信ずべき、強健にして、強力なる運動を興した。そして今や新しき、よりよき、且つ光輝ある時代の民族と帝國は、彼の強健なる腕に導かれて行くであらう。われらはドイツに於てなほ民族と祖國を信ずる凡ての人々が、今宵一致團結したといふことを、幸福の表徴と思ふのである。われらは世界大戦當時の元帥が、その信任を若き世代の總統に譲り渡したといふことのうちに、一つの象徴を見るのである。今やあらゆる人々は再び感動し始め、信任は歸つて來、信頼の光はドイツ人たちを再び照し出すであらう。今や總統と彼の運動によつて、この十年間に見出され、身につけられたものを、未來は遂にわれらに齎すであらう。そして倦まず、たゆまず、多くの反撃と失望を押し切つて、常に失望を以て到達したものは次のことである、即ちドイツ民族にはパンと勞働を、國民には自由と名譽を。

## 永遠の森——永遠の民族

榮光に輝き、旗が揺引き、勝利に満ちた、かのオリムピックの日も過ぎ去つた。競技を直接観たベルリンの何百萬の人々や、また遠く離れてこれらの競技に一喜一憂した世界中何百萬の人々の感激と歡呼のざわめきは消え去つた。ドイツの選手の上には偉大なる勝利の冠が與へられた。しかし、勝利だけが問題ではない。ドイツ民族は世界に對して次のやうなことを示したのである、即ち、ドイツ民族は、偉大で、力強く、そして協力一體、今日彼等の總統の指揮のもとに、如何なる仕事をもなし得る能力があり、又なすだけの準備が出来てゐること、しかし平和の仕事と正々堂々の競技と、そして絶對平等の權利とに於て、世界に於ける自己の立場を主張し、民族の各自に仕事とバンとを與へる以外のことをしようとするものではない、といふことを示したのである。今やわが民族は再び自己の仕事に着手した。そして彼等は常に自己の仕事に對して誇りと喜びとを持ち、力の意識と、彼等に再び名譽、自由、協同精神、及び信

の仕事を對して誇りと喜びを持ち、力の意識と、彼等に再び名譽、自由、協同精神、及び信賴の念を與へ、以て國民生活の不動の基礎を樹立したところの彼等の總統に對する搖ぎなき忠誠の意識とを以て活動してゐる。

本會議は、ドイツ民族の仕事のために開催されたのである。ドイツの山林經營者、森林所有者、山林官、及び山林學者の諸君が、ドイツ國家の全管區から本日此處に參集せられたのは、學問と實際の兩方面の協力によつて、ドイツ山林事業の建設と發展に寄與せんがためである。諸地方から此處に參集せられた諸君は、提議や意見の交換の中から、職業上の日目の課題や、ドイツ民族と國民經濟のためにドイツの森林を維持し保護増殖すべき高い目的のための新しい認識や考へを得ようと欲してゐる。ところが、この大山林科學會議の討議の中から、ドイツの山林經濟と山林科學が、その課題を深め、その事業を高めるために如何に努力を拂つて居るかを知らる爲に、海外からも亦、多くの山林事業の指導者たちが此處に集つて來て居るのである。任務は非常に増大されたのであつて、したがつて仕事はそれに應じて、ドイツの森林と、この國民的財資を保護し、以て民族全體のために役立てるべき凡てのものが、今日嘗つて見ざるほど膨脹した需要に應じるやうになさなければならないのである。かう言つたからといつてドイツの山林經濟が從來も亦、その時代の任務の範圍内の義務を果さなかつたのだ、といふの

ではない。われらは、ドイツの山林經濟と山林科學が偉大な過去を持つてゐることを認めなければならぬ。しかしそれは、更に偉大なる將來に向つて進まなければならないといふのである。これは余の意志であると共に、また全ドイツ山林經營者の意志でもあるのだ。

ドイツの科學的森林管理は生れたばかりである。ドイツの山林經濟と山林科學は重要な三つの根本思想を世界に送つたのであるが、その文化的、經濟的意義は充分評價されてゐるとは言ひ得ない。即ちそれは、森林と民族との結び附きの理念、永續性の思想、及び森林事業の組織的把握である。

森林と共同體との結び附きの理念は、古くよりドイツ民族のうちに深く根を下してゐるのである。古代のゲルマン人にとつて、森林は神聖な場所であつたのである。森林地帯に發生し、森林に囲まれて生活してゐた彼等の經濟、道德、宗教は、森林と結び附いて居た。ドイツ中世紀の村落經濟に於ては、耕地の分離所有制が既に以前から發展してゐた頃でも、マルクゲノッセン<sup>(計)</sup>シャフトの森林は何百年間共有林であつたのである。マルクゲノッセンシャフトの崩壊後、この思想は廣大な國有林或ひは自治團體の所有林の發生に當つて、多くの他の地方では見られないほど、比較的多くの影響を及ぼした。それは又、私有林の法律的確保や家族全體のための

ないほど、比較的多くの影響を及ぼした。それは又、私有林の法律的確保や家族全體のための

利用の法律的確保といふもののうちに影響を及ぼした。將來の木材及び森林産業従事者の要求を如何にして満足さすべきかといふ問題が、過去何百年の山林經濟的反省に於て第一に考へられたのであつて、それは、中世の法律や判決例に於けるドラコン的（註二）に峻嚴な罰則規定や、それより後のドイツのあらゆる地方の廣汎な山林制度上の經濟的細則や禁令のうちに現れてゐる。

譯者註一 境界線を以て附まれた古代ゲルマン人の領界

譯者註二 ギリシア雅典の立法者の名

森林が共同體に所屬するといふこの理念は、その後非常に困難な反働に遭遇した。即ち、十九世紀の初頭、他民族の思想がドイツに流入したのである。この新しい教義といふのは、經濟の自由、所有の自由といふのであつた。その結果、農民の共有林は小さく、出来るだけ小さく分割して共同體の一人一人に與へられ、遂には經濟的衰微を來たし、或ひは荒廢に歸してしまつたものさへあつた。本質的に異なる資本主義經濟の原理が山林經濟に侵入して來て、最近までは需要を充たすといふ任務よりも森林の利殖といふことの方が一義的に考へられ、最高の利益を目的とする營利經濟が巾をきかすといふ状態であつた。十九世紀の立法は、本質的にはただ地方文化の利益上、森林を特に保護しなければならぬ必要があるときだけ、私有林に反對し

たのである。

かゝる間にも、ドイツ民族が共同體に與へた健全な意義の中から、既に早く、第二の偉大なる思想であるところの山林經濟の永續性の原理が發生してゐた。森林の缺乏に悩まされた山林の人々は、限られた運輸能力しか持たない古代に於て、自然、考へは永續的な山林生産といふことに向けられたのであつて、彼等は、森林は斷えまなく成長する場合、一番役立つものである、従つて伐木せられた跡へは絶えず新たに植林しなければならぬ、といふ要求を持つに至つた。かゝる山林經濟の維持は最も偉大なる意義を持つところの一つの文化事業である。實際世界の森林地帯は永い間、その價值を認識しなかつたのである。しかし、現在なほ無制限な森林の濫伐をやつてゐる國に於ても、段々將來を見透して警告する者が現れて、地上現存の森林の富を、これ以上荒廢せしめないやう忠告してゐる。最近まで世界經濟に對する無限の木材の供給地と考へられてゐた諸地方の森林地帯の荒廢よりは驚くべきものがあるのである。

ドイツに於ては、この思想から昔の濫伐經濟の代りに植林經濟が、即ち體系的な山林永續經濟が發展した。その科學的な基礎づけと具體化は世界的に有名な、かの林學大學によつて得られたのである。ドイツは山林永續經濟の根源地となつた。個人主義的思想の侵入はあつたが、



れたのである。ドイツは山林永續經濟の根源地となつた。個人主義的思想の侵入はあつたが、

それにも拘はらず、山林經濟に於ける永續性思想は愈々力強く、これが根源に打碎の斧を打ち込んだ。それはこの百五十年の間に、高度に發展した山林經濟を背景に、それ以前の時代の森林の荒廢狀態を脱却せしめて、國有や市町村有の、また大部分の個人所有の森林を美事に育成したのであつて、この美事な森林の偉大なる木材の貯藏の中から、今日われらは、われらの木材の需要を滿たすことが出来るのである。

勿論この場合も亦、その發展が迷路に踏み込むことなしに進行したわけではない。一面的な貨幣經濟的な考へ方や、森林といふものを土地と木材量とを綜合した經濟對象なりとし、したがつて、これをその構成要素に分解し、そしてその分解された要素をかれこれ經濟的に考察し得るものだとする數學的、技術的解釋のために、森林産業の自然的基礎が等閑に附せられたのである。出来るだけ多額の貨幣收入を得ようといふ要求と、また、伐採され、荒廢した森林の跡へ出来るだけ速く能率的なものを植林しようといふ必要から、從來潤葉樹や雜木の繁茂してゐた廣汎な地域に、當時の植林技術を以て、單調で反自然的な、民族感情と相容れない針葉樹が植ゑつけられた。その結果は後になつて現れた。土壤の力は衰頹し、森林は荒廢し、木材產出高低下の危機に瀕したのである。

この失敗の反省から第三の思想が生れた。即ち、生物學的原理の上に立つた森林の組織的觀察、森林は一つの全體であり、無数の動物や植物や土壤の力が無限に多彩の調和をつくりながら相互に入り組み合つて生きて居るところの生命共同體であるといふ考へ、われらが關係するところのものは、その活動力が毀損せられざる限り、その有機的な結合は破壊されることがないところの森林であり、その處理と管理はその生物學的要求に適應されなければならないところの有機體であるといふ見解、かゝる永續的森林思想が發生した。この思想は、全體的考察の中からドイツ古代にその根源を持ち、大戰後初めて時代の流行思想に對する戦ひのうちに科學的に完成されたところの、森林の本質に對する深い認識の中から成長したのである。

確かに、昔のドイツの山林經濟や山林科學の偉大な思想の中には、國民社會主義の精神を多分に包含するものが若干あつたのである。しかし、一般に將來の人間のために現代人の犠牲を要求し、共同社會のために個人の幸福を斷念する事を要求するところの永續性の思想は、既に公益優先の國民社會主義的原理を認めてゐるのである。しかしこれらの山林經濟上の理念は、寧ろ純經濟的、科學的見解を持つてゐたのである。したがつてそれらは時代を經るに従つて、その多分の貫通力といふものを失ひ、他の理念の壓迫を受けて、或るものは肥大し、或るもの

寧ろ純經濟的、科學的見解を持つてゐたのである。したがつてそれらは時代を経るに従つて、その多分の貫通力といふものを失ひ、他の理念の壓迫を受けて、或るものは肥大し、或るものは永續森林思想の如く、ただ僅かに自己を完成することが出来たのである。

國民社會主義に至つて初めて、彼等に世界觀的土臺を据ゑつけたのである。凡ての經濟は民族のために存在し、民族のためにのみ奉仕すべきだといふその原理的要求は、山林經濟にも亦及ぶものである。國民社會主義は、總統によつて黨及國家に賦與された權力手段を以て、凡てのドイツの森林及びそれを保護育成すべきあらゆるものに對して自己の要求を貫徹する。

共同社會的理念は更に純粹な光を發する。そこから、ドイツの森林は民族の財寶だといふ原理的な見解が生れる。森林はドイツ文化の基礎として、これを保護育成し、森林の美はドイツ民族の歡喜と力の源泉として、これを守護し、森林はドイツの國土の防衛として、これを維持増殖し、ドイツ民族のために森林に於ける勞働と生計の維持を賦與し、ドイツの民族經濟のために將來の需要に應じ得るやう絶えず意を用ひて、出来るだけ多量で品質の優良な森林の生産を實現することは、民族から土地を預り、或ひはこれを管理し保護する者の任務である。

經濟的需要を滿足さすといふことは、収益といふことよりも一義的である。保護思想は益々強調され、國民社會主義的活動義務と同様に、それは窮極するところ森林管理と造林に關する森林所有者に對する高度の要求となつて現れる。勞働供給に對する協力の義務のために、森林

に於ては、機械は森林労働者の肉體労働の背後に押しやられる。ドイツ民族の生命と文化に對する森林の意義の認識から、森林の自然美を保護し、自然美の失はれて行つた場所には、これを創造すべき義務が新たに發生する。

永續性の理念と森林に對する有機的見解から、永遠の森の思想が發生する。國民社會主義的見解に於ては、森林と民族とは多くの本質的な親近性を持つてゐる。民族も亦一つの生命共同體であり、偉大なる有機的な永遠の組織であつて、その最後の一人に至るまで民族の一體である。組織の一人一人が全體に奉仕するといふことのうちにのみ、共同體が永遠に維持される秘密があるのである。永遠の森と永遠の民族は同一種屬である。

國民社會主義はドイツ森林經濟の理念を深化發展せしめたのみでなく、それに應じた行動をとつて來たのである。山林と密接な關係にある狩獵や自然保護の領域に於ては、その立法が完成したし、森林自身に關しては、立法は現在進行中である。

先づ問題となつたのは、森林經濟の管理制度上の地位を變更することであつた。森林經濟の主要任務は、貨幣收入なりと考へ、また、當時の所謂その更に重要な任務を民族全體のためだといふ風には考へなかつたところの過去の時代にあつては、森林經濟といふものを一面に於

主要任務は、貨幣收入なりと考へ、また、當時の所謂その更に重要な任務を民族全體のためだといふ風には考へなかつたところの過去の時代にあつては、森林經濟といふものを一面に於て、ただ國家の利益經濟的經營だと考へ、他面に於て、地方經濟の從屬的な經營の一分派だといふ見做し、管理上のその位置も、それに應じたものに規定したのであるが、これは當時としては何も怪しむに足りないことである。森林經濟はかゝる二重の關係から脱却しなければならなかつたのであり、又そのためにそれ自身の強力な組織が作られなければならなかつたのである。大きな州では獨立の山林管理制が樹立され、國家に於ては最高の山林官廳として國家山林局が設立された。

次の課題は、森林と山林經濟とに密接な關係のある領域を、森林及び山林經濟と結合することであつた。その領域といふのは即ち狩獵と自然保護である。野獸は森林のものであり、狩獵は山林のものである。この兩者と自然保護とは密接な關係にある。森林はドイツに山水を與へそれによつて野獸は棲息する。狩獵と自然保護は、ドイツの田舎の自然美の維持のために協力しなければならぬ。この兩者は國家山林局に總括され、國家狩獵法及び國家自然保護法といふ二大法律の施行細則によつて、全國的に統一的に規制された。

かくて、木材經濟と山林經濟は必然的に密接に結びつけられた。國民社會主義國家に於ては、從來利益團體として相互に對立してゐた生産者、配給者、材料加工者が民族に對する共同

の奉仕といふことに於て結びついてゐる。その最初の現れは山林に於てであつて、それは、木材經濟の管轄の國家山林局への移管、山林―木材經濟の領域に於ける市場制度に對する法律、及び多數の個別的細則によつて行はれた。しかし、その完成のためには尙なすべき多くのことが殘されてゐる。

森林に對する有機的な認識は、森林管理の領域に新しい道を開いた。木材生産の道は植林面積よりも個々の木に、全部伐採することから、保育のために斧を入れるといふ方向に向けられた。したがつて成長したのや價値の少い樹木は取り除いて、將來なほ成長力のあるものがそのまま殘して置かれる。即ち、將來の森林を形成すべき色々の種類の樹木を以て森林の標準を完成し、それによつて樹木の伐採による土壤の保護、又後に殘つた立木の保護によつて若返りをいどこさうとするのである。自然の若返りの條件が存在してゐない場所では――今日わが國ではその條件が與へられない所が多いのであるが――自然に委せないで、場所に適應した種類の樹木を交培して、これを助成しなければならぬ。技術的に完全な處置、育成保護、就中圍ひによる育成保護は、その繁榮を確保するであらう。貯藏法や若返り法、優秀樹の培養や若木の保護といふことは、山林經濟上一つの全體に統一せられなければならない。種屬的に低劣であ

による育成保護は、その繁榮を確保するであらう。貯藏法や若返り法、優秀樹の培養や若木の保護といふことは、山林經濟上一つの全體に統一せられなければならない。種屬的に低劣であ

つたり、或ひは病患に罹つてゐたり、或ひは成長力を喪失してゐたりしてその價值能力の低下してゐる場所には、可及的速かに若返りを施して、將來のために能力の向上を確保しなければならぬ。その場合、望ましいことではないけれども、全部伐り拂ふといふことも止むを得ないこともあるであらう。

しかし、上述の方法や今日までに得られた成果は、凡てただ端緒であるにすぎない。われらの前には大きな任務が横はつてゐるのである。即ち、ドイツの森林の維持と増植、その狀態及び管理の改善、その能力の引き上げ、生産上最善なる利用、市場の組織、これらのために出来るだけ速かに立法及び制度上の更に總括的な規程が要求せられるのである。

國民經濟上使用されてゐない廣汎な土地に植林して、森林面積を増加し、森林所有者をしてその經濟を改善し、有用材の生産を高めるべき使命を認識せしめることが必要である。更に、森林所有權といふものがその所有者にとつて特別重要な經濟上の意義を持たず、或ひはその權利に代るべきものがつくられ得るのであつて見れば、この古くさい森林に有害な權利の束縛から森林を解放するといふことは必要なことである。更に必要なことは、木材市場制を繼續するに當つては、苗床や販賣及び價格に干渉し、また、生産品の配給並びに購入を正當に規制する

ことである。最後に必要なことは、ドイツの森林で出来た木材はこれを最善の方法でドイツの經濟に使用するやうにしなければならない。即ちそのためには、價値の低い木材には化學的加工や改良を加へて、優秀な生産物をドイツ經濟に供給し、以て外國の材料から關係を斷つやうにしなければならない。

ドイツの原料供給上、木材は今日重大なる意義を持つに至つたのである。本日余がドイツ山林組合會議と同時に「ドイツの森林、ドイツの木材」の展覽會を開催した所以のものも、森林と木材とが今日ドイツ民族にとつて如何なる意義を有するか、如何に凡てのものが今日木材で作られるか、われらの日常生活が如何に建築材料としての、工作材料としての、または原料としての、木材に圍繞されてゐるか、といふことに對する觀念を與へんがためなのである。中世及びそれに續く時代の文化は「木材」文化と稱せられた。といふのは、當時木材は凡ての領域に於て最も重量なる根本材料であり、工作材料であり、補助材料であつたからである。十九世紀に至つて、木材は恰も石材、鐵材及び石炭によつて驅逐せられたかの觀を呈した。今日木材は新たに多くの用途を見出して、さながら木材時代を再現したかの觀がある。しかしこの展覽會は、ただ多方面の用途を示すだけでなく、建築材料、工作材料としての木材の素晴らしい美



は新たに多くの用途を見出して、さながら木材時代を再現したかの觀がある。しかしこの展覽會は、ただ多方面の使途を示すだけでなく、建築材料、工作材料としての木材の素晴らしい美をもち示してゐるのである。

われらは、ドイツの山林及び木材經濟の近き將來に對する大きな課題に就いて見て來た。この課題を一日も早く完遂し得るためには、山林監督官廳は國家山林局を先頭として、山林經濟の指導的専門家の助言を得ることが必要であると余は考へる。そこで余は近く、山林經濟及びその實際に最もよく精通した人々や、凡ゆる種類の山林所有者たちから、特に助言を求めようと意圖して居る。その際仕事の能率と作業能力の効果を擧げる意味で、問題を小範圍に限ることが出来るならば、この責任ある地位を與ふべき人物の選定に當つては、余はそれだけ力を盡して、特殊の専門知識、總括的な經驗及び個人的能力を基礎として、最善なる方法と最適なる手段とを以て必ずドイツ山林經濟の發展を促進せしむる者を選任したいと思ふ。

ドイツ山林組合も亦その職分に於て、この使命完遂のために協力しなければならぬ。ドイツ山林組合は多年の默々たる科學的活動と研究の結果、ドイツ山林經濟に價値高き認識と成果を齎した。それ故に余は一九三三年に、この聯合組織を嚴格なる基礎の上に新設して、第三國家の山林組織に編成するやうに努力したのである。このドイツ山林組合が目出度く成立したことはその目的達成のための、就中優れたる基礎が据ゑられたものと考へられるのである。學者

と山林官と森林所有者との協力によつてこそ、われらの當面の問題があらゆる必然な角度から考察され批判されることが約束されるのである。余がこの組合に期待するところのものは、全ドイツ民族の幸福のため、ドイツ山林經濟と山林科學を完成し、その存在を強固にし、その機能を高め、その世界に於ける名譽を維持し、更に世界山林經濟に對するその意義を増進せしめるやう、將來に於ても亦自己に課せられた職分に於て努力せられんことである。

(一九三六、八、一七、森林組合會談にて)

—

## 名譽と自由

「名譽と自由とは國民生活の基底である。」この自明の原理を、國民社會主義運動は、その闘争の十四年間に、絶えず心魂に銘じて來た。アドルフ・ヒトラーは、われらの祖國が、屈辱的無力の深淵に困憊してゐるとき、また「ドイツ」政府が、ドイツの最後の武器をも敵に交附するといふ、罪惡ともいふべき臆病さを承諾させられたときにも、この言葉を、彼のドイツを的とした闘争の内容として掲げたのである。

當時總統が、ドイツ解放に着手し始めたときには、最も大膽な者でも、屈辱的崩壊、不名譽と無防備、ヴェルサイユ條約の後の一九一五年に於て既に、ドイツが再起するであらうといふことは信じなかつた。最初のうちは、國民社會主義革命の勃發後二年にして既に、ドイツの自由が原狀に復し、それと同時に、ドイツ民族の名譽の楯が、最後の汚點を洗ひ落される、といふことは全く奇蹟のやうに思はれた。

われらすべてが、この歴史的な出来事に參與してゐるのである。ドイツの凡ての男子は今日再び、國民の武裝に於て、名譽を護るべき事態に置かれてゐる。ドイツ民族の軍隊は總統と彼の運動によつて創られて嚴然として存在し、國內的頽廢と國外的壓迫とに對する、長年月の、無氣力なる戦ひに於ける、ドイツ男子の犠牲的役割を果すべく立ち上つた。そしてこの闘争は完全な勝利に歸した。われらは、この新しく興つた防禦力を誇りつゝ、ハーゲンクロイツの勝利のもとに於てのみあらゆるものが確保されるといふことを、斷じて忘れてはならない。新しき大隊も、聯隊も、船艦も、飛行機も、アドルフ・ヒトラーの褐色シャツを着けた突撃隊の勝利なかりせば、一つとして生起し得なかつたであらう。

かくして總統は、正當にも、彼の運動の戰士たちを今年の「自由の記念日」に、ニールンベルグへ召集したのである。この日、歴史的事實の全過程は、ドイツが再び自由になつた、といふことをわれらに知らしめた。

青年の夢、全國民の希望は充たされた。あらゆるドイツ人は、再び、誇らかに、武器を身に着けた。彼は安らかな心を以て武裝し、そのとき、靜穩なる勞働によつて、民族と國家に奉仕することよりも、更に偉大なる、更に美しいものは何物も存在しないといふことを知るのであ

着けた。彼は安らかな心を以て武装し、そのとき、靜穩なる勞働によつて、民族と國家に奉仕することよりも、更に偉大なる、更に美しいものは何物も存在しないといふことを知るのである。しかしまた、彼は自らなる熱意を以て、常に民族と故國を守らうと思ひ立ち、武器を身に着けるのである。

ドイツは再び自由である。ドイツのあらゆる男子は、祖國と女と子供を凡ての侵害から護るべき立場にある。民族對民族としては、ドイツは、空、陸、水に於て、再び同權となつた。われらの總統、アドルフ・ヒトラーは、ドイツが、無慘にも、不名譽にも、奴隸的民族の運命を蒙らねばならなかつたときに、われらを護つてくれたのである。

樂しき誇りを以て、ドイツ民族に屬する人は誰でも、自らに云ひ聞かせてよい。自分は、偉大なる目的達成のために寄與し得たのであると。余にとつてもまた、總統が、新しきドイツ空軍を創るために、余を選んだといふことは、余の生涯の最も大きな體驗となつてゐる。就中ドイツ勞働者も、今日では國民の自由再現のために自分も參與してゐる仕事を、誇らかに心ゆくまで、顧みてよいのだ。ドイツ勞働者は全世界に對して再び燦然たる範を垂れたのである。

彼の献身、彼の犠牲、彼の疲勞することを知らざる勞働なかりせば、ドイツが自由となつた偉大なる今日の日は、達し得られなかつたであらう。

しかしこれと同時に、われらは、爾後ドイツ民族に課せられた、偉大なる、新しき課題を認

識するものである。即ち新設軍隊を、あらゆる危険から守り、そして、新しく鍛へ上げられたドイツの剣を、鋭く、純粹に保つて行くといふ課題を。この際には、今までと違つた非常な困難と窮乏なしには濟まされない。しかしドイツ民族は、それらを、快く、否、喜んで身に受けるであらう。なんとすれば、ドイツの取り戻した自由の表徴のうちにこそ、祖國のために働くといふことは、意義を持つてくるのであり、そして、さうあるべきときにこそ、國家の存続と未來を保證するために、犠牲になるといふことも、意義を持つからである。

わが總統の建設政策といふ、強力なる作業の過程に於て、國內統一の鍛成といふ仕事に於て、失業に對する闘争に於て、且つ最後には、勝利に終つた新興ドイツ軍隊について、實に、今日に於ても、なほ解決に至らない多くの事實が、殘されねばならなかつた。しかしわれらはドイツの自由の記念日に際しては、本氣になつて歎くべきことの如何に少いかを、はつきりと感ずるのである。と同時に、それらのことは、新しい國民生活の基礎を創つた、わが總統の建設事業といふ、強力なる體驗によつては、觸れられてゐないといふことを知らせてくれる。まさに、ドイツ自由の日たる黨記念日は、正しき大秩序に於ける、物の見方を人間に教へるであらう。この記念日は、無氣力な精神、或ひはまた、惡意ある頭腦を惱ます懸念を超越さす。歸

らう。この記念日は、無氣力な精神、或ひはまた、惡意ある頭腦を働ます懸念を超越さす。疑

間瞬間を、また毎日を、弱々しい不安のうちにのみ見出す人々は、國民社會主義の勝利によつて既に創られた壓倒的な偉大さに、眼を向けるやうにされたい。さうすれば、またその人は、絶えず前進し續ける國民社會主義は、時を得て、秩序づけられるであらうといふこと、そして今日なほ、國民社會主義的理想にとつて、適應しないやうな事柄もまた、強力に秩序づけられるであらう、といふことを知るに至るであらう。新しきドイツは、その課題に對して投縮するのには、あまりにも強力である。今年の黨記念日の後にも、われらは拱手傍觀することなく、總統の命ずる箇所と方法とによつて、第三國家建設のために、働き續けるであらう。

今年の黨記念日にも、すべての人々の眼は、彼に向けられる。ドイツの全政治力を擧げてのこの強力なるデモンストレーションに於て、爾後再び自由になつた幾百萬のドイツ人たちは、總統と祖國に誓ひ、この忠誠の誓ひに對しては、たとへ命がけでなければならぬとしても、永遠に忠實であらうといふ心の準備が出來てゐるのである。

(一九三五、九月、黨大會當日フエルキツシエル・ベオバハタル紙所載)

## ザールはドイツなり

數週間にしてわれらは現代の最も非道な犯罪から免れた。マルセーユの恐ろしき悲劇は、この陰謀の繼續をめぐる憶測と推斷を以て、恐ろしくはつきりと次のことを示したのである。即ち政策的な考へに於ける神經過敏が、いかなる程度まで國民のみならず、その責任を負ふ政治家に根を下ろしたかといふことである。暗黒の色のうちに、世界の新聞紙は將來を暗示した。サライヴ<sup>サライヴ</sup>と各新聞は書いた。そして新しき世界の火災が始まることを豫言しようとした。世界は凡ゆるものを滅ぼす、この毒盃の前に己れを守り續けた。しかしながら無政府主義的な陰謀者の蟻選すべき小徒輩が、世界及びその國民に破滅を誓ふことが出来たやうな不安は、政治的な不安、この永遠の平和破壊者を世界から放逐せんとして凡ゆることがなされないならば、どこまでも存続するのである。國民の運命を導く人々に對して、不和や對立を除去せよといふことは眞面目な忠告ではないだらうか。われらには準備が出来た!! そしてドイツはその



いふことは眞面目な忠告ではないだらうか。われらには準備が出来た!!　そしてドイツはその

總統の國を通して、かゝる眞の平和政策への準備を今までよりも一層告げ知らせることが出来たのである。

われらのフランスに對する關係は、全く公然たる問題であり、フランスさへこれを欲するならばそれに關しては和解をもたらし得るものである。そしてこの問題とはザール問題なのである。十一月には國際聯盟が開かれ、それに先立つ數週前にザール地方にあるドイツ民族は彼の運命について自決をなすであらう。そして自分の故郷のために自らを表明し、この問題を改めて解明するであらう。この運命をめぐつて八十萬のドイツ人があり、その人々は民族的ドイツを内面的には決して放棄することの出来ない人々である、といふことを聯盟の人たちは忘れてはならないのである。吾等の總統であり宰相であるアドルフ・ヒトラーはフランスに對してなんべんも理解への手をさしのべたのであるが――残念ながら無駄であつたことを記憶してもらひたい。平和的な統一へのヒトラーの勸告は吾等の隣國との理解に到達せんとして、ドイツ側から凡ゆることが爲されたことの立派な證明である。十萬人のドイツの國民が彼等の故郷を求め、彼等の貴い財寶を求めて格闘する投票戦に於て、新しき對立が起るといふことは今やどうしても避けられないことである。余は考へるに、平和な以前の如き和協にあつては、ザール地

方を求める闘争——これは吾等の側から起つたものではないが——に入つてくるやうな、かうした緊張は避けられたのであつた。

いかにひどく種々の意見が衝突せねばならぬかといふ一例が、特にザール政策によつて促進される國際的に特殊な投票警察の問題に於て示される。われらドイツ人は反激と憤怒を以てこの要求を除去しなければならぬ。われらはその中に正に、全ザール住民の最も簡單なる權利の蔑視を感じる。もしもこの關係に於て、われらは信頼すべき植民地警察にこの投票警察の指導を委ねるべきであると云つて、眞面目にこの提案が出されたとするならば、それは思考の混亂を示すものである。余がそれに對して語り得ることは、かゝる植民地の方法を適用する考へのみが、全ヨーロッパ文化に對する害毒を意味するといふことである。われらは自由な、そして外部から影響されない投票の必要を認めた。そしてわれらにはこの自由を保證する用意があるのだ。ドイツは上シレジア地方の併つての國民法的義務の執行に當つて、われらは引き受けたる義務を餘すところなく完遂しようとしたといふ最も明かな證明を残したではないか。

ザール地方の住民は明かに千年以上もドイツ人であり、それに變りはないであらう。これは動かすべからざる事實である。過去數週間或ひは數ヶ月間、この地方を旅行した凡ゆる外國の

動かすべからざる事實である。過去數週間或ひは數ヶ月間、この地方を旅行した凡ゆる外國の

訪問者は、このことを確言し、注目すべき明言を以て、このことを世界の新聞に繰り返して強調したのである。この事實を遂にはフランス人も認めたのであり、これに譲歩せねばならなかつたのである。十五萬人のフランス人がザール地方にゐるといふ傳説のやうな話はもはや根據がない。多數といふことがフランスに加入する理由になるといふ事は、全世界で誰も信ずるものはない。したがつてもしも今や一度も投票を行つた事のない或る範圍から、ザール地方の現狀に對して宣傳の太鼓が打ち鳴らされたとするならば、この分離主義の合言葉には現實政策的な引力が少しもないことを、余は確言することが出来るだけである。現狀即ち從來の狀態の保持は實際にはあり得ないことである。そのための宣傳は投票によつて權利を得たものの錯誤以外のものではなく、珍らしくも鈍重なる投票獲得である。現狀に對する多數決の結果は、少しも一致といふものではなく、全然解決を見たものではないであらう。寧ろ全く新しい困難を惹き起し、現在の如き堪へ得べからざる狀態を永遠に持續せしめるやうな不統一の根源を作るであらう。そして政治的にも經濟的にも獨立し得ない小國家が生ずる結果となり、國際聯盟に又も新しい困難を提供し、ただマルキストやボルシェヴィストの不安創始者にのみ隠れ家を提供することになるであらう。もしもフランスの政治家が冷靜な、しかも率直な認識を以てこの結

果を眺めるならば、フランス側の見地からしても、現状からして、何も論争の餘地なきものであることを、彼等は承認しなければならぬであらう。ザール地方は決してフランスにはならないものであること、かかる夢は新しいユートピアに過ぎないことを、フランスは全く正しく知らなければならぬ。かゝる冷靜なる認識よりするならば、フランス人でない移民は將來のフランス政策に苦しむやうな危険に自らをさらすことのないやうな結果に至らねばならないのである。

ザール地方そのものにとつては現状は、その政治的及び經濟的困窮の永續化を意味するのであり、その住民のための物質的に困難な見逃すことの出来ない損害を意味するのである。しかもわれらの忘れてならぬことは、今日ザール地方の全收入税よりも多額のもの、地代として拂はれるといつたやうな、色々とドイツ國家が配る好意が無視されてゐることは、住民を恐るべき、經濟的な困難に陥れてゐることである。ドイツのザール住民と國家の運命的な結合は非常に強いものであり、われらの直ぐ前にあつたワイマール憲法の時代にあつてさへ、豊かなドイツ工業もザール地方のために停止を斷行せねばならなかつたほどである。最近注目されるザール地方の工業生産の改善は、専らドイツへの注文に歸せられてゐる。これは國民社會主義政

府によつて特に要求せられたのである。したがつてわれらが純粹に經濟的に考へただけでも、

府によつて特に要求せられたのである。したがつてわれらが純粹に經濟的に考へただけでも、われらがこの純粹に民族的な問題に於て最も鋭く拒否する方法を、國家とザール地方の最後の統一に反對する者は、極力排斥しなければならなかつたのであらう。十五年間分離された地方の有機的な分割を投票によつて國家の中に統一するためには、なるほど解決さるべき無數の經濟的な過渡的困難や問題があるであらう。しかしながらわれらが解決し得ないやうな困難な問題は一つもないのである。國民社會主義の行政は過去數ヶ月間に於て、經濟的に困難な諸問題を解決して來た。しかもそれらのものはこの問題よりも一層大きく、そして危険なものであつたのである。

これら凡てをザール地方の住民はよく知つてゐるのである。全體に於て眺めるならば、したがつて今行はれてゐる宣傳は、各黨派が選舉の五分前に大きな約束を以て現れたやうなドイツの議會主義的な時代を苦々しくも想ひ出すやうなものである。この約束は、周知の如く、選舉後には一度も果されてゐなかつたではないか。

平靜なる良識を以て、政府とドイツ國民は、國民投票の日を迎へようではないか。

## 總統に感謝す

今やこの古き國會を解散して、大ドイツ民族國家の國會として再會するに當り、この偉大なる民族國家を形成したところの彼の男に、諸君の名に於て感謝の辭を述べることを許してもらひたい。

前國會に於て總統が報告演説をなしたとき、われらはその中でまた豫言的な、警告的な言葉をも聞いたのである。この比類なき報告は、われらの心に深刻なる印象を刻みつけた。しかしこの豫言的な警告的な言葉は聞かれなかつた。その言葉は破棄された。オーストリアのわれらのドイツの同胞に脅威が加へられた。そのときオーストリア在留の同胞代表者は、ドイツ民族とドイツの總統に對して、同胞救助を求めて來た。同胞救助は行はれた。最悪の場合に備へられて、ドイツの軍隊はオーストリアに向けて進入した。ヴェルサイユ會議後二十年にして、われらの國家の偉大なる再建が實現されたのである。

しかし、われらの軍隊がオーストリアに進入したのは、攻撃のためでも、掠奪のためでもな

しかし、われらの軍隊がオーストリアに進入したのは、攻撃のためでも、掠奪のためでもなく、大ドイツの同胞として、共に歡呼の聲を上げるためであつた。そして、熱愛する總統が自らオーストリアのドイツ人の前に姿を現すや、その未曾有の歡聲は到る所で颶風のやうに高まつた。

解放されたる民族の歡聲は、このわれらのドイツに於ても聞くことが出來た。それは更に遠く全世界にまで響き渡り、そして、オーストリアに於けるドイツ民族の眞の意志に就いて欺瞞されてゐた人々に確信を與へた。同時にしかし、進駐した軍隊及び總統自身は、過去の政府によつてなされたオーストリアの困窮と缺乏に接して深く感動させられた。しかしオーストリアのドイツ民族は、この困窮と缺乏と艱難にも拘はらず、毅然として、これに堪へて來た。そして今や解放の歡聲を擧げて總統への忠誠を誓つた。諸君は、あらゆる苦惱の後、遂に再び解放が齎らされたときに演ぜられた、あの感激的光景を、ラジオを通して知つてゐる。わが總統よ、あなたは解放者としてあなたの故郷に歸つた。あなたはわれらが非常な困窮な状態にあつたときわれらの救済者となつたやうに、彼等の解放者となつた。あなたは、あなたの故郷を國家に取り返した。それは、オーストリアのドイツ人を欺瞞し、不安を與へてゐたやうな不用の

もの、貧困なる土地としてではなく、ただ政府の無能と無理解のために埋もれたままになつてゐる優秀なる人間と、豊かな財寶に恵まれた土地として。しかし今や、あなたの指導のもとに、これらの財寶は掘り出され、丁度あなたが嘗つての困窮と苦惱のドイツに再び未曾有の繁榮を齎したやうに、この土地は發展し繁榮するであらう。四ヶ年計畫、それは從來總力の綜合を意味したのであつて、今やオーストリア在留ドイツ人も亦、歡びを以てこれを支持し、擔當するであらう。

しかし、わが總統よ、あなたは如何にしてあなたの故郷を獲得したのであるか！

あなたは如何にしてオーストリアのドイツ人を「抑壓」したのであるか！

血に狂つた暴動や、壓迫や、或ひは暴力を以てしたのではない。寧ろあなたは、強いあなたの心と、確固たる信頼と、そしてかの驚くべき寛大さや、あなたが何ものにも勝つて尊重する美はしき善意とを以て、かの土地を獲得し、われらのものたらしめたのである。

そして今や再びあなたは、善意と寛容とを以て彼等に、彼等は大抵何も知らず、間違つて指導され、欺瞞され、邪路に導かれてゐたのであるから、オーストリアを回顧したり、抗論したり、議を構へたり、復讐したりすべきではない、といふことを命令した。あなたの善意は彼等



に行くべき道を示した。名譽を欲する者は來たつて、民族及び國家の統一のうちに於てのみ、最大の力も亦發展し得るものであることを見なければならぬ。一發の銃彈も發せられなかつた。如何なる復讐の裁判も血の裁斷を下さなかつた。過去に對する善意と寛容、未來に對する希望と偉大なる信頼、これをあなたはあなたの故郷に齎した！ 一人の負傷者も出さず、しかも絶望的な負傷を治療せしめる、これが數日間になしたあなたの仕事である。親愛なる總統の指導のもとに、オーストリアの未來は將に洋々たるものがある。世界史上嘗つてかゝる革命が何處にあつたであらうか。われら一同の感謝如何ばかりであらう。總統よ、われらは又ドイツの名譽の輝かしく確保せられたことに對して感謝を捧げるものである！ かくてあなたは更に遙く全世界のドイツ人に希望を與へたのである！ この感謝の心をどのやうに表現したらよいのであらう。總統よ、われらのこの感激を如何に言ひ表すべきであらうか。あなたの行爲に對して如何なる言葉を用ひたらよいのであらうか。總統よ、一體あなたはほど愛されたものがあるであらうか。あなたの使命に對する信頼ほどの強い信頼が、嘗つてあつたであらうか。神があなたをわがドイツに下し賜うたのである。あなたは深夜の中からわがドイツ民族を救ひ出し、そして、國家を輝く光明の中へ導いたのである。萎靡銷沈の中から強大なるドイツを創造した

のである。總統よ、われらはあなたの要求するところのものをなすべきであり、われらがそれをなしたからと言つて、われらの感恩は消滅するものではない。何百萬のドイツの母はその子供を捧げて祈るのである、神がわれらのあなたに永遠の力と健康を恵まれんことを。

全ドイツ人は心からなる感謝の言葉を捧げる、われらの總統よ、有難う！

全ドイツ人は、この記念すべき、歴史的瞬間に、感激を以つて叫ぶのである。ドイツの救済者萬歳！ ドイツの唯一者萬歳！ われらの生命をして初めて再び生命的價值あるものたらしめたところの親愛なる總統萬歳！

諸君！ ドイツの名に於て、われらは全國民に代つて叫ぶものである。われらの總統アドルフ・ヒトラー萬歳！

（一九三八、三、一八、國會演説）

## 全力の集注

余は、昨年と同様に、今日もまた、すべてに對し、特に今日初めて會議に参加することを許された東部邊疆の勞働戰線の同志諸君に對して、總統の挨拶を傳達する必要がある。これまで東部邊疆の創造者たちは、壓制や窮乏や恐怖を及ぼす制度に對し、そしてまた、不當にも、對外的にだけは、ドイツ的に振舞はれることを欲してはゐるが、しかし、眞にドイツ的と思はれドイツ的と感じられ、ドイツ的に行つてゐた凡てのものを壓制する制度に對して、拳を握つて來たのである。今や、東部邊疆の創造者たちは、再び、拳を握らなければならぬが、今度は國民と總統のために、勞働を行ふべく、シャベルと斧の萬力を持つためである。今や諸君は、東部邊疆に屬する人として、われらの大ドイツ民族共同體の中に編入せられてゐるばかりでなく、諸君はまた、創造者として、ドイツ勞働共同體、ドイツ勞働戰線に編入させられてゐる。失業といふ幽靈は、東部邊疆に於ても、影を消した。貧しき人々は、力強く張り切り、到

る處、勞働は旺盛となり、嘗ての疲れきつた濁つた眼差しは、希望に充ち満ちて、はつきりと將來を見つめてゐる。諸君の指導してきた闘争は、無駄ではなかつた。諸君の確信は、正しい結果を生むに至つた。東部邊疆は幸福である。東部邊疆は、再びドイツ國內にある。

われらはしかし、舊國家内にあつて、嘗てはわれらのところにも、失業の呪咀が威力をほし、いまゝにしてゐたといふことを、屢々忘れてゐる。仕事を求めるために、あちらの會社こちらに會社と歩き廻らねばならなかつた、あの恐るべき時代、そして窮乏と貧困とが、われらの國民に於ては、極く當りまへの現象であつた、あの恐るべき時代を、われらは、あまりにも安易に忘れてゐる。ドイツ國民が、力を把握する前の時代には、到る處に、物凄い勞働の不足があつた。しかも今日では、それと正反對に、勞働者が不足してゐるのだ。われらはあまりにも安易に、このことを忘れてゐる。誰一人として、諸君から、勞働を期待し得なかつた嘗ての時代がどうしてさうであつたか、そしてまた、五年後の現在も、僅かに、一つの問題が解決されたに過ぎないのは、どうしてあるか、といふことを、諸君が、ひとたび明確に把握しさへするならば、恐ろしいほどの勞働の充満や、強大激烈なる努力に對しても、實際は、充分に、勞働者を見出し得るものと、余は信じてゐる——これと類似の事態が、世界の何處にあるであら

うか。われらをして、運動に没頭せしめた緊急の課題を解決するために充分なる労働者を、提供し得ないやうな七千五百万の國民が、現在何處にあるだらうか。總統が、正當にも、聲明の中で述べたやうに——外國がわれらに對して、労働者の不足といふ、この困難を非難するならば、そこには實に、何か本質的なものがあるものと余は思ふ。われらの周圍の國々は、労働者の過剰を來たしてゐるが、しかしそれらは、嘗てわれらが激しい恐怖を以つて、經驗しなければならなかつたやうな労働の缺乏に悩んでゐる。失業といふ恐怖から、われらを引き離してくれた、この數年間に、ドイツでは、未だ嘗て見なかつたほどの力強さを以つて、建設事業が著手せられ遂行されてゐた。われらは誇らかに、この強力なる建設事業と、その業績を語つてもよい。なぜなら、われらは凡てその事に關與して來たからである。われらのうち誰一人として、この強力なる建設と、この成果を、自分獨りだけのものとして銘記することは出来ない。否、これには、全ドイツ國民が、あらん限りの幅と深さを以て參與してゐる。われら凡てに對して、この建設事業は有利なものとなつてゐる。しかしまた、われら凡ては、それを實行しなければならなかつたのだ。われらが當時、その事業に着手したとき、そのときには、實に、多くの人々は、それを快からず思つただけである。國外でも、それは永く繼續し得るものではな

い、と言はれてゐた。彼等は恐らく非常に優秀な政治家であつたのであらう。さもないと、  
全國民をして自己に興味を起さすといふことは、結局、彼等には出来得なかつたであらう。彼  
等は、あらゆる事柄に對して、吹聴者であり、辯士であり、宣傳家である。がしかし、彼等  
は、一つの事柄には、全く頓挫しなければならない。即ち彼等は、經濟に關しては全然見通し  
を持つてゐないのである。この領域に於ては、彼等は、夢想家なのだ。事實すでに彼等は、  
二三年の間に——當時は四年といはれてゐた——失業問題を解決しようと思つてゐると語り、  
しかも、われらの時代の最も優秀なる人々を以つてしても、解決されなかつたのに——未だ嘗  
て、經濟などいふものに、たづさはつたことのないこの素人たちに對して、どうしてこの解  
答を望むことが出来ようか。

余は、當時の支配的人物たちに對して、次の一事だけは承認するものである。實に彼等のや  
つてゐた、かの腐敗せる亂脈經濟には、われらは、些かの期待も持つてゐなかつたのである。  
それは事實である。彼等は、手品を使つて、恰も、經濟が高度な學問であるかのやうに、われ  
らに思はせてゐた。課程表、定價表、配當、勘定、租税、利益の混在せるこの密林の中に、彼  
等に共通してゐる利己的な利潤を收めんとする野心は、辛うじて隠されてゐた。彼等は、この

ことを、高度の經濟と言つてゐたのである。

この自由主義と經濟の把握の仕方に対して、われらは、國民社會主義的經濟の把握を、對立せしめる。換言するならば、經濟の中心點に存在するものは、利益を目的とする個々人ではなくして、民族と國民である。勞働と經濟は、専ら、全國民のためにのみ存在するのである。

しかし、經濟を、何か或る高度な學問の計算によつて救ふといふことは、實に全然不可能なことであつて、經濟はたゞ斷乎たる意志によつてのみ救はれ得るものであり、意志によつて實行され得るものである。しかしそれは如何にして可能であつたか、一般にドイツの經濟を再び秩序づけるためには、指導に當つて、就中創造者の信念、ドイツ勞働者の信念が、獲得されねばならなかつた。なぜならば、ドイツの經濟は、ドイツの勞働者と共にあつてのみ再建され得たからである。創造し勞働するものゝ信念によつてのみ、快癒に至らしめた力は、指導に對する勞働者の信仰の中に、彼の兩の拳の創造の中に、彼の日々の勞働の實行の中にのみ安らかであつた。他面われらは、企業家、殊に若々しい企業に關して、新時代についてのみ必然的な理解を得るやうに、心を使はねばならなかつた。われらは彼等を舊體制的考へ方から解放し、再びその國民の中に位置せしめねばならなかつた。そしてまた、彼等をして、勞働を與へる人

と、労働を受け取る人との間に闘争があつては、経済は、絶対に繁榮し得るものではなく、偉大なる事業の創られる凡ての場合と同様に、統一のみが、成功の前提であるといふことを、知らしめねばならなかつた。全精力の集結のみが、大事業を完成し得る。経済に於ても、事情は全く同じである。

ここでは、労働者の信念と企業家の理解とが、前提であつた。かくして、凡ての経営に於て全體的な國民の廻轉を反映する像が、作られねばならなかつた。われらが、一つの全體の中に民族共同體を鍛練したと同じやうに、今やこゝでは、特殊の中に、労働共同體と營業共同體が形成されねばならなかつた。そして、いつか、歴史が、ドイツ労働戦線の事業に關して、記述されるときには、營業共同體と、労働共同體の創造は、あらゆる障害を超越して、労働戦線に對して、最大且つ不朽の功績となつてゐる、といふことが、強調されなければならないであらう。

また全部門に亘つて、煽動に對する闘争を續けるといふことが、どうしても必要であつた。余はもはや、ドイツの労働者が、如何に激しく煽動せられてゐたかに對しては、何も云ふ必要はない。彼等は、十年の長きに亘つて、マルクス主義と共產主義に教育されて、やつて來たの



である。労働戦線内で正しい指導精神を形成するといふことは、既に、ライ一派の黨員たちには、實際困難なことであつた。だが、以前に労働組合を始めたことのある、かの古い賃金表に載つた人々への顧慮は行はれ得なかつた。ここではむしろ、新しい人たち、殊に、本物の國民社會主義者の人たちが、指導の任に當らねばならなかつた。なぜならば、國民社會主義の表徴のもとにのみ、ドイツの労働者は、再びその國民と、その國家のものとなり得たからである。かくてまた、經濟建設のための黨と、政府の實踐的労働が始まつた。たしかに、それは困難なる道程であり、しかも、この道程を、指導といふ實行意志のおかげで進んだのではあつたが、われらの反對者は凡て、間もなく崩壊するだらうといふ状態の希望を持つてゐたのである。そして、彼等が、もはや少しの希望も持ち得なくなつた後にも、また謀反も完全になくなつた後にも、更に國民の統一が、もはや破壊され得なくなつた後にも、絶えず残つてゐたのは、經濟的崩壊への期待であつた。しかして、この愚人どもは、長期に亘つて指導してゐるからして、今日もなほこの期待は存してゐるのである。

・ たしかに、人々が、自由主義に於て妥當したと同様な、經濟の基礎と法則とを採り擧げて、今日のわれらの事態と比較するならば、そこには些かの聯關も見出されない。それで、吾々が

なすところのものとすべし、混沌の如くに見えるのである。しかし、もしも統治者たちが、ドイツの經濟の背後には無制限の意志と信念と總統の力があるといふこと、更に、この經濟は黨によつて運行されるものだといふことを、顧慮してゐるとすれば、彼等は、ずつと前に經濟は固定されてゐるといふことを、豫感しなければならなかつたであらう。

しかし彼等がそのほかにまた近隣の國々の經濟、殊にあらゆる學問的知識を獨占してゐる大民主主義の國々に於ける經濟を、われらの經濟と比較し始めるならば、兩者は自ら、調和するものではない。一方、彼等の見解よりすれば、かういふことは凡て、直接崩壊を導來する幻影にすぎないのである、なぜならば、彼等は、一面、國民といふものを、——誰でも聞けば驚くであらうが——その創造的人間の事業を度外視して、他國から勞働者を、呼び寄せねばならぬものと思ひ、そして他面、無數の失業者が、日々増加して行くところに、民衆といふものを考へてゐるからである。如何にして兩者は統一され得るのか。ドイツ國內で、彼等は強力なる準備をしてゐると言はれてゐる。しかし、彼等は、彼等自身が強力なる準備をしなければならなかつた、といふことを忘れてゐる。それ故、このことにのみ拘泥することは不可能であつて、必然的に諸他の力や武器によつて、この強力なる轉換は、導かれねばならなかつた。世間

では失業が昂進して居り、危機は増大しつつある。われらは屢々、このことについての書き物を読んだ。しかし増大してゐるのは、單なる危機ではない。物價も高くなり、貨銀も高くなり、そして更に物價は一層高くなつてゐる。そこで余は、この榮譽ある經濟哲學を、われらは嘗ても練習し通して來たのである、といふことを言はなければならない。「刀の鞘のやうな人、馬のやうな人々、及びその他の人々」が、ドイツで支配してゐたときに、われらは凡てのことを學んだのである。

これらの嘗ての大人物たちは、非常に敏速に、外國への逃げ道を見出したといふことを、余は想ひ出す。恐らく彼等はそこで、經濟の領域に於ける顧問官の地位を獲得し、われらを嘗て繁榮せしめたことを、そこで再び繰り返してゐるのであらう。

われらはまた、外國で「好まれてゐる」同盟罷業が、今にも起らうとしてゐるのを見てゐる。またわれらは、そのことを、よく知つてゐる。われらは、同盟罷業は凡て、必ず「生産の増加」を結果し、また必ず經濟を「安定せしめろ」といふことを、充分辨へてゐる。否！われらは秩序を作つたのだ。そして、われらの成功の法則はそのうちにこそあるのである。われらは、持場々々によつて異なる利害の混在と對立とを統制した。われらは、この利害の對立分散を

除去して來た。

利害の對象は唯一つしか存在しない。これ即ち、あらゆるものを屈服せしめるドイツ國民とその將來である。たしかにわれらは烈しい不安を味つて來た。そして多くの怖るべき困難は突き破られ、克服されねばならなかつた。余が、偉大なる經濟の天才であるといふことを、余は決して主張するものではない。余はただ、秩序が創られねばならぬところで、秩序を創るために、自己の全力と最善と全意志力を盡すものであるといふことだけを、主張したのである。この場合、經濟も決して例外をなすものではない。なぜならば、秩序といふものは、われらが、自己の行爲のあらゆる分野を含ませた一般的概念であるからである。余が前に述べた如く、今日われらは、非常なる困難に直面してゐる。即ち、如何にしてわれらは、勞働参加の大問題を解決するであらうか。實に勞働参加と勞働能力を規則立てることは、今日では非常に困難なことである。これこそ、四ヶ年計畫の核心的課題である。

余自身にとつて非常に重要なものとなつてゐるところの一つの命令を、余が公布しなければならなかつたといふことは、必然的に、國家防禦を保證することゝなつたのである。國家を安全にするといふことが重要であつたり、西部地方に、全く遮斷的な柵を設ける必要があつたり

したときには、余はそこでは、些かも躊躇しなかつた。余はそこでは、義務としての勤勞を行つて來た。そして、勞働者たちは、自發的に、喜んで、余に隨いて來てゐる。數十萬の勞働者たちは、彼等の工場から引つ張り出されてゐるのである。これはなぜだらう。それは、彼等が、國家行政上の必然的な課題に没頭せしめられたからである。しかし余は同時に、疑問を絶對に起させないために、次の一つのことを、強調して置きたい。それは即ち、義務としての勞働へ没頭するといふことは、ただ國家の安全性といふ現實の重要な目的に對してのみ、問題となればよいといふことである。余はあらゆる場合に臨んで、このことに關する決意を、余自身では留保して來たのだ。

もしも余が、或る課題のために、通例のやり方で、勞働力が得られるといふことを知つてゐたならば、余は、この勞働のために、義務勞働者を用ふるといふことには、決して二度と同意しないであらう。この命令が、全く決定的な目的のための特別な規範であり、また國家の運命が絶對的に、その遂行如何にあるところの、建設目的のための特別な規範であるといふことは、些かの疑問も起らないであらう。總じて、通例の行き方では、力の缺乏といふことは、隠されねばならない。

余がこの際、中傷の言辭を弄する外國人たちに對してまでも對抗してゐたならば、ドイツでは段々と、強制労働が行はれるやうになつてゐたであらう。彼等は、強制と義務を、一つの意見に纏め上げることが理解してゐない。われらにとつて義務であるところのものが、彼等にとつては強制であるかも知れない。しかし彼等は、ドイツの労働者がまた今日、義務といふ無上命令を、羅針盤として身に著けてゐるといふこと、そして、ドイツの労働者はまた、何よりも先に、その義務を果す心構へが出来てゐるといふことを忘れてゐる。且つ、最高の義務は國家の安全確保である。このことは、世界の誰とも議論する餘地のないことである。

余は、強制を以てしては、決して特殊なことは、達成せられないといふことを、充分知つてゐる。強制は喜悅を抑壓し、その場合には、單に平凡な業績しか出て來ないだらう、といふことを、余は充分知つてゐる。余がドイツの労働者に國民の安全確保の義務を叫んでゐるときには、余は以上の如きことを訴へてゐるのであるといふことが、自分に分つて來たのである。余は、外國のジャーナリストたちは自己を見るのに恐らく、ドイツの各地方からこの所謂「強制された労働者」を積み込んで、西方へ旅して行つたところの列車だと思つてゐるのであればよい。だがそれは、強制された労働者たちではなかつた。彼等は、歡呼の聲を擧げて旅立つたの

だ。なぜならば、彼等は、今や自分たちで、國境を護るのであるといふことを知つてゐたからである。有り難いことには、國家の安全確保に入つて行きさへすれば、われらは、ドイツ人と呼ばれるのだ。それは斧とシャベルを持つてもよいし、劍や銃を持つても構はないのだ。いづれにもせよ、それはドイツの男子の、最高の、最もやり甲斐のある義務に變りないのである。

かゝる時に於ては、われらを取り巻く周圍といふものは凡て、われらに餘りにも強く響くので、余は些々たる事柄に拘泥すべきではないと思つてゐる。云ふまでもなく一度目には、バラックが作られるまで待たなければならなかつたといふやうな、過渡的な困難は、常に存在するであらう。或るときには園子が缺乏したり、或る時には肉が、また三度目には日常の野菜が缺乏した。でもこれらは第二義的に解決さるべき事柄である。がしかし、如何にして此處に創造といふものが行はるべきか、といふことだけは常に問題となつてくる。且つ數十萬人の意志力と喜び勇んで献身しようとする準備が、非常に旺盛となつてゐる現在、この國民にとつて一體何が不可能なのであらうか、と人々は、絶えず疑問を抱くに違ひない。ともあれ余は、一國民が僅々數週間で、數十萬の勞働隊を組成し終り得るものかどうか。そして、一つの場所に集合し、そこで一つの勞働を完成し終り得るものかどうか。またその勞働の量は、見込み通りに、

確信を以て諸他の勞働に勝り得るものかどうか、を知らうと思つたのである。

更に、われらは、何のはゞかるところなく公表する。ドイツは今や勤勞の國となつてゐるのだ。もしもわれらが力の點で缺けてゐるとするならば、余は、勞働が行はれ得ないから力が缺けてゐるなどとは云ふことが出来ない。さうではなくして、その場合に余はなほ、何か補足的なものはあり得ないかと熟考して見なければならぬ。さうすれば諸君は次のやうなことを知るのである。或る困難な課題が提出せられ、余がそれを、勞働者の量によつて解決し得ないやうな場合には、余は個々の勞働者のより高度な能率と、より多くの勞働によつてそれを克服しなければならぬ。そのとき此處では、量は質に置き代へられねばならない。且つこの論據よりするならば、われらの目標を、後進の熟練工の養成に向けるといふことは、もはや何處までも必要なこととなつてゐる。

後進を單に熟練工ばかりでなく、最高性能を持つ諸勢力、即ち技師や化學者や、工科大学、綜合大學の其の他の専門に、最善をつくして教育するといふことは、どうしても必要である。ドイツの大學は、この時代に當つて、多くの課題に適合するために、今日あらゆる部門の勢力を糾合しなければならない。われらは率先して學的研究作業や後進の訓育を行つてゐる。今日



では感傷的なフルト・ハイデルベルクの浪漫的ロマンティックの時代は過去のものとなつてゐるのであつて、勤勞こそ、授業の法則とさるべきであるといふことを、大學も理解しなければならぬ。今日ドイツ人は、時代に即應して物を考へなければならぬ。そこで余は、ドイツの青年たちに、職業の選擇に當つて、今日ドイツの祖國が、どんな職業を最も必要としてゐるか、といふことを熟慮することを訴へたいのである。なぜなら、人々がその職業で國民への最高の奉仕を行ふといふ場合、以上のことこそ、或る職業の最高の充實を意味するからである。

この一般的な勞働の緊張感は、また自づから、勞働時間の面にも現れてくる。そして、當分の間は、十時間、十時間以上働くといふことは、どうしても必要なことである。そして余は諸君等に、創造者たることを保證することが出来るのだ。かかることは、諸君等の場合にのみ云はれることではないのである。譬ては、官廳や官房にあつて、快い黄昏時までに家へ歸つてしまひ、六時の聲を聞くや否や、ベンは片附けられてゐたが、今日ではこんな時代は過ぎ去つてしまつた。國家中樞機關の窓の、夜半に至るもなほ煌々と光の點いてゐるのを諸君は見る事が出来る。夜半に至るもなほそこでは、國民の存立の地盤を固めるために、國家の指導部は創作し勞作してゐる。官吏は今日では永遠の奉仕を爲しつゝある。それ故個々人も、運命によつ

て定められた方向に向つて、みんな同一のことを行つて行かなければならない。しかし余は諸君に、創造者たることを約束してゐるのであるからして、過剰の労働や過剰の勞力が個人的利益のために搾取されるといふことを、余は決して許さないであらう。過剰の労働の實行されるのは、國家の繁榮のためにのみ行はれるのである。外國はこのことに關して、輕率に非難の聲を發してゐる。多くのヨーロッパ諸國は自國の利益のために、あらゆる明暗の度を持つた數百萬の雜色人種を、海外の土地で働かせてゐる。今なほそこでは、盛んに、奴隸が鞭うたれてゐる。彼等の幸福といふのは、單に、母國を救けるための方策にあるのではない。強力なる植民地といふことも、彼等の目ざすところである。しかしドイツ國民は、稠密に植民された土地に立つて、絶對に他に頼ることなく、その労働力から、その自己犠牲から、ドイツの土地から、凡てのものを創造しなければならぬ。もしわれらが、われらの植民地を保持するやうなことがあるとすれば、そのときには、諸君は、ドイツ國民が、「強制労働」をやつてゐるかどうかといふやうなことを、兎や角考へるために、そんなに苦勞する必要はないのである。われらは知つてゐる。われらは、われら自身の兩手によつてのみ、労働を行ひ得るのであつて、われらが自分で生み出さないものは、われらは決して消費することが出来ないものである。ワイマール制

度の無數の缺陷は、ただ漸次的にのみ、結末をつけることが出来る。それにも拘はらず、余が云ひたいのは、實に有り得べからざるものが、ここに起つてゐることである。われら、即ちわれらの世代は、自己の特殊なる責任を感じようと思つてゐる。そしてわれらは、この責任を、卑怯にも回避するつもりはないのであるが、われら自身で實行不可能と思はれることを、われらの子供や後繼者に、押しつけるものではない。われらは、經濟に對してあらゆる種類の技術的組織の方策を講ずるために、準備が出来てゐる。また出来てゐなければならない。かくしてこそ、經濟は、われらの生活の基礎を保證し得るのである。

この故に、勞銀と生活維持とは、最も緊密に聯關してゐる。國民社會主義の理念界にあつては、勞働力の最高の要請といふものは、またそれと對應する社會政策を前提としてゐる。社會的進歩は、長期に亘つて常に、保證されてゐなければならない。余が、社會的業績の極度を行ふ機構への出来てゐるときにのみ、余はまた諸君から、極度の献身への準備と、義務の充實とを要求することが出来る。この聯關に於て余が思ひをいたすのは、休日を償ふための命令、ドイツ勞働戰線の有効なる奮勵、特に工場の能率闘争、この偉大なる社會的競争のことである。國家勞働管理人の課題を擴大した余の命令もまた、余はこの聯關に於て述べたいのである。國

家労働管理人は、今日では、工場に於ける全體的な労働條件を心配することが出来る。この命令を基礎とすれば、工場制度の變化を凡て前以つて告知するといふことは、工場指導者の義務となつてくる。しかし余は、この命令が應用されて、社會的退歩を宣言するものとなるやうなことが決してあつてはならない、といふことを力説して置きたい。余が、國家労働管理人に對して、單に勞銀ばかりでなく、更にそれを超越して、諸他の労働條件にまでも配慮し、且つ已むを得なければそれに干渉する——いふまでもなく、國家の政治の線を踏み越えてゐる場合にのみ——ことを、指示したときには、それは、社會政策的に「全根據」が吹き飛ばされるといふことを、間接的に云つてゐるのである。われらの社會生活がこの近々數年間に獲得して來た強力なる上昇を、われらは、技巧的に無理をして再び逆戻りさせようとは夢々思つてゐない。ただ凡ての場合に、次の一事のみは達せられなければならない。それは即ち、現在の専門的勢力の逼迫より結果して、工場指導者が、稀有の契約や法外に高い賃銀や社會的補助によつて、労働者を、互に疲れきらせるやうなことになるのではないといふことである。このことだけが、命令の意義である。

諸君は自分で次のことをよく辨へてゐる。即ち、もしも余が、かかる不條理な雇傭關係や、

或ひは契約違反を、許すやうなことがあるならば、われらは瞬く間に、勞働への献身といふ領域に於て、未曾有の混沌を體驗し、そしてわれらの重大なる國政上の課題や、安寧確保に必要な課題を貫徹するといふことは、この上なき危険にさらされることになるであらう。かくして過度といふことは、益するといふよりも、むしろ遙かに害するといふ可能性を持つ。故に余はそれを許さないのである。しかし、生活維持が、事實上この數年、日増しに高くなつてゐるといふことは、あらゆる領域に亘つて、諸君の見得るところである。其處此處にまた幾多の事柄が、希望されたまゝである——人々は絶えず希望しなければならないのであるが——とはいへ、また多くの事柄も遂行され、成果は到る處に示されてゐる。失業の解決のことは兎もかくわれらはあらゆる領域に亘つて、取引數字の發展増加してゐるのを見る。われらは、交通の増加、飲食店、演劇や映畫、溫泉場や療養地の出入の増加を見る。

それに比べると、彼處此處で時たま現れ、一寸の間、何かと矛盾したりする個々の問題の如何に些々たることか。まづ一人の人が家へ歸つて來て、そして、「僕は今日バターが牛ポンド欲しかつたのだが、四分の一ポンドのバターしか貰へなかつた。」と言ふといふやうなことは、今日でも既にあり得ることである。また豚が欲しいのに牛が賣られたり、或ひはその逆の場合

もあり得る。或る人は、牛肉だけしかないときに、どこまでも豚肉を欲しがり、他の人は、またその逆のものを欲しがつてゐる。しかしこれらは凡て、第二義的な事柄である。「僕は、第三國家に生きてゐる以上、満腹しなくてもよいのだ」と、余に對して公言する人が、ここに立ち上るべきである。余はその人に向つて語りたいのだ。余は如何なる場合にも幸福である。余は諸君に次のことを斷言しなければならない。即ち、今日ドイツ國民が、五年前よりも遙かに幸福になつて居り、恥づべき制度の時代に於けるよりも、遙かに幸福になつてゐるといふことを、余は知つてゐるのだ。

余は今や國民の榮養のことに少しく立ち入りたいのである。ところがこの場合絶えず、非常なる外國の虚言と誹謗が入つて來るので、またしても、最も甚しい無知が猛威を揮つて來るのである。余は今日これに關して、公正なる展望を行はうと思ふ。外國では、榮養は國家の最大の弱點であると云はれる。人々は、あの經濟封鎖の年のことを覚えてゐる。人々は、飢饉に苦しむ人間のことを、そしてまた當時、ドイツの男ばかりでなく、ドイツの女やドイツの子供までも、如何にこの卑怯なる絞縛に直面したかを、記憶してゐる。人々は、これが嘗ては實際國家の最大弱點であつたといふことを知つてゐる。この封鎖への記憶、かゝる封鎖の繼續への記

憶、さういつたものは、當局の人たちが、ドイツ國民に對して、新しく教訓を與へたり、或ひは威嚇の言葉を發しようとするときに、再び其處此處の新聞紙上に現れて來るのである。その場合には繰返し繰返し、次のやうな指示が出てくる。即ち「ドイツ」國民は常に、榮養を當てがはれて獨立してゐるのではないといふことを記憶しなければならぬ。なぜならば、われらは偉大なる勢力であり、われらはドイツ國民の糧道が斷たれても、力を持つて居り、更に別な歴史を持つてゐるからであるといふ指示が出てくる。彼等のみが封鎖を記憶してゐるのではなく、われらもまた封鎖を記憶してゐるといふことだけは、余は諸氏に斷言することが出来る。且つ、假りにわれらが、記憶してゐないとするならば、余はこの場合諸氏に對して特に感謝することがある。それは、彼等が余をして彼等の屢々の指示によつて、繰返し繰返しまたもや、必要なる事柄に直面させてくれたことである。

今や正に、一般の政治的緊張のうちに、人々は、屢々國家の榮養の薄弱さについて語られてゐるのを聞く。余は諸君に次の一事を斷言するものである。即ち、余が當時總統から、初めて、原料や外國爲替や更に四ヶ年計畫の問題のために招集せられたとき、ドイツ國民の榮養といふことは、第一の最も重要なことであるといふことが、余には詳細に分つてゐた。余は知つてゐ

た、——たとへどんなことが起らうとも、そしてまたたとへこのドイツ國が騒々しい敵軍に包圍されるやうなことがあらうとも——各人が充分食ふことが出来るくらゐに、榮養は確保されなければならない。そして、戦争が三十年續くやうな場合にもさうなのだ！その後、手始めの當初から、余の心勞は凡て除かれ、余は氣輕な氣持で居つた。といふのは、われらの黨員デレーは、既にその就任の當初より、同一の意見を持つて居り、その結果、同一の事業を遂行して行つたからである。かくしてわれらは、共通な事態に直面して行つた。そして余は今日、天室が再び暗黒の幕を下し、陰鬱になつてゐる丁度その時に、事を爲し得るといふことを、語る事が出来——諸君は理解してくれるに違ひないが——余は特に幸福なのである。總統はその聲明の中に、黨員デレーはその數に於て、既にこのことを充分に示してきた。

余は今日諸君に、公正なる辯明を行はうと思ふ。これは決して——余が強調したいことなのだが——不當なる不安を與へるためではない。なぜなら不安を惹起する何らの原因もないからである。且つまた諸君は、余が自分でなした約束は、何處までも守つて行くといふことをよく知つてゐる。余は今日もまた、苛酷なこと、不愉快なこと、困難なことを言つてゐる。それは余が世界大戰の最後に於て、それが如何に恐るべきものであるかを、確認し得たが故に、今日



もまた苛酷なことや不愉快なことや困難なことを言ふ必要があるのである。そしてまた今日は指導といふものが、國民を不明確なもの、不誠實なものへ押しやり、しかも一夜のうちに國民は高みから深淵へ顛落してゐるやうな時なのである。もしも指導の方向が、國民の強さといふ事にあり、宥められたり、深淵に顛落する代りに、時代の重壓を明確に掴み、凝集をと訴へてゐたならば、ドイツ國民は恐らくその當時、あんなことは聞かなかつたであらうし、あゝいつた煽動者の聲には耳を藉さなかつたであらうと、余は信じてゐる。さうすれば、事態は全く別なものとなつてゐたであらう、諸君は決して嘘を言ふべきではない。決して欺瞞されてはならない。また決して、安心のないところに落ちついてはゐないであらう。ドイツ國民は強健である。そして、難事に對しても關心を持つことを望んでゐる。實にわれら指導者はあらゆることを實行したいのだ。われらのあらゆる勤勞は、たと諸君の安寧と幸福のみを目ざしてゐる。しかし、あまりにも困難なる時があれば、國民は、その爲すべき義務を引受けなければならぬ。あらゆる困難、あらゆる危険、最も苛酷なことどもを、極力詳細に觀察して行けば、凡ての課題は征服されるであらう。人々はその課題を知ることだけはしなければならぬ。さうすればそれを掴むことが出来るのだ。

余は、今日眞に有望なる事柄を諸君に告示することが出来て、一層幸福を感じてゐる。この事柄については、既に、總統の聲明の中に示された。四ヶ年計畫の意義と目的は實に何處までも、國家の安全確保を極度に高め、國家を凡ゆるものから獨立させるための、總準備をなすことにのみあるのである。なぜならば、獨立的な人のみが、また決してその名譽を賣ることを必要としないからである。われらドイツ人は、一國民にとつて、その名譽を賣ることよりも、恐ろしいことはないといふことを、よく知つてゐる。われらは、われらの名譽を、斷じて、二度と再び、賣ることはないであらう。かくして名譽は保證され、われらはこの全作業を實行して來た。そして更にまた實行し續けるであらう。先づ第一に國民を飢ゑさせ、次に虚言を以て煽動し、最後に崩壊に至らしめるといふやうなことは、もはやあり得べきではない。事實が、われらに、あまりにも恐ろしい知識を與へてゐたやうな時代は、過ぎ去つた。

現在國內で始まつてゐる勤勞と同時に、黨員ダレーによる生産戰と同時に、更に賣り多き收穫と同時に、貯藏品、われらがどこまでも必要として居つたところの凡ゆる分野に於ける貯藏品を、蓄積させる事に、余は繼續的に努力してゐた。凡ての重要生産品の產出は、ここを超越してこそ、再び始められ、最高度の力にまで高められたのである。原料は自國で作られたり、

補充せられたりしたが、特にあらゆる場合に、栄養は保證された。さてこの振興は如何にして可能であつたらうか。余が前に述べた一連の命令や規範といふものは、特に栄養の分野に於て次のやうなことになるといふことが、差當つて農民に對して困難を感じてきた諸賢にはよく分つてゐる。即ち例へば、農民はもはやその穀物を家畜の飼料に使ふ事は許されず、この穀物は國民の最高の財として護られねばならなかつたのである。余は諸君にまた二三の困難なる課題を提出しなければならなかつた。そして諸君は、貧しいパンを受取つて來たのだ。その他の些些たることは、みなこのことに歸してゐる。

しかし諸君は、今日われらがこの問題解決のためにこの貯藏品を持つてゐることを知つてゐる。收穫は良好である。愛する神は、われらを救けに來てゐる。そして今では余が、四ヶ年計畫の範圍内で集め、購入した貯藏品は、昨日諸君に示された數字、黨員ダレーの専門に屬する數字を凌駕しさうに思はれる。且つ余が到る處で、過分の食料品貯藏をすることに對して率先してゐるときには、そこでは余は自身で過分の食料品の貯藏をしてゐたのである。諸君は、このことを確信して差支へない。

今年の力強い收穫が、既に二ヶ年以上の貯藏品を生み出したとすれば、われらがこれまでに

購入した買ひ足しの品物は、數ヶ年間、或ひは敢へて言へば無期限の間、附加的の凡てのことを爲すに充分なる貯藏品を、われらに齎してくれたのである。換言すれば、われらが今不良なる收穫を得、第二年目にも、第三年目にも、收穫不良であつても、その損失を補ふために、貯藏品はありあまるほどである。しかし余は、優秀なる收穫の今年は、豊作續きの七ヶ年のうちの最上のものであるだらうといふことを、極力希望してゐる。確かにこの貯藏品の蓄積といふことはまた、われらに、新しい困難な事柄を提出したのであるが、余が既に言つた如く、この困難を、われらはもはや生涯なくすることはないであらう。何か立派なことが達成せられたときにはいつも、そのためにまた新しい困難が起つて来る。この困難は、或るときは余に、或るときは諸君に起つてくる。余に對して起るのは、余が、莫大な數の大衆を職に就かせることを、困難に思つてゐる限りに於てである。諸君は、われらがすでに、穀物倉を屋根裏まで充たしてゐることを知つてゐる。しかし、われらは、なほ一層廣い穀物倉を建てるだらう。そしてその中には、われらがここに、穀物といふ形で持つてゐるところの驚くべき財寶が、貯藏されるのである。余は今や、個人用の貯藏場所を調達しなければならぬだらう。余はまた、體操場をも充たすことを餘儀なくさせられるだらう。そのときには戸外で體操が行はれる。余は舞

踊場も充たすであらう。さうすれば、K D Fの諸君は戸外で踊ればいいのだ。舞踏はまた戸外に於ても面白いものである。

余は、なほその他現在余が差し當つてこの強力なる貯藏品を蓄積せんがために、嘗て余が作つた命令の數箇條を再び提示し始めることが可能となつてゐるといふ限りに於て、また諸賢に感謝の意を表さねばならない。

第一條。十月一日以降に於て、パンに關しては、玉蜀黍の混合は、再び廢止され、諸君は凡て、従前の如く、上等の白いパンを求めらるであらう。余は特にこのことを、わが東部邊疆地方の食道樂の人たちに對して、訓令するものである。

第二條。焼立てのパンの販賣が、再び許可される。

第三條。裸麥のパン製造に關する高い粉挽き貨は低下され、諸君は再び、われらの古い良質のパンを食べるであらう。

かくして第四條としては、糠の如き營養資源は、益々、農業の問題となつてくる。

第五條。パンの總體的品質改良を行ふとはいへ、どんなことがあつても絶対に、値上げされてはならない。

第六條、余が、東部邊疆の人にさへ、一片の菓子を與へ得るときには、余は、バイエルンの農夫にも、さうしてやりたいと思つてゐる。ビールの生産もまた、著しく増加されるであらう。

諸君は、今は、余からこれ以上を要求し得ない、といふことを余は信じてゐる。しかしわれらは、われらの目標を、單にパンや穀物にばかりでなく、同時に、肉類や脂肪類にも向けてきた。また、四ヶ年計畫の職掌内で購入され、貯へられた貯藏品は、黨員ダレーの貯蓄した貯藏品より、遙かに多い。われらは七ヶ月半の脂肪類貯藏品を持つてゐるのであると、昨日語られたとすれば、それはどんなことを意味するかを、余は諸君に釋明して置きたい。それは、單にわれらが、七ヶ月半の間に充分なる貯藏品を持つに過ぎないといふことを意味するのではなくして、假りに、今日突然に、脂肪類生産が凡て停止される、即ち全國家内から、もはや少しの牛乳も、一匹の豚もとれないやうなことがあつても、七ヶ月半の間は充分であるだらうと思はれる貯藏品が、國家内で産出される独自の脂肪類の量の上に、購入等によつて附加的に加へられるといふことを意味してゐるのである。故にそれは次の如きことを意味する。貯藏品として貯へられてゐる七ヶ月半の豫備品は、不作の時にも積つて行く脂肪類を加へて、數年に亘る處

理の時といふものを許す。これは決定的のことである。余はひたすらこのことを諸君に言ひたい。さうすればこの場合、誤解は少しも起り得ないのである。

さて今度は、馬鈴薯だ！ われらは、昨年は、馬鈴薯の記録的收穫を収めた。そして今年の收穫は、昨年の收穫に劣らないであらう。われらは、更に、昨年の收穫の中から貯藏することが出来、そして今や再び新しい貯藏品を得るであらう。そしてその貯藏品は、貯藏の問題で、われらに、著しい困難を來たさすであらう。馬鈴薯は、わが國では、非常によく成長される。最もつまらないやうにみえるものが、最上のものであることがある。これは、最もつまらないものが、最上のもを持つてゐるからである。しかしこのことは一般に云はれていゝことである。われわれはいつもそれが本當だと思つてゐなければならぬ。

さて砂糖は！ われらは、砂糖も、既に輸出し得るほどの量を持つてゐる。

その他われらは、あらゆる種類の罐詰、特に、魚の罐詰を持つてゐる。われらは、大きな漁獵艦隊を作つた。われらの漁獵艦隊は、初めて、遙か北の方へ、漁に出かけてゐる。われらはもはや、後續的な小國民ではない。われらは、今年初めて、われらの捕鯨艦隊を派遣し、そして、それは偉大なる收穫を持つて歸還してゐる。かくの如くして、爲され得るものは凡てなさ

れてゐる。そして余は諸賢に、われらが今日持つてゐる貯蔵場は、「ぎりぎり一杯まで詰め込まれてゐる」と、斷言することが出来る。ドイツ國民は、何物も懸念するの必要はない。しかしそれにも拘はらず、余は諸君に、總統の言つたこと、即ち、更に儉約するやうに、戒めるものである。余が貯蔵品を貯へたのは、それが浪費されるためではなくして、窮乏の時に當つて、ドイツ國民に、その日々のパンを保證するためなのである。とはいへ、この順調なる概観は、他方、勞働者たちをして、彼等が工場で働けば、外觀上、幾分か多くの賃銀を得るといふ理由で、今地方から工場へ出發して差支へないと、誘惑するやうに思はせてはならない。否、今こそ、地方に留つて働くことが、一番正しいのだ！ 收穫は他國より、一層豊富にならねばならない。その時こそ、われらは無敵となり、敗れることを知らないものとなる。

營養の領域に於ける貯蔵品經營と提携して行けば、自ら、工業の經營の領域に於てもさういふ風になつて行く。この場合に、云ふまでもなく、原料を第一主眼點として、貯蔵品が蓄へられたのである。そしてこの原料といふものは、われらは、何物によつても代置さすことは出来ず、また、封鎖に陥つた場合には、その不足は、われらに非常に困つたものとなるに違ひないものなのだ。われらは、このやうな物資を、豊富に貯へてきた。しかし更に一歩進んで、われ



らは、特に、戦争に重要な物資や貯蔵品を、あらゆる領域に亘つて、創り出してきた。

しかし、貯蔵品経営や、貯蔵品蓄積といふことを通り越して、われらは、莫大な生産を挙げるといふことに着手してゐる。無数の新生工場、數百、否、數千の工場が、四ヶ年計畫の標として新設された。そしてその中には、鐵、非貴金屬、銅、ゴム、燃料、衣服等々が、貯へられてゐる。われらは、今日ではもはや、ベンチン（揮發油）やベンゾールで一杯にし得るやうな、空の樽を持つてゐるのではない。といふのは、それには、あらゆるものが一杯詰められてゐるからだ。われらは、われらの生産と、生産工場の設立を強化振興し、長期間に亘つて、われらを安全たらしめる貯蔵品を貯蓄してきた。ここに於てこそ今や、四ヶ年計畫は明らかに軌道に乗つてくるのである。最初の二ヶ年は過ぎ去つた。工場は次から次へと建立され、最初に立てられた工場は、今日では既に、最高の生産を擧げてゐる。また船艦は、次から次へと進水し、職場へ職場へと進んで行き、生産も増加されることであらう。ドイツは、年と共に虚勢になつてゐるのではなくして、ドイツは、年と共に強力になつてゐる。平時、戦時の如何を問はず、その可能性が生れてゐる。如何なる人も、決してこれを、阻止することは出来ないであらう。余は諸君に、このことを保證する。國民の生活にとつてどうしても必要であることから、

夜となく晝となく、實行せられ、停止することがあつてはならない。かくして、巨大なる建設が、進捗しつゝある。余は、ザルツギターとリンツに於ける、ヘルマン・ゲーリングの事業だけを記憶する。それは、全世界に存在する事業のうちの、最大のものである。この事業の廣袤と偉大に近似するやうな事業は、全世界に一つもない。ドイツの土地は、到る處に開拓される。鐵、銅、鉛、亞鉛、錫等々——たとへ極く微量な量であらうとも——の發見されるころは、採鑛のために開拓されてゐる。石油の發見せられるところでは、穴が穿たれる。到る處にそれを豫言する人がゐる。余は、ネヂを廻さへすればよい。さうすれば、石油といふ貴重な財が、實用に供さるべく流れ出てくる。われらは眠つてはゐなかつた。世界は、このことをよく知るべきである。われらは、未だ如何なる國民に於ても、如何なる時代に於ても勤勞されなかつたほど、勤勞してきた。ブナ、燃料、植物纖維、工藝纖維についても、われらは、世界中の最大の、最も多くの工場を持つてゐる。しかしそれにも拘はらず、諸君よ、勤儉たれ！といふ戒めはなほ必要である。人々は、とくと考へなければならぬ。即ち、無限の精勵の中に創られるものは實に、凡て貴重な財なのである——そして絶えず、われらの國家と國民の安全に目を止めてゐるなければならない。それ故、實に些々たる廢物でもまた、蓄へられなければならない。

らぬ。チ・コレート板の銀紙を剥ぎ取つて、樂てるやうな人は、一つの不正を行つてゐる。余は、古いコルク栓までも必要とする。諸君が、ゼルター製の瓶の栓をぬくときには、栓を渡すことを忘れてはならぬ。余は、最大の屑拾ひであり、古物商人である。余は、あらゆるものを拾ひ上げ、あらゆるものを必要とする。

この故に、人々は余を、笑ひものにして來た。このやうなやりかたで、一國民の經濟を調整し得ると思ふのは、實に子供じみた方法ではあるまいかと、人々は云つた。彼等は笑ひ續けてゐるであらうが、成功は事實を物語つてゐる。成功は、われらのものなのだ！ かつて、加へて、絶えず改修され、高められたところの巨大なる戰闘準備工業が、現れて來てゐる。飛行機や自動車工場は、無數に現れ、龐大なる包容力を保つてゐる。大砲や機關銃は、充分なる量が交附されるやうになつてゐる。軍艦は、豫定通りにされ、造船所から、走り出てゐる。この戰闘準備の場合に於ても、爲され得るところのものは凡て、爲されてゐる。實に、われらは、これと共になほひとつ、別な幸福を持つてゐる。即ち、われらは、誰よりも先に、出發をし始め、そして、ほんの僅かの期間にもかゝはらず、すでに、他のものに先んじてゐるのである。

今はいま——實を云へば——辛じて興味を持ち得るところの或る一章に達着してゐる。とは

云へそれは、重要なものである。即ちそれは、株式と金融である。外國に於ては屢々、株式の好況は、ドイツの金融の崩壊を告知し、それと同時に、戰鬪準備や其他あらゆるものの崩壊を擴大するための好機を與へてきた。その際いつの場合にも企圖されてゐたのは、いふまでもなく根本的な思想であつた。自由主義經濟に於ては、市價からの剝落は、特に重大なる意味を持ち得るものである。人々は、アメリカにあつたやうな、金曜日や木曜日の純然たる陰鬱さを見さへすればよい。しかし國民社會主義的に指導されてゐる經濟に於ては、このことは、實際、何ものも意味しないのである。われらにあつては、株式はもはや、上の如き支配的な地位を持たない。それは過去のことと屬する。株式は、一つの重要な機能を持つ。即ち、それは、有價證券の取引に役立ち、資本管理の機關としての作用をする。しかし商品の價値は、決して有價證券のうちにあるのではなくして——それは紙片であつて、他の紙片よりは幾らか堅くはあるが、しかし紙片以外の何物でもない——その背後にひそむ労働能力に存するのである。例へば株券といふものは、ただ、その背後にある營業所と工場の價値を代表し、その背後にある人間、即ち最も若い徒弟から總監に至るまでの人間の、労働と能力の價値を、代表してゐるに過ぎない。株券は、この價値を、白紙の上に黒文字で表してゐるのであつて、それ以外には、何

ちでもない。手一杯の仕事、著しい註文品、圓滑なる販路、健全なる經營にあつては、株券の價值といふものは、それだけでは殆んど變へ得るものではない。

しかし國債の場合には、あらゆるものが、なほ一層鋭く現れてくる。この國債の背後には、全ドイツ國民の、強力なる勞働能力と、第三國家の保證といふものが潜んでゐる。そして、諸賢はすべて、第三國家の保證とは何を意味するか、といふことを、すでに感じてゐることと余は思ふ。云ふまでもなく、相場の變動は、起るかも知れない。すでに諸君に云つた如く、余は決してこの分野の専門家ではない。しかし、或る人たちが今、この株券を、急に賣却し、そして異つた掛引をし始めるときには、その株券から何かが——初めは手際よく、次には思ふところと違つて、三度目には、すつかり、欲した通りに——剝落して行く。しかしこれは、事業への反動や仕事に従事してゐる勞働者たちへの反動を凡て無視して、この人たちを、株式に夢中にならず、惡質の遊戲にすぎないのである。この遊戲は、諸君をして株の持主の處理するものや、處理する方法に、關心を持たすことを少しも必要としないのである。或る一人の人が、他の人を瞞したり、操つたり、またさうでなかつたりし得ると思つてゐるならば、それは即ち、ドイツの國民經濟が、一片のお菓子に關心を持つてゐることを意味するのである。

今日誰かが、有價證券を、どつさり掻き集めて、さて建築資金を必要とするといふ場合に、彼が株券を急いで賣却するならば、これこそ、當を得た行き方といふものだ。さて彼が、多くの「物」を賣却するならば、他の人は、おゝ馬鹿な、それは少し間違つてゐませんか？ と尋ねる。その男は、物を賣りすぎてゐるのだ。今や余は、株券には、そんなに多くの價値を持たせないで、寡少の價値を與へるのである。かくして次に起るのが、相場の變動である。ドイツ經濟は、今日まで、このことに、如何なる關心を持つてゐたのであらうか。

これとは別に、勿論、今實際必要でない賣却が、特に公債といふことや、更に他の全く別な理由から起つてくるといふことは、あり得ることである。それらが、その相場や株式と共に、盲目遊戯めくらあそびをしてゐる間は、このことはさまで苦にならないであらう。しかし、人間が、國家を通じて大いなる委託を受け、また廣さから云つて、本來ならば、彼等に相應はしくないやうなものを、國家を通じて、非常に多く爲し、且つ、彼等の「ツアスター」が既に何處かに置かれてゐるやうな場合には、彼等が、國家を通じて儲けたこの金を、國債のために投ずるといふことは實に、些細ちひさこの上もないことである。——彼等はこれを基として立つといふことは許されない。更に、それを浪費してしまふことも許されない。

今突然、「戦争がある」とか「戦争は絶対にない」とかいふ噂が起つたり、或ひは、噂によつて其處此處の狀勢が變へられるといふ評判が立つたりすれば、かかる人々は、近寄つてきて、次のやうに言ふのである。あゝ馬鹿なことだ。われらは既にそんなことは、戦時公債で、いやといふほど練習してきたのだと。しかもそのとき彼等は、國債を賣却してゐるのである。そこでこのことは、かかる人々が、なるほど、國家から、あらゆる財を受けとる準備は出來てゐるのであるが、この國家への信賴の、一つの火花を散らすことすら欲してゐない、といふことを意味する。彼等がなほ一層、銀行紙幣や日用品を、ががつ貯へるやうになつて行くときは、この人たちの個性的側面は、全く醜惡なものに見えてくる。余はこの場合、特に油斷なく眼を光らすであらう。幸ひなことには、今日ドイツでは、非常に多くの人が、われらの神聖なる國家に、一つの傷もつけないやうに、氣をつけてゐる。だからして、人々は大抵——晚かれ早かれ——事の真相を掴むのである。

今や、誰一人として、ドイツの運命共同體を回避することは出來ない。紳士たちが、財産で運命共同體を、享樂する氣でゐるならば、彼等は、この國家を脅かしてゐると思ふときにも、また、國家に對してゐるに違ひない。勞働者も農夫も總監督人として、國民と國家に對する彼

の義務を回避することは出来ない。誰一人として、彼が、何かの抜け道によつて、國民全體に對する義務を回避し得ると思つたり、共通の運命に對する義務を、避け得ると思つてはならない。われらは、既に、この命題をしつかりと練習してきたのだ。崩壊は少しも、ドイツの労働者に影響せず、それに襲はれたのは、大地主と大工場主に過ぎないと、以前には人々は、如何に屢々語つたことか。しかし、先づ崩壊に襲はれたものは、實際は、ドイツの労働者であつた。これはまた、最も愚かな人も、漸次に理解しなければならなかつたのだと余は思ふ。即ち、良きにつけ、惡しきにつけ、われらは、民族共同體と、この民族共同體の運命の所有に歸してゐる。われらは、それを避けることは出来ない。そして、相當な人ならば誰でも、またそれを避けようとはしない。

全力の集中——これこそ、今や、決定的な懸案であり、決定的な問題である。余は嚮に、この問題を解決し得るためには、今必然的な労働力を發見するといふことのみが、重大事であると言つた。しかし、余が凡ての労働と懸案を解決するためには、あまりにも充分の人間を擁してゐないから、處々方々で、完全なる解決を將來する事が出来ないやうな場合には、余は、諸力の集中といふことに突進しなければならぬ。この集中を向けて行くべき重點を、余は作ら



ねばならぬ。われらが近頃、非常に驚くべき、教訓的な方法で、集中を遂行し、そして僅々數週間で、數十萬の人を以て、かゝる事業を生み出し得たところの西部防禦工事へ、重點を置いてきた例に依つて、最も重大なる懸案の置かれてゐるところでは、われらは常にまた、諸力を集中するといふことが、どうしても必要である。それは決して苦役ではない。余の言を信ぜよ——諸君の誰でもが、最もよき状態にあれば、余はこの上なく幸福なのだ。しかし余が今や、要求上どうしても、一人の勞働者を、數週間で、彼の工場に置き去りにしなければならず、更に恐らく彼の家族までも、他の工場で盡すためにさうしなければならないやうな時には、余が彼から苛酷なことを要求してゐるのであるといふことを、余はよく知つてゐる。しかし彼は知つてゐる。なぜかういふことになつたか、そしていつかは、酬いられる——もし彼に對してしなければ、彼の子供たちに酬いられるといふことを。しかし、次のやうなことは斷言して置きたいものである。即ち、われらが、われら自身に對してさへも、どんなときにも、與へる用意の出來てゐないものを、決して要求しようと思はない、といふことを、われら指導者は、絶えず心に銘じてゐようと思ふ。

われらの背後には、苛酷なる、強力なる事柄が横たはつてゐる。われらがこの強力なる出來

事を、その凡ての偉大なる現實に於て理解するときには、われらは未來に對して、信頼に充ちた眼差しを向けるといふ權利ばかりでなく、實に義務を持つものである。といふのは、かゝる指導のもとにあつて、非常に多くのものを創造してきた國民は、今から向ふ五年間には、實行すべき何物もなくなるやうに、過去の五年間足らずを通して、強力なることを實行してきたからである。余は諸君凡てにお願ひして置きたいのだ。即ち、諸君が、何處へ行かうとも、勞働戦線の職務執行者は、既に國民社會主義者として、未來へのこの偉大なる信頼の擔ひ手であらねばならず、たとへ總統が、われらを、何處へ連れて行かうとも、總統への盲目的追従の擔ひ手でなければならぬ。われらの中にまた臆病なものもある。余は次のことを確認しなければならぬ。特に深く思索したり、特に多く讀書したり、特に分別くさく考へたりする人は、また最も臆病であるやうに余には思はれる。恐らく、それは、彼が、餘計な可能性に對して、熟慮したり、理窟を捏ねまはすためである。最も單純な人は、總統を信頼してゐる。そして、それは正しいことだ。更に、彼は、臆病である必要はない。

余は如何なる時にも決して、重々しい雲が、空に現はれてゐるといふことは、否定しないであらう。強力なる政治的緊張は、ヨーロッパに、世界に、脈打つてゐる。一小部分のヨーロッ

人は今日、彼に委任されてゐる小數者を苦しめ、かくして、全ヨーロッパに於ける、不安の根源となつてゐる。遺憾なことには、人々は今では、不安の根源そのものを見るのではなくして、到る處で、その周邊を探し廻り、そこで、緊張の突端に來ることなくして、緊張を知らうとしてゐる。われらは、そこに何が起つてゐるかを知つてゐる。われらは、この文化的に貧しい小國民が——彼等がさうなつた原因は誰一人として知らない——文化國民のもとに、絶えず抑壓され、惱まされてゐるのは、實に堪へ難きことであるといふことを知つてゐる。しかし、われらは、この笑ふべき小人たちが、ブラーグの出ではないことを知つてゐる。その背後にあるのは、モスコー、即ち、永遠のユダヤ、ボルシェヴィズム的畫面である。そこからして、普通では決して守られないやうな事が、約束されるのである。そこからして、噂や誤報や中傷が出てくるのである。狂躁は、全世界を煽動させ、民主主義的國民は、それに騙されてしまふ。なんと事情が變つたことであらう！　かくして、戦争と吶喊の叫びは世界にまでも反響した。そして、民主主義國の世界までも、吶喊の叫びが反響したときに、この民主主義國もまた、直ちに責任者を發見したのである。その時の責任者としては、強力なる秩序の國家、即ち、ドイツとイタリアが擧げられる。どこまでも言はれてよい。われらは、暴動の下手人であると。そ

れは丁度二つの國民なのだ。そしてそれらは準備萬端整へられ、——兩々相互ひに——各自の國土に平和を再建する能力のあることを證明してゐたのである。

その上なほ國民たちは、議會の曖昧模糊たる匿名の答辯に對立して、最高の答辯を行ふ二人の人物を擁してゐる。それは、多數とか議會とかの匿名的概念とは別のものである。彼は決して答辯を引受けることが出来たり、引受けようとするものではない。内面的に、その國民に、規律と秩序、平和と幸福を齎したこの國家は、國外に向つて突然に戦争に點火したり、戦争を成り行きに委したりするために、それを行つたのではなかつた。問題であるのは、誰が、最も多く平和について喋るかではなくして、誰が、最も多く、平和のために行ふか、といふことである。

これだけが問題なのである。また英國とても、この國に於て、平和とか、ヨーロッパの脅かされた平和のことが喋られる以前に、その古いユダヤ國家に於ける平和が、没落されんとするならば、あなたがち悪いとは言はれないであらう。しかし先づわれらが毎日讀んでゐるのは、そこでは、流血と殺人が行はれてゐる、といふことだけなのである。そこが靜まれば別のところで行はれる。われらに對して、平和愛好の忠告を與へるといふことは、比較的容易なことであ

る。そして平和だけを確保するといふことは、著しく困難なやうに思はれる。ドイツとイタリアに對するこの煽動には、われらは實に慣れつこになつてゐる。それらがいつか、なくなるとすれば、何かが、われらから直接脱落したことになるであらう。われらはここに、全く毅然たる平靜な状態にある。そして、それらのまたやつてくることを待つてゐる。われらは、ドイツの名譽とドイツの安全を保證するために、われらの出来るだけのことを、やつてきたのだ。

われらは再び外交的に、理想に對する同一の理解によつて、われらと結合するところに、盟友を見出さうと試みてきた。われらはそれを見出した。そして、われらを引き放さうとする、あらゆる試みにもかゝはらず、またこれを眞に受けようとしないうる人々にもかゝはらずドイツ、イタリアの樞軸と友情は、以前よりも一層緊密になつてゐる。兩國民は今日、遙か東方にある日本と協力して、ボルシェヴィズムといふ世界の疫病と、世界解體に對する、唯一の、偉大なる防塞を作つてゐる。しかし、われらはまた、名譽と安全に對する保證を、しつかりと固めるために、その他のあらゆる事をやつてきた。即ち上に述べたやうな大規模の貯蓄經濟、大原料工業の建設、全礦物の發掘、これらは、如何なる封鎖にも、ドイツを護り、所謂、平時的もしくは戰時的資力の役目を果し得るであらう。強力なる戰時工業の建設は、われらの偉大

なる軍隊を保證し、七千五百万人に心ゆくまで榮養を與へ、繼續的に生長の途上にある新らしい、最新式の艦隊の建設と、給養を保證し、そしてまた、余が誇張なしに、尊大振らずに、世界に向つて、技術の最新式、最優秀の裝備を持ち、數からしても最も強力なものと云つてよいところの、空軍の建設と給養を保證してゐる。空軍は、陸軍や海軍と同様に、非常なる大膽と、毅然たる勝利の信念に充ち満ちてゐる。ドイツは未だ、その歴史に於て、かくも強力で、かくも安定し、かくも統一されてゐたことは一度もない。最新の經驗に基いて、唯一回限りの強力なる奮勵を行つて構築された多列的防禦地帯は、西部に於けるドイツ國を、あらゆる攻撃から守つてゐる。ここからは、地上の如何なる力といへども、ドイツの土地へ入つては來ない。鬭争に慣れた、しかも、最高の理想主義によつて充たされてゐる黨派が、ドイツ國民を、驚異すべき共同體、如何なる誤報や煽動によつても、決して破壊されない共同體に、作り上げ統一してゐる。そして、その中で、勞働者や農夫は、石の如き基礎をなしてゐるのである。かくの如く、われらドイツ國の國民は、確固として居り統一してゐる。如何なる誤報も、われらを混亂さす筈はなく、如何なる甘言も、われらを欺く筈はなく、また如何なる壓迫も、決してわれらを墮落ならしめるものではない。余は知つてゐるのだ！ 今や正に、一層、ドイツに對し

ては、壓迫が行はれるのだ。われらを脅かさうとするこの笑止千萬な試みに對しては、余は、全ドイツ、特にわれら國民社會主義の闘士のために、陸軍大臣、ロン元帥の言葉を以て、一つのことを、斷言して置きたい。即ち、われらは常に、射手<sup>(銃手)</sup>ではあつたが、決してただの人間ではなかつた。われらは決して、人を苦しめようとは思はない。しかしまた、われらは、ドイツの同胞に與へられる苦痛を、これ以上忍ぼうとは思はない。余は思ふのだが、世界のうちの如何なる人でも、民族のうちのどれ一つとして、われらほど、熱心に平和を欲してゐるものはない。なぜならば、われらは、非常に永い間、この平和の缺乏に苦しまねばならなかつたからである。ヴェルサイユは、世界から、平和を失はしめたといふことを忘れてはならぬ。そして、彼等ヴェルサイユの貧しき創造者は、この衰れた細工の前に立つてこれ以上どうにもならず、途方に暮れてゐる。

譯者註 射手は Schiesser で、只の人間とは養をする人 (Schisser) であつて、ドイツ語の言葉の洒落が入つてゐる。

世界に再び平和を齎した秩序の國家が出来て來た。これ即ち、ドイツとイタリアである。この兩國は、世界に、新しき、正しき平和を、再建しようと思つてゐる。いまなほ世界に於て

理性が支配するかどうか、或ひは怨恨が支配するかどうかといふことは、今や證明されなければならぬ。われらは、われらの力を意識して、もはやすでにすべての時代を理性の味方にするために立ち上つてゐる。しかし、怨恨が、國民を壓倒すべきであるならば、そのときにこそ、われらは、最高の勇氣と最後の決斷とを以て、われらの總統の命令に従つて、彼が常にわれらと呼ばせるところへ、行くといふ決意が出来てゐるのだ。われらは、總統が、われらにとつて總統であつた、この年々の間に常に、また到る處に於て、正しい事をやつて來たのを知つてゐる。彼に對する盲目的な信頼ほど力強く思はれるものはなく、そして彼の強力なる信念は、殆んど不可能と思はれることをやつて來た、といふことをわれらは知つてゐる。彼のドイツに對する強力なる信仰は、われらの國民を、最も深い闇黒と窮乏から、逆境と絶望から、屈辱と墮落から、輝かしい光の中へ、再び導き上げ、ドイツを強國にまで引き上げた。この年々の間中、全能の神は、彼と國民とを、絶え間なく祝福してきた。全能の神は、總統に託して、われらに救主を送つてきた。迷ふところなく總統は、彼の道を歩み、そしてわれらは、迷ふところなく彼に従つて行つた。道は峻しかつたが、われらの大ドイツ國といふ彼の目標は崇高なものである。



しかしまた其處此處で、ドイツ國民の中へ怯懦を齎したり、ドイツ國民の中に、その指導に對する疑惑を醒めさしたり、ドイツ國民を甘言で釣り、嚇したりするやうなことが、度々外國から試みられるであらうが、余は諸君ら全體と全國民に對して、次の一言だけを言ふことが出来るのだ。即ち、ドイツ國民よ、汝の中に、鋼鐵の如き確信を持つことが出来、國民と總統が一なる限りは、ドイツは無敵であるだらうと。神は、われらに總統を遣した。かくてわれらは滅亡するのではなくして、ドイツは、蘇生して行くのだ。

(一九三八、九、一〇、ニュールンベルグ黨大會にて)

## プロシアの使命

國民社會主義ドイツ勞働黨は、プロシア州政府の協力のもとに、決議權賦與法を自發的にここに提案したのである。かゝる目的のためにプロシア首相は本日このプロシア州會を召集したのである。かくて、初めてプロシア政府は州會に自己の立場を説明し、且つ、プロシアの改造に關する自己の目標と見解とを提示する機會を得たのである。國家の宰相閣下の施政方針は大綱的には既に、他の凡ての諸州や施政方針の規準たるべきものを凡て包含してゐる。それは大綱的にドイツ再建の課題と目標を包括してゐる。したがつてプロシア政府の施政方針は、その框内に於て處理され、それ自體の目標も亦、國家の宰相閣下の目標に準據して樹て、また名づけられるであらう。

改造後最初の州會議が招集されてから數ヶ月を経過した。したがつて、余が本日この會議に初めて施政方針を提示することが出来る、といふことは、異様な感じを諸君に與へるかも知れ

ない。他の凡ての州に於ては、全權賦與法は既に可決せられてゐるのであるが、プロシアに於ても、それは今日やつと通過を見るであらう。準備のために、既に數ヶ月を経過したのであるが、その間、一九三二年七月二十日のあの解放のための騒ぎは漸次に、しかし確實に組織的、立憲的形態をとるに至つたのである。

フイヒスレヤムンデ  
政府の公布した最も重大なる法律は行政平等權法であり、更に進んで國家の任命する知事の制定である。ドイツ種屬とドイツ國家の確立及び統一といふ方向への、この一世紀間の發展は、この法律を以て目出度く完結した。總統の、政治家アドルフ・ヒトラーの遠く將來を見透す眼力は、即ちその認識を誤たなかつたのであり、又、その不屈の意志を完遂したのである。かの一九一八年の不幸なる十二月會議以來、ドイツの分裂とドイツの國家政治の弱化、從つて又プロシアの地位の低下を招來したところのプロシアと國家の二元性は、完全に、決定的に除去された。プロシアは再びドイツの礎石だといふ古き使命と、名だたる傳統に立ち歸つたのである。プロシアがブランデンブルグ州から發生したやうに、ドイツはプロシアから成長したのである。偉大なる發展は、プロシアと國家の結合の中からのみ生れるのであつて、その對立の中からではない。プロシアと國家との平等なる行政權が如何に必然的であり、かゝる平等權と

いふものが初めて國家發展の基礎となるものであることは、國家の宰相閣下が同時に國家から任命されたプロシア知事である、といふ事情が、既にこれを明らかに物語つてゐる。

われらの國家の宰相であり、總統であるアドルフ・ヒトラーの思想は、かくて又プロシア政府の基礎となつたのである。本日第一回の州會を召集したプロシア政府は、その職權を國家の宰相アドルフ・ヒトラーから賦與されたのである。彼の信任によつて——これは余の最大の名譽とするところであるが——余は首相として、政府首班に任ぜられたのである。彼の信任によつて、余は大臣の任命權以外の知事の職權を委任された。わが總統の、わが宰相のかゝる信任は、余や政府全體の凡ての行動や行爲の、凡ての感情や思想の出發點をなすものである。十年餘にわたつて余は、わが總統と肩を並べてやつて來たのである。十年餘にわたつて余は彼の絶對忠實なる從僕であつたことを誇りとするものである。十年餘にわたつて余は、今日のドイツの運命をその手中に握つてゐる、その男から學ぶことを許されたのである。彼の思想を余は信じて居る。彼の意慾を余は知つてゐる。彼の意志は余の意志である。かくて余がプロシア政府を引き受けるのは、單に首相として、或ひは、知事の職權委任としてだけではなく、就中第一にわが總統アドルフ・ヒトラーの最も忠誠なるバラーデイン(註一)としてである。かくて即ち、プロ

アは將來その政策を實施するに當つては、國家と密接に結合し、宰相の意志の線に沿つてこれを行ひ、以て宰相の固き意志にしたがつて、ドイツ最大の州としてのプロシアの、正當にして重要な利害を完全に保護するであらう。

譯者註　カール大王十二勇士の一人

宰相は、余をプロシアの監理人に任命し、また特に、プロシアの本質を保護すべきことを余に委任した。したがつて如何なる事情があらうとも、余はドイツ國家の利害上必要とするならば、プロシア領土がプロシアから分離されることをも堪へ得るであらう。宰相は、プロシアとプロシアの政策とプロシアの行政が永遠に國家の基礎たらんことを要望してゐる。プロシアの日常の實際的經驗は、國家の立法の基礎でなければならぬ。かくてプロシアには、前世紀と同じく、ドイツ國家の礎石たるべき使命が課せられてゐるのである。

かくて、新プロシア政府は國の宰相の信任を基礎とするものであるが、しかしそれは更に、國民革命及び國民社會主義革命の勝利によつてのみ可能であつたのであり、そこからのみ生れたものである。ここからプロシア指導の上に、その政策をも亦、かゝる國民革命及び國民社會主義的革命の精神を以て遂行すべき神聖なる義務が発生する。國民社會主義的革命の精神は、

その成果が過去に如何にして獲得せられたか、又その將來負ふ可き課題が何であるか、といふことから明にせられるであらう。この革命の最も重要にして決定的な成果は、プロシア及びドイツの政治的、公的生活上の權力を引き繼いだことである。國民社會主義的革命運動は、この革命の遂行者として國家及びその他の諸州に於けると同様、プロシアに於ても亦あらゆる重要な權力的地位を獲得した。それは、プロシア及びドイツの再建の不可缺の前提であり、一般に國民社會主義的活動を展開し得るための前提であつた。

プロシア政府はその手にある權力を行使することが出来るやうになるであらう。政府は又、その權力的地位に伴ふ責任の大なることをも知つてゐる。政府は國の利害に關する如何なる責任を引受けることをも躊躇しないであらう。政府が權力を引き繼ぐことが出来るに當つては、到る處で猛烈な攻撃に遭遇したのである。政府の發見した弊害は非常に大なるものであつたし、また現在もさうである。今日でも尙個々の場合、更に斷乎たる處置を取らなければならぬものがあるのである。共產主義やマルキシズム等、過去の思想が残した廢墟の跡が、現在尙われらの前後に横たはつてゐる。しかし、内外の敵に力を以てぶつかつて行くことを先づ第一に必要としたかゝる革命の時代は、本質的には終了した。にも拘はらず國民社會主義的革命は、

その革命の道を進んで行く。しかしそれは、新しい使命を以て新しい時期に、建設の時期に入つて行く。

過去數ヶ月間に、政府のなして來たところの個々の優れたる事業に就いては、後ほど更に説明することにする。

第二期の最も重要な課題は次の如きものである。即ち、ドイツ人の徹底的な精神上の革新國家及び全社會生活の、また社會の幸福のためそれが必要な限りに於て、ドイツ人の私的生活の有機的な改造整備、就中また、個々人及び民族全體の物質的存在の基礎としての經濟的生活の有機的改造整備がこれである。この三つの大なる課題の領域に於ては、プロシア政府こそ、特に積極的活動が期待されるのである。

政府の考へてゐる精神的革新の目標は、過去の困難なる時代に最も自己を發揮し、プロシアを、したがつて國家をも亦、嘗つて偉大ならしめたところの、古きプロシア精神に近似してゐる。對外的には眞に國民的な形を取り、對內的には眞に社會的に作用するところのからゝる精神にとつて、プロシア政府は常にその入口であり、且つ又、その唯一の支配者となるであらう。それは、ドイツの家庭並びにドイツの學校にも、大學並びに學問にも、更に藝術並びにその仁

凡てのドイツ精神のあり場所にも妥當するものである。

かくて自ら又、國家行政その他公的管理の再組織の最高の方向が生れる。常に高度の節儉、清廉潔白、そして義務に對する献身的忠實といふものが、行政に導入されなければならない。プロシアの過去を辱めないやうな官吏の型を、もう一度作らなければならない。

個々の市民を國家全體に組織するに當つて、最終的に規定するものはただ公的幸福のみだ、といふ方法によつてこれをなし、且つこれを確保するためには、それに應ずる規程が確立されなければならない。それによつて個々の市民が、その國家意識的行爲から活動能力を奪はれるといふことはない。寧ろ反對に、自由なる自主性が眼覺まされ、促進され、再び新たな希望を以て勞働し得る喜びが生れなければならない。個々の人間は常に新しく創造し、新しく勞働することが出来なければならない——しかしそれは常に、國家の幸福は個々の市民の幸福でもある、といふ原理にしたがつてでなければならない。

國家權力は最高の地位に立つ。各個人はその行爲を國家の幸福と尊嚴とに従屬せしめ、以て各々その職域に於て、自分は國家と共同の幸福の召使ひだ、と感ずるのでなければならない。政府は、個人の行爲と雖もこれを責任ある地位に於てなさしめることによつて、國家權力を絶



對に守護する、といふ意志を宣明した。また如何に善き意志からと雖も、市民や團體が國家の權力圈に干渉することは許されない。政府はこの根本的立場を絶対に固守するであらう。

公益優先の原則にしたがつて、この編入及び從屬の義務は、特にまた國家の經濟にも妥當する。それは、私的自主性が抑壓されたり、或ひは國家の侵害を受ける事を意味しない。ドイツ經濟生活に活躍せんとする個人の有能なる力の自由な伸張は、決して阻碍されてはならない。しかし、個々の市民の活動は經濟界に於ても、その限界がなければならぬのであつて、即ちそれは、共同者や全體的な經濟、即ち國民に對する最高の責任感からなされるのでなければならぬ。

かくて、プロシア政府が活動をなし、更に國家事業を管理するための根本的な立場は、墨痕鮮やかに書き更めることが出来る。それは、政府が既に着手し、將來更にその完成に向つて進んで行くところの個々の課題が示されるならば、完全に明瞭になるであらう。

プロシア政府の根本的立場にしたがつて、必然的な精神的革新を行ふためには、先づプロシアの教育行政上の重要な課題を解決しなければならない。過去の時代に見られた個々の人間の民族や土地、或ひは靈肉一體からの分離は、自由主義的な啓蒙思想の誤れる精神の把握に

照應するものである。ドイツ革命はフランス革命とは違つて、かゝる自由主義的啓蒙思想を以て行はれたものではなく、寧ろそれに反對して行はれたものである。そのために、自由主義的ドイツ人、就中自由主義的な外國人にとつて理解し難い事實が生じたのである。即ち、革命の理念は、困窮の中に生活する民族大衆によつて、學識ある人たちよりも早く理解されたのである。また、青年はその不完全なる知的教養にも拘はらず、否その故にこそ、ドイツ革命の理念を、學識ある人たちの知識よりも早く本能的に把握したのである。人間が血と土地や、その民族の長き歴史や、又はその故郷である田舎の運命、といふものと結びついて、その生命を創造して行くのであれば、開明的な知識の定義の如きは殆んど必要としない。今日プロシアの文化政策はかゝる方向に向つて進み、以て、今日まで意識されないままに存在してゐたドイツ民族の價値本能を意識にまで高め、且つこれをドイツ革命の文化政策的方法の規準たらしめるやうにしなければならぬ。

先づ、プロシアの大學全體を世界觀的に統一する方法が取られた。その際出發點となつた考へは、プロシアの大學で働く教授は、ドイツ民族の出身であり、且つドイツ民族及びドイツ民族の運命と感情的に結びついてゐる者だけであるべきだ、といふのである。同時にこれまでよ

り更に積極的に若き力をわれらの大學に吸引すべき方法が準備されて居る。この目的のために、大學總長及び評議會の改選が學期初めに舉行された。それは、學部を縮少してこれを最も重要な専門の代表者を以て構成し、また、彼等や學部長に對して、從來の大學の衆議院的憲法のもとに於けるより、更に強大な指導者的使命と責任を負荷することを意圖してなされたのである。同時にそれは、授業料と講義料の低下並びに、アカデミーの後身のための教授の収入の均等化によつて、教授團及び學生團内の社會的平和を實現せんことを意圖したのである。

國家が私講師の講義に更に強力なる干渉をなすことによつて、大學の精神と民族の精神との結びつきが促進される。かゝる結合を促進するための、もう一つの手段は、有史前、人種學、民族學、政治教育學、政治史、或ひは、民族的國法、有機的な國民經濟學等を更に積極的に反省することである。

ロシア學生法によつて、大學及び國家に於ける學生階級も亦、平等な權利を賦與された全體の一員として完全に認められるやうになつた。學生階級は、指導者原理及び全體に對する規律によつて結合し、以て學内に於ては、ドイツ科學の思想的財寶や國民社會主義革命の指導理念、或ひはその凡ての科學的、實際的生活領域に對する作用、といふもので自己を鍛へ上げな

ければならない。更に彼等は、スポーツや労働奉仕、或ひは第三國家建設の線に沿つて、全民族を大ドイツに團結する仕事に協同しなければならぬ。この仕事は、自由主義的體系の懲戒を止揚し、學生の國防團及び労働奉仕への参加を促進することによつて、同時に促進せられる。

大都市中心主義、官僚主義に對して、プロシア教育制度の地方的結合性と郷土性が強調され再建されなければならない。大學はその存在する地方との精神的、人間的結合を感じべきである。このことは、又從來の教育學的アカデミーに代つて、將來のプロシアの國民學校教師を養成する使命を持つ師範大學についても言ひ得ることである。就中、ボンメルンのラウエンブルグに新設された師範大學、並びに、プロシア文化政策の方向を示す標本として新設されたボグム、ブレーン、ケスリンの國民政策學校は特にさうでなければならぬ。大學その他の學校の改革の方向は、個人主義、大都市的頹廢、自由主義時代の知的偏重から、民族結合、郷土性、性格の強化、といふ教育理念に向つて進められるであらう。

教育は必ず典型がなければならない、といふのが、プロシアの文學アカデミー再建に當つての政府の指導的思想であつた。その際問題となつたのは、一種の職業組織とか全くの利益團體

とかいふものではなく、民族の精神生活のための典型を明確に引き出すといふことであつた。それ故に新アカデミーの選出に當つては、非民族的で頽廢的な知性の代表者や空虚な愛國主義の宣傳者どもと全く類を異にするドイツ詩人や代表者を選舉するに努めた。

藝術の領域に於て過去の自由主義時代には、觀念的には反ドイツ的文化ボルシェヴィズムの廣汎なる宣傳が行はれ、物質的には頽廢と保護、政策の視野の狭い組織が獎勵されてゐた。ところが藝術といふものは組織したり命令したりすることの出来るものではない。即ち藝術は寧ろ民族と風土から發生するものである。しかしながら、どこまでも潔白に堂々と藝術を保護するといふことは國家の義務である。ここ數ヶ月に、かゝる方向に向つて決定的な進行がなされたのである。政府は、特に種々の藝術領域に於ける進歩と健全化を組織的に行ふやうに努めるつもりである。たとへそれが善意に出づるものであらうとも、門外漢の不手際な干渉によつてかかる發表が阻礙されるやうなことがあつてはならない。正常なるドイツ的心情を強調するのによい。しかし、その際忘れてならないことは、藝術はただ藝術家によつてのみ作られるものである、といふことである。余は嘗つて次のやうなことを言つたことがある。即ち、卓拔なる藝術家から勇敢なる國民社會主義者を作ることは出来る。しかし、天分のない國民社會主義者か

ら優秀なる藝術家を作ることは出来ないと。

國民社會主義革命の文化政策がその目的を達せられるのは、教養人と非教養人との間の對立や、ドイツ的教養と所謂一般的教養との間の對立が消滅し、全國民が一つの統一された精神の中に生き、またこれを創造し、大都市的孤立や不健全な知性主義の分離性に代つて、健康なる肉體と精神、民族と土地の結合が、プロシアの精神的現實となるときである。

國家及び全體的な公的生活の國民的改造の領域に於ては、重大なる方策が特に内務行政上及び司法行政上講ぜられた。内務行政上先づ解決すべき重要な課題は、國家權力の力の機關としての警察を完成することであつた。警察の第一の課題は、國內の靜穩にして、合法的な發展の前提を創造し、且つ、われらの偉大なる事業を妨害せんとする凡ゆる運動を萌芽の中に艾除することである。國家に敵對せんとするものは、その破壊的行爲に對して容赦なき嚴罰を以て望まれることを知らなければならない。勤勉なる國民に對しては、警察はその友人であり、保護者たらんとするものである。

行政警察の領域に於ける從來の制度は、過去の經驗に照して、その使命を完遂するには不完全であることを暴露した。かくてこの領域に於ても亦、過去の罪過が最も大であつた。國民運

動の勝利の後、前景に現れた反國家組織の反抗や、國外にある敵性團體に支持されて更に破壊の萌芽を統一ドイツに持ち込まんとする、かゝる團體の試みに對する止むを得ざる必要手段として、統一原理に従つて組織され、嚴格に構成されたる中央官廳の設立が要求され、そしてその指導權は、プロシア首相兼内務大臣たる余の手に直接歸屬することが要望せられた。かくて、秘密國家警察局がベルリンに設立せられ、特別の全權が賦與せられた。これまでと同じく、將來余の最も要望して止まないところのものは、新國家の安定と確保のために、國家權力のあらゆる手段を盡して、その内面的、外面的とを問はず、容赦するところなき勢力を傾けて努めんことである。

更に新時代が警察に課した大きな課題の要求するところは、保護警察の組織を改革し、以てその目的とする最高度の攻撃力を具備することであつた。先づ重要な地位の指導者の更迭がこの計畫を完遂する上に必要である。われらは全力を盡して現在及び將來の種々の警察の課題を遂行して行くであらう。われらは、現存の外交上の羈絆を少しも破ることなくして、祖國再建に比類なき役を演ずるところの俊銳なる國家權力の機關を創造するであらう。そして、そのためには余は、プロシアの警察は軍隊と匹敵するほどであり、プロシアの警察はドイツ陸軍の一

部分である等といふゲンツに於ける主張に對して斷乎たる抗議をなさなければならぬ。

官吏の革新は、新國家の保全と新ロシア建設の確保上最も重要な課題の一つである。國家の政府の發布した職業官吏法は目下施行されつゝある。それによれば官吏團體に加入し得るものは、國民的ドイツに於て公的行政上位置を有し得るものに限られるであらう。しかし、職業官吏法の施行後は、ロシアの官吏階級は、再び價值と尊敬に對する要求を高めることが出來、したがつて彼等は清廉潔白なる官吏團體たることを要求することが出來、また當然要求しなければならぬのである。かゝる傾向は國家の利益のために遂行されなければならない。

これと平行してロシア政府も亦、官吏團體の素質の改善に着手した。そこで、ロシアの高級内務行政官吏團體の早急なる根本的改善を促進するために、近く、六年前本質的には政治上の理由から阻止された行政試験の特別養成が開始せられるであらう。行政試験制度はロシア行政史上に於て優秀なる成績を擧げてゐるのであつて、それは多くの有用なる専門官吏を國家に送つたのである。高い國民的、國民社會主義的精神を持つ後繼高級官吏の養成に當つては青年行政官吏を出來るだけ速くその將來進むべき軌道に乗せてやる必要である。その時期が早いほど、その養成は容易に出來、また完全に出來るであらう。



プロシアに現存する官吏委員會を廢止すれば、公的行政の上に總統の思想を具體化することが容易になる。官吏委員會は將來信頼ある人々を以て替へられなければならないであらう。官吏委員會が官吏階級内部の政策を規定し得る、といふことはあり得ないことである。將來は新しい國家が出来て、それが古い國家以上に官吏のための配慮を行ふ。余を信頼する官吏の面影を見ることに於て、余は如何なる委員會にも讓らないつもりである。

政府は特に、市町村及び市町村聯合體の、嚴正にして且つ清廉、質素にして且つ國家の榮耀に積極的に獻身するやうな自治の復興を企圖してゐる。嚴正清廉な自治の方向に向つて、既に反腐敗法令の手段が講ぜられてゐる。この法令は就中往々默視し得ざるほど跋扈した依怙の沙汰を艾除し、また市町村參事會、市町村役場、市町村會に同時に椅子を持つことを禁じ、且つ職務上の權威と規律を守るために市町村の官吏、傭人、勞働者が同時に市町村組合に職を奪ふことを排除することによつて、純専門の決定事項を危殆ならしめるが如き官吏の干渉を除去した。吏道の確立及び有給無給の市町村參事會員の減少による節約の擴大を目的とした法律の制定によつて、質素にして市町村民に接近する自治の道が開かれた。市町村は永い間、友人の就職の世話をしたり、選舉や政治運動の際の收賄的援助行爲のための夢想國であつた。し

たがつて市町村を淨化することは政府の第一の義務である。

更に清浄にして質素な、そしてまた國家の繁榮第一主義の自治が確立されるためには、凡ての指導的市町村官吏は、從來さうではなかつたのであるが、その資格檢定の上、認定せられるのでなければならぬ。將來市町村及び市町村組合に於て指導的地位を占めるものは、ただ國民的信頼を持ち、人格的に非難されるところなく、且つ専門的才能を持つ官吏に限らるべきことを保證するために、近く余は今日全國的要求となつてゐる、指導的市町村官吏の認定の前提に關する新しい原則を發令するつもりである。そして、撰定されたものが要求された適格性を持つと認定されるのは、彼が一年間職務を完全に遂行した後のことである。

これらの方法の多くのものが大衆受けをしないからと言つて、政府は、これらの方法は過去の悲しむべき經驗に徴して正常なものであり、不可缺のものである、といふ確信が一瞬たりとも動搖するものではない。

自治の改革は、特に自治團體の建設、といふ見地からいつても、かゝる早急の場合に應ずるために取敢へず發令される法令を以て完結するものでは勿論ない。この仕事は更に續行せられるであらう。しかし、政府は市町村及び市町村聯合體の必然的に峻嚴なる指導を確立するに當

つても、自己の責任に於ける眞の自治から、國民の再建にそれ獨自の協力をなすところの娛樂と愛情を奪ひ取らうといふのではなく、寧ろあらゆる關係方面に、それを促進せんとするものであることを諸君は確信してもよい。自治をして、必要なあらゆる節約によつて、かゝる課題を遂行し得る状態に達せしめるために、余は國家の各省と共に、全力を盡して、市町村自治を健全なる財政的基礎の上に再建せんとするものである。

官吏階級は職業官吏團再建のための、この新法律によつて部分的に動搖を來たして居る、ややもするとこの法律の誤つた解釋が行はれはしないかと杞憂するものもある。そこで余はここに判然と言つて置かなければならないのであるが、政府は、正にこの法律の要求するところの偉大なる責任を一身に背負つてゐるのである。余は、個々の官吏や傭人の運命の決定權は絶對に彼等の最高長官たる大臣の手に屬すべきだ、といふを案を提出した。この法律は場合によつては生活の根本をおびやかすものであつて、正にそれ故にこそ、この法律の運営には一層の慎重さと責任感を以て當らなければならない。しかし、われらは、別の新しい黨員名簿官吏を養成するために、黨員名簿官吏除去の法律を作つたのではない。今日では嘗つての共產黨から國民主義者に轉向して、専門知識の不足や不適格性をこま化して置けばよいのだ、といふ風に考

へる者があれば、これは間違である。この法律が如何なる範圍で官吏や傭人に適用されるかの解釋に當つて、彼等が何黨に所屬するか、或ひは如何なるマークを持つてゐるか、といふことは問題にならない。ここで斷言して置くが、余は密告者や中傷者に對しても、規律紊亂者に對すると同様の態度を以て望む決心である。ただ自己の地位を得るためのみに、官吏や傭人、それから同僚や長官が告發されるといふことは、これからの嚴正なる職業官吏團に於ては許すことは出来ない。そこで余はかゝる立場から、もう一度衷心よりかゝる行爲に對して警告を發して置きたいのである。なぜなれば放たれた矢は容易にその射手の上に又落ちることが出来るのであるから。

更にこの點に關して注意して置きたいことは、他の黨に所屬することは、その黨が反國家的でない限り、決して職務上の進路の障礙とはならないことである。

國民社會主義運動に参加せる者が主として官吏の地位に就き、或ひは自治に於ける指導的地位を要求するといふことが、更に不安を與へてゐることを余は知つてゐる。一方に於て何百萬の國民社會主義者がドイツの自由の戦ひを遂行しながら、他方に於て、國民社會主義者は凡てこの十年間、悲惨にもあらゆる國家の地位から締め出しを喰つてゐたといふことが、如何に大

なる摩擦の原因であつたか、といふことを忘れないで欲しいのである。今や明かに強力なる前進が現實となつた。この時に當つて、余はプロシア組織の支配者（支配者）や、彼等を支持する諸黨派の犯した失敗を若干改善する、といふことは余の神聖なる義務だと考へる。更に地位を奪取し、戦ひ取つたものに、その地位の先取権があるといふことは、永遠の法則でもある。新プロシアを建設せんと欲するものは、將來その國民的精神が明瞭である場合にのみ、その適格性が認容せられるであらう。

譯者註 第一次世界大戦後、ナチス政權樹立前の政權を言ふ。

新國家の精神はまた司法行政の上にも當然現れなければならない。法律は、從來の如き、抽象的で、民族と無關係な、自己目的的な法觀念を基礎とすべきではない。法の源泉は民族自體である。血によつて規定された民は、風俗習慣の中に、意識的無意識的に作用する。國民良心の表現としての、かゝる生きた習慣を國家的規範に高めることが、法律の課題である。立法者は、悟性的抽象から發生する意志と民族法とを斷じて混同してはならない。

このやうな民族法は、プロシアの世襲農法の農民的憲法を表現してゐるものであつて、それはプロシア政府によつて數日前法律化されたのであるが、これは専らプロシア司法大臣の力に

よるものである。この法律による何百年間の壓迫にも拘はらず、よく古代ゲルマンの法律制度をドイツ農民の意識と行動のうちに生き生きと維持せしめたところの、かの不動の感情を持つ民族の根源的な力の中から創造せられたものである。農園の不分割性、農家の郷土的團結に根を下した不分離性は、世襲法によつて農民的憲法の基礎となるであらう。

シュタイン及びハルデンベルグによつてなされた農民解放の立法は、強力なる彼等が國家の指導的地位を去つて後は、自由主義時代のために再び埋没せしめられたのであるが、ここに於て、それはプロシア政府によつて繼續され、完成されることになつた。爾來、農民の根柢い團結は、偉大なる歴史の發展と共に、先行者に匹敵する第二の歩みをプロシア國家の農民解放の道に向つて進めつゝある。

民族の生活に於ける法の實施は、條文や文字によつてなされるものではなく、民族の共同生活に於ける凡てのものと同じく、人間によつて行はれるものである。したがつて、法官の人格は、その思想及び意志が有機的な血の團結たる民族全體性の意識に根を下し、したがつて又その行動が、民族全體の幸福といふ唯一の規準によつて規定される、といふことを必要とする。この目標は又、學生及び司法官試補を法官に養成する上の目標たらしむることが必要である。

かくて當然要求されるところの豫備奉仕及び試験の改正は、目下準備中である。

司法の外面的組織も亦、司法の使命に順應して作られなければならない。裁判所の機構の樹立に當つては、司法と民族との接近、及び財政的考慮の無視、といふことが絶対に必要である。なぜなれば、機構は自己目的ではなく、目的に對する手段であるからである。既に決定され、目下進行中のベルリン裁判所の綜合設置も亦、民族への接近に役立つのである。

刑法の運営は、その民族の生命及び個々人の安寧を保護すべき課題を遂行するに當つては、迅速にして峻嚴、且つ正當なる態度を以て望むであらう。ただそれが罪惡である場合のみは、刑罰は戒防的、豫防的に作用し、同時にそれが改心の可能性がある場合は、訓練と秩序の習慣づけによつて、教育的な役割をなすことが出来るのである。

刑の執行官は、その職務遂行に當つては、特殊の規定によつて司法大臣の直接の監督を受けなければならない。刑執行の課題は遠からず全面的に司法省事務の中心問題となるであらう。

市民法は、出来るだけ廣汎に、古いドイツの、しかも國法的に規定された口頭手續の原則を回顧することによつて、活潑で迅速な裁判を可能ならしめ、したがつて裁判に對する民族の信頼を強化するであらう。實際の裁判上の課題は、裁判官をして責任ある行動をとらしむること

によつて達成され得るからである。その課題遂行上の廣汎なる自由を裁判官に賦與することによつてのみ、それは達成せられ得るのである。その他、この目的を達成するためには、保護裁判、後見裁判、管理裁判、或ひは遺産、記録、土地臺帳、破産の諸制度等、廣汎な分野に足を踏み入れなければならない。

以上の課題を解決することによつて、司法は民族の法意識の擔ひ手となり、支持者となるであらう。民族自體が一個の生命ある有機體である如く、司法も亦、各員が個々の課題を遂行し、以つて全有機體の健全なる維持のために協働するところの、一個の有機體を形成しなければならない。眞に民族的共同體の生活のうちに法的安全と平和を保證することは、司法の務るべき課題であつて、司法はそれを遂行するであらう。

經濟の組織的革新に當つても亦、解決すべき課題の新しい原則を明確に認識することが必要である。

經濟組織は、企業家及び勞働者が階級闘争の思想を克服して、一つの新しい共同勞働體に一體となるといふ根本的な革新の方向に向はなければならない。この問題の重點は國家にあるのであるが、さうだとすれば、經濟的革新は國家、州、市町村に於ける政治的革新を顧慮するこゝ



となしには全く行はれないのであつて見れば、尙更のこと、プロシアは、われらの將來にとつて決定的であるところの、かゝる發展に向つて自己の勢力を敢へて主張すべきである。加之、商工會議所及び手工業・農業會議所には、一世紀以上の歴史を持つ新經濟組織の重要な萌芽即ち結晶點が発生してゐる。これらの會議所はしかし州の監督下に立つてゐる。換言すれば、それは、大部分の經濟のためにはプロシア政府の監督下にあるわけである。

このことはドイツの取引所に就いても言ふことが出来る。國の政府は、プロシア取引所の根本的改革に着手した。將來は、民族全體に對する責任意識を缺如せる投機者を排除して、手堅い貯蓄家や生産的な農業或ひは誠實なる商人が、從來の如き貯金に對する税の賦課や小麦の變動がある場合以上に、重要なものとならなければならない。この既に開始された事業は、斷乎として繼續されて行くであらう。

自治體の公共的、合法的銀行、及び信用制度の領域に於て、政府は特に、貯蓄銀行、振替組合振替中央部、州銀行及び貯蓄銀行の改組を強力に續行して來た。

貯蓄銀行の發展は過去數週間、漸次平靜と緊張の緩和を増大した。それは貯蓄預金の増加、預金引出の一層の減少、並びに貯蓄銀行の爲替銀行や國立銀行に對する負債の減少として現れ

てゐる。かゝる喜ぶべき發展は、經濟に確立された信頼の明らかな現れである。政府は、經濟の再興と失業の緩和が、確固たる基礎に立つた平靜なる國家の指導による廣汎なる經濟的信頼に基くものであることを確信してゐる。この安全なる國家的指導が絶對的に保證され得るものであることを余は明言する。經濟擾亂、特に不正にして無責任なる干涉による擾亂に對しては、政府はその凡ゆる國家權力を動員してこれを排除するであらう。貯蓄預金の順調なる發展によつて、貯蓄銀行の自由なる信用貸出しが可能になつた。その際、貯蓄銀行は、中産階級の經濟的復興及び促進を特にその義務として課せられた。

ロシア内部の整備に對しては、特別の努力が拂はれたのであるが、同時にそれは、勞働供給のための有効なる手段であることは、疑ふ餘地がない。この目的のために、更に多額の金を準備することが緊急に必要とせられる。今日までに六千萬ライヒスマルクが要求せられた。

この勞働供給の方面に於ても亦、國營、社營の港灣、並びに國營橋梁に對して、多量の勞働が動員された。

ロシアの鑛山の領域に於ては、不慮の災害に對する研究と闘争が、鑛山の指導者及び坑夫との緊密なる連絡のもとに、鑛山經營及びその確保のために、不撓の努力を以て續行されるで

あらう。

オーベルハルツ及びウンテルハルツに於ける經濟的困難克服のための努力は、ラウテンタールに於ける堀鑿作業、及びオーベルハツルとウンテルハルツに於ける鑛山業並びに製鑛業に對する國家的補助の保證によつて、一段と促進された。しかし間接的には、プロシア國家の鑛山會議が、新しい委託によつて、獨自の方法を以て、作業の困難の克服に寄與してゐるのである。

しかし、殘された最も困難なる課題は、われらの經濟を強化し、且つ新しき繁榮に齎することである。しかし、かゝる繁榮は、個々の經濟分野が、不動の經濟法則を無視して、人工的な手段や國家的干涉により、出來れば自己以外の利益、それは國家にとつても同時に重要であるところの利益を阻害して、勝手な目的を強引に確得しよう、といふ狀態では決して望み得ないのであつて、それは、經濟的聯關を認識し、且つその認識の巧妙なる運用によつて、われらの民族、われらの國民の經濟力を千倍にまで發展せしめることによつてのみ得られるのである。國民社會主義的國家は、總統の思想とドイツ人の活動を基礎として樹立されたのである。又われらの經濟は、能力、知識、體驗、熱意、そして誠實なる商人の企業心からのみ、絶対に必要な

る衝動を受けることが出来るのである。しかし凡そ事をなさんとするならば、常に國家的全體的幸福の利益に於てなすべし、といふ根本條件が確守されなければならない。公益優先、これが國民社會主義的評決の意味である。百年來の活動の中から生れ、そして吻合されたるドイツ經濟の精巧なる車輪聯動機に對しては、玄人でも素人でも、これに干渉して打ち砕くことは出来ない。寧ろ、鍛冶屋であると、事務家であると、萬力工であると、監督であるとを問はず、經濟に關與するものは凡て、五月一日のわれらの總統アドルフ・ヒトラーの黄金の演説を教訓として、各々その職域に於て、各自に課せられた使命の遂行に向つて努力すべきである——今でも尙困難なるこの運命を克服して、ドイツの高揚を實現せしめるために。經濟的高揚の源泉と、從つてわれらの失業の克服の保證とは、嫉妬でも猜疑でもなく、歡喜に満ちた共同労働である。經濟は労働し得られるための靜穩を必要とする。不必要なる不信を去れ！過去へでなく、未來に向つて眼を向けよ！明確なる法的基礎と權威が經濟界に於ても保證されなければならない。大小を問はず、各經營の指導者は、その經營に對し、彼に信頼を寄せる人間に對しまた全國民に對して、最高の責任感に滿されてゐなければならない。清廉といふことは特に經濟にも復興されなければならないし、また威信と信用が高められねばならない。國家は、いや

しくも敗徳行爲がある場合は、常に顧慮するところなく斷乎たる底分をとると共に、一方、不  
必要なるあら探しや、捏造的な密告や、または階級鬭争の使喚によつて平穩なる發展を擾亂せ  
んとするが如き行爲を防止するであらう。經濟に於いても、下に對しては權威、上に對しては  
責任、といふ原則が支配しなければならぬ。それ故に、政府は如何なる小委員の不正をも斷  
乎として排除するであらう。經營に對して責任をとる者は指導者であつて、多數決制の經營會  
議ではない。過去のドイツ經濟組織によつて蒙つた損害は、一朝にして拂拭され得るものでは  
ない。しかし、將來それに對してわれらの經濟を強力に押し進めるものは、——即ち、政府の  
力、國民社會主義的運動の建設意志、及びそれを基礎とする安寧秩序に對する保證能力への、  
諸君の信頼でなければならぬ。

現存する種々の鬭争同盟の使命は、經濟に於ては屢々、同盟員自體がなすと同じ誤つた理解  
がなされてゐる。鬭争同盟が誕生したのは、經濟に干渉したり、經濟を擾亂するためではな  
い。それは、彼等に指示された領域に經營細胞を組織すると同時に、そこで働いてゐる人間を  
國民社會主義者に養成することを目的として生れたものである。それは、新しい利害對立を作  
るべきではなく、われらが法律を以て破壊した利益團體が鬭争同盟のうちに新しい裝ひを以て

立ち現れることを許すべきではない。國民社會主義の曙光のうちに生れ出た復興であつて見れば、鬭争同盟のうちに、不幸なる想ひ出を持つ經濟黨派を許すべきではない。彼等の使命は遙かに高く、遙かに偉大である。なぜなれば、その使命は世界觀的であり、したがつてそれは全力を擧げて、鬭争同盟をかける使命に導くことを要請するのであるから。身分、職業、階級、利害の對立が、ドイツを破滅に導いたのである。われらが言語に絶する困難なる戦ひを戦つてこの破滅からドイツを救ひ出した所以のものは、決してかゝる對立を新たに發生せしめんがためではない。プロシア政府は、そして、國民社會主義的世界觀の闘士として余も亦、かゝる利害對立が、如何に鐵石の如く堅くとも、全民族の幸福のため、敢へてこれを和解せしめることを約束する。

農業行政の領域に於ては、葡萄栽培上の技術的向上、及びその販路擴張のための金額が準備されてゐる。東プロシアの、降雨と白症のために甚大なる被害を蒙つた地方に於ては、廣範圍に亘る春季の播種が行はれたが、それに對して國家は百萬、プロシアは百萬餘を損害補助として支出した。また甚大なる飼料缺乏に見舞はれた西プロシアの若干の地方に於ては、家畜飼料確保のための特別處置が講ぜられ、これに對してプロシアも亦資本を供給した。

かゝる場合には、假令それは直接農務省所管事項でなくとも、その立場から保證するやうにしたい。

(註)

東プロシアはコリドールによつてわれらと切斷せられてはゐるが、われらの心、われらの思想、われらの感情とは切斷されてはゐない。われらは、東プロシアが何を憐んでゐるかを知つてゐる。われらは、東プロシアは第一線に立つて居るのであり、したがつてわれらはこの第一線のために配慮しなければならぬのであることを知つてゐる。東プロシアは、自己の力は全プロシアによつて絶えず新たにされるものであることを知らなければならない。

譯者註　海のない地方と海とを連絡する土地。

勞働供給計畫内の重要な標準は、水利經濟や、地質改良制度の領域に於ても準備されてゐる。國家山林行政の領域に於ても亦、更に大なる勞働準備が行はなければならない。余が所て列擧した課題遂行のための國家資本の準備は、全プロシア行政に於ける偉大なる節約によつて、初めて出來たのである。

かくて最後に、余は特に重要な國家財政の問題に觸れる。國家經濟を整備する上には確固たる規範的原理が不可欠的である、といふ事實に促されて、政府はその一義的仕事のひとつとして、公式的な財政指導部の統一のための必要なる準備をなした。政府は四月二十四日、一九三

三年の會計年度のための國家財政案を決定し、また同時に命令形式で公布した前年の一九三二年の會計年度のための財政案を、更に公式の法律として追加確定した。同日内閣は、赤字財政の状態を明確にするために、借入權に關する法律を決議した。それは、現在の財政狀態に對する現存の信用設定權を廢止し、財政指導部を前年度の多額の赤字から解放することを目的とするものである。内閣に賦與された借入權の行使し得る總額は、該法律によれば、結局二億一千万ライヒスマルクの減額となる。プロシアは、政府の本年度の勞働給附計畫の一翼を分擔するために、總額三千九百萬ライヒスマルクの新借款の豫定である。

借入權法並びに財政確立法は、その條文がプロシア法令集に載せられてゐるのではあるが、なほ諸君の手もとに配付した國家財政案の序言の中にも委しい説明が書かれてある。豫算の狀態に特別の關心を持つ者は、この浩漭なる序言及び特別會計の龐大なる説明書を讀めば、委曲を盡した説明を得られるのであつて、したがつて、余は、今日多くの數字的材料を以て諸君の注意を惹くことは敢へてしようとは思はない。數字的材料といふものは、永い間の實行によつてのみ評價されるものであるから。ただ次のことだけは注意されたい。

一九三二年の會計年度は、通常豫算に於て約一億七千五百萬ライヒスマルクの、借入豫算に



一九三三年の會計年度は、通常豫算に於て約一億七千五百萬ライヒスマルクの借入豫算に於て三億八千八百萬ライヒスマルクの赤字を見た。一九三三年度の新財政案は、約二十七億ライヒスマルクを以て收支の均衡を計つた。この均衡の意味するところは、ドイツ最大の州は、財政の均衡を計るべきだ、といふ強制的な公式の規準だけではなく、寧ろ余の強調したい點は内閣が凡ゆる努力を拂つて、國家行政上の全分野に亘る極度の節約により、一九三三年度の財政案を物質的にも亦均衡せしめたことである。收支は各々前年度に比して三十四億七千六百萬ライヒスマルクの減少となつてゐる。

租稅收入に於ては、本會計年度の最初から、因却せる家屋所有に對して地租並びに家屋稅の全面的遞減が命ぜられたことを述べなければならない。農業、山林經營及び園藝に對しては、國家地租の廣汎な輕減がなされ、更に、凡ての農業、山林、或ひは園藝に利用されてゐる土地に對しては、本年五月十五日を以て期限滿了となれる前期三ヶ月分賦拂ひが、減免の目的を以て公的に一般に猶豫された。

歳入の方面に於ては、人的、物的支出が著しく減少した。國家の使用人たる官吏及び傭人の數は、前年度に比して二千七百八十九人の減少を見た。

當面する財政の基準としては、取り敢へず財政指導部の形式上の統一が問題となり得る。國

家、州、市町村の財政的領域に財政の均衡を齎し、また、國民革命を通じて凡ゆる專門團體の政治的意志を統一することによつて、本質的に強化された緊密なる結合は、ドイツ最大の州の財政を、國家、市町村及び市町村聯合の狀態と切り離して考へることを禁止する。國家政府によつて運営され、且つ、全體的經濟狀態の發展と緊密に並行して進行する全ドイツの財政政策に就いて説述することは、プロシア國家及びその市町村の財政狀態の徹底的整理にとつても亦重要なことである。したがつて、かゝる緊密なる結合によつてプロシアの大藏大臣は同時にまた國家の内閣に入閣し、以つて、プロシアをして財政關係に關心を拂はしめ、それによつて國家政府の財政態度の基礎を樹立せしめるといふことは、特に價值のあることである。かくて財政計畫がその實行期間を通じて計畫通り遂行されるか、更に、國家の全租稅體系の變革内に於て、現行租稅に齎され得る根本的變革は如何なる範圍に及ぶか、また、國家自體の財政經濟の整備に止まらず、市町村及び市町村聯合の財政狀態をも整備することに成功するや否や、といふことは全經濟狀態及び國家政府の財政政策の發展に關係する。市町村及び市町村聯合の財政狀態が緊急の改善を必要とするといふこと、しかしプロシア國家は市町村に對して單獨で充分なる援助を與へ得る狀態にはないといふことは、これ以上余の説明を要せざるところである。

今日のところプロシアは、國家の財政政策との指導上の緊密なる連絡のもとに、健全なる財政を復興し、同時に、市町村及び市町村聯合の財政經濟を整理するための前提を創造する、といふ以外の目標を明瞭に樹立することは出来ない。かゝる目標への進行途上に於て、一九三三年の財政法の確立及び發布、また、赤字と信用狀態の整備が先づ重要であるのは、ただ、取收へず國家經濟の整備に不可缺の確固たる形式的基礎を樹立する、といふ意味に於てである。

以上によつて余は政府の意志及び事業の概觀を述べた。プロシア政府は、自己の前に高く聳え立つ課題の偉大さに滿身感激してゐるのである。プロシア政府は、廢墟を清掃し、且つ全く新しき建設をなさねばならないことを知つてゐる。プロシア政府は、マルキシズムが全面的に勝利を得たのは、如何なる理由によるかを知つてゐる。プロシア政府は、十四年間マルキシズムの意味によつて支配されたのは、如何なる理由であり、その立場から過去になされたものは如何なるものであつたかを知つてゐる。プロシア政府は、自己の活動を絶えず妨害する凡ゆる困難を短期間に克服することは不可能であり、また、民族が必要とし、プロシア政府が望むところの凡ての成果を、早急に實現することは不可能であることを知つてゐる。しかし政府はまた、この時代の偉大なる高揚に揮ひ立ち、政府の奉仕する理念から湧き出る強き力に滿ち溢れ

てゐる。かくて政府は、プロシヤ國家を過去の日の困難から救ひ出し、これを高揚せしめることに成功することを充分確信して居る。諸君が政府を援助し、且つ全プロシヤ民族が政府に忠誠を誓ひ、且つこれを嚴然として支持するならば、プロシヤは、總統によつて統一されたドイツ國家の最強の支柱となるばかりでなく、過去の最もよき時代に於けるが如き繁榮を再現するであらう。

このための前提は、國民的、また、國民社會主義的革命によつて創造せられたのである。勝利のために全力を盡し、あらゆるものを犠牲にして來た凡ての人々に對して感謝することは、政府の名に於て余の心からなる義務である。事業が完成したのは、就中國民社會主義的自由運動の古き闘志たる、忠誠なる突撃隊員及び親衛隊員に負ふものであることを、われらは知つてゐる。民族に名譽を、國民に自由を。これが目標であつたのであり、また目標である。かゝる最高の財寶のための困難なる戦ひに、ドイツの同權のための戦ひに、われらと共に戦ひ、共に活動せんとする一人一人に、われらは心から手を差し伸べるものである。

昨日告白されたわれらの宰相の神聖なる平和の信條の偉大なる印象は、本日なほわれらの腦裏に生々しく残つて居る。われらは、彼がそのとき同時に、かゝる平和意志はよた國民の名譽

を確然と主張して來たものである、と明瞭に述べたことに對して深く感謝する。プロシア政府は、全プロシア民族と共に、われらの宰相の聲明を擁護する。それはわれらの義務であり且つわれらの確信に出づるものである。われらはまた、この祝福すべき時に當つて、かの恐るべき困難なるヴェルサイユ條約によつて、何百萬のドイツ民族が生きる可能性を奪はれ、しかも、生命自體への叫喚は除かんとして除き得なかつた、かの世界を今一度想ひ出して見たい。

ドイツ民族は生きる權利を持つ。ドイツ民族は生きるであらう。そして、ドイツ民族は生きるための平和を欲するし、またその平和を確保するであらう。ドイツ民族は自由と名譽を欲する！われらは長い努力と長い戦ひによつてドイツの名譽を守つて來たのは、今になつてこれを放棄するためではない。プロシアは、嘗つて自由と名譽の思想の上に發生した。そして、プロシアからドイツが生れた。それ故に建設へのわれらの信條を、國會開會の折に述べた余の次の言葉を以て結ぶことを許して貰ひたい。「名譽と自由はプロシアの基礎であり、プロシアはドイツの基礎である。」

## 國民主義と社會主義

余は今までに、無數の會合に於て演説を行ひ、無數の問題に對して、意見の表明を行つて來た。しかし、今日は、余にとつて、全く別な意味を持つのである。別な意味といふのは、今や余は、日々最も苛酷なる勞働、或ひは、最も辛い窮乏の中に、生きて行かねばならぬドイツ人、そして、その故に、國民社會主義とは何であるか、その勝利が、何かを作らんとする民族にとつて、何を意味するかを、自分自身の體驗から教へられたドイツ人だけの前に立ち得る、といふ理由によるのである。

われらは、國民社會主義的革命的なかに生きてゐる。この際われらは、社會主義的といふ言葉を強調する。といふのは、多くの人は、故意に國民革命についてのみ語るからである。これは、單に疑義を挿み得るのではなく、誤つてゐる。なぜならば、ドイツ國民主義は、單に漠然と、勃發させられたのではなくして、またドイツ社會主義が勝利を得たといふことによつ

て、特にわれらは幸福になつたのである。残念なことには、今日に於てもなほ、われらの中に、餘りにも激しく「國民的」といふ言葉を強調しすぎ、われらの世界觀の第二の部分たる、社會主義について何事をも知らうとせず、その故に、第一のものたる國民主義をも理解してゐないやうな人々がある。彼等が、ドイツ社會主義に對する疑問を解決しようとしなない間は、彼等は國民的と呼ばれてはならない。なぜならば、ドイツ社會主義を強調する人のみが、眞に國民的だからである。社會主義について語ることを拒否する人、社會主義の中に、マルクスの行き方をのみ見出さうと思ふ人、社會主義といふ言葉が、彼の耳に不快に響くところの人、かういふ人は、また國民主義の最も深い意味をも理解してゐないものであり、一般に人間は、社會的問題を、公然と、明瞭に、認識してゐるときにのみ、國民であるといふことを理解してゐないものである。しかしまた他面、民族の生命を託すべき土地を對外的に確保するために、國民主義はあらゆる狀勢のもとに、勝利を得なければならぬ、といふことを明瞭に認識するときにのみ、人間は社會的たり得るものである。

そこで、國民主義は、民族の周邊での奉仕であると同様に、社會主義は民族の内面での奉仕である、われらは、内面に於て、民族の力が發展し、そして再び民族は鍛成して、緊密なるア

ロックを爲すべきであると思ふ。國民各自は、たとへ、最も孤立的な、最も悲惨な立場に立つやうなことがあつても、それ自身にとつては、依然として、存続と生活の可能性が存在するものであるといふ感情は、維持されて行かなければならない。國民はそれ自身の自我が民族といふものの中に根ざさねばならないといふこと、そして全力を擧げて、民族に奉仕しなければならぬといふことを洞察すべきである。そして、余が、個々の民族に對して、内面的に、存続の可能性を與へんと欲するとき、且つ、すべてのドイツ人たちが、再び活動をはじめるときであり、働き得る状態となり、自分自身の力で存続し、生活し得るとき、そのときにこそ、余は、國外に向つて、このことを達成し得るための可能性を創ることにも、心を至さねばならない。

われらは、荒涼たる、老衰せる、似而非的愛國主義の意味で、革命を起したのではなく、この革命は、言葉の最も眞實なる意味に於ける國民社會主義的革命であつた。從來兩者は、互ひに無縁なるものとせられ、更には、憎惡と、不幸なる敵視のうちに兩者は嚴密に分けられ、相對立するものとされて來た。即ち、一方に國民主義、他方に社會主義、此處には、國家主義の擔ひ手として、市民があり、彼處には社會主義の擔ひ手として、マルクス主義があつた。市



民は、荒涼たる、似而非的愛國主義と平和主義的卑怯の中に窒息し、そして、他の側にはマルクスの市民層、マルクスの階級があり、それらは國民や國家や民族については、何も知らうとは欲しなかつた。兩者をつなぐものは何もなかつた。

マルクスの社會主義が、荒涼たる貨銀問題と食料問題に貶黜されたと同様に、市民的黨派の世界は、國民主義を荒涼たる、似而非的愛國主義に貶黜したのであつた。それ故にこの兩概念は再び純化され、そして、民族問題に關しては、新鮮に、水晶の如く明瞭に、示されねばならなかつた。われらの世界觀たる國民社會主義は、時期を得て現れたのである。われらの運動は、襲ひかかつて、脆弱なるマルクス主義から社會主義の概念を奪ひ取り、脆弱なる市民的黨派の世界から、國民主義の概念をも奪ひ取り、そして、兩者を、われらの世界觀の増城の中へ投げこみ、そこからドイツ國民社會主義といふ、水晶の如く透明なる綜合體が生れ出たのである。それは、わが國民再建のための、第一の基礎を創つた。かくの如くして、この革命は國民社會主義的であつたのである。

理念は民族の地盤から生長した。そして、民族の地盤から高まり、世界大戰のときの、無名の上等兵によつて指導されたものであるからして、この理念は、また、分裂狀態に結束をつ

け、民族を、再び統一せしめることが出来たのであつた。

國の對外的防備は實に軟弱で、有名無實なものであつた。國內にあつては、民族は支離滅裂となり、感情的に離間され、無數の傷に痛められてゐた。且つまた國內には、多くの黨派、職業、身分、階級、宗教の對立が猛烈であつた。われらの總統、アドルフ・ヒトラーは、ドイツ民族の内面的緊密性が、國のこの對外的狀態を抱攝したときにのみ、國は、永續性を保持し、強力になり得る、といふことを知つたのである。しかしてこのことは、最近十四年間の階級がわれらの運動、即ち、種々の利害關係を有する人々より成る民族、種々の宗教、職業、身分、ら成る民族から、再び一ドイツ民族を形成しようとする運動の、第一の事業であつた。

われらは、如何に屢々、この壇上に立つたことであらうか！ また、或るときはこの街、あるときはあの街と、如何に屢々、ドイツの他の場所の壇上で叫び續けて來たことであらうか！ われらは、あちらの町、こちらの町と、駆けつづりまはり、微温的な人や、絶望に陥らんとした人々に、熱辯を以て勇氣づけて來た。いつもいつも、百遍も、千遍も、一萬遍も、十萬遍も、ドイツ民族は蘇生しなければならないといふことが、大衆にたたきこまれた。かくして、われらは、黨派や階級や身分の抗爭を、次から次へと打ち壊し、それらを、この新しき國家の礎

石、大黒柱にまで作り上げたものである。かくすることは非常に苦しい、永年に亘る勞作であつた。勝利の表徴のうちにある今日、歡呼の聲のみ響き渡る今日、そこでは、人々は靜かな時を得て、われらが、屢々、到底征服し得ないと思つてゐたこの恐るべき窮乏、そしてまた、いつもいつも、われらに内面的な力を駈り立たせ、いま一度やつてみるべきだと思ひ立たせた、この恐るべき窮乏のことを、想つてみるべきである。運動は地に墮ち、辛うじて生れたばかりで、新しく分裂し、そして再び明るみに出されてしまつた。

なんとといふ大きな勞作だらう！　なんとといふ莫大な犠牲であらう！　なんとといふ献身であらう！　その故にわれらが、繰返し繰返し、集會や祝典を、わがドイツ民族の強力なる復活の表徴として催してゐる。その丁度いまにさへも、常にわれらは、凡てを賭して戦つた人々に對して、思ひを寄せようと思ふのである。彼等のうちの大部分は、今は無き人となり、或る人は廢人となり、また孤獨な人となつてゐる。彼等は戦ひ續け、凡てを犠牲にし、鬭争と勤勞のみが彼等の聲ひであつた。そして、たとへ赤色派を喜ばすやうなことになるかも知れないが、われらはここに、僧侶になりたいくらゐなのだ。——しかしわれらは、僧侶になるやうな暇は少しもなかつた。われらには、その時がなかつた。われらは、あまりにも多く働き、われらを壓

へた闘争に没頭し過ぎた、といふことは言ひ得るのだ。われらは、ひたすらにドイツなる建築物、ドイツといふ作品の左官工の意味に於て、労働者でありたいのだ。辛苦艱難を極めた労働に従事し、對外的に奮闘しながら、今や高まりつゝある空氣を、漸次に作り上げたのである。

黨派争ひは地に墮ちてゐる。それらは卑怯な心より生れたものであるから、脆弱なものであつた。組織は脆弱なものであり、そしてこの組織は卑怯にも解散した。その組織も亦、卑怯な心より、高まつたものであつたからである。如何に無慘にも、それらは一人の少尉と二人の男によつて消滅され、打ちくだかれたことか。それには、十二人ほどの人も要らなかつた。この労働指導者たちは、如何にその労働者たちを裏切つたことか。——余は、諸君に次のことを言ひ得るのだ。即ち、もしも余が、ドイツ労働者をして、その所謂指導者の行爲と、給與をめぐつてその主人に提出された、無數の請願とに、目を向けさせる時間と可能性を持つてゐたならば、且つまた、その指導者が最高の地位を占めてゐるときにさへも、労働者は、彼の指導者が如何なるものであるかを認識するであらう。實に強力な赤色派の上流僧侶たちが、その年金のために、時間をも計算の中に入れようと思つた場合、また、彼等が社會民主黨的な主

策として、ドイツ民族と祖國を裏切つた場合には、當局者は請願書を、労働者に、示す必要があつた。雇主たちは、三十年四十年の間、兵役年齢を加へて、十八歳以下を、年金年齢とすることを問題にしなかつた。これこそ赤色派の征服であつたのだ。しかしながら彼等は、ドイツ民族、特にドイツの労働者をかくも失望させたが故に、彼等は、自分にもはや従つて来る人はゐないと考へたが故に、その故にのみ、彼等は後繼者を失つたのである。下級な生活をしようとは、彼等のうちの誰も望んでゐなかつたが、むしろ彼等の誰でもが要求してゐたことは、現状をあきらめるよりほかないといふことであつた。一般のドイツ人が社會民主黨の人々に要求したことは、自分のためではなく、他人のために働くべきことを望んでゐた。そしてかくの如き勤勞の見解はドイツ國民にあつて、以前から常に要求せられてゐたことであつた。

諸黨派の分裂からして、われらは今や、漸次に團結をし始めた。これらの古い諸黨派は、今日では、單に滑稽な存在たるに過ぎない。今日もしも、或る人が、何か政策的な意味で話す必要があつて、或る黨派に名稱を與へるならば、その人は、それだけで、演説者としての資格を全然失つてしまふ。なぜならば、名稱を與へる場合すでに、全聴衆の間には物凄い喝采の爆

發が起つてゐるからである、そして彼等は、もはやその黨派のことは、眞面目に考へないからである。今日、これらの滑稽なる諸黨派や群小黨派のことを、誰が考へてゐるであらうか？ みんな笑つてゐるだけである。そこにあるのは、人々が、恰も有史以前の動物を驚いて見るやうに、いま一度、頭をかき上げて、ドイツ國の中で爲してきたことを、視つめてゐる他の時代の、ほんの僅かな痕跡にすぎないのである。

アドルフ・ヒトラーも亦、この内政的團結を爲し遂げたのち初めて、國家の版圖を再び對外的に、強化するといふことに思ひつくことが出来たのである。それは、數世紀前より、ドイツの心からの夢と希望であつた。即ち彼は、ドイツ國宰相といふ唯一つの法則によつて、再び國家の統一を樹て直した。何處にこの法則が残されてゐるだらうか。つい數ヶ月前までは、問題にされてゐた、群小黨派の土地、即ちマイン河以南も、間もなく、ヒトラーが行動を起し始めたといふことを、體驗しないわけには行かなかつたのではなかつたか。この法則によつて、時代の人々の熱望してゐたことは達せられた。即ち、國家の力、國家の王笏は、あらゆる聯邦に於て決定された。多様性、諸聯邦の獨自性、それらの土着的な生活、かういつたものは擁護されて行くであらう。今や國家は、鐵の締め金を以て、分散してゐる聯邦を包括せんとしてゐる。

る。われらは今や、ドイツ民族を、その全體性のうちに、ビツタリと熔接しなければならぬ。しかして、作業部屋からやつて來た勞働者諸君は、今やこのドイツ民族建設のための鍛冶工なのである。諸君は、そのために、われらの作業部屋で、われらの工場で働かなければならない。諸君は問題の所在をつきつめて、ともすれば煽動的にならんとする同胞に對して備へるために、絶えず生長し、鍛錬し、研究しなければならぬ。

永年に亘り、われらの闘争の内容たりしところのもの、即ち、あらゆる人々を惹きつけ、改造し、腐敗した組織の不潔物から、彼を再び解放し、ドイツの闘士、ドイツの人間たらしめるための、ドイツ精神獲得の永遠の努力、諸君は今やこれをこそ、われらの事業に於て、押し進めなければならぬ。諸君は絶えず努力し続け、あらゆるドイツ精神を獲得するために戦はねばならない。諸君は、昏睡状態から微溫的態度をもぎとらねばならない。そして、諸君は、煽動的な人々を啓蒙し、説き伏せなければならぬ。

たしかに、われらは大勝利を収めた。そして、勝利ある毎にまた、これに伴つた現象がある。かゝる隨伴現象、これが形勢といふものである。われらは、内面的には、われらと何らの聯繫も持つてゐないやうな多くのものがあることを知つてゐる。そしてまた、一般に内面的に

は、國民社會主義に對して、何らの理解も持つて居らず、而も今日突然に、熱烈な國民社會主義者になつたやうな多くのものがあることを知つてゐる。それらは草のやうに、はびこつてゐる。この場合に重要なのは、思慮といふことである。なぜならば、われらが嘗て十年の長きに亘つて追究して來てゐるところのものを爲しとげるのは、決して外面的な衣裳や、微章ではなく、また無事息災を祝ふ挨拶でもない。否、國民社會主義者であるかどうかといふ心のみが、それを決定するからである。われらは、悟性の中から、鬭爭者、國民社會主義者の出ることを少しも欲するものではない。否、それらは心の深奥からのみ、全心情からのみ起つて來て、われらに興じ、われらのものとなるべきである。且つその故に、われらは、國民社會主義者になつてゐるかどうかといふことを知るために、悟性の圈内ではなく、心の中を覗き見ることを、判然と嚴密に、しかも冷然と試みたいと思ふ。しかし他面に於ては、われらはまた、太つ腹のところがなければならぬ。われらは、些々たる復讐をしようとするものではない。實にわれらは勝者である。二三の人が、われらは惡黨ではあるまいか、われらは褐色のシャツを着た匪徒ではあるまいか、またその他何かではあるまいか、と言つたかどうかといふことが、なんだといふのだ！ 彼等が嘗てさう言つたときに、その言葉は、何を意味する

といふのだ！ 年月は過ぎ去り、そして彼等は內面的信念を獲得して、今や、われらのものと



といふのだ！ 年月は過ぎ去り、そして彼等は内面的信念を獲得して、今や、われらのもとに走せ参じてゐる。實に、われらとてもみんな、その最初から、生れながらの國民社會主義者ではなかつたのだ。故にわれらは太つ腹でありたい、われらも嘗ては、別のことを考へてゐたといふことを知つてゐる。しかしてわれらを、この榮ある目標に導き來たつた人々に對して、感謝したのである。且つわれら自身が、國民社會主義者であればあるほど、そして自分を、國民社會主義者として感ずれば感ずるほど、一層太つ腹に、しかも一層自由に、われらはまた、過去のことどもを見渡すことが出來、本當に腹藏なく、和解の手を差し出すことが出來るのである。しかし、他面、民族を害するやうなことが、實際起つてゐる場合には、徹底的に正當なる報復が行はねばならない。なぜならば、これこそ、人間が他人を和解し得るための、第一前提であるからである。その場合に——小人たちにはなく、大立物に目を止めなければならぬ。小人たちは、われらは放任するつもりだ。がしかし、絶えず此方の側から他の側へ綱渡りすることを知つてゐる大立物、また今は此處かと思ふと、今度は彼處で、商賣することを知つてゐる大立物にあつては、徹底的に烈しく、正當なる報復が行はれるであらうし、また行はねばならない。

かかる聯關に於て、あらゆるものは清潔にされ、純潔にされ、組み立てられるのであるからして、われらもまた、ここに、新しき官吏の規則や雇人の規則を、理解しなければならぬ。われらは欺されるのではない。尙それは嚴重なる規則である。この規則が存在しなければならぬ場合には、人々は量り知れぬ重壓を被ることになる。それが、誤つて用ひられる場合には、生計は粉碎されてしまふ。しかしてその規則は、かくも嚴格であり、また嚴格であらねばならぬが故に、余は大臣以外の人は、決して、その部下の登用と除名の決定を行つてはならない、といふことを要求したのである。一労働者、一門衛の運命が問題であるかどうか、或ひは、大臣の運命が問題であるかどうかといふことは、この意味に於て同一のことである。規則に對する關係は、兩者とも同じく嚴格である。それ故にわれらは、規則に關しては潔白でありたい。即ち、法則を適用するに當つては、各人が、その最も個性的な本能のままになり得ると思つたり、個人的な復讐行爲を行ひ得ると思ふやうになつてはならない。といふのは、彼は恐らく、學校へ入つた當時よりすでに、誰彼と交はつて、邪惡なるものとなつてゐるからである。そんな風であつてはいけない。唯一の規準は、その人々が、國家のためを思つてゐるかどうか、或ひは、民族に反逆してゐるかどうか、といふことだけである。これこそ、こ

こで決定されてよい唯一の規準である。かくして、規則は、善良な道義心を持つ官吏たちをして、誇らかに、その頭を擡げしめることが出来る。規則は、官吏にとつても、雇人にとつても共に、最も些小なるものとなつてくるであらう。人間が一般に正しくあり得る限りに於て、あらゆる正義は、ここに與へられるであらう。余は、無數の責任について、諸君に對し公明でありたい。なぜならば、この責任は單にわれら大臣たちが、引き受けるばかりでなく、諸君も負擔するものだからである。

余は最近、告發者たちが集つて來てゐることを知つてゐる彼等は、恐らく、自分らでこの會場を獨占せんと思ふが故に、或ひは、彼等には、その男がこころよからぬが故にひしめき合ひ、集ひ來つて、多くは競争の猜疑心から、あちこちの人を、告發してゐるのを余は知つてゐる。それ故、今や、その男は社會より放逐され、誹謗され、告發されてゐる。一體誰を告發するのであるか。彼はもはや、最も善良なるものとされてゐるのだ。公然と進み出て、「私は告發します」と云ふ人は、また、次には自分の告訴を固守しなければならぬ人に屬することとなるであらう。しかし、これとは別に、遠まはしに、背後より、夜陰に乘じて、目立たぬやうに、匿名の手紙に、最も惡質な思ひつきを書いてよこす人々、これこそ、

大抵の場合、誤報を擴めることになるところの告發者である。われらは、自分自身で、われらの民族と國家を、清潔に保つて行かなければならない。各人が、當然の權利を要求するために告訴することはよい。だが、その告訴が誤つて居り、捏造のものである場合には、彼が他人を、誹謗したといふことのために、規則の罰は彼の方に迫つて來るのである。われらがこの根本命題に注意するならば、かくの如き規則の嚴格さがあるにも拘はらず、われらはそれらを、わが民族を榮譽あらしめるために使ふことが出来る、といふことに余は、確信を持つものである。

われらがもしも、餘りにも熱心な人々について語り、時局に刺戟されてゐる人々について語つたとするならば、今日われらのもとに集つてゐる誰一人として、時局の刺戟から來てゐるのではないといふこと、これだけが確かなことだ。余をして信ぜしめよ！ 非常な勤勉と熱心さを持つにも拘はらず、いはゆる御都合主義の人々は、うまいことには、單なる、消えようとしてゐる一斷片に過ぎないほどとなつてゐるのだ。このほかに突如として、千人、一萬人と、われらのところへ流れ集まらせる力を持つた動機や根據がある。或る部分では——諸君は親しくこのことを知つてゐる——壓迫や強制が、あまりに猛烈に押しかぶさるので、彼等は、

最もよき意志を持つてゐても、活動することが出来なかつたのである。しかし、このことも決定的なことではない。否！それを忘れてはいけませんが、それはまた別なことに属するのである。——このことについては、われらは誇りを以つて、樂觀することが出来る。——幾百萬のドイツ人は、この數年間、ドイツ國內を走り廻り、そして國民社會主義とは何であるかといふことを、少しも念頭に置かなかつた。彼等は、褐色のシャツを着た縱隊をも、しげしげと眺め、毎日のやうに、この縱隊の恐怖を書いたユダヤの新聞を読み、國民社會主義とは、如何に悪いものであるかといふことを読み、それは凡てのものを破壊し、凡てのものを悪化させ、無秩序と解體を結果するであらう、といふやうなことを讀んだ。かくの如く彼等は、瞞着されてゐた彼等は、われらを認めなかつた。或る種の人々は、國民の運命に關與し得るためには、あまりにも鈍感であつた。報酬は少しもなく、あらゆるものは、あまりにも慘憺たるものであり、悲しむべき状態にあり、絶望の叫びは、あまりにも大きかつた。このとき突如として、この運動が勃發し、突如として、積雲は拭ひとられ、突如としてここに再び初めて光は差し込み、太陽が輝き出たのである。そしてわれらは今や、十萬、否百萬の人が、かくも突然に、如何にして目醒めたかを見るのである。彼等は迷妄から醒め、何か驚異的なものを

見てゐる。彼等は、突然如何にして、ここに一つの運動が、誹謗され、放逐され、敵對したかを見てゐる。光は彼等の兩の手に運ばれ、新しい春が來て、あらゆるものが轉換したといふことに彼等は幸福を感じてゐる。新しい歡喜、新しい希望が齎された。しかもかくして、埋められ、覆はれてゐた信念が、甦つてくるであらう。この幸福な人々こそ、今日、われらのもとに集り來たつてゐる人々なのだ。彼等は云ふ、然り！　われらは、今までにそれを知らなかつたのだと。そして、われらに訴へてくる。われらは、あまりにも柔弱であつたのだと。しかし、われらは墮落してはゐなかつた。われらは、それを知らなかつたのだ。われらが、夢見續けて來た凡てのこと、意識下にのみ動き續けて來た凡てのことは、今や眞實となつてきた。それ故、われらの中に入ることを許さう！　みんな善良なる人々である。明日は、すでに、戰士となることの出來る人々である。諸君は益々、同胞を鼓舞し、彼等の感情を強化しなければならぬ。彼等は偉大なる軍隊を作り上げなければならぬ。かくして初めて、ドイツはみな國民社會主義的にのみ物を感じるのである。そのときにこそ、この民族の結合は、永遠のものとなるだらう。

言ふまでもなく諸君は、われらの作業室の中で、經濟的な問題や社會的な問題をも、取り

扱はなければならない。勿論、諸君は經濟的にも、男女の仲間に對して支柱たるものでなければならぬ。とは言へ、これが第一の課題ではないのだ。然り！ 物質的なものではなく、理念的なもののこそ、ここでもまた第一のものである。ドイツの労働者や、ドイツの雇人を、ドイツ國民社會主義になりきるまで、世界觀的に練り上げ、形作り、教育する作業室がまた、第一の問題となるのである。これこそ、われらの第一の課題である。諸君は、嘗てのマルクス主義者や共產主義者に對して、労働は斷じて呪咀ではなく、祝福であるといふことを再び明瞭にさせなければならない。

われらの各々が、自己の労働に於て、權利を再現するといふのが、われらの社會主義である。一人がよく労働し、他の一人の労働の仕方 of 悪いときには、成績によつて、一人は昇進し、他の一人は、尙しばらくの間、連足をさせて置けばよい。

かくの如くして、われらは再び國家を樹て直すつもりだ。漸次に名狀し難いほどの苦勞を忍びつゝ、労働に於けるこの權利を再び樹立するであらう。われらはドイツ人に再び労働を與へたい。かくして彼は、自分で自分のパンを作ることが出来るのである。人間といふものは、自分自身の力で生きて行くことが可能である。そして、何らかの援助を得つゝ生きて行くと

いふやうには定められてゐない、といふことを再び傳播させ、試して見たいのだ。しかし云ふまでもなく、民族や國民の全體は、故に、一人の人も飢餓に瀕しないといふことに責任を負ふものである。なぜならば、その場合には、人々が、その人から、勞働に於ける權利を盗んでゐたのであるからである。それは、國民全體から、要求されねばならないであらう。他面余は、個々人から、民族と國民への奉仕に、その全力を捧げる、といふことを要求する。

今週は非常に多くのことがあつた。われらはこの週間に、絶えず、新しい事柄を體驗し、見て來た。マルクス主義は、この週間に、はつきりと、外面的に、崩壊して來た。法律や命令、その他あらゆる、出來得る限りの方法によつて、人々はマルクス主義の外面的組織を、破壊することが出來た。しかしながら、それは結局、外面的に碎かれたに過ぎなかつた。國家、警察、執行權は、單に形式を破壊することしか出來ない。しかし、マルクス主義的な理念を粉碎し破壊しなければならぬのだ。しかし理念は、外面的な手段を以て破壊されたり、否定されたりするのではなくして、或る理念を征服する力が、内面的價值に基いて、現れなければならぬ。この力は、内面から作られなければならぬ。もしも人々が、一つの理念の代りに、他の理念を置き、しかも、この理念が、他者よりも優れて居り、他者を殺すために、より明確であ



り、より多くの積極性と精力を持たねばならないとすれば、前の理念は簡単に破壊すること  
が出来てあらう。この根本命題よりして、國民社會主義的世界觀は、マルクス主義的幻影  
を破壊したのである。作業室は絶えず、マルクス主義を攻撃するために、存在しなければな  
らぬ。諸君は、諸君の内面的體驗からしてのみ、このことを爲し得るのだ。諸君が全靈を打ち  
こんでゐる力は、即ちわれらが説教するところのもの、われらが行ふところのもの、われらが  
形成せんと欲するところのものに對する信頼でなければならぬ。更には即ち、盲目的忠誠、  
あらゆるものを作つた總統に對する忠誠、これなかりせば、われらが今日見る如きものは、存  
在しなかつたであらう。諸君が軍紀を遵奉するとき、この力は目醒めるのである。軍隊といふ  
ものは、常に行はれてゐるやうに、多くの假定を持つことが出来る。よりよき戦場、よりより  
武器、大勝利、最上の指揮、その他すべてのものが備つてゐても——それらが、内面的な軍紀  
を持つてゐなかつたならば、その軍隊は打ちのめされ、否定されてしまふ。部隊は小なりとい  
へども、軍紀を持つてゐるならば、必ず、不規律な大群集を打ちのめし、征服するであらう。  
それ故、個々人が既に自分で持つてゐた内面的紀律が、今度は、連帶の上に光を放ち、彼の屬  
する運動の上に光を放つ、といふことが必然的となるのである。

さて諸君には更に、二つの大きな力の源泉が與へられてゐる。そしてこれらは、就中、必然的に諸君を救済し、われらの理念を勝利に導き、その他の理念を没落せしめるものである。

ドイツは生きなければならぬ、ドイツは生きるであらう。われらが、それを欲し、それは必然的なものであるからである。これこそ不動の信念である。この信念は、諸君等に力を與へてくれるであらう。そしてこの信念から、次には希望、人間が絶望に陥つたときにさへ、人間の心を絶えず昂揚する希望や憧憬が生じてくる。われらのところに夜が迫つて來ようとも、希望の松明が輝いてゐる間は、誰一人として打ち負けないであらう。實行は、この内面的な力の源泉から起つて來なければならぬ。諸君は理念を持たなければならぬ。諸君は勝利にまで到達しなければならぬ。

信賴、忠誠、紀律、信念、希望、これこそこの運動の頼るべき支柱である。なぜならば、この運動は、これらの強力なる理念の擔ひ手となつたからである。

われらは生きたいのだ。そしてその故に、われらは生きぬくであらう。われらの前には名狀し難きほど廣大な、廢墟の原野が横たはつてゐる。あらゆるものは崩壊し、掘り荒され、掘り返され、潰滅し、齧れ果ててゐるのを諸君は見る。復活の作業はすでに始まつてゐる。ほんの

少しは、すでに整理され、そこにはすでに、人々の耕作の確固たる地盤となり得るものが見え始めてゐる。しかしなほ、遙々と、渺茫と、荒廢は續き、廢墟は横たはつてゐる。あらゆるものは荒涼とし、墳はされ盡してゐる。諸君は勞働し、著手することに慣れるであらう。その故に、いま現在では、たゞ次の言葉のみが通用するのである。われらの民族と祖國のために、勞働また勞働、祖國は再び新しく建設されなければならない、ど。颯爽と活動せよ！ 神はわれらの事業を祝福するであらう！。

(一九三三、四、九、シュゴルト・バラストにて)

## 勝利の日

國會は、本日この記念すべき一月三十日を以て、ここにその第一回の召集がなされた。この一月三十日は、ドイツの歴史上ドイツ國民の運命に決定的な轉換を齎した日である。

爾來一年を経過した。この一年間は正に十年間の長き思ひがしたのである。それほどこの一年間の變化は大きく、なされた仕事は偉大であり、起つた事件や、國民の献身した事柄は特異なものであつたのである。

それはドイツの歴史の一年である。しかし、それは、また世界史的意味をも持つた一年である。屈辱から、深淵から、暗黒の夜から、ドイツ國民は新たに立ち上つたのである。ドイツ國民は、それなくしては如何なる國民も生存することの出来ない二つの概念、即ち名譽と自由とを取り還したのである。

殊に嘗つてドイツ國會に所屬してゐた連中にとつて、今日のこの會議は、以前の會議に比べ

て如何に相違してゐることであらうか。

外では國民が道に溢れ、喊聲を擧げて居る。しかして彼等は、彼等の總統アドルフ・ヒトラーに感謝の愛を捧げんと夢中になつてゐるのである。

本日今や國民は、この國會に參會して居る人々は、理窟なしに總統に服従することを決意してゐる者であることを知つて居る。

ところで、かゝる愛、かゝる全幅の信任は何を意味するのであらうか。いふまでもなく、遂にわれらは又總統と指導者を得たのだ、といふ國民の満足以外のものではない。

從來、議會主義の十年間に於ては、國民は、各自の運命は各自に委されてゐたのである。即ち國民はそれぞれの利害關係に於て行動をすることに決められたのである。從來は、指導といふものは、萎靡して、國民自身が何をなすべきかに迷つたのである。指導は、多數といふ無名概念のもとに甘んじて壓し潰されんとしてゐた。ところで今日指導といふものが、一旦よしと思つたことを、容赦するところなく斷行する勇氣があるといふことは、國民の齊しく認めてゐるところである。

戦ひは決して容易なものではない。そして、われらのこの團結は凡ゆる方面から攻撃せられ

て來た。この團結を分散せしめようとして、不安と臆病を注入するための裂け目をつくらうとする試みが執拗に繰返された。だがこれらの試みは失敗した。われらは——さうしなければならぬ場合は——残忍なる拳闘を以て國家の敵を打ち倒した。國民の利害に對して自己の利害を主張するといふ過去のものに對して、われらは斷乎、顧慮するところなく立ち向ふものである。

また將來に於てもわれらは、われらの總統の意志にしたがつて、この團結を侵害せんとする凡ゆる過去のものに抗爭するであらう。即ちそれが左翼であらうと右翼であらうと、われらは同様の決意を以て、これに對抗するものである。今や如何なる團體と雖も、ドイツ國民の高揚を利用して、以て自己の利益を促進しようとするが如きことは出来ることではない。

今日ドイツ國民はただ一つのことを知つて居るだけである。即ち彼等の總統と、それから彼が創始し、そしてこの國民が築き上げた運動、これだけを知つてゐるだけである。しかして、この國民はただこの總統とその運動とだけに忠誠を誓ひ、彼等の未來の凡てを擧げて總統に一任する。

この一年はわれらの第三國家の形成力を示したのである。しかして、この一年間に凡ゆる既

この一年はわれらの第三國家の形成力を示したのである。しかして、この一年間に凡ゆる概

念の立て直しがなされた。もはやドイツには各自勝手なことが出来たやうな聯邦は存在しないのである。或る地方ではかういふことをなし、他の地方ではかういふことをする、といふことは出来ないのである。われらはただ一つの運動を持つてゐるだけであり、ただ一つの國民を知つてゐるだけであり、ただ一人の總統を信頼するだけである。丁度それと同じやうに、われらはただ一つの國家を、ただ一つの權威を、ただ一つの尊嚴を、ただ一つの主權——そしてそれは國家の主權である——を知つてゐるだけである。

したがつて、本日のこの會議の課題といふものは、總統によつて豫め指示された道を進んで行くことであつて、また總統が偉大なる構想のもとにわれらに通達せられた事柄を、全力を盡して完成するといふこと以外にはないのである。本日のこの國會は、一つの大きな、そして從來の國會にあつた色々の團體を超越する世界觀による最初の纏まつた國會なのである。今や、國民が純一である如く、その指導も亦、しかしてそのドイツ國會の形式による代表も亦、一つの意志を支配するところの一つの纏まつた團結であるといふことは、世界の齊しく認めるところである。

この年に於て奇蹟が現れたのである。ドイツの復活のこの年を、後世の歴史家はどのやうに

書くであらうか。また歴史的記述といふものが一體この世にも珍しい奇蹟を後世に傳へるといふことが、どのやうにして完全に出来るのであるか、余は知らない。それが出来るとすれば、それは、凡ての事を創造したところのそのただ一人の男を指示することによつてのみであることは、疑ふ餘地がない。本日、國民の團結といふものが、この國會の統一の形の中に表現されたのであるが、正にそれと同じやうに、最後の農夫、最後の勞働者、最後のヒトラー少年團員に至るまで、われら凡ての胸には一樣に、かの總統に對する熱き燃ゆるが如き感謝の念に沸き立つてゐるのである。われら凡ての者が感謝を捧げ、ドイツが衰弱してゐた、あの十五年間、われらの意氣を沮喪せしめなかつたばかりでなく、ドイツの飛躍高揚したこの一年間に於ても亦、旗を眞先きに押し立てて進み、われらを元氣づけ、常に偉大なる目標をわれらに指し示したところの、かの總統に對して。

(一九三四、一、三〇、國會にて)



## 國民社會主義の國家形成

永い間の休會の後、樞密院は本日ここに、特にプロシアの財政案報告の目的のために、再會せられた。從來財政案が議決せられて來た方法と全く違つて、今度の新しいやり方は、權威と指導者原理に従ふことが第一義的なことである。今日このやうな豫算案は、議會主義的慣例の意味に於ては、もはや議決されるものではないのであるが、しかし、國家と國民との緊密なる結びつきを表すために召集せられた諸君こそ、この財政案に關する報告を受け、以て財政のやり方に通じられるといふことは、これは誠に重要なことであり、且つ當然なことである。金の使ひ途に就いては、充分納得を得なければならないし、今日もなほ國家の行政が、如何に大きな使命を完遂しなければならないか、といふことに就いても承知願はねばならないのであつて、尙この財政案に關聯した新しい動議の提出をも願ひ度いのである。

内容的には本豫算案は、國家行政全體の綜括的な圖形を示して居るのである。本豫算案の一

般的説明は後ほど大藏大臣自身がする筈である。余はただ、本豫算案に於て、非常な節約への要求と、にも拘はらず緊急なる項目に必要な金額の捻出の要求とが、立派に調和されてゐる事實を確認するに止めて置きたいと思ふ。今日われらが非常な節約といつても、しかしそれは、許つて見られたそれとは全く性質の異なるものである。

節約は從來のやうに馬鹿げた、圖式的な削減に、かれこれ手を盡すことであつてはならないのであつて、もしさうであれば、それは物を創り出さうといふよりか、破壊することになるのである。必要なことは、僅かのものを以て正しく賄つて、しかも多くのものを得るといふ風に、處理し得べき金を政治的に重要な道に用ひることである。

豫算案の均衡がとれてゐるといふことは、破産したときに丁度それと同額の遺産を相続するといふ風な自明簡單なことではないのである。かくて、本豫算がこのやうに均衡を得たこと、及び、今や純物質的なものを超えて、精神的、物質的發展のための基礎を確立すべき金額が準備されたのは、これは大藏大臣ポピッツ教授の特別の功績によるのである。ここに殆んど克服不可能と思はれる非常に大きな困難が存在するのである。更に諸君は、本豫算案が會計年度の初頭に完了してゐること、及び國家行政の組織的指導のための基礎が、既に正當な時期につく

られてゐることを承認するであらうと思ふ。これも亦一つの功績である。なぜなれば、われらは從來屢々幾月も幾月も待たされたものであるからである。

今日の政治情勢は、プロシアの問題を、それがプロシアの豫算案と同じやうに重要な場合にも、それをただプロシア的立場から考察するといふやうなことを、もはや許さないのである。

國民社會主義革命後の國家改造が斷行せられて以後は、プロシア政府の仕事やプロシア國家機構の擴大といふものは、ただ、プロシアが新國家フイヒの中で果すべき使命といふ觀點から見てのみ正當に理解せられるのである。その使命といふのは、第三國家の前衛となり礎石となることである。權力獲得以來、プロシアは第三國家の先驅たることを身を以て證明してゐるのである。

この際常に想起しなければならないのは、プロシアは國家の領土の五分の三を占めてゐるといふことである。したがつて、第三國家を建設するといふ大使命のための、あの第一革命時代の凡ゆる仕事は基礎的に重要なものであつたのである。なぜなれば、この國家の五分の三に於てなされるところのやり方といふものは、プロシアの土地の廣さから云つて、當然その他の地方に影響を及ぼす筈であつたからである。

ここで余は、ただプロシアに於ける共產主義とマルキシズムの克服に就いて、簡単に申し述

べて置きたいと思ふ。この闘争の中心は終始プロシアであつたのである。

組織時代のプロシア政府は常に、ただに民主主義の中心であつたばかりでなく、民主主義から出た社會民主主義の、更に窮極は共產主義の牙城でもあつた、といふことは、われらの忘れられないことである。従つて、警察の改組といふことが決定的な意義を持つてゐたわけである。

譯者註　大戦後ナチス政權樹立前の政府

プロシアに於ける國家機構の革新のためには、警察の改革と改組が何よりも根本的なことであるといふことは、最初から明らかなことであつた。といふのは、警察の機關は、制度の上で過去の政府からその悪いところを受け繼いでゐたからである。過去の制度に於ては、警察は政府の紳士諸君が國民の意志に反して、いつまでも國家の擔手で居らうとするための土臺であつたことは、明らかなことである。

警察は黨員名簿係官の直轄するところであつたのである。新國家がかかる警察から、國家の安寧秩序を維持する機關を創設しようとする場合、思ひ切つた改組をしなければならなかつたのは、當然なことなのである。

秘密國家警察の誕生も亦生るべくして生れたものであつた。新國家がこの國家の安寧秩序の

ための新しい機關を如何に重要視してゐるかは、この新國家に向つて注ぐ凡ての流れを観察する、といふことこそ根本的な意義のあることであるといふので、首相自身この行政部門のもとに従屬して來てゐることによつても分るだらうと思ふ。

一プロシアだけの問題でなく、更に大きな國家としての課題は、文化生活の革新のための礎石を据ゑることであつた。

ここにわれらの事業の仕上げが最も明らかに見られたのである。最もよくこの新しい國民社會主義國家を舊制度から區別するものは、文化領域に對するその認識である。文化領域に蔓延つてゐた分解作用といふものは、單に文化生活の純粹に外面的な現象のみに止まらないのであつて、それは遺憾ながら普くドイツの國民的意識を腐敗せしめ、殆んどドイツ精神を根本的に破壊してゐたのである。新しく不動の礎石が据ゑられなければならない、といふことは必然的なことであつた。ここに於て事實、石が一つ一つ運ばれなければならないのであつたのである。プロシアの文部省はかういふ方向に向つて思ひ切つた、そして廣汎な仕事を押し進めて行つたのである。

プロシアの國立劇場も亦、やがて再びドイツ第一の劇場となるであらうし、また世界最上の

劇場と拮抗出来るやうになるであらう。なぜなれば、そこには國民社會主義的精神が最初から支配して來てゐるからである。

更に國家新設のための特別に重要な前提となるものは、國民社會主義的司法の成立と確保である。ここでも亦われらと、法律精神の民主主義的認識との間に横たはる大きな深淵に就いて述べて置かなければならない。

法律といふものは、無意味な條文に従つて、血や種族と無關係に運用されるものであつてはならないのであつて、寧ろ、司法と國民及びその中で國民が生まれるところの血との間には、生きた結びつきといふものが確立されなければならないのである。われらは、再びドイツの法律に、凡てのドイツ人が各自その胸に抱いてゐる法律精神に、立ち歸らなければならないのである。

ここにわれらに課せられた大きな使命があるのであつて、しかもわれらは僅かにその緒についたばかりである。しかし、端緒が開かれたといふこと、新しい法律の建物の柱が立てられる土臺が据ゑられたといふことは、やはりプロシア政府の、特にプロシア司法大臣の功績であるのである。

この新しい法律精神の建物の一つの角石とも云ふべきものは、世襲農地制である。この法律に於て初めて、國家の認識と國民の生きた法律精神との一致が示されたのであつて、且つ又それは國法制定の先驅として、プロシアの仕事を國家革新の領域の上に示したもののなのである。

同時に、この法律は農民保護のための思ひ切つた工作でもあつたのである。

國家機關といふものは、一つの巨大な聯動機であつて、機構の活動が成功するためには大きな車輪が動くばかりでなく、小さな傳導機も亦活動しなければならないのである。そこで、これまで述べて來た仕事に比べて、政府のなしたその他の事柄といふものは、恐らく第二義的なもののやうに考へられるかも知れない。ここではただ一つだけ取り出して見よう。それは國民の要求に適合してゐる山林監理に就いてである。余がかういふ點を述べるのは、何も余がかういふ點に愛着を持つてゐるからでなく、また新しい制度を余がつくつたからといふわけからでもないのであつて、この新しい制度はただ山林だけのために意味があるのではなく、それ以上國民經濟上非常に利益があるからなのである。この制度は既に誰でも知つてゐることであるし、また皆が情熱を以て第三國家建設のための下ざしらへとしてつくつて來たのである。そして、プロシアの法規は國家行政のための模型であつたわけである。

最近余は國家とプロシアの間を結合する更に重要なものを確立することが出来た。しかもそれはこのやうな有機的な種類のものなのである。國家の改革を活潑に押し進めるのには、このやうな制度以上のものはないと、余は敢へて斷言するものである。

總統はニールンベルグに於けるナチス黨大會に於て、統一へのドイツ國民の千年來の希望は必ず實現されなければならないと言つて、萬場の拍手を浴びたのであるが、それより以後は、凡てのものをこの一點に集中し、總統の意志を貫徹すべく助力することは、プロシアにとつても亦義務となつたわけである。この事業を押し進め得るものは、國家とプロシアの間の新しく確固とした有機的結合以外にあり得ないと信ずるものである。

かくの如くして今や、凡ゆる領域に亘つて統一が確立されたのである。大藏省を除いては、プロシアの省は全部國家の大臣が任ぜられてゐるのである。しかし、プロシアの大藏大臣はまた國家の内閣にも所屬してゐるのである。財政部門に於ては未だ少しも統一されてゐないのであるが、それといふのは、官房長官及びわれらに於て財政の取扱ひといふものが、他の如何なる部門にもまして困難なものであり、廣汎なものであり、且つ見透しが困難であるのであつて見れば、急いで統一するといふことは目的に適つたことではなからう、といふ風な考へに到達



したからである。更に又、一國家は財政領域に於て如何なる道を進むか、未だ分らないからである。最近のことであるが、國家とプロシアの兩經濟部門の間に、從來あつた聯合を發展せしめた一つの結合がつくられて、二つの部門は一箇所に集められた。

この兩經濟部門が、一つの統一的指導のもとに一箇所に結合せられたといふところに、ドイツ經濟の強力な統一の可能性が存在するのである。

更に、國家の文部省とプロシアの文部省の間につくられた結合は、更に高い意義を持つものである。即ち國家の中に文化、經濟に關係する獨自の専門部門が存在しなかつた、といふところに大きな間隙があつたのである。教育や科學、また人間のその將來の使命に向つての發展といふものと關係のある凡ての事柄は、この新しい國家の省に統合せられたのである。音樂や芝居のやうな、直接科學の領域と關係のない純粹藝術の問題は、國家に於ては宣傳省の所管に屬してゐる。プロシアではそれはなほ文部省に統合されてゐる。余は前から、プロシアに於て、將來藝術の問題は、國家に於てそれを所管してゐるところの、大臣の管轄下に置かれるやうにしたいものだと思へてゐる。

更に最近、プロシアの司法行政と國家の司法行政とが、その主要點に於て結合した。この點

に於ても發展は同様な方向に進んでゐることが分るであらうと思ふ。國家の司法省は立法を司り、新刊法の編纂を行ふのであるが、その從來の擔任事務で膨張し過ぎた危險があつたのである。かういふ次第で、國家の司法省は地方の司法機關と緊密に結びつく必要があつたのである。總統がこの點に於ても余の建議に賛意を表されたことは、誠に欣快とするところである。

立法及び行政領域に於て一人の強力な國民社會主義的人格といふものが、如何に重要であるかといふことは充分承知のことであつて、それ故にわれらの今日までの司法大臣と別れなければならぬといふことは、言ふまでもなく苦痛とするところであつた。しかし余は、統一國家の形成といふ大目的の見地から、總統と一緒に余の考へを押へて、先づ取り敢へず、最も重要な課題である司法行政の統一を確立しよう、と決心したのである。

しかし、このやうな國政上の結合を論ずるに當つて、あの偉大な功績を残されたケルル司法大臣に衷心からの感謝を忘れることは出来ない。

彼は、司法が明確なる國民社會主義的線に沿つて發展するための、極めて重要な豫備工作をなしたのである。余がかくも早く必要なる解決を決意することが出来たのも、總統が國家の司法大臣に、法律改正に當つて將來とも同様な方向を堅持することが出来、且つ、國家の權威

と、かかる運動の權威との間に、正當なる妥協が発見されなければならないといふ事情に對する認識を、われらと共に持つてゐる人物の必要を認めてゐたからである。總統が余に與へた信頼と、またケルル大臣がなほ引き續いてプロシアの大臣として内閣に止まり、困難な問題の處理に力を盡されることに對して、余は衷心から感謝を捧げるものである。

以上述べた國政上の結合は、皆まことに重要なものではあるが、更に一層重視されなければならぬ結合は、余や總統及び國家の内務大臣の考へによれば、國家改造を完遂するための大體の前提となつたものであつて、即ちそれは、われらの運動の古き英雄であるフリック國務大臣の指導のもとに統一されたところの、國家の内務省とプロシアの内務省との結合である。國家の内務省は將來作らるべき憲法に對して責任を負ふものであつて、それは國家の官吏省であり、同時に國家改造の基礎工事を行ふべき偉大な使命を持つてゐるのである。ところで、この國家の内務省が一つの使命を完遂することが出来るのは、それが下部組織を持ち、行政と國民の凡ゆる要求との生きた結びつきがあつて初めて出来ることである。

この一年半の間、余が基礎的な仕事をなすことが出来たのは、誠にこのプロシアの内務省であつたので、この部門から離れるといふことは余にとつて甚だ苦しいことであつた。余がプロ

シアの内務省を去つたのも、かかる統一が國家改造の完遂のための絶對的な前提であり、また余の後任には優れた古き國士が入るといふことであるし、更に余も亦プロシアの首相として従前通りプロシアの全體的な事項に就いて、最後の責任を負ふことになつたこと等によるのである。

ついでに述べて置きたいと思ふのであるが、かかるプロシア内務省の國務大臣への移管といふ考へは、余が言ひ出したといふよりは、寧ろ余自身から發生した余自身の思想なのである。

今や、かゝる統一が確立され、將來の國家改造が單なる机上の案に止まらず、國家との生きた結びつきの上になされるための前提が創造され、更に國民の無數の發議、希望、不安といふものが、國務大臣フリックによつて代表されることになつたことは、誠に同慶の至りである。しかし諸官は、プロシアが今日まで國家改造のために何をなして來たかに興味を持つばかりではなく、更に、プロシアの將來はどうなるであらうか、といふことに關心を持つであらうと思ふ。

古いプロシアの國家概念シュタットは國家に止揚せられたといふこと、即ちプロシアはもはや君主國家としては、その使命を遂行することが出来なくなつた、といふことは明らかなことである。プ

ロシア主義の永遠の倫理はなほ殘存しては居る。プロシアといふ概念は古くより領土的、

ロシヤ主義の永遠の倫理はなに確有しては居る。「プロシヤ」といふ概念は古くより領土的、物質的國家概念を超えて、神秘的なものとなつてゐるのである。「プロシヤ」といふ倫理概念に境界をつけることは出来なくなつてゐるのである。

他の地方で、勇敢とか、勇氣とかいふ國家道德や、國家の賢明さ、就中國家の原理とかに就いてこれを誇示したり、また清廉潔白な官吏道に就いて語る場合に、彼等はそれを單にプロシヤ的なのと呼ぶのである。

プロシヤは藝術家を僅かしが生まなかつた、といふことは一般に知られてゐることである。しかしプロシヤは、アドルフ・ヒトラーがドイツ國民の宿願を實現することが出来るための前提をつくり出したやうな政治家を、ドイツ國家に送つたのである。プロシヤが東から西に向つて強力な釘を打ち込んでから後、今日まで色々の準備工作は、北方ドイツによつてなされて來たといふことは、誠に不思議な運命の仕業ともいふべきであつて、ただ最後の仕上げをするためにだけ南方から一人の男が現れて、最高の指導者として、われら千年來の宿望通りの新ドイツを創造したのである。ではあるが、地域的な意味でなく、倫理に根源を持つところのより高い意味に於て、總統ほど純粹なプロシヤ人を知らないのである。彼の性格の強さ、政治家とし

ての聰明さ、勇氣、決斷力、これら凡てのものは、プロシアの官吏や、更にプロシアの軍人がドイツをつくり上げる上に依據したところの、かの道徳を指し示すものである。われらはこの倫理的概念を最も高價な持參金として新國家に送つたのである。それは、總統も亦屢々言つたやうに、プロシアが贈るべき最後の、最も珍貴にして價値の高いものである。かくしてプロシアはその最後の使命を果したのである。今や新しい國家が、第三國家が登場したのである。それは既にプロシアの國家でも、バイエルンの國家でも、ヴュルテンベルグの國家でもなく、古き國家に代つて現れた新ドイツ國である。そして、幸ひにもプロシアの傳統と使命は、この新しい國家の手に引き繼がれたのである。しかし若しわれらが、斷乎として國家改革をなさんとしても、プロシアはしばらくの間、尙重要なる行政及び財政の統一體として存在してゐることを忘れてはならないのである。

個々の地方であせるやうなことがあると、いつもアドルフ・ヒトラーは、他の地方の發展のことを指示して、忍耐をするやうに諭して居るのである。詳細に觀察して見ると、國家改造の問題は先づプロシアの問題である、といふ風に定義することも出来るのである。他の地方は大なり小なり將來つくらるべき國家の管區としての廣さと境界を持つてゐるのであるが、大プロ

なり小なる將來つくらるべき國家の管區としての廣さと境界を持つてゐるのであるが、大プロ

シアとなると、どうしても幾つかの管區に分けられなければならないのである。

このやうにして自ら明らかなやうに、改造の礎石は既に据ゑつけられたのである。ここに於て、國家とプロシアの統一が、國家の内閣とプロシアの内閣に於て確立されなければならない必然性が生ずるのであつて、その統一は、若干の所管事項を國務大臣に移譲するといふ形式で現れるのである。他の諸地方では、このやうな必然性は存在しないのであつて、そしてこのやうな諸前提をつくることも要らないのである。

かういふ地方が若干の地域を他へ分割されるにしろ、或ひは他から合併するにしろ、バイエルンが一つの管區にならうと、二つ或ひは三つの管區に分割されよう、それはプロシアが多くの國家の管區に分割されなければならないのは事情が異つてゐるのである。このことは總統が明瞭且つ率直に強調したところであつて、その故に彼は、十年以内にプロシアの大臣を國家の大臣に吸収してしまふこと、並びにプロシアをプロシア自身の決定するところに従つて、國家の管區に分割すべき任務を余に課したのである。

總統が豫め考へたこの十年間は、それは、今日總統が折に觸れて云ふことであるが、新たな十年として、更に長く續くかも知れないのではあるが、——それが一日も早く達成せられるこ

とをわれらは希望するものではあるが——今日なほプロシアは存在して居り、國家概念が殘存して居り、したがつて、これに對する監理が行はなければならないのである。したがつて、諸官の仕事も亦當然弱めらるべきではなく、寧ろプロシアを國家に止揚する、といふこの課題が遂行されるやうに、以前にも増して諸官の努力が要求されるわけである。諸官の仕事と使命は終了したのではない。むしろ余はかく言ひたいのである。即ち、諸官は一層包括的に、且つ益々大きな意味を持つやうになつたのであると。なぜなれば諸官はもはや單に一つの地方的概念たる國家形態を問題にすべきではなく、むしろそれを超越した、より高い「ドイツ」といふ概念を目標とするのであるからである。われらはこの使命を必ず完遂しなければならないのである。この過渡時代に於ては、プロシアはこの一年半の間になされたと同じやうに、充分細心な監理がなされなければならないのである。この十年間に於ける改造には如何なる間隙をも生ぜしめてはならないのである。もしさうしたことが生ずれば、それはより大きい形態に對して害惡を及ぼすことになるからである。

國家機關が圓滑に進行し、しかも或る日何日ともなく國家の機關となる、かういふ風にすることは、自己の解消に協力しなければならぬところの國家行政の使命である。



ことは、自己の解消に協力しなければならないところの國家行政の使命である。

國家の管區を如何に區劃するかといふことが、大體の場合、不安の原因となつたことは、余も承知してゐる。そこで、これは豫測に過ぎないのであるが、次のやうな二つのことを確認しなければならぬと余は信じてゐる。その一つは、プロシアの州の中には、そのまま將來の管區となつてよいものがあるといふことである。「東プロシア」が、國家の管區の形をしてゐることとは誰にも一目瞭然なことであらう。國家管區「クルマルク」を認めることは何も困難なことではないと思ふ。同様に、國家管區「ボンメルン」もどうにか承認出來るであらう。シレジヤも亦大した障礙ではないであらう。勿論、事は段々むづかしくなる。ここで余がはつきり云つて置きたいことは、かういふことである。誰でも國家の管區を決めるに當つて、現存する州の境界を固執するであらう、といふことは自明のことなのである。

第二に言ひたいことは、將來の國家の管區に關する限り、かれこれ言ふことを止めて、そのことを知ることが出來、また知るであらう者は、總統以外にはないのであり、且つ管區境界線はアドルフ・ヒトラーが、この問題に就いて命令を受けた部門から提出された建議案によつてのみ決定するであらうといふことを、諸君に諒解してもらひたいのである。

それによつて必然的に不安は除去されるであらう。總統は、個人を顧慮したり、或ひは地方

的な立場を容認したりすることはないのであつて、彼の行動はただ、大きな全體といふものを目標とした思想からのみ出發してゐるのである。かくて、彼が國家を地域的に區分しようとする場合、その構造が永遠に存続すべきことのみが、彼の唯一の大きな興味であるであらう。

なほ、この問題に就いて余がなし得、また總統に助言することが許される範圍内に於て、余は敢へて主張するのであるが、國家の統一を破壊する虞れのある「地方」が再び管區の中から發生するやうな、さういふ諸條件は絶対に國家の管區の中につくつてはならないのであつて、また、餘りに強大な血族的境界をつくることは、國家を分裂せしむる最初の萌芽である。

總統が常に強調してゐるやうに、地方に何らかの功績を認めるとするならば、それは、地方が王黨的利害から種族を混血し、さうすることによつて、われらが今日一つの國家を建設し得るところの前提を創造した點にあるのである。管區の構成と組織とは、更に、それが將來どのやうに發展しようとも、國家との關係を破壊することのないやうにしなければならぬ。

第二の問題は、國家と將來の管區との間の仕事の分擔である。それは明かに新たな地域的分割の問題と緊密な關係にあるものであつて、國家改造の最も困難な、しかも最も重要な問題である。國家は、主權的地位と、内外に對して毅然たる態度を以て望み得るための凡ゆる權力と

ある。國家は、主權的地位と、内外に對して毅然たる態度を以て望み得るための月ゆる權力とを賦與されなければならない。この條件が容れられれば勿論余は、管區の形成に當つてこれに出来るだけ活動的で、多彩な機能を賦與し、また管區の長官に出来るだけ多くの責任を負擔せしめ、以つて彼等に現實的に廣汎な仕事を遂行せしめることに同意するものである。かくてわれらは、餘りに行き過ぎた中央集權に走らないやうに警戒しなければならないのである。

ドイツ國家は、承知の如く、そのやうな中央集權には承服しないのであつて、それは、ドイツ國民には適しないのである。そこで、國家の統一を危くしない範圍に於て、或る程度の獨立性は管區に賦與しなければならないであらう。しかし、内外に對する權力的な態度といふものが、この統一の前提であるといふやうな場合は、國家は問題を直接自己の支配下に置かなければならないであらう。その他、國家と管區の間の仕事の分擔に當つて、將來の管區の財政上の力といふものが考へられなければならない。大藏大臣は、この點を更に一步進めて、財政的に獨立し得るやうなプロシアの州は今日一つだつてありはしないといふことを、數的材料によつて説明しようと思圖してゐる。

かくて、新しい國家の管區を創設するといふことは、財政の均衡と不可分の關係にあるのである。このことからかういふ點にその處理權を行使しなければならない國家の地位といふも

のが明らかに分る。次のことは余は、諸君に、はつきり約束することが出来る。即ち、國家改造並びに凡ての地方の問題に最も深い關係のあるプロシア首相たる余は、これらの諸關係に對しては絶えず特別の關心を拂ひ、また、凡ゆる國家行政はその運用に當つては常に、國家改造の將來の發展及びドイツの完全なる統一國家への來たるべき發展といふことに對する顧慮からなされるであらう。そこで余は、將來の樞密院の使命と仕事に對しても亦、認識を深めてもらひたいと思ふのである。

この新しい地域的分割及び仕事の分擔と並んで、最後に、國家改造のため非常に重要なものは、國民及び國家のこの運動を完遂すべき課題を、將來如何にすべきかといふことである。しかしこのやうな問題に於ては、ただ總統のみが最後の決斷を下すことが出来るのであつて、即ち凡ての糸は彼の鐵の掌に集まらなければならないし、また集まるのである。彼は凡ての國家改造の最高の指導權と總統權を持つてゐるのである。統一國家の思想は元來彼自身の思想であつたのである。そのために彼はこの十五年間戰つて來たのである。そのための前提を彼は作つたのである。そのために彼は分裂せる民族を打つて一丸とし、國民の統一を作り出したのである。この點に於てこそ、プロシアは彼に助力を捧げるであらうし、また彼がわれらに委任した

義務を遂行するであらう。

余はこの話を終るに當つて、少くとも、なほ若干の一般的な政治問題に觸れて置きたいと思ふ。

今や余は、われらが嘗つて言つたところの一つの、非常に重要にして、また困難でもある問題を話す段階に達したのである。全く氣分がだれてゐる、不平不満の火の手は所々に揚つてゐる。かういふ聲を余は屢々聞かされる。ところでかういふ事態を追求して見ると、確かに或る不平不満の原因が往々にして存在してゐるといふことは、否定することが出来ないものである。しかしそれは、たとへば、典型的な現象として現れてゐるとしても、結局個々の現象である。

これに比べれば、事ごとくに缺點を探し出さうとする潜在的な不平は更に惡質である。しかしわれらは、われらが横力を獲得してから既に一年半経過してゐるのだ、といふことを考へなければならぬ。當時われらが體驗した最初のは、かの解放の力強い衝動的感情であり、十年の長きに亘つて堪へて來た重荷から解き放たれた安堵の溜息であり、夜からの目覺めと羞し込む光を眺めたことである。勞働者は自分たちはもはや別もの扱ひをされず、再びドイツといふ家族の一員となり、凡ての分けへだてするものは皆打ち倒されてしまつたことを知つたのであ

る。それは興奮と感激であつた。それは當然のことであつた。また、かかる感激は決して日常茶飯事のものであり得ないことも亦、自明のことである。

高潮した気分は長くこれを持続しなければならない。それは、低まつたり、高まつたりするのである。われらは、それが絶えず再び高まつて来るやうに努力しなければならないのである。

われらは、國民との接觸を失はないやうに心掛けなければならない。即ち、われらは、われらがそれが必要としたり、投票や選舉を施行しなければならないときに、國民の前に集會を開くだけでなく、國民も亦絶えずわれらを見、そしてわれらとの接觸を感じるやうにしなければならない。肝要なことは、溢れるやうな大衆の集會を開いて、そこで感激の花火に火を點じ、絶えず氣分を高潮せしめ、その中で仕事をするといふことではないであらうし、あつてはならないと余は信じてゐる。寧ろ、今日に於ても、また將來に於ても、國民や運動の指導者たちは、單に集會を開くといふだけでなく、隨時隨所に足を運んで國民と接觸し、彼等の言ひたいことに耳を藉すといふのでなければならぬと余は信じてゐる。われらは國民のことを氣に掛けてゐるのだといふことを、國民が感ずるやうにすることが必要である。一方、われら

は、正當なる不平の原因を除くやうに、凡ゆる努力をするつもりで居る。

この新國家（ニュー・ネイション）とどうしても妥協することが出來ず、そして、いつまでも批評したり、不平を鳴らしたり、ぶつぶつ言つて居る者のうち、この國家の土臺は徐々にではあるが、必ず崩壊さすことが出來ると信じて居るやうな輩に對しては、われらは容赦なく、斷乎として、これをやつつけなければならぬ。

一體、批判の權利を持つてゐるといふのはどういふ者であらうか。

それは、自分の批判する事柄を、少くとも他人よりはよりよくなし得る力があり、同時にその用意をなして居るものであると、余は考へてゐる。今日、人あつて、お前たちはこの十年の間、凡ゆるものに對抗して、これを批評して來たではないかと非難するならば、われらは彼等にかう言ひたい。なるほどわれらは批評しては來た。しかし、われらは常に、われらの批判するところのものは、少くともこれを、よりよくしようとするものであることを證明する用意があつたのである。さうでない場合、そこには、われらの建設せんとする偉大なる建築物の建設を破壊する危険があるだけである。それは、法律の領域であらうと、文化の領域であらうと、且つまた行政であらうと、同じことである。換言すれば、そこには信頼の念が缺如してゐるので

ある。信頼の念が蠶食されるならば、われらの建築物の土臺が揺り動かされるばかりでなく、何もかも皆破壊されてしまふのである。

われらは、どんなことでも堪へることが出来る。もう一度一番困難な時代に降りて行つて、そして再び光の射す岡へ登つて行くことも出来る。しかし、國家の信頼は確固不動のものとして置かなければならないのである。

國民の信頼は、誠に困難極まる戦ひの中に戦ひ取つたものであつて、この貴重なる財寶は無數の尊い血に塗れてゐるのである。これを思へば今日われらは、迂濶にこれを放棄することは出来ないのである。

なほ、教會の問題に就て一言して置きたい。フリードリヒ大王の原理が行はれ、その方式に従へば、誰でも幸福になれるといふのであれば、それは今日許さるべきである。われらの總統アドルフ・ヒトラー及びわれら國民社會主義者は、彼の信仰によつて、われらは決して侵害されるものではないといふ一事を皆知つてゐるのである。しかし他面、この領域に於て何が一義的であるかといふことは、國家にとつて必ずしも輕視すべきではない。

問題は教會が以前のやうに國家を支持する組織である、といふ使命を再び發見するか、或ひ



は、なほ今後とも、批判、不満、不平の源泉地に味方するかといふことにある。國民社會主義國家は一つのことを、即ち必然的な國家改造に當つて、福音教會によつて新しい國家ネーションの教會のための前提を創造したのである。

國家キョクカは、自ら問題に關與するやうに、慎重に目論見を立てた。國家キョクカは規範を確立して後、爾餘のことは教會の自主に委して、教會は規範の範圍内で自分自身の活動を營み、そして何か一つの統一に達するやうにせしめた。しかし、それは決して、例へばルーテル派とか、カルヴィン派とか、或ひは聯合派だとかを特に引き立てるとか、または、他の宗派を壓迫するのに利用するとか言つた意味であるのではないことは、ただにプロシアの名譽のためだけでなく、凡ての國民社會主義的國家指導者シヤイストの名にかけて、就中總統の名にかけて斷言するものである。個人が如何なる宗派に歸依するかは、國家キョクカにとつてどうでもよい問題である。國家キョクカはこれらの宗派それ自身は保護するのである。また、プロシア地方教會に、從來カルヴィン派、聯合派、ルーテル派があつたとしたら、これら三つの宗派は、如何なる事情があらうとも、新しい國家ネーションの教會の中に於ても亦、その存在を保證されるものであることを余は確言して置かなければならぬ。だが、これらの宗派のどれでもが、それぞれの立場から國家に對抗するといふやうなこと

を、國家は斷じて許すものでないことを、更に余は確言して置かなければならない。しかし他方余は、この場合彼等の間の争ひに終末を與へるために、プロシアの地方教會内に於ける僧侶を重視したいと思ふ。といふのは、このやうな争ひが續けられるならば結局、從來指導的な新教地方だとせられ、且つ世界に擴大されたルーテル的理念及び思想の源泉地であるドイツが、福音教會からその指導權を剝奪するやうなことになるからである。われらの望むところは、この宗教の領域に永遠に平安と満足が訪れることであり、信者の背後にあつてプロシアの地方教會内の争ひがこれ以上狂暴を逞うしないやうにすることである。さて最後になほ對外政策に關して一言して置く。

この領域に於ても、われらの總統は次ぎ次ぎと傑作を創造して來た。外國がわが國をボイコットする責任に就いてかれこれ今日言はれてゐるが、——一體、第三國家が出來たからといふだけで、この第三國家が經濟的に繁榮するやうに外國が心配してくれる、どんな理由や動機があるといふのだらうか。われらは今日初めて再び二つの兵站部を得たのである。即ち、ポーランドとの和議及びヴェニスに於ける總統の比類なく、實り多き會談であつて、その結果はこれら兩國民の輝やしき共同事業を招來するであらう。

かくて、對外政策に於ても非常に恵まれたる發展が見られるのである。われらはかくて、拱手靜觀することなく、われらの仕事を押し進め、自由と名譽を確保すべき前提を創造するわれらの仕事を妨害せんとする如何なる障礙をも排除するであらう。かくしてわれらはこれらの困難をも克服するであらう。このことを自分の眼でしつかり見つめるならば、局部的、地方的なこと以外で、眞に不滿を感じる原因は何もあり得ないのだ、といふことは疑ふ餘地がない。より新しく、より急進的な革命的方法を用ひた所で、改革といふことは非常に困難なのである。

第二の革命が必然的であるかどうかを確定する權限は、われらの手にはないのである。第一革命は、總統の命によつてなされ、總統の命によつて終結したのである。第二革命を總統が希望するならば、その時こそわれらは立ち上る、彼が夜明けの街頭を欲するならば、夜明けの街頭に。もしも彼がそれを欲しないならば、われらは、彼の意志に反してそれを行はんとする者に對して彈壓を加へるであらう。

各人自分自身で決定すべき見解といふものはある。しかし全國家機構の根柢に關する問題に就いては、ただ總統にのみ最後の決定權があるのである。ついでに強調して置きたいことは、總統を除外して、われらが勝手に革命的行動をとるといふことは斷じて出来ないことは勿論で

あるが、その他の方面に於ても同様に、われらが革命を通じて戦ひ取つたところのものを、ひそかに下部官廳に於て、例へば命令とか法律の解釋等によつて裏無しにしてしまふやうなことに對しては、われらはこれを監督看視して、さういふことがあれば斷じて許さないものであることを、はつきりして置きたい。かういふ所に往々サボタージュの動因があるのであつて、かかるサボタージュを適時停止せしめることは、彼等下部官廳の責任であらう。

眞の國民社會主義とは、抑々如何なるものを意味するかといふ質問が、屢々われらに發せられる。それに對して余は、かの勞働戰線の會議で、總統が言はれたことを文字通り繰り返したい。即ちそれは、「われらの共同性をわれらの生活の凡ゆる場面に維持するといふ一點に、われらの最高の能力を集中すること以外ではない。」この言葉は根本的なものである。それは總統の權威によつて、明瞭且つ決定的に確立されたものであつて、われらはそれによつて、初めて理念を與へられたのである。かくて今日われらの爲すべきことは、この意味に於て、ドイツ國民及び國家シュタットの共同性のために、各人がその最善を盡すやうに絶えず努力することである。したがつてその場合、個々の希望は、凡て拒絕せられる。凡ての黨員や國家の官吏に最高の要求權を賦與し、以て彼等がその公的職能を遂行するに當つては、全國民の範となるやうに期待すべ

きであるといふことは、殊更聲を大にして言ふ必要もないことである。

この原理を遵守するならば、われらの打ち倒した國家の敵を更に抑へつけて置くことが出来るであらう。彼は再び立ち上れないまでに消え失せてしまふであらう。共產主義の危険といふものは、われらの態度如何によつて大きくもなり、小さくもなるのである。その危険の大きさを決めるのはわれら次第である。われらが無くしようと思へば、その危険は無くなるであらうし、注意しなければ、大きなものとなり得るのである。國家の敵性を防止するのに何を爲さなければならぬか、といふことまで立ち入つて言ふ必要はないのである。運動の古き眞の闘士である、親衛隊の最高指導者の命ずるところによつて、國家秘密警察局を先頭として、既にその行くべき方向が示されてゐるのである。

以上を綜合して述べるならば、國民社會主義國家——より適切に言へば、國民社會主義的國民運動は、なほ全線前進してゐるのである。權力は完成された。權力は更に完成されなければならない。プロシアの使命は明確に示された。それは余がこの説明に於て確立したところであつて、それは準繩であり、羅針盤であると考へて欲しいのである。これを遵守すれば、われらの窮極の目的は達せられるであらうし、また、如何なる人と雖も全力以上のことは出来ないの

である。われらはこれを誓約し、以てこの樞密院會議を開始するに當つて、われら凡てがこれに服従して居る所の人間、それなくしてはわれらなく、如何なる新ドイツも發生しなかつたところの凡てのことを創造してくれた人間、民族と國民の運命をその力強い掌の中に握つてゐる人間、その一人の男のことを心に思ひ浮べたいと思ふ。

(一九三四、六、一八、プロシア樞密院會議にて)

## 新ドイツの前進

過去數世紀の歴史に於て早くも、ドイツは、常に世界の關心の焦點となつてゐた。そしてそのときより、外國は、わが民族の精神的並びに政治的發展を屢々驚歎しながら、しかも往々にして邪推の眼を以て眺めて來た。それは實際ドイツ人が、特別な種類の人間であるせるかも知れない。ドイツ人は、物事を、重々しく、生眞面目に、しかも根本的に處理して行く。ヨーロッパの心臓にあるといふドイツの特別な位置と、ドイツ民族の運命は、ドイツ人を陶冶して、生活を輕々しく取り扱はせないやうにしたのである。このことは、外國ではどうしても理解されないことである、だがしかし結局、外國が、ドイツの示した範例を冷靜に吟味し評價して、ドイツの精神的政治的發展の中から、全世界にとつて價值を持つやうなものを見て取つたときには、世界は常に、ドイツの業績を認めないわけには行かなかつた。そのときには、初めの邪推は消え失せ、互ひに信じ合つた共同作業に場所を譲つてゐた。

國民社會主義の運動をドイツに齎したところの、偉大にして唯一なるものを、われらが想起するならば、われらは、外國がこの強力なる事件に對して、またその方向を認めてゐたに違ひなかつたといふことを、斷定しないわけには行かない。アドルフ・ヒトラーの人格は、唯一のものである。彼の創造にかかり、心の奥底まで煽動するやうな精神的革命は、實に強力なものである。今やすでに到達せられた成果、即ち國家と民族の統一完成は、古今未曾有の偉大さを持つ。國民社會主義革命と、その革命によつて創られた事實の偉大さは、實に次のやうなことにあるであらう。即ちこの革命は、非常なる外國の控へ目の評價を結果し、わが國境の彼方にある多くの傍觀者を邪推せしめてしまつたのである。しかし今や——過去の時代に於ける如く——外國は自覺し、ドイツの事態に對して、正當なる評價をなすべき秋となつた。實に今日は、國民の必然的な共同作業を行ふために、民族といふ大家族の成員のすべてに對して、獨白性への理解と、健康的にして明白なる生命力を喚起することの、益々必要なときである。しかもまた今や國民社會主義革命の實績は、好意ある傍觀者たちに對して、非常に明白なものとなつてゐるが故に、邪推滿々たる制止的態度を排して、理解せしめるやうに骨折るといふことは、實際、公然と表明されてよいことである。かゝる見方よりすれば、實績に對する承認も、



喚起し得ないものではないであらう。

八月十九日の國民投票は、アドルフ・ヒトラーは、世界の如何なる政治家よりもより多く、國民を背景に持った、といふことを示したのであつた。九十パーセントのドイツ國民は、身獨りでドイツを代表してゐる總統に忠實に従つてゐる。その他の十パーセントはそれほど深刻に考へなくとも、なんとかなるであらう。恐らく外國では、總統がこの影の薄い少數者をも改心させようと思つてゐるといふことは、不審がられるであらう。國民社會主義的指導は、選舉人の五〇・一パーセントだけが、こつち側に選ばれようといふんだと云ふやうな民主主義政治とは、見解を異にするのである。アドルフ・ヒトラーは、全國民の間にあつて自然に發生した幾多の大問題に對しては、唯一つの解答しか存在しないといふことを以て、眞の國民政治の最高の完成と見なしてゐる。今やすでに、全ドイツ國民の結合は行はれた。政體の内面的確實性と強力性との證據、そしてまた政體と國民との緊密性の證據は、總統と宰相の寛大なる慈善行爲である。それは、國民社會主義的指導が今日すでに、廣範圍に亘つて、嚴密なる規範の適用から、好意ある評價に向つて、移行し得るといふことを示してゐる。間もなく慈善行爲の終局の成果は公表されるであらう。保護檢束の取り扱ひは、出來得る限り制限されるであらう。その時に

なつてもなほ國家秩序の嚴格さを味はねばならない人は、國民の害蟲たるものであり、教へても直らぬ無政府主義的な分子であり、そんなものはどこの國家にあつても投獄されるやうな者である。

以上述べたすべてのことは、いつ誰にでも確信され得る事實である。それ故余は、今となつては終に外國も、別な眼を以て、われらを見るやうになつてくるだらうと思つてゐる。そして對ドイツの關係を、眞面目に吟味すれば、思ひ遣りのある承認をするやうになるだらうと思つてゐる。このことは特に、ドイツ國民の平和愛好の意志についても言はれることである。全世界の誰一人として、平和維持の必然性に異論を挟む人はゐない。誰でも平和建設事業の幸福を知つてゐる。そして全人類は、次々に起つた國民流血の恐怖に對して、生々しい記憶を持つてゐる。ドイツ國民は、最も烈しく、世界大戰のために苦しんだ。そのためにまた、最も深い平和と愛で充たされてゐる。ドイツは、世界大戰によつて蒙つた傷を、平和的勤勞によつて癒すために、世界のどの國よりも平和を必要としてゐる。これは誰が見ても明瞭なことである。故に、世界が、絶えずわれらに、世界平和を脅威するといふ罪を負はすやうにしてゐるとすれば、それは不可解のことと思はれる。ドイツの内政上の状態の尖鋭化が、戦争の危険を廣すか

も知れない、といふやうなことは、國民投票の結果よりすれば、もはや誰も主張しようとは思はないだらう。「國民社會主義的ドイツの近々の没落」、「優柔不斷」、國民と政治との分裂、その他のことが語られる時代は決定的に過ぎ去つてしまつた。故に、與へられた事實を正當に評價し、必然的な共同作業のための共通の前提を探究するといふことは、世界にとつて有益なことであるかも知れない。

しかしまた發展は如何なる形を呈してくるであらうか。國民社會主義的ドイツは、斷乎として自己の道を前進する。ドイツの政治は、今日、嘗てよりも一層堅實に、總統兼首相アドルフ・ヒトラーの統率下にある。國民投票に於て、非常に力強く表現されてゐる内政狀態の整理は、また經濟關係の改良に對して、最も確固たる基礎を要求してゐる。經濟の分野に於ても、國民社會主義的政治は、自己の目的を達成するであらう。

かくの如くして、アドルフ・ヒトラーは、あらゆる場合に於けるドイツ國民に對する、世界の敬意を取り還すであらう。もしもそれが新しきドイツの理解ある評價をしてやらうと思はなくとも。しかし余は、われらの國境の埒外に於ても道理が勝利を收める、といふ信念は、棄て去りたくはないのである。よりよき洞察の、最初の徴候は、すでに現れたのである。技巧をこ

らしてまでも、全國民の實り多き共同作業を害ふやうに作られてゐる束縛が、早く取除かれ、ば除かれるほど、益々速く、國民社會主義革命が、世界に對し行つて來たことも、明瞭にされてくるであらう。

(一九三四、九月、ヘアルスト紙所載)

## 國民と指導級

權力を求めて戦つたわれらの最後の熱烈なる闘争以來、滿二十二年を經過した。一九三三年一月三十日遂に自由への門が跳び越えられたときの、あの素晴らしき、溢れるばかりの國民の歡呼と同様の迫力を以つて、攻撃の全力を擧げての最も大なる緊張の困難なる瞬間を、われらは想ひ起すのである。

この日を以つて、しかもわれら國民社會主義者にとつては、同時にわれらの使命を果すべき責任重大なる時が始まつたのである。即ちその使命とは、運命が新しきドイツ國の指導にかかつてゐること、ドイツ國民が國民社會主義的運動に對して、また總統アドルフ・ヒトラーがその國民に對して持つ信頼のことである。満足を以つて今日確言されてよいことは、國民と指導級とが互に同志なることを承認したといふことである。最も困窮せる時代に於て、ドイツはアドルフ・ヒトラーの指導により、その力の根源に立ち歸つたのである。われらがもしも過ぐる

年々の業績について語るならば、特にアドルフ・ヒトラーの仕事に共に働いた無名の人々に感謝と賞讃の言葉を送らねばなるまい。といふのは、われらの誰もが知つてゐることは、もしもわれらの背後に、總統によつて勇氣と力とを更新された國民がゐなかつたとするならば、われらの使命は果されなかつたであらうといふことである。彼等は凡ゆる仕事を共に爲し、凡ゆる犠牲を喜んで拂ひ、一人びとりは賞品名簿に書かれてゐようと居るまいとに關せず、働いた人である。

四年間は、大建築の最初の階層を作るためのものであると總統は考へた。その二年はすでに過ぎ去つたのである。その二年間は體驗に於ても仕事に於ても實に豊富であり、ふりかへつて見ることも出来ないほどであり、われらが爲して來た經驗に基き將來の大使命に参照しようと思つて見ても徒勞なほどである。

一九三三年は嵐の如き速さを以つて無抵抗に敢行して來た革命の年であつた。公的生活の凡ゆる領域にあつて、新しき思想が道を拓き、過去に於ては不安なる議會主義的な權力所有者たちによつて壓迫されてゐたものが、實際に轉倒したのであつた。國內の敵の最後の解決がその主なる課題であり、國民社會主義運動に道を開くためには、それは不屈の精神で以つて短時間

の間に解決されねばならなかつたのである。

一九三三年には多くのものに鉤がかけられたので、多くのものが鉤屑として落ちなければならなかつた。或る場合には、われらの新しき世界觀の闘士たちによつて侵害を受けたものもあるが、しかし全體としては今年まで總統の宣言に大體共鳴するに至つた。即ち一九三三年のドイツ革命ほど規律正しく實現された革命は、ほかにないのである。

總統の共働者全部に對して大なる整理が要求された。總統はわれらに外交上の重荷をも課したのである。國會に於ける、かの偉大なる五月の演説を以つて、總統はしかし移民者の虚言の敵意ある綱をひきちぎることが出来た。そして掠奪の興味ではなく、素直な自己保存の意慾がドイツ民族をその解放行爲にまで追ひやつたのである、といふことを外國に對して證明することが出来た。

革命頭初の嵐の如き速度ののち、一九三四年は比較的靜かな地固めの仕事に着手した。重點は主として社會的な問題に置かれた。國民的勞働の秩序に關する法律が制定され、一九三三年五月一日を以つて華々しく開始されるに至つた。かくてわが國民が國民社會主義の思想財として、總統の勞働に對して、以前から熱望して來たところのものが獲得されたのである。

失業者防止に關する規準を更に低めること、私的經濟の喜ばしき發展、それに出來するところの國家及び共同體に於ける公的財政の固定化は、この時代の仕事である。國家の警察が絶えず嚴格に敵の者に對する觀察を怠らなかつたとは云へ、かくて最初の鬭争の年の必然的に苛酷を要した手段によつて節儉が遂行されることが出來たのである。國民社會主義がその根源的な無條件性と頑強さとを失はなかつたといふことは、總統がドイツ國民を野卑な傭兵の野心滿々たる策謀から救はなければならぬといふ熱意によるものである。國民の内面的獲得と轉換を求めての鬭争が、いかに大なる成果を收めたかといふことは、一九三四年八月の國民投票の輝かしき結果がこれをよく示してゐる。これは名譽ある將軍の死後、總統の搖ぎなき指導者の地位を確保したものである。

かかる事實上の明白な業績は、ドイツの國境を越えて國外にも成果を及ぼしたのである。ザール地方の國民投票は數日前に次のことを證明した。即ち分離主義者や移住民の嘘言が、いかに根據のないものであるか、その誹謗的な合言葉が今日では、いかに力のないものであるか、そしてまたアドルフ・ヒトラーによつて、再び全ドイツ人の意識にもたらされたドイツの血の共同體に於ける結合力が、いかに強固なものであるか、といふことが特に示されたのである。



内政的には一九三四年、新ドイツの輪郭が明確にされた。國家の新しき建設に關する法律を以つて一八三四年一月三十日に行はれた歴史的な行爲は、地方分離主義を以つて最後の解決を見た。そして目的を意識せる仕事に於て、この年は、先づ以つて特にプロシアから國家の新しき秩序に對する基礎を作つて行かうといふことに集中された。この方向にあつて特にプロシアの首相と國家の大臣とが兼ねられることになり、かくて從來の如き國家とプロシアとの二元的な禍ひを永遠になくし、兩者を有機的なものとするやうにした。

今や過去の罪孽を除去し、新しき國家に對する基礎を作つたので、これからの二ケ年は、アドルフ・ヒトラーの四ケ年計畫によつて、獲得されたる基礎の上に立つて、更にこれ以上の建設をなすであらう。すでに幾度も公表されたやうに、近き將來に於ては、國家の新しき地方分割が實行されるであらう。最も重要な部分領域に於て國家の制限のない權力が確立されたならば、(最近裁判所に於て起つたやうに) 地方國家の最後の殘滓もなくなるだらうと考へてもよい。

國家とその分割された地方との關係が將來いかに形成されるべきかは、この際最も重要な決定として答へられるであらう。これに對する決定的なことは、總統が昨年(一九三三年)の黨大會に於て述

べたのであり、即ち彼は立派な地方區と荒廢することのない地方が創造されるであらうと宣言したのである。

ドイツ國家を形成するといふ昔からあつた問題は今や新しく解決された。われら國民社會主義者は歴史からこれを學びとつたのである。われらは、中世紀に於て結局國家の壊滅に導いたやうな過ちを再び犯すことはしないであらう。われらはしかしながら、西方の革命家の範に倣ひ、多面的に形成された生活をドイツの地方にむりに統一したり、非常に違つたものを一つの場所に丸め込んでしまふやうなことをせぬやう、用心せねばならぬ。ザール地方の人民投票の體驗は次のことを明かに證明したのである。即ち頭を悩まして作つた國際的な限界にもかかはらず、國民社會主義によつて目覺まされたドイツ人の血の衝動は、外交的な砲撃や叛逆者のガス攻撃よりも遙かに強力である、といふことである。

われら國民社會主義者の誇りとすることは、アドルフ・ヒトラーのもとに、次の年も、ドイツ國民が數百年來解決せずして残して來た問題に共働することが出来ることである。總統によつて點火されたる焰は、よりよき將來への道を示すものであることを、われらは確信するものである。

この一月の歴史的な記念日に當つて、國民社會主義新聞の購讀者募集の週間が始まる。われらの新聞もまた、政權を獲得し、勝利を完成した反駁戰ののち、總統によつて全く新しい大使命を持つことになつたのである。恐らく今のところ餘り關係がないやうに思はれるかも知れないが、われら凡てがアドルフ・ヒトラーへの信賴を示す新しき仕事として、この仕事も大いに役立つやうにせねばならぬ。

駁論の時代に於けると同様に、建設の時代に於ても、國民社會主義新聞は同志を承認し、その重要な領域に於て、完全に新しい生活形式を創造したのである。余はわれらの新聞の價值あり、理解ある共働作業を、完全なる建設事業に於て承認する。それは適當なるときに沈黙し——このことも必要である——また適當なときには、國民が理解する言葉を以つて語るのである。「フエルキツシュル・ベオバハター」紙は運動の中心機關として、國民と指導級とが密接に結合して不離の關係にあるやう、共に仕事をする使命を、他の新聞凡てと共に有するものである。

## 黨と國家

ドイツ國民社會主義を代表するところの黨と國家の基礎と理念、これはドイツ國民とドイツ國の偉大なる建設作業の最も重要な部分をなすものである。黨と國家といふ今日のドイツの二つの有力な成素の共同作業について、不明なのは國內ではなくて、寧ろ國外に於てである。そしてわれらがこの問題について話すのを遠方から聞けば聞くほど、黨と國家の共同作業には對立があるやうに見える。そしてこの主張される對立から、國民社會主義的國家の崩壊が豫言されるのである。

事態に最も密接に關與してゐる吾々自身は、以下の理由から、かゝる對立は少くともないといふことを知つてゐるのだ。即ち國家は、黨によつて初めて創作されたものであり、又國家は、われらの總統の理念と精神及び運動によつて充たされてゐるからであり、また第一に、それは國家に充満した運動の人々であるからである。

れは國家に充滿した運動の人々であるからである。

國家はわが國民の形成、生命の組成の最後の表現形式であり、かくてまた、われらの運動と黨の最後の表現形式でもある。

國民社會主義的運動は、從來の國家に對する反對のうちに、鬭争のうちに生起したものである。それはワイマールの國家に對し、單に對立に於てのみならず、それを否定するところまで遂行する遠慮會釋のない鬭争のうちに立ち上つたものである。

過去のドイツ國家は不道德のものであつた。それ故に消滅せねばならぬものであつた。それは從來のドイツの表現形式であつたのだ。その指導は不道德であり、卑怯であり、愚實のものであつた。われらは國民をして再び、英雄的に考へることを教へるやうな指導を國民に復活せしめるために、かくの如き指導を拒否せねばならなかつたのだ。

かくてわれらは、國民の中に新しき國家の概念を持つた新しき組織と、新しき指導を確立して、この指導のもとに新しき國民を形成せんがために、ワイマールの國家を、或ひは更によく云ふならば、一九一八年十一月の組織を否認したのである。われらは反抗時代に於ては、次のことで大いに悩まねばならなかつた。即ち人々は、われらを國家に敵對するものと見做さうとし、吾等を謂はゞ、理念構造に於て無政府主義だと説明しようとした。われらはかゝる誹謗者

に對して繰返し論駁した。われらは決して國家に對立するものではない。われらは強力な汚れなき國家を欲するがために、汚れた組織を破壊せんがために、汝等と戦ふのだと云つた。

貧窮と悲慘が到るところを支配し、薄弱と汚辱が新しきドイツを目立たせ、人間は彼等の見解に關する疑惑のうちに、何を爲すべきかを知らなかつた崩壞の瞬間に、總統はかの旗を掲げたのだ。最初は若干の僅かな人々が、次には數千の人々、幾萬の人々、數百萬の人々、最後には全國民がこの旗についてきたのだ。

國民運動の最初の闘士を闘争へとかりたてた旗、ハーゲンクロイツのために、數百の國民主義者は、喜んで彼等の生命を投じたのであるが、この旗は今日、わが國家の尊嚴の標である。

それ故に、われらは今日、ドイツ國に對して何ら對立してゐないといふことは自明である。といふのはわれらは、われらの血によつて血を罰し、肉をわれらの肉によつてもぎとることは出来ないからである。かくの如き國家をわれらは建設したのだ。この國家は國民革命の、かの高潮のうちに建設された。そしてそのとき、國家の建築の上に、初めてハーゲンクロイツの旗がたてられたのである。われらは、われらの精神を以つて國家を充たすが故に、この國家を承認するのだ。この國家が、われらの總統の國家であるが故に、この國家に奉仕するのだ。

そこには何の對立もない。全體に奉仕せんがために、個人々々が彼の義務と彼の勤勞を果さねばならぬ。決められた仕事の領域に於ける共通の課題の分擔があるだけである。

われらは利己主義の基礎に植ゑつけられたやうな國家、われら國民社會主義者が原理としてうちたてたものゝ反對を表したやうな國家を否認したのだ、といふことを忘れてはならぬ。われらは憐れむべき分散主義に、うちのめされたやうな國家を否定したまでゝあるといふこと、結局は、公的生活を充たす凡ゆる組織の同一生命から、われらの運動の全要求を正しとする同一生命が生ずる、といふことを忘れたくない。われらは決して別れるものではない、といふことは自明なことである。世界觀的に基礎づけられてゐる運動は、誰とでも別れることは出來ないのだ。それは凡てを擴充し、包含しなければならぬ。世界觀を代表する黨派は、その運動が行くべきところに立つてゐない限り偏狹である。われらは戰法に於て、いつもどこかの道をきり開いて行くのである。しかし根本的にはたゞ、唯一の明かな線があるだけである。われらは成るほど、戰法を變へることがあるかも知れぬ。しかしわれらは、その根本では揺がずに確固として立つてゐるのだ。それ故に勝利もわれらのものとなるのだ。

勝利の瞬間には、國民社會主義の黨以外に、或ひはそれと相並んで、別の政黨は一つもあり

得ないといふことは、われらにとつて自明のことであつた。われらは義務を持つてゐた。——このことはわが國民の將來が要求したことだが——この場合容赦することなく、偏狹に前進すべき義務を持つてゐたのだ。全く明かなことは、個々の人を、價值あるメンバーとして余のもとにひき入れ、その人の専門的知識によく合致したやうな仕事を、與へることは出来るのである。しかし、その人の中にかくされたものを、そのまゝ受け入れることは出来ないのだ。今はそれを打ちくだかねばならない。

この無味な平均化！　といふ聲を人はしばしば聞くであらう。たしかに到るところ、それは無味に見えるかも知れぬ。なるほどあちこちに、或る種の無理解や非常識なことが行はれてゐるかも知れぬ。ところが、そんなことは大きなところから見れば、なんでもないことである。組織を平均化するといふことは、國民の公共生活を通して流れ、形成する凡ての事物が同じ調子にされることであり、かくてこの公共生活が出来るだけ摩擦のないやうになることである。かうしたこと凡ては、同一の精神的理念によつて貫かれてゐなければならぬ。それは同じ根源から出てきたものでなければならぬ。

國民社會主義の精神財に一致しないやうなものは、凡て廢止されねばならなかつたことは全



く當然である。このことが今や全體が悪い結果となるとは、われらは主張したくないのだ。さうした時はもはや過ぎ去つてしまつたのだ。そんなものは、もはや新しいものとは調和しないのだ。みせびらかしの學生組合の廢止が、國民社會主義の綱領であつたといふやうに、誰かゞ事物をそのやうに説明しようとするならば、そんなものは邪道にあるのだ。しかしながら、國家の國民的共同に一致しないやうな、そして親しく感ぜられないやうなものを廢止することは必要であつた。かうした否定の存在が正當であり、しかも何か貢獻するものであるやうな時が與へられるのは少しも構はないことである。

かくして、われらの新しき國家は創造されたのである。この國家の先頭に總統が立つた瞬間に、對立は終つたのである、或ひはもつとよく云ふならば、以前の國家の政黨の鬭争が終つたのである。總統は革命が終つたのだと説明した。空想的な、頭の混亂せる者どもが、革命のための革命は永遠に續いて行くものだと思つたとしても、その中にある危険はもう無くなつたのだと簡単に説明した。彼が黨と國家との統一を宣言した瞬間に、彼は革命を追ひ拂つたのだ。今日黨と國家が全一として存するならば、黨と國家との問題を正しく分けるために、分割といふことが自然に、こゝに今や入つて來なければならぬ。諸君の中の多くは、今年のニール

ンベルグの黨大會の獨特な、力強い最後の宣言を聞いたであらう。そして總統の力強い言葉の證明を聞いた筈である。その中で總統は、黨と國家の問題について、明瞭な區別をしたのであり、よき意志を持つた人ならば、誰でもそれを聞いて誤解はなくなつた筈である。黨と國家に對して、前のやうに希望し、志し、行動するやうな誤つた者は今や、誰もゐないであらう。

簡潔に余は、總統がわれらの勞働に對して正當なる例を引かれ、個々の例を示して、その立場を明かにされたことを、もう一度にこゝに總括して述べようと思ふ。

黨は國民の活動に對して、偉大なる目的を置いてくれたのである。それはしかも、國民社會主義の思想財から生れた目的なのである。黨は公共生活をして、この目的に一致させるやうにした。そしてこのことは、總統が國民をどこまでも訓練して行き、自由に任せる最も重要な課題の一つであり、わが國家を完成するのに必要なものである。そして黨は結局、どこまでも被れることなく努力し、凡ての國民を國民社會主義的に教育して行くのである。

最も重要な領域に於て、既に權力の把握が全く決定的な進みをとつてきた。指導的な國家の要職は、優れたる國民社會主義者たちによつて占められたことを考へて見るがよい。現在と過去三、四年前との間に、明かな間隔を認めるために、ナチス運動の人々によつて國家の中で

過去三、四年前との間に、明かな間隔を認めるために、ナチス運動の人々によつて國家の中心

創られたものを、われらはこの轉換期に目前に見なければならぬ。

余ははつきりと國防自由の確立を先頭に立てる。われらは謙讓なる態度を以つて、國民社會主義を闡明しなければならぬ。それは専ら、われらの仕事となつた。總統とその配下の國民社會主義者のみが、よくかやうな大膽な決心をなし得たのである。

われらが今日満足して居り、わが國民が今日、その國防力に歡聲を擧げるならば、何人も余が再三繰り返すやうに「ハーゲンクロイツの勝利を賣らさない軍隊、大砲、飛行機は、一つもこれをあらしめてはならない。」ことを忘れてはならない。

余は、余の命令範圍内に屬する空軍に、黨の總統が空港に現れたならば、彼によつて創設された軍隊は、もうこの人の闘ひが始まつたことを想起すべきこと、また必ず注目の禮をなすべきことを命じてゐた。

われらは、われらが勝利を得た今日では、國防力に兵器と人間を加へ得ることを満足に思ふ。その上たしかな指揮のもとに、専ら國民の安全を獲得する劍が研ぎ澄まされてゐることを満足に思ふ。

われらは屈辱の幾星霜の間に、これをなさねばならなかつたのである。劍を毀された者はそ

の安全を奪はれ、安全を奪はれた者はその名譽をも失ふ。國防の缺如は常に、また名譽の缺如となり、安全の缺如となる！ われらが自由と、われらの名譽とを再び昂揚せんと欲するならば、總統が鍛へたドイツの劍は、この自由の防衛者となるであらう。

更に余は、ドイツ民族の一千年以來の懺れが、今や形をなしたことに想到する。遂にわれらは、一民族一國家を形成し、何百年來われらを散々分裂させてきたものを克服した。ドイツの同族とドイツの各地方が、互に干戈を交へ、ドイツの傭兵が到るところの戦場に於て征服し合つてゐる間に、よその國では世界を分割したのである。しかしてドイツは、一體となることなく空しく過した。即ち、世界史に於て、地理的に未だ嘗て一國として現れたことはなく、たゞ意味概念として現れたに過ぎないのである。

過去の幾多の政治家に於て不可能だつたことが、總統とその運動に於て達せられた。それは國民の信望を得たからである。これまで人々が、國民は統一を欲してゐないと説明したとすれば、われらはこれに對し、ドイツ國民は常にその統一を望んだが、たゞ二、三の領主や君主が、これを欲しなかつただけである、と斷言しなければならぬ。總統が余を、大プロシヤ國の宰相に指名したとき「余は貴下が舊帝國の元老たる理由ではなく、舊身分の最後の人た

國の宰相に指名したとき「余は貴下が舊帝國の元老たる理由ではなく、舊身分の最後の一人た

り、聯邦を創つた人たる貴下を宰相に立てる。」と云はれたことは、余の自慢とするところである。

正しくわれらプロシア人は、正當の理由を以てプロシアの事業が國家統一の前提を、歴史の中にうち立てたことを明かにすることが出来る。二、三の支配者が、余のところへ來て、「貴下がドイツ國を創つたならば、プロシアの貴族やプロシアの政府はどうなるのか!」と云つたとすれば、余はたゞ、ごつくばらんに、「ドイツ國が出来さへすれば、これら凡てがどうなるか、といふ問題は世界中で最も取るに足らぬものである!」と説明することが出来る。

統一國家建設の事業はまづ、何よりも一度外國が如何にこれを見るかを考へなければならぬ。外國の政治家には、恐らくわれらよりもはつきりと、ドイツに於て百萬人の力が對立を解いて結合した場合、それは何を意味するか、ぴんと頭に來るだらうといふことを余は信ずる。他の國々が、既に何百年このかた所有して來たもの、しかして今やわれらが有するに至つたところのもの、これは總統とその運動のおかげである。こゝで何時間でも、一つ一つの大きな仕事と重い任務、そしてその結果について話せと云はれたら話すが、それはお易いことである。いづれの大きな仕事も専ら、百萬のドイツ國民が喜捨をあてにすることなく、自らの手で仕事

を求めなければならないやうにすることにあつた。正にドイツの労働者は、慈善と乞食の國家によつて養はれることを苦々しく思つてゐたのである。物質的な問題ではなく、精神的なものであつたが、わが労働者は創造的國民の社會から閉め出されてゐることを感じて、壓迫を覺えた。かくの如きことは、初めから物質的なことを考へることなしに、建設の大事業を比類なき英雄精神を以つて成し遂げる、労働者の犠牲的精神に於て認め得る處である。この事業遂行のために、今日でもなほ、僅かな賃銀で喜んで全力を盡す。これは必要なことであるが、外國の労働者のなし得る處ではない。われらが満足してゐるとすれば、それはわがドイツの労働者がドイツ國民の本然に還つたことである。

今日ドイツ國民が、再びその労働の成果を享受してゐるとすれば、これは凡て、われらの運動の事業と創造にかゝつてゐるのである。過ぎし幾年の間、何度も繰返し云はれ、説明された。——「正に諸君の持つてゐるものは、凡て諸君のプログラムの中にある！ 今諸君が眞先に立つてゐるところでは、諸君はもはや不都合なものに目をつけようとは欲しない。例へば、これまで諸君の民族問題はどうであつたか。しかして實行は何處に落ちつくか！」と。ニュールンベルグの本年の黨大會に於て、紳士諸君もその解答を得た筈である。即ちニュールンベルグ

の法律によつて、われらの黨活動の重要な諸點が實行に移され、わが國家建設の標石が建てられたのである。余はその際、總統の委任によつて旗則を定めたのであるが、諸君は誰でも嘗て戰場に翻つた古い光榮ある黒白赤の旗の前で、特別な確信と敬意とを以つて、これをなした事を知つてゐる。同様にいづれの國、いづれの都市も必ず、その道を示す各自の象徴を持つてゐる。しかしてわれらの國旗の色が、黒と白と赤であることが分らないのは色盲患者だけである。

われらが年中そのもとで闘ひ、奉仕して來た勝利の象徴たる國旗を、ドイツ中に靡かせなければならぬことは自明な事に屬する。この國旗は、われらをドイツが有した、最もよい時代に引戻すことを象徴するものである。このことは如何なる領域に於ても忘れなかつたし、また決して忘れられないであらう！尤もこれは凡てに於て、常に同一テンボを以つて行はれ得るものではない。行進のテンボは總統一人がこれを定めるのである。これを欲しない者は追放されなければならない！

國民社會主義運動は、今日では全國民を捉へてゐる。彼等の手には新聞や映畫やラジオ等、國民を捉へ、啓蒙し、教育するに必要な凡ゆるものがある。

指導の任に當る官吏は、凡て運動の尖頭に置かれる。しかして將來、運動は凡ての個々人の

協力を得、かくして指導的な立場に於ける、統一的な考へ方が確められるのである。しかし總統が黨出身でない人間を用ひる場合には、われら國民社會主義者は、總統の眞意を認識するために、うんと洞察を働かせなければならない。總統が人を信任に値すると考へた場合には、われらもまた彼等を信任しなければならない。なぜならば總統は、われら全部を束にしたよりも人を見る目を持つてゐるのであるから。

市町村に於て、縣に於て、到る處で、黨は能力を發揮することが出来る。諸君はしつかりした忠言者と、統一を與へる指導者を出す。殆んど凡ての指導者は、また同時に役所の尖端であり、國家行政の指導的人物である。しかしして就中、ヒトラー・ユーゲントから將來、ドイツの來るべき指導者が現出するといふ一事が存する。

これは決定的なことである。といふのは、われらは國民社會主義の理念を把握し始めた（尤もこれは大分成熟して來たが）第一代に過ぎないことを決して忘れてはならないのである。われらは各自、前時代からの荷物をうんと背負つてゐる。各自は自分から多くのものを拂ひ落さねばならない。勞働者も、余及びその他の人々と同様である。われらは誤つた教育を背負つてきた。それがマルクス主義の階級的憎惡から生れたると、ブルジョア階級的自負から生れた



てきた。それがマルクス主義の階級的憎惡から生れたると、ブルジョア階級的自負から生れた

るとは全然問ふ處でない。われらは各自、新しい國民的理念財のための場所をつくるために、多くのものを投げすてなければならないのである。

われらは第一代である。われらの一人々々が、或る者は速く、或る者は遅く、成し遂げたことを一舉に要求することは出来ない。この世代が直ちに需めに應ずることを期待することは出来ない。なぜなら彼等はもう既に、餘りに永い間、別な道を歩いて來たのだから。今日の世代が百パーセント、國民社會主義的に考へ、感ずるといふことも不可能である。今日の下司も、有難いことに、いつかは、自由な國民社會主義者になるであらう。かく導くのがわれらの神聖な使命である。

この教育事業こそ、われらが特に成就しなければならない最重要事である。將來運動と從つて國家がその人物を得るか否かは、これにかゝつてゐるのである。われらは特に、この教育に自分を捧げ、この世代から徐々に完全なものが熟して來るのを助けなければならない。

教育の不可欠なる所以は、黨の凡ゆる地位がこれら青少年に接譲されるからであり、國家はわれらの肉體であり、それはわれらに屬し、そのためにわれらはこの國家に於て、この運動にゐると同様、協力しなければならないからである。教育は各自を唯一の意志に凝集し、これを

總統の耳に共鳴させなければならぬのである。

運動が公的生活に於ける、色んなものに噛みついて攝取しなければならぬと信じた時代は終つた。今や到る處、運動の指導者たちは先頭に立つて、これらの問題を支配してゐる。公平な規律のもとに、黨の全機構が黨と國家の一致、といふ課題の達成の上に現れて來るのも、この問題の一つである。しかし國家機構と黨に於て、總統の指揮通りに歩調を合せない者は淘汰されなければならない。そのテンボは前にも云つた如く、たゞ、總統のみによつて定められる。總統がその道を迷はず進む正確さは、自ら凡ての人を導いて行く。それ故これはまた、總統の意志によつてなされるので、亂痴氣騒ぎや或ひは善意の熱情からする個々の行爲が、規律なしに遂行し得ると信じてゐる凡ての人に對立するのである。

國民社會主義を、とんでもない風に考へてわれらの處にやつて來、何か空想的な氣違ひじうた考へを持ち、血と土に關する國民社會主義的事業を誤解して、今でもウスターンや雷神のロマンティックな憧夢或ひはこれに似たこれをなし得ると信じてゐる人が、依然として事業に携つてゐることは否めない事實である。これは宗教と教會に對する、われらの態度にとつて重要なことであるが、これについては簡單に切りあげる。

國民社會主義者として闘争の全期間を過して來た人は、巨大な信仰の力を持つてゐることを證明した。更生ドイツを創り、これに與かることは、この大事業を祝福する全能者への、最も深い信仰によつて充填されなかつたならば、不可能であつたであらう。それ故、われら國民社會主義者が無神論者であると主張する者は、嘘をついてゐるのである。

われらが教會と闘つてゐると誰かゞ非難するならば、余は明瞭に説明する。「否！ 教會がわれらに闘ひを宣したので、われらは防禦に立つてゐるのである。われらは教會に對して、積極的なキリスト教徒の立場に立つてゐることを説明した。にも拘らず、教會がわれらを侵すものであり、われらを防禦に追ひつめたのである」と。

「今や教會は、次の一事を理解しなければならない。――即ち國民社會主義者は、未だ守勢的にも教會を忌諱したことはない。常に到る處で、われらは辯明にも積極的であつた。しかして人々が、われらに休みを與へない間に、あちこちでよくあることだが、總統の意に添はないやうなことも現に起つたのである。われらが惡魔に與してゐると、人は國民に告げることは出来ない。むしろ、われらが國民に眞理を示すであらう。われらが他の人々の迷信を非難する根據を豊富に持つてゐるのに、われらが迷信に麻痺してゐるとは、人は云ふことが出来ない。」

教會は、次の一事については安心してよろしい。——即ち、教會が國民社會主義と妥協するならば、われらは教會と安んじて妥協し得るといふことについて！ 教會が安全を得るか否かは、一つに教會にかゝつてゐる。われらの運動は、就中、政府及び國家は未だ一度も教會を侵さなかつた。われらは教會に庇護を保護した。しかして教會は今日もなほ、充分な範圍に於て、この庇護を受けてゐることを知つてゐる。

それ故、人がこゝでわれらに對して何か非難をなし得るとすれば、以上のことに對してではない。運動と國家は信心深い國民を欲する。それ故われらは決して、信仰との闘ひを欲せず、また求めもしない。反對に、總統にはなすべき他の多くのことがある。彼は喜んで妨げられることなく、立派に完成せんとする教會以外の大事業を持つてゐる。しかし他方、人は、カトリック黨と福音黨が、教會と信仰を政治問題に濫用してより、まだ四年も経つてゐないことを忘れてはならない。國民に始終、信仰について語つたこれらの政黨が、議會では政治的利害のために、行動に於て神を否定するマルクス主義者及び共產主義者と相携へて、始終同じ目的のために投票したことを忘れてはならない。われらが反キリスト教的世界觀を擴め、そのために國民社會主義的著述を物したことに對して、教會が今日闘ひをなさんと欲するならば、余は簡單に

説明する。——われら國民社會主義者はたゞ、基本的な一書を知つてゐるのみである。しかしこれをアドルフ・ヒトラーは「わが闘争」と名づけてゐるのである！」と。

しかし他面、われらは探し求める人々にたゞ、仕事が教會にとつて好ましくないからといふ理由で、また物の内部を照らす仕事が教會にとつて不愉快だからといふ理由で、仕事を禁ずることを許さない。また國民社會主義は、精神闘争者に對して、これまでの時代に於ける如く、火刑や審問を以て臨むことを拒否する。國民社會主義は、この場合傍觀者の立場に立つ。各自は自分にふさはしい場所に於て、事實を待つのみである。たゞわれらには公の仕事のみがあり、世界觀的基礎即ち總統の書物のみがある。このことを國民社會主義者は、みんな知つてゐる。教會の人も、各自がこのことを知るならば爲になるであらう。

われら國民社會主義者は、教義論や信仰論議などの内部的なことに干渉する氣持を持つてゐない。われらは精神の自由、信仰の自由を欲する。しかしてこゝに於ては老フリッツに與する——「各自は、自分の流儀に應じて幸福となり得る。」

われらは他の組織、或ひは政黨がナチス黨員に偽裝して、その復活を祝ふことも欲しない。またわれらは、例へば經濟黨が國民社會主義的に偽裝した組織を作つて、その復活を祝ふこと

も欲しない。尤も、餘りに強力な分裂、分解は、それ自身としては、總じてわれらに幸ひしない。われらはたゞ、常に全體としての運動、國民社會主義勞働黨を見るのみである！

余は今日再三、よりよき状態を作るためではあるが、如何に人がわれらの民族工作を濫用してゐるかを見る。その際、余はかう云ひたいのである。――「君は經濟黨の人間だ！・ナチスの黨服を脱ぎたまへ。君は道を誤つてゐるのだ」と。ベルリンの街に、ユダヤ人の衣服商が六人とドイツ人の衣服商が一人ゐるとする。そして八日の後には、人はもうユダヤ人の店では買はないので、ドイツ人の店では衣類を二倍に値上げするとする。その時はこのドイツ人も六人のユダヤ人と同類なのである。かくの如きは、誠に非國民社會主義的なもので、汚い儲けに對するわれらの神聖な方針を悪用するものである。われらは今後、最も鋭い監視の眼をこれに向けらるであらう。しかして余は、かやうなことをなす反省なき業者を排除するであらう。」

逼迫或ひは困窮その他の状態から、價格のせり上げによつて何とか自分をよくすることが出来るかと信じてゐる人たちにも、以上のことは當てはまるのである。どこかに物質不足の噂があると、もう充分に自分の腹を満たすことが出来ないかと心配して買溜めする終生の臆病者も同じ部類に屬する。それ故、入口に「公益優先」のボスターを掲げて、裏口から買溜品を持ち込むや

うなことをしてはならないのである。われらはむしろ、この例によつて原則が守られることを望む者である。しからざれば、國民が一體となつてゐることを本當に感ずることは不可能である。他人や自分の利益を右顧左辯することは、こゝでは絶対にやめなければならぬ。われらが再三注意したやうに、労働者は賃銀の多さのみによつて政治を判断をしないこと、商人はその利益によつて、實業家は配當の高さによつて、農民は卵や豚の價格のみによつて政治を判断しないこと、そして政治が全國民のために、國民の將來のために創出するものゝ内容によつて凡ゆるものを判断すること、これが規準である！ 國民の教育に協力すること、一生國家の保護を受ける世話を到る處でなすこと、冬期貧民救済事業に於てばかりでなく、凡ゆる狀況に於て、到る處でこれをなすこと、これが總統によつて任命された人の使命である。

運動員は、事物を變へることに責任があるのではなく、國家に於て責任ある地位に立つ黨の指導者が、情勢を判知し、これに應ずることに氣を配るべき責任があるのである。余の切望してやまないものは協働である。その際特別な目標が、工場と労働者の生活とに向けられなければならない。こゝに於ても事物はあるべき秩序より遙かに遠い、といふ報告を余は再三受け取つてゐる。工場の指導者が、われらの與へた廣大な自由と責任を正しく利用することが、まだ

どこでも行はれてゐるわけではない。われらが工場指導者や企業家を、彼等が労働者と團結してゐるかどうかによつてのみ判斷し得るので、彼等が冬期貧民救済事業に、如何なる寄與をなすかによつてゐるのではないのである。われらは指導者の資格を、何もせずに金で買ふことを望むものではない。豫算で働く政治家にとつては、今までの時代の方が遙かに適してゐたであらう。

凡てが秩序だつて居り、工場指導者が自分の責任と使命を認識し、また彼が純粹の尊敬すべき國民社會主義者として労働者と苦樂を共にし、工場の遊山や會社の催物には一度も行かないのを見ると、われらが満足に思ふことはない。指導者と配下の間に存在しなければならぬ本當の結合こそ、われらがこれらの企業家を判斷する規準となるであらう。

黨員の配慮に委せられる事項は、工場指導者及び労働者の啓蒙國家生活にある國民社會主義者の教育等であり、それと共に彼等は自分たちに附せられた權力によつて、教育が何ら効を奏しない處にも關與することが出来るのである。

運動員は、ドイツの將來を全民族の前に、しかして全民族のために展開するための闘争に任ずる。しかして余は、彼等がこれまでと同様に將來も、こゝに全力を盡すだらうと確信する。何人もこせこせした論争に身を磨り潰してはならない。また單に、個人的な復讐心或ひは功名



心に起因する手段として闘ふのは好ましくないし、また國民社會主義的でない。國民社會主義を理解しない者は、今日指導的地位に立つことが出来ないこと勿論である。しかしわれらの思想財を擲取して、これに従つて行動することを證明する人に對しては、彼が黨に加入する時期が決定的のではなく、彼が運動と國民に對して寄與するところが問題なのである。

われらは困難な時期を控へてゐる。ドイツは強くなつた。また、あまり衰へなかつたのである。總統はドイツの安全を確保するために、晝夜兼行で働いた。しかし安全が確保されるか否かは、われらのみにかゝつてゐるのではない。われらは安全を亂さんとする者を防禦する準備が出来てゐる。しかし一度國民が運命的な時期に召喚されなければならない場合には、困難な時期に成長した國民は、強い國民社會主義的國民でなければならない。そのために、また如何なる缺乏に當つても、如何なる領域に於ても、參らないやうに運動員に配慮しなければならぬのである。またわれらは、價格のせり上げや買溜めから犯罪が起ることを防止するために、百方手を盡さねばならないし、また盡すであらう。しかしドイツの建設、その足場構築には、金も材料も外貨も必要だといふ一事を知らなければならぬ！ 第三國家の柱石がのつかつてゐる強力な地盤は何であるか、諸君は云ふ。——總統に對する國民の信頼であると。この地盤

の上にのみ、ドイツ國は興起し得たのである。この信頼は、どんなことがあつてもしつかりと固められなければならない。しかしてこの地盤には、ほんの少しの龜裂をも生ぜしめてはならないのである。これを犯す者は最も重い罪を犯すのであり、叛逆罪、大犯罪を犯す者である。なぜなら彼は、そのことによつてわれらの生活の根に斧を入れてゐるから。

誰がわれらを窺つてゐるかどうかは、取るに足らぬことである。何について惡口雜言を浴びせかけられるかといふことも取るに足らぬことである。かういふことは、あまり氣にかけてはいけないのである。

しかし總統に關しては、限なき信頼と感謝と獻身と傾倒以外の何ものもないのである。われら各自は、困難な時期に遭遇してゐる。この時に當つて決斷がなされなければならない。またかういふ時期には、ぐらつき易く、しかして間違つた助言者がわれらの耳に何かを囁かうとする。われらが動搖する度毎に、弱さがわれらを壓服しさうになるときに、われらは總統を見守る。しかして總統の輝く姿を見、新しい力が盛り上つて來るのを感じる。彼の力はわれらに分與されてゐるのである。しかしてわれらが正しく行動するならば、即ちわれらが總統に従ひ、彼の輝く手本に倣はんとし、自由人の規律に於て、彼の意志に従順であるならば、われらの目

彼の輝く手本に倣はんとし、自由人の規律に於て、彼の意志に従順であるならば、われらの日

的――わが民族の幸福、國民の偉大、ドイツ國の榮譽は達せられるのである。

(一九三五、一〇、二六、シュレジヤの管區記念日に)

## 協働は平和を保證す

五月一日、ドイツ國民の祭日たる労働祭が済んだ。それは創造的全ドイツ人の協働への、しかして政治的指導への力強い信仰告白であつた。それはドイツ國民の一致せる意志表示であつた。それは全く一回きりの示威運動ではなく、この日以後も生き續けてゐるその日の體驗と新しいエネルギーは、國民とその指導のうちに擴がつてゐるのである。

ドイツに於てはただ一人の人間が命令するのである、といふ誇らかな確信が、常にわれらの中に充ちてゐる。彼の意志は最高原理である。しかしてわれらは凡て、かくあるべきであるといふ磐石の如き信念に於ける自由意志によつて服従する。かくて凡てはうまく行くのである。

この自由意志による決心から凡てのものが従ふ。しかして労働者の如き總理、従業員の如き事業經營者、ここにのみドイツ再興の驚異が存するのである。

偉大なる使命がまつわれらに解決すべき運命を課した。われらを芽生えのうちに諦めてやめさせるものは何もない。われらはわれらの時代の債務を辛い生存闘争の間に支拂ひ、この行爲

させるものは何もない。われらはわれらの時代の債務を辛い生存闘争の間に支拂ひ、この行爲

によつてわれらが歴史の前を耐へて行くことを示さなければならない。今日のわれらの最も切迫せる課題たる四ヶ年計畫を遂行するためには、最高の緊張と實行が必要である。總統は事業の大きさについても、困難克服についても疑惑を起さしめなかつた。しかしてアドルフ・ヒトラーから余に委ねられた強力な經濟變革の政治的指導を、變らぬ峻厳と決意を以て（總統はこれを行爲の規準として、われらに義務づけたのである）斷行すべく、余は最初から遠慮會經なく配慮して來たのである。

新しい工場の建設、新しい生産方法の導入、即ち經濟の生産面の高揚のみが、まだ充分でないことをわれらは承知してゐる。しかしてわれらにはまだ價值多く役に立つ發明と技術の革新が行はれ得る。しかし一撃を以つてそこに現れてゐる物資供給の困難が除かれ得るものではない。ただ何びとも次の一事を忘れてはならない——われらはこの困難を克服するに當つては、結局われら自身を頼るほかにないのである。人はドイツが世界經濟から離反すると非難する。しかし事實は世界經濟の全機構がその基礎からして誤つてゐるのである。それ故、個々の國民經濟の強化と獨立化の傾向は、漸次世界的規模となり、われらに再三門戸を閉鎖しようとする臨んだ諸國民に於てさへも、この傾向は停止しなかつた。しかし全く自然的根據から、このや

うな世界からの閉鎖によつて何の利益もあり得ない國があるとすれば、それは正にドイツである。われらの商業政策的努力は生活必需品の保全と、わが國民の獨立化に當つても常に、よりよくより理性的な國際的經濟關係の建設、即ち實力に應じた新しい世界經濟の建設に協力することを目標として來たのである。これが個々の場合に於て成功すればするほど、無理解と妨害も大きくなる。これをかくの如き理性の政治が再三遭遇するところのものである。われらはそこで總統の次の言葉を思ひ浮べる。「ドイツは生きんと欲するならば、几帳面な農家のやうに、經濟全體を展望的に、計畫的に導き運用しなければならない。」われらの努力は新しい物及びより多くを生産することへのみ向けられてゐるのではなく、同時にまた現在あるものを節約して正しく使ひ、理性的に管理し分配することにも向けられてゐるのである。

五月一日に總統は明瞭に説明した——「今後四ヶ年間に亘り、ドイツ國民とその心髓までも捉へるであらう、この強力な事業は、ドイツ國民の専心の傾倒によつて初めて成果多き達成を見る事が出来るのである。」この言葉に和する歡呼の聲は、創造的全國民の力強い反響であり、従前以上にしつかりと公平無私に協力せんとする意志の一齊表示であつた。

より大きな實行への衝動は、まづ第一に物質的なものではなく、また單なる個人的利害でもな

より大きな實行への衝動は、まづ第一に物質的なものではなく、また單なる個人的利害でもな

いことが、國民社會主義的世界觀の仕合せである。必需品と有用品に對する正當な要求が充され、より大きな實行に對しては、然るべき貨銀が支拂はれる事が、如何に大切であるかを余は知つてゐる。國民社會主義に於ては價格形成にも實行といふ根本原則のみが妥當する。價格も貨銀も經濟に於ては、第一次的なものではなく、總體の國民經濟的活動のみが決定的なのである。國家・經濟指導の課題は、この活動が高まり、妥當合理的な貨銀・價格形成によつて國民經濟一般の活動昂揚が、これに協力する個々人にも昂揚を齎すやうに配慮することである。

しかしこれは凡て、先づ社會存立の基礎が、しつかり据ゑられたとき初めて可能なのである。凡ゆる重要で必要な問題、個々人の生計と收入に關する配慮等は、わが國民の協働作業に從屬してゐるのである。この世はわれらを離れ難い鋼鐵の鎖で連繫してゐる運命の社會である。しかして、これはわれらに「一人は萬人のために、萬人は一人のために」といふ古い言葉を決して忘れしめない。

運命はわれらを有利な地位には置かなかつた。しかしわれらは未來を支配することを示すであらう。多くの人が恐らく最初の成果が大であると考へてゐるほど單純に、凡ては行かないであらう。われらは冷靜であり、實質的である。しかしてわれらは、ドイツを經濟的にも自由に

し獨立せしめる目的に向つて一層の努力をなす。

四ヶ年計畫はドイツ國民の協働の、目に見える實現である。この事業の成果が世界の多くの政治家たちに心配を與へてゐることを余は知つてゐる。ドイツは強くなければならない、それ故經濟的にも獨立しなければならぬ。なぜなら、終局に於て大きな國際的紛糾の原因をつくるものは、常に諸國民のうちの弱者なのであるから。われらは、他の政治家たちが生存鬭争を續けるために、その國民の實力を動員しようとも、これに對して何の異議もない。各國民はその生存の確保に必要なことをなす權利がある。しかしわれら國民社會主義者は、或る國民に對して、この權利の最後の否認者となるかも知れない。

しかしこのやうな意志は諸國民の協働を妨げるだらうか。總統はこれについて、ドイツは依然として諸國民の經濟的利害の協働統制に與る用意があると屢々明瞭に述べた。諸國民の政治的經濟的利害が、凡ゆる點に於て一致するものでないことは自明である。

しかし世界經濟的共存の決定的な大問題に於ては、責任ある人間は協調に達しなければならぬ。なぜならこれによつて彼等は永續的な基礎を持つた、世界平和の招來に貢獻する政治家として、この義務を果すことになるからである。もし不平を持つた破壊勢力が優勢になり、經



として、この義務を果たすことになるからである。もし不平を持たず、破壊勢力が優勢になり、経

済的窮迫を自己の計畫に利用するならば、世界の何びとも無關心ではゐられないであらうし、また無關心であつてはならないのである。富と財産によつて、他の諸國民の不安に對して優越を感じてゐるやうな諸國民があつた場合にも同様である。洞察と理性がもし勝利を得ないならば、混沌たる形をとるに違ひない大きな社會革命の最後の解決に、苦惱なしに乗り出して行くものは誰もゐないだらう。

ヨーロッパの平和を促進し、安定せしめることは、最初から國民社會主義的統治の努力するところであつた。しかしドイツが、この大きな目的のために強力に盡せば盡すほど、それだけ第一に何といつてもドイツ自身の國民生活、即ちドイツ自身の國民的獨立を強化し、社會の平和を確保することを念頭に置かなければならないのである。

この高い目的のために總統は晝夜全力を盡して、灼熱の努力を續けてゐるのである。その彼の手助けをすることが余の仕事であり、余の確乎たる意志である。この目的の達成に必要な經濟的社會的前提をドイツにつくるために、余はこれに凡てを賭してゐるのである。しかして國民殊に最前線にある凡ての責任者は、力に應じてこれに協力するものと余は確信する。これはわれら國民社會主義者に定められた道である。われらはこの道を力強く進み、以つて同時に

またわれらに課せられたヨーロッパと世界に於けるドイツの使命を果すのである。

(一九三七、五月「四ヶ年計畫」誌所載)

## イタリアとドイツ

全ドイツは、親愛なる總統ヒトラーの美しきイタリア旅行に、心の中で隨伴してゐるのである。そして、明後日、大ドイツ國家の宰相たる總統が、永遠の都市たるオステリアの驛頭で權勢隆々たるイタリア大權の榮光に輝けるファシスト黨首に友情の手を差し伸べる時には、七千五百萬のドイツ人の心臓は、アドルフ・ヒトラーがサヴォイ家、イタリア民族、及びイタリア民族によつて選定せられたる宰相に捧げる感情と共に鳴り響くであらう。そして、世界は、國外在住の全ドイツ人、特にイタリア在住のドイツ人の歡喜の聲をも聞くであらう。相互の尊敬と共同の高い理想から生れた二人の男の友情は、彼等によつて指導せられる民族間の友情以上の雄辯で輝やかしきものとして現れることが出来るのである。

確かに、イタリアとドイツ間の友情は、退屈な代議制的な商議や、民主制的な多數決から發生した條約を基礎とするものではない。この友情は過去の時代の有名無實の文書ではなく、生命の溢れた實現であり、二つの國民の指導者によつて創造され、暴風雨の時代に彼等によつて

固められた友情である。正しき男性の友情の中からこそ、眞の民族的友情が生まれたのである。昨春秋イタリア・ファシスト黨首のドイツに滯留した、あの時のことは、忘れることが出来ない。至上權の所有者たる、かの元帥が、イタリア最初のファシストたる彼が、ベルリンに於けるオリンピック・スタジアムの五月の野でなした、あの驚歎すべき演説は、ドイツ人の心に永久に刻みつけられた。彼がイタリアとアビシニアとの戦争のときに於て、ドイツ民族の示した好宜的、友情的態度を決して忘れないだらうと、彼の民族の代辯者として、力強く心の底からドイツに對する感謝を述べたときには、彼の周圍に天に冲するやうな歡聲が舉つた。それから半年後、即ち數週間前、オーストリアのドイツ國家への復歸に當つて、イタリア民族がわれらの國民的利益について示した理解に對しては、われらドイツ人の誠に感謝に堪へないところであつた。その感謝の念を表はすために、われらの總統は、全國民の心の表白として、彼の歴史的電文をファシスト黨首宛發送したのである。かくしてわが民族は、最近の歴史の決定的な時に於て、ベニト・ムッソリーニとアドルフ・ヒトラーの間に結ばれた、かの友情をよく維持したのである。この友情の結びつきは永久に存続するであらう。イタリアとドイツとを指導する二人の男の意志に従つて、それは永遠に存続されなければならない。

ファシズムと國民社會主義とは相互に信頼し合つてゐる。それは彼等が外面的な形式に於て共通するところを多く持つてゐる、といふ理由からばかりではない。その結び付きの根源は、はるかに深い所にあるのである。それは、ボルシェヴィズムの破壊、憎悪と猜忌、階級的高慢と利害政治とに對する防衛のために、かの二つの光榮ある革命の解放的暴風雨ののちに、同一の地帯から、民族と故郷に對する感情から發生したものである。國民の運命を救済した男たち、民族と祖國に對する、同様に熱烈なる意志と、膽力と決意と、賢明なる政治家的思想と行動と、そして無類の人格的權威とを共に持つ、かの男たちに指導されたる兩國民のうちには、非民族的組織を振盪した創造的な力が再び目覺めたのである。

兩國民は國民的原理に従つて、その經濟を新たに建て直し、發展せしめた。北方に於ても、南方に於ても、勞働と仕事は工場にあつて、能力ある創造的人間が凡ゆる經濟的計畫の中心に居るのである。そのいづれに於ても、個々の人はそれぞれ自己の分野に於て、自己を精一杯生かしつつ、全體に奉仕する一成員として、大きな政治的に規定された民族共同體の必要の中に編入される、といふ具合に構成されてゐる。したがつてイタリアとドイツは、景氣の急變や世界の投機的な術策からも解放されることが出来たのである。彼等は大胆に、決然として運命を

自己のうちに収めたのである。兩民族は、平和的經濟交易によつて、その生産物を交換し、鐵の如き努力と不動の決意とを以て、土地の財寶を國の幸福のために利用する。兩國民は、絶えず技術と科學とを取り入れることによつて、農地面積を擴大し、豐沃ならしめ、新材料を生産し、更に生産源泉を開拓し、かくして國民の國防力及び經濟力を強化した。

ドイツとイタリヤとの經濟關係、それはオーストリアのドイツ國家への編入以來は、兩國にとつて、更に大きな可能性の道を開いたのであるが、それは、高度に發達した經濟と、嚴格に國民的に規定された經濟政策とを持つところの強國間の貿易は、最も繁榮するものであることの注意を喚起する一つの例である。かくて、確固不動のローマ——ベルリン樞軸は、國民的利害は對立する必要なきこと、寧ろ、理解あり友情ある共同作業は、世界平和に對する最も確實なる保證人だ、といふことを雄辯に物語る一つの證據である。

## 大ドイツの國家記念日

本日（即ち）の正午、われらの總統が、この場所で、演説したとき、太陽は密雲をつき破つて、われらにその暖い春の光を投げかけてくれた。この太陽の輝きが密雲を突き破つて流れ出たと同じやうに、また初めて、ドイツから暗雲は、跡形もなく拭ひ拂はれた。ドイツの隅々の土地に、自由の燈火のとほるまで、一人の男は松明を、信念の法燈を、燃やし續けて來たのである。

今や再び松明は燃え續けてゐる。次にわれらは過去に對し感謝を捧げ、未來に對し義務を負ふものである。われらの中央には、白樺の木、解放された東部邊疆から齎された力強い樺の樹が立つてゐる。

この白樺の木は、幼い小さい木のときに、かの第一ドイツ國家、ドイツ國民の國家を見た。この木は、われらの民族と、われらの祖國の成長と運命について、象徴的に物語つてくれる。かれは第一國家の没落するのを見た。その國家は、内面的な力と強度に缺けてゐたばかりでなく、互ひに相刻を續けた無數の王朝に分裂してゐた。それでも外面的には、辛うじて、國家の

版圖は保つてゐた。しかし國內には、種々の勢力が争ひ合つてゐた。ドイツの周圍は、暗闇となつた。

この本は、第二回目に、われらの祖國に太陽の登るのを見た。第二國家は成立した。對外的な力と強度を持つた國家が、ドイツの人々の歡呼の聲に迎へられて、ヴェルサイユの鏡の間に於て建設された。しかも、嘗てそこで生み出されたこの第二國家は、ヴェルサイユの鏡の間で、粉々に打ち碎かれた。それは必然的に碎かれねばならなかつたのだ。なぜならば、第二國家には、結合、統一が缺けて居り、それと同時に最後の試練に堪へるだけの最高の力が缺けてゐたからである。

空位の時期がやつて來た。この白樺の木は、この空位の時期を、當初より崩壞の表徴を持つてゐた分散すべき國家だと見てゐた。無數の黨派や階級や身分は分裂して行き、ドイツ民族を分散せしめた。兄は弟と鬭争を行ひ、人々は五里夢中の間に行動した。極度の自我が前面に押し出され、決定的なのは、多數といふものであつた。

かくして、來るべきものが來た。この國家は没落と崩壞に向つて、猛烈な前進を起した。われらドイツ人たちは、この國家が、ボルシェヴィスト的無政府的瓦解の、戦火と硝煙の中で、



れらドイツ人たちは、この國家が、ボルシェヴィスト的無政府の瓦解の、戦火と硝煙の中で、

將に滅びんとしたことを、心から悲しく、そしてまた眞剣な氣持で感じたのである。

われらの歴史のこの暗闇にあつて、總統は、星辰の中から、われらの世界觀の輝かしき理念を持ち來たり、その理念に燈火をつけ、そして最後に、かの一九三三年一月三十日、空位の時期に、終末を與へたのである。新興國家、第三國家、國民社會主義的國家、アドルフ・ヒトラーの國家は、炎々たる焰を上げて、燃え上つた。

民族がびつたりと鍛接され、鍊接されてゐるときにのみ、一國家は永遠の存立を保ち得、一國民は強力であり得るといふことを、この國家の統率は、教示してくれた。第一の前提と洞察は、即ち、この第三國家の基礎は民族協同體なり、といふことであつた。

民族は、諸々の黨派や身分や階級の全般に亘つて包括された。誰しも、民族は永遠なりといふ認識を獲得した。民族のみが決定的であり、その繁榮と不幸こそ、指導の正しい方向であらねばならないといふ、この認識は、國家の絶対安定を守るための根柢である。國民への奉仕、民族への奉仕は何よりも貴重である。

われらが、ドイツの或る地方は無敵なりといふならば、それは決して空辭ではない。今日では、二つの組織が、民族の最高の統一を物語つてゐる。總統の意志よりして成立した、新国防

禦力は、彼の力によつて鍛へられ、彼の決斷によつて、形成された。この軍隊の統一の前提としては、ナチス黨があり、政治的統一の前提としては、ドイツ國がある。

黨派といふものは無敵にして、且つ、ドイツ民族に永遠性を賦與するところの政治的統一意志の擔ひ手である。防禦力の統一、黨派の統一は、民族を新しく形成するための前提であり、そして、第一國家が崩壞して以來、善良なるドイツ人たちが、育み續けて來たかの夢、東部邊疆を再び獲得し、オーストリアの兄弟と共に、一國家を作りたい！といふ、かの夢を、實現せしめたほど強烈な光を放つ、あの力を、第三國家に賦與するための前提であつた。

この白樺の木は、この統一せる大ドイツ國家の象徴として、われらの前に立つてゐる。今や彼は、その最後の運命を経験しつつ、ドイツ民族協同體の記念日に、幸福の木として、光り輝いてゐる。この木と一緒に、東部邊疆の兄弟たちは、彼等の願望、心からの願望を、われらのところへ送つて來た。彼等はこの木と一緒に、その國家への復歸の歡呼を送つて來た。

この木と一緒に、彼等は、この國家を創つた人に對する、量るべからざる感謝の情を送つて來た。「われらはらはや、數百萬のドイツ人に壓迫されるのを我慢はしない。理由は、單に彼等がドイツ人であるからだ！」といふ總統の言葉は、全ドイツ人にとつて極めて重要であると

等がドイツ人であるからだ！」といふ總統の言葉は、全ドイツ人にとつて極めて重要であると

いふことを、世界は認めてゐる。われらは、ドイツはその同胞に對してのみ責任を持ち得るといふことを、世界に示した。ドイツ人が、ドイツ人のもとに來るときは、些かの民族問題はない、ドイツの爲すべきことはただこれだけである。

われらが四月十日に發表した、ドイツは一つなり、ドイツは強力にして無敵なり！　といふかのドイツ主義の絶對的信條が、このことを示して來た。われらの所有してゐるものに對しては、われらは、最大の犠牲をも辭さない準備が出來てゐる。

ドイツの強さは非常に巨大なものとなつてゐる。それは第三國家になつた數年間、嘗てないほど、勤勞が行はれたからである。かくしてわれらは、新しき故郷を作り上げた。かくしてわれらは、ドイツを安全ならしめるに必要なる、新防禦力、ドイツ勞働戰線、その他あらゆる組織を作つた。

この事業の無双の成果の中から、われらはただひとつ、更に事業を續行する義務を引き出すことが出来る。われらが、この年々、ドイツの安全を保證しようと、準備してゐたときに、われらはまた、この安全は、益々強化されねばならないといふことを知つたのである。われらの周りの民族は、如何にして武裝するか、如何にして、全世界から飛行機を買ふかを、われらは

見、戦争に對する不信を堆積するのを見てゐる。そして、自分に、なぜさうなるのかと問うてみた。

ドイツは、ドイツだけで充分である。ドイツは、安全にされるならば、それ以外の何物をも、生活と勤勞によつて欲しようとは思はない。ドイツの創る價值は、ドイツ民族に有利なものとならなければならない。國民の安全を實現すために、凡ゆることを行ふといふ誓約、われらはこれを、ここで宣言したのである。そしてここへ來ることの出来ない、他のすべての人々に對しても、各ドイツ人の義務は、その民族の最高の献身である、といふことを表明して置かうと思ふ。

われらが、この數年間、勤勞を行ひ得たのは、ドイツ労働者の労働に價值と榮光とが認められ、彼等が完全に、民族と國民の中に入つて整頓されたからであつた。

他の國や他の國民にあつては、五月一日は労働も休む。しかし、それはわれらとは、別な意味を持つのである。統一の表徴、民族協同體の表徴ではなく、階級闘争の表徴、骨肉敵視の表徴に於てである。

彼等の周圍にあるのは、困窮、同盟罷業、失業、階級闘争、階級敵視である。このやうな國

彼等の周圍にあるのは、困窮、同盟罷業、失業、階級闘争、階級敵視である。このやうな國

に於ては今日到るところに、警察が出動し、軍隊が待機してゐる。わが國に於ても、嘗てはこのことを體驗したことがあつた。

しかし、國民社會主義的國家に於ては、全民族は祝福して休業し、互ひに嬉々としてゐる。軍人も、人々と一緒に祝つてゐる。この民族の息子として、彼は労働と歡喜に參與してゐるのである。かくして、民族共同體は成長して行く。この日を重ねる毎に、人々が民族共同體の最高の幸福よりも、より一層樂しみ得るやうな、偉大にして榮光あるものは何もない。民族協同體を保持し、祝福するために働くといふことは、來るべき年の合言葉である。

この合言葉を以て、われらは、この暗い夜の闇の中に立つてゐる人々と手を結び、そして、大氣を通じて、われらと結ばれた人々と共に、總統への熱き感謝を捧げるものである。われらは、彼が何を、われらに贈つてくれたかを知つてゐる。この統一といふ高價な贈り物こそ、彼の最初からの事業であつたといふことを、われらは知つてゐる。

今日再び、東部邊疆が、國家の礎石となつたといふことを、われらは、深く彼に負ふものである。彼は再びわれらに、信念と期待と自由と名譽を與へてくれた。アドルフ・ヒトラーは、最も激しい窮乏から、その民族を輝かしい光のもとに持ち上げ、窮乏から歡喜へ、無力から強

力へと持ち上げた。ドイツは再び偉大となつた。ドイツは再び美しくなつた。ドイツは再び統一あるものとなつたのである。

(一九三八、五、一、ルストガルテンにて)

## 四ヶ年計畫の課題

第二次四ヶ年計畫の問題とするところは、何故、總統は第二次四ヶ年計畫なるものを、ドイツ民族に課せんとするか、この點に就いては、一點の疑點を残さざるほど明確に、總統がニュールンベルグに於て宣明してゐる。總統は、これが完遂を余に委嘱した。全ドイツ民族に對して、本日余はここに、協力一致、以つてこの課題解決に、最大の美果を收むべき方法を指示しようと思ふ。

第二次四ヶ年計畫とは抑々何であるか。余は、その目標とするところを、ただ一つの根本命題に要約しよう。ドイツの榮譽の確保とドイツの生命の安固、即ちこれである。

まことに明確なる目標である。今日ドイツの生命とドイツの榮譽とが如何なる程度に確保されてゐるかをわれらは知る。しかしてまた、それらが第二次四ヶ年計畫を通じて、ドイツ國家の經濟力擴充強化により、未來永劫、磐石の基礎の上に置かれねばならぬことを知る。

余の本日の演説の目的は、余の考へ、意圖するところを説明するにある。われら國民社會主

義労働者黨員は、萬事を、民族の面前に於て、民族と共に、しかして民族の只中に立つて、遂行することを信條とする。故に余は本日ここに、ドイツ民族に對し、如何なる方途によつて協力することが出来るか、また協力せねばならぬか、といふ點を説明しようと思ふ。余の有する全權は、總力を結集し、それを偉大なる、この國家目標達成に専ら差向けよ、との總統の委囑に基いてゐる。

先づ、今日の現状から話を進める。第一次四ヶ年計畫は實に大いなる業績を舉げた。ドイツ國家が再武裝の自由に奪還し、ドイツ國家が、今日元通りに意志の鐵壁と新生國防軍の力によつて守られてゐる、といふこの事實が何を意味してゐるかは、われら一人残らず知つて居り、全世界も亦それを知つてゐる。

總統が、ドイツ農民再建の大いなる闘争を呼び掛けた、あの當時の打ちひしがれた農業狀態を、誰か想ひ起さないものがあらうか。しかるに今日農民は再び自己の田畑を確保して、安居樂業してゐる。この再建闘争と並行して、未だ嘗て、如何なる民族も戰つたことのない強烈なる勞働獲得闘争が戰はれた。七百萬に垂んとする失業者に、仕事とパンを與へなければならなかつたのであるが、この問題も殆ど完全に解決されてゐる。



かつたのであるが、この問題も殆ど完全に解決されてゐる。

國內の人々が、疲れ切つた身を戸口から戸口へ運んでゐた、あの當時の、想ひ出しても身懷ひするやうな失業苦を、誰か想ひ起さないものがあらうか。當時は、朝になると又希望を抱いて出掛けて行く——ところが、夕になると定つて手ぶらで暗い氣持で歸つて来る、といふ風であつた。しかるに、今日では數百萬の人々は、再び職に就き、パンを得てゐる。經濟界は活況を呈し始め、工場は續々再び作業を開始し、壊れかかつた工場の、開けたまゝの窓から風が吹き通してゐる、といつた状態は克服された。到る處に、再び動輪の唸りが聞かれ、到る處にハシマーの響が聞かれる。しかし就中、この點こそ根本であるが、ドイツの自由とドイツの榮譽とが、過ぐる四ヶ年間に恢復されたのである。

かくて、ドイツ史の最も悲惨なる一章は閉ぢられた。ドイツの汚辱と不名譽、ドイツの逼迫と窮乏の頁は引き裂かれた。新しき章は、自由と榮譽、これこそ第三國家の基礎である、といふ根本命題を以つて開かれた。

したがつて、これら内政上の成果に、外交上の成功が隨伴したことは、また以つて當然のことであつた。嘗てドイツは、不和と階級闘争によつて國內が分裂し、そのために無力化し、列強は寄つてたかつてドイツを苦しめ、ドイツは全歐洲の債務奴隸であつた。しかるに、今日に

あつては、ドイツは國內が一致團結、強力にして國防力充實、再び全世界が、その存在を無視し得ざる強國となつてゐるのである。

經濟の領域に於て、偉大なる業績が達成されたことは、今述べた通りである。だが、更に一層業績を擧げねばならぬのも亦、この經濟の領域である。ドイツの經濟はもつと強化せねばならぬ。ドイツを他國依存から脱却せしめねばならぬ。過去幾年かの間に、この經濟の領域ほど健康さを取り戻した領域は他にない。實にヴェルサイユに始まつて、ドイツの衰退は斷ち難き絆の如く綿々と續いて、完全なる經濟的窮乏と荒廢を招來し、遂には窮迫の極、悲慘の極に立ち至つた。われらは數年間、その塗炭の苦しみを生き抜き、今日漸く、その慘苦の一部分を忘れ得るまでになつた。蓋し、第一次四ヶ年計畫の業績は大いに擧がり、過ぎし惡夢の時代は遙か遠方に遼のき、われらはもはや、思ふだに慄然たる過去の、あの時代を想ひ出さなくともいい、また想ひ出したくもない状態となつたからである。とはいへ、この事實は絶えず繰返して指摘されねばならぬ。蓋しそれは、かかる變革を成し遂げるために總統が、巨大なる運動が爲さねばならなかつた事柄を、各人銘々、はつきりと腦裡に刻んでるなければならぬからである。

ユダヤ人に押取られ、マルクス主義の階級意識に引きちぎられたドイツの經濟は、ドイツ

ユダヤ人に搾り取られ、マルクス主義の階級意識に引きちぎられたドイツの經濟は、ドイツ

の勞働者を悲慘と失業に突き落した。その結果、ドイツの勞働能力は、凡ゆる分野に於て荒廢された。したがつて、それが再建には、巨大な努力が必要であつたのである。

再建の運動は何を約束し、そして第一次の四ヶ年間に何を得たのであらうか。それは何を爲し遂げたのであらうか。この點に就て、われらは常に誇らかに斷言することが出来る。實に奇蹟である、偉大なるドイツの奇蹟が過ぎし四年間に起つたのである。昔と今、それは深き淵を以て隔てられてゐる。この四年間に於て、ドイツ民族の打つて一丸となつた力によつて、アドルフ・ヒトラーの天才的指導によつて、黨指導部と國家指導部との緊密な協力によつて、實に大きな事業が成就されたのである。

しかしながら、われらは、この成功に安んずることは許されぬ。われらは、更に前進し、總力を發揮すべき義務がある。

世界の政治經濟情勢は、ドイツに一刻の偷安をも許さぬ。この點をわれらは、はつきりと認識して居らねばならぬ。今日に於ても尙われらには日向ひなたの場所が與へられて居らぬことを知らねばならぬ。自ら助けない限り、誰一人進んでわれらを助けてくれる者もないことを知らねばならぬ。われらは、われら自身の力によつて、これまでに成つたのである。今後亦われらは

われら自身の力によつて進むのである。敵意を籠めた報道や中傷が、如何に屢々、ドイツの實情を歪曲して述べようと、それによつて妨げられるやうなわれらではない。現在ドイツ民族の狀態は甚だ惡化してゐる。だから第二次四ヶ年計畫を發布するのだ、などと書かれたものを讀むこともあらう。またドイツはすべての原料を持たないが、ドイツは原料を手に入れることを欲してゐる、ドイツは世界の資源の分前を欲してゐる、と非難の意味をこめて述べたてる者もある。これに對して余は答へる。然り、われらは分前を欲する、しかして將來分前を得るであらうと。

それは非難の理由たり得るであらうか。われらが生活手段を充分に生産し得ないことを以つて彼等はわれらを非難せんと欲するのか。われらが國內に有する原料が餘りにも少過ぎる、といふことは寧ろ不名譽なことではないか。世界は、彼等がわれらに對して拒んでゐるものを、われらが平和的方法によつて取り戻さうとしてゐることに、感謝すべきである。

われらは植民地を持たぬ。不幸なりし敗戦ののち、彼等はわれらから植民地を取り上げたのである。彼等はわれらに次の如く説明した。即ち、原料が欲しければ御隨意にお買ひ下さい。そして金で御拂ひ下さいと。確かにわれらは、彼等が金を、一切合財搔つ浚つて行くやうなこ

そして金で御拂ひ下さいと。確かにわれらは、彼等が金を、一切合財搔つ浚つて行くやうなことをしなかつたなら、進んで金で支拂つたであらう。ドイツを身ぐるみ剥いで、血も出ないやうにしてから、さて、植民地が欲しければ金で買ひなさい、とはまるで人を嘲弄するものだ。金を返して呉れ、そしたらわれらは金で拂つてやらう。

世界が、ドイツに對して拒まんと欲するものを、われらは出来る限り、われら自身の力によつて作り出さうと欲する。そのためにわれらは全力を傾けてゐる。これがドイツの弱さの現れであるならば、彼等は直ちにさうした判斷を訂正せねばならぬ破目になるであらう。

われらドイツ人は、この數年間、同胞民族の育成に努めて來た。植民地を持たないとはいへ原料を持たないとはいへ、ドイツは、あらゆる障害に拘らず、秩序と知足と文化の國である。われらは、それをはつきりと辨へてゐる。總統は、この點をニールンベルグで、次の如く宣明した。即ち、如何にあらん限りの力を傾注するも、一切の生活手段をドイツ國內で生産することは不可能である。今やドイツには、一平方軒に百三十六人生活してゐる。植民地のたつた一かけらでも持てば、——他國は有り剩るほど持つてゐるが——われらは原料不足、食糧不足を口にしないであらう。神はわれらに今日の如きドイツを與へられた。故にわれらは出来る限りよくやつて行かねばならぬ。

われらは、過ぎし數年間、時々見舞つた逼迫の原因を知つてゐる。何故、すべての生活手段が常に豊富に與へられないか、その理由を知つてゐる。この點に就いても總統は宣明した。即ち數百萬の人間に再び仕事を與へ、以つてかれらが再び奉仕出来るやうにし、その奉仕によつて生活手段を購ひ得るやうにすることが出来た好運が、われらに與へられたからである。そのため消費の増加が生じ、この消費は、それを充足せしめることは容易でなかつたが、しかし今日まで充足せしめられて來た。

しかし、今後はどうなるであらうか。國內の農地を極力増加せしめても、それから極く僅かしか生産することが出来ないであらう。勿論、われらは更に更に、生産増加に努めるであらう。國家食糧團フイヒスネールヘルゲンに向つて、ドイツの土地の最後の一片までの利用に、全力を傾注するやうに呼びかけるであらう。われらは更に、耕地改善を圖り、肥料増投によつて生産力を高め、以つて生産額の増加を圖るであらう。更に又、組織を改善して、生産者から消費者への物資の配給を一層迅速、且つ圓滑ならしめるであらう。しかしながら、これら一切の手段を講ずるも、現在の需給の懸隔を完全に解消することは出来ないであらう。

ドイツ國內の收穫を常に確保することが、最も重要な課題の一つであることは云ふまでも

ドイツ國內の收穫を常に確保することが、最も重要な課題の一つであることは云ふまでも

ない。現にわれらが見てゐる如く、<sup>ルムバイツ・エーレンシュト</sup>勞働率仕團を日々收穫作業に差し向け、收穫物を倉庫に搬納する方法は、既にこの分野に於ける各種所管當局の協力によつて、成功してゐるのである。

ドイツの農業經營者及び農民は、何よりも先づ次の一事を、即ち、ドイツのパンの穀物は、全民族の扶養維持を確保するものであるが故に、實に神聖なる財産である、といふことをはつきり理解しなければならぬ。一體、パンの原料たる穀物以上に民族扶養上、重要なものがあつたであらうか。ドイツ農民諸君よ、わがドイツの土地の、この神聖な寶を投ふには、慎重の上にも慎重を期せられたいのである。

肉類が缺乏するであらう。食糧の、この方面に於ても亦、時々逼迫を來たすことを豫想せねばならぬといふことを聞かされる。この方面に於ても、あらゆる對策が講ぜられるであらう。われらは、飼畜増加のため、根本條件の改善強化を圖るであらう。しかし、先づ着目すべきものに、獸肉以外に優秀な物がある。即ち魚肉がある、したがつてわれらは、獸肉が逼迫する場合には、魚肉を充分に供給するやうに努めるであらう。

パンと肉はさうするとしても、なほ脂肪類の供給が甚だしく不足する。この脂肪類に就いては外國の需要が實に大きく、従つて各人に對し、高度の消費制限を必要とするであらう。しか

しながら、われらは、この點に就いても生産増加對策を怠らないであらう。今日のドイツは、  
屑を捨去つていいほど豊かではなく、これらの屑は集めて、都市の脂肪再製所に送らねばなら  
ぬ状態であることを、各人が理解し、それに協力するならば、脂肪類に關する状態も改善され  
るであらう。

しかし、最も重要にして決定的な點は、貧しき者及び特に重労働者に對して、彼等が生活力  
維持と労働のために必要とする物を、萬難を排して確實に供給する、といふことである。萬難  
を排して、貧しき者に脂肪類を安く豊富に供給せねばならぬ、といふ總統の宣言は、余にとつ  
て神聖な命令であり、それは萬難を排して完遂されるであらう。われらは、この事業を、購入  
組織を通じて、切符なしで遂行することが出来るであらう。各人が充分、自肅自戒する場合に  
は特にさうである。決定的な點は、各人が満ち足り、一人の飢ゆる者もないやうにする、とい  
ふことである。現在諸君に余から希望するところは、ただこれだけである。

偉大なる事業を達成せんと欲するならば、須く各人が、若干の制限を甘受しなければならぬ  
ことは自明の理である。この點に就いては、余はドイツの家庭の主婦に訴へる。主婦の双肩に  
は大きい責任がかかつてゐる。主婦は、先づ第一に榮養を献立表に盛らねばならぬが、それは



季節々々に應じたもの、手許にあるもの、自國の生産を昂めるやうなものでなければならぬ。その時期に、自然が買いでくれぬやうな物を買つたり、手に入れたがつたりするのは、罪である。立派な臺所奉行は、特に、この點に氣をつけて貰ひたい。以前には、冬期、態々舶來の柔い野菜を食卓に上せたり、いつも、その時「無い物」を食卓に供することを以つて、禮儀と心得てゐたやうな風があつた。

しかし、われらは先づ第一に、わがドイツの土地が、われらに贈る物を用ひることにしよう。次にわれらは、その時々<sup>、</sup>の供給狀態を適時に發表し、以つて主婦たちが豫め事情に通じ、今時どんな食べ物があるかを知つてゐるやうにしよう。さうすれば主婦たちは、幾時間も家を空けて街頭に待つ必要はなくなるであらう。

もう一度要約して述べよう。第一には、國內の生産物で間に合ふ食料を使ふことである。さうすれば、逼迫は比較的容易に切り抜けられる。この種の逼迫は、普通、季節的原因によることが多い。しかし、それは他の方法では全然埋め合はせがつかぬ。卵、バター、牛乳の如きは、われらの力によつて、その生産を著しく左右することの出来ない品物である。鶏が多く卵を産む時季と、少ししか産まぬ時季がある。牝牛が乳をよく出す時季と、出さぬ時季がある。これ

を自然が作つたのと違ふやうに作り直す能力は、不幸にして人智に恵まれてはゐない。牝鶏が卵を産みながらぬ時に、卵を産まして取ることは、誰も出来ないのである。

この種の供給逼迫、この種の所謂食料不足の特徴は、今言つたやうなものである。足りないとなると、どうしても、それを手に入れねば氣が済まぬやうな國民が、まだ居るのは遺憾である。彼等は卵を食べようと思はない時でも、手に入れようとする。卵飢饉だと聞くと、あつちこつち騒ぎ廻つて、卵を手に入れようとする。冬の眞最中に、麥稈帽子が少いだらうと、誰かが話してゐるのを今日小耳に挿んだら、もうその翌日は方々驅けづり廻つて、一打もの帽子を買ひ込む、といったのはその連中である。

一番重要なことは、廣汎な國民大衆が力一杯働くことが出来、物を創造することが出来るに足るだけの食料を入手する、といふことであり、この點に對しては余が責任を負ふ。余はそれを確實にするであらう。この點でも余はニールンベルグに於ける總統の言葉を想ひ出す。「脂肪類や卵が足りないといふことは、さう重大なことではない。それは我慢することが出来る。しかし、われらがドイツに失業者を無くしたといふこと、われらがこれら數百萬人を窮乏と無爲と墮落とから救つて、再び人間らしい人間としたこと、これこそ實に大いなるものである。」

にも拘らず僅か數個の卵、僅か一封度のバターを進んで我慢しようと思はぬ者は、ドイツ人たる資格がない。

原料の分野に於ても同様である。われらは勿論原料が不足してゐる。ここでも主な原因は、われらが現在植民地を持たぬ、といふことである。しかし余は、われらは現在植民地を持たぬ、といつてゐるだけでは到底満足することは出来ぬ。だからわれらは、努力し、われらの科學者及び技術家の發明の才能によつて、自ら原料を作り出す努力と工夫をしなければならぬのである。しかしてこれが、余及び余と共に責任を分つ人々の、達成しなければならぬ主要任務の一つである。各方面に今後まだまだ偉大なる業績を擧げ得る餘地がある。しかし余は、かく言ふと共に、この點に關し非常に多くの事業が、その一部分は非常に偉大なる業績が、經濟大臣にして國立銀行總裁たるシャハト氏、並に總統より任命された前所管長官ケブレル氏によつて果されたことを強調して、感謝の義務を果たしたいと思ふ。兩氏によつて偉大なる仕事爲し遂げられ、余はその業績を基礎として、これを完成せんとしてゐるのである。

しかし刻下當面の問題は、實驗並に大規模實驗の域を脱して、研究の成果を力強く實行に移すことである。近き將來に於て、國產物資からゴムを製造する工場、植物纖維から衣料纖維を

作る工場が建設されるであらう。諸外國がわれらを閉ぢ込めることは出来ぬ、われらを縛することは出来ぬ、といふことを悟りさへしたならば、それらのものをすべて斷念したであらう。

神のみぞ知らん、われらはもつと成果多き仕事を果すことが出来たであらうし、理性の世界經濟原則の世界に於て、貿易を行ひ、財貨を交換する方が、現在の如き氣狂ひの世界で自分ばかりを頼りにしてゐるより、われらにとつて事は確かに簡單であつたらう。

われらは、今や石炭からベンジン及び鑛油を製出してゐる。秘密を一つ諸君に教へるが、われらは既に非常に芳香性のある石鹼さへ、石炭から製出することに成功してゐる。このほか、ドイツの天才、ドイツの發明精神、ドイツの實行力、ドイツの炯眼によつて製出に成功したものは、話さうと思へばまだいくらでもある。現在、これらの仕事に携はつてゐるものは、過去に於ける業績のために非常に高く尊敬せられてゐる。

次にわれらは、國內の鐵並に、その他の金屬鑛脈を一つ残らず開發するであらう。決定的に重要なことは、いつもながらただ、事を成就せんとする意思、これである。從來からの合金にして、原料不足のため供給逼迫してゐる場合には、われらは、同じやうに役立つ新しい合金を

作り出すであらう。輕金屬特にアルミニウムの分野に於ては、われらは、利用し得る原料を無盡藏に有してゐる。石炭と木材と金屬鑛石の三つは、將來原材料を國産化する工場が、依つて以つて立ち得る基盤となるであらう。

實に大いなる計畫である。巨大なる建物、巨大なる工場が建てられねばならぬ。それは即ち、ドイツは斷じて屈服するものではない、ドイツは飽くまで生き抜かんとする意思を捨てず、自らの運命を作つて行くものである、といふことを全世界に示さんがためである。かくしてこそ、更に今後のドイツ經濟の巨大な昇揚は達成されるであらう。しかしここで、これに參加する各人は、次の一事を忘れてはならぬ。即ち個々人のためではなく、少數人のためではなく、——すべての者のために、ドイツ民族のために、といふことを忘れてはならぬ。

それは、すべての者が協力するときにのみ出来ることである。それは、各個人が古き觀念と手を切り、新しきものに對する怯懦を、決定的に克服するときのみ完遂され得るのである。しかし、その新しいものが、いつも舶來ものであつてはならぬ。ドイツの新しき物は、それらに匹敵するやうになるであらう。國産を誇れ！ドイツの頭腦とドイツの腕が作つたものを誇れ！ 衿高自負の精神を持て！いつまでも外國の追隨に墮してはならぬ。自らを力強く信ぜ

よ、自らの國民を固く信ぜよ、これがわれらのスローガンでなければならぬ。

次に余は、財界に對して一言するならば、財界は大きな、非常に大きな責任を有してゐる。したがつて個々の企業經營者、實業家は、國家が發案し要求するのをいつも待つてゐるばかりであつてはならぬ。この事業を支持するために、自ら進んで方法手段を探究し、努力の出し惜しみをしてはならぬ。企業經營者諸君は、財界の自由なる創意といふことを常に言つてゐる。ここに創意を發揮すべき點がある。

全ドイツ民族は協働せねばならぬ、すべての者が共に相携へて事業に立ち向ひ、努力を傾けねばならぬ、と余は言ふが、この場合、一つの事柄をよく理解してゐなければならぬ。即ち四ヶ年間に、この計畫を完遂せんがためには、四ヶ年間に缺乏と逼迫狀態を克服せんがためには、何かここに起らねばならぬ。しかし、その何かは獨りでにやつて來るものではない。われらが努力によつて、それを作り出さねばならぬ。作り出すものとして、一番必要なのは工場の新設である。建物であつて、それには勞働者、煉瓦、その他の建築材料が必要である。したがつて又、如何なる種類の建物がドイツ國刻下の急務であるかを、慎重考慮決定することが必要となつて來る。焦眉の急を要するものは就中、軍備に必要な建物、四ヶ年計畫遂行に必要

な建物、労働者の定住に必要な住宅であり、この他にも尙色々ある。したがつて、われらは急を要する程度により、或る順序を定めて、それに準據し、それに要する必要なる前提條件を供給しなければならぬ。

わがドイツの總労働力を結集して、情熱的に打ち込んで行くことがなければ、この事業はもう最初から不可能であらう。今日既にわれらは、如何にすれば労働力不足を克服し得るか、といふ問題に頭を悩まさねばならぬやうな状態にある。各國民が色々違つた悩みを持つてゐるといふことは、この點にも現れる。われらの悩みは、充分な労働力をどうして得るか、といふのである。他の國民の悩みは、どうして失業者に職を與へようか、といふのである。われらの悩みの方が確かに優れたものであると余は信ずる。

刻下の問題は、如何にして必要なる労働者を吸集するかである。ドイツの労働者は、働いて働いて働き抜くときにのみ、何等の不和爭論を起さず、事業経営内が平穩であるときにのみ、われらが、この事業を完成するまで、朝から晩まで營々として物が製造されるときにのみ、初めて總統の、この計畫を支持してゐるのだ、といふことを、はつきりと理解して居らねばならぬ。労働平和を維持することが刻下の必要事であることを、各人はよく理解して居らねばなら

ぬ。工場内は喜びと創造の愉悅が支配して居らねばならぬ。非難中傷は出て行け！ そんなものを容れる餘地はドイツにはないのである。

この事業を完成するために、われらは現在貨銀水準を高めることは出来ない。それは不可能である。余はこの點に關する總統の言葉を讀み上げよう。「貨銀を二割、四割、或ひは五割引上げるなどとは、國家指導部及び經濟指導部がやらうとすれば造作なくやれたであらう。しかしながら、生産増加を伴はない貨銀引上げは、嘗て一度ドイツ民族が苦しめられた自己欺瞞である。貨銀を高める一方、出來れば勞働時間を短縮する。即ち生産を制限するといふことは、國民社會主義的經濟思想からすれば、狂氣の沙汰である。蓋し、國民の貨銀總額は、消費され得る總生産物に配分されるからである。總收入が一割五分増加し、總生産額が一割五分減少すれば、この貨銀値上は、各個人の生計に何らの好影響も齎さず、却つて生産の減退のために、貨幣の完全なる減價を來たすであらう。しかしてこれこそは、嘗つて一度われらが不名譽にも經驗したと同じ踊りであらう。」

わがドイツの勞働者に、何故それが必要であるかといふことを、はつきり理解せしめる必要がある。如何なる場合にも貨銀問題に關し指導的立場に立ち、和解せしめ、經營とその平穩に



對して責任を負ふのが、國家より任命された者の任務であるが、それと同様に、ドイツ労働戰線は、その巨大なる全組織を擧げて、この計畫のために役立たしめなければならぬ。労働者に世界觀を叩き込むばかりでなく、絶えず彼等をして偉大なる目標に思ひを致さしめ、總統が彼等に要求するところを絶えずつきり理解せしめ、ドイツを立派なものにするのは、彼等の双肩に懸つてゐることを知らしめねばならぬ。

ついでに一言するが、ドイツに於て建設の證明があり、スペインに於て破壊の證明が眼のあたりにあるにも拘らず、今日なほ共產主義を奉ずるが如き者は、もはや馬鹿者扱ひにして許すわけには行かぬ。さういふ人間は惡人であり、今後も惡人たらんと欲するものであり、破壊を欲するものであり、建設などには見向きもしない人間である。

さて、われらは、固定せる貨銀を労働者に求めるが、これは、固定安定せる價格を前提とする。この點に關しても、われらは、われらの意思の全情熱を傾けて努力するであらう。總統は價格監督官に、古き國民社會主義労働者黨の闘士を任命した。余は同氏に必要な方針を與へ事情如何を問はず、如何なる價格騰貴をも阻止し、且つ必要な場合は、高價格を引下げる全權を賦與するであらう。現れた徴候を直ぐ、正しく、且つ見透しをつけて把握すること、これ

が最善の手段である。困難が近づきつつある、といふ徴候を適時に見て取らねばならぬ。困難を認識すれば、その困難は克服されるものである。

價格監督官は、その活動分野に横化する流行病を攻撃絶滅する全權を賦與されるであらう。流行病とは、現在のわれらの状態と同じ状態に於ては、どの民族にも付き纏つて害をなす流行病、根こそぎ絶滅されねばならぬ流行病、即ち、呪ふべき買溜めのことである。買溜めする者は自らの民族を汚し、自らの民族を害するものである。使用する以上の物を蓄藏する者は、それだけ他人から奪ひ取る者であり、非國民である。價格を吊り上げる者も同斷である。蓋し彼等は民族に對する、もつとひどい犯罪者であるからである。即ち、彼等は自己一身のことだけしか考へず——彼等にとつては自分の腹が神である——思ひを致さねばならぬ筈のドイツ民族のことを、少しも考へない者である。

價格監督官の任務は、絶えず凡ゆる價格を監視し、且つ繰返しこれを確定し、以つて價格として適正ならしめ、或ひはこれを私利私慾と絶縁せしめるやうに常に監督することであらう。やるからには斷乎として突進する。余はただ、かう言ふことが出来るだけである。即ち、景氣やドイツの繁榮を、私的的目的に利用せんとする如何なる企圖に對しても、余は敢へて峻烈斷平

たる手段を以て、兎も角これを弾壓するものである。このことを余はドイツ民族に對して誓言する。

開取引をやる者も、その仲間である。彼等も亦、これからは今までのやうに、簡單にはやれないことを覺悟すべきである。公定價格乃至は最高價格が決められると直ぐ、商品を賣り惜しみ、商品を隠匿し、突如たる商品飢饉を出現せしめる者も、その仲間である。今日、或る商品が極めて圓滑に購入され得ることを見届け、明日公定價格乃至は最高價格が決められると、遂端にその商品が姿を消してゐる、といふ事態を見たならば、余はその商品を捜査せしめるであらう。われらは、さういふ蛆虫どもに對しては、商品を沒收するだけに止まらず、彼等の存在をも抹殺するであらう。何も、それを怪しむ必要はない、正に當然である。ドイツの財産を盗まうとする者、ドイツの財産を奪ひ去らんとする者に對して、われら、その財産を取り上げがこれをドイツ民族に返すのは、正に當然なことである。

この任務は達成されるに相違ない。なせならば、われらがそれを欲するからであり、しかしわれらが國民社會主義労働者黨員であつて、われらの欲するところを完遂するだけの力を持つてゐるからである。したがつて悲觀は無用である。誰かが本氣で惡口を云はうと、それは全

然問題にならぬ。われら今までも惡口されて來たが、それでも活動して來たのである。活動、これだけが重要な問題である。多くの法令がお氣に召さぬとき、冷然と罵る者もあらう。だがしかし、法令は何處までも遵守せられねばならぬ。これが決定的な點である。

われらは、健全にして颯爽たる樂觀的精神を以つて事に當らねばならぬ。なぜなら、物事を作り上げて行くために必要とする清新にして、悦びに満ちた勞働の力は、樂觀的精神のみがよくこれを供給するからである。われらは、わが民族を信賴する。われらは、わが民族が偉大なるものになることを知つて居り、偉大なる未來を有することを知つて居る。したがつてわれらは、この道を進まねばならぬことを知つてゐるのである。

以上述べて以つて余は、ここに最大の決定點に觸れよう。余は今日、ここに四ヶ年計畫の完遂を自己の任務として取り擧げる。それは即ち今日われらが零度の地位に立つてゐること、最下點に立つてゐることを意味する。今日の缺乏が最大である。それはわれらが押し切つて通らねばならぬ附路である。半年經過すれば事態は微少ながら改善されるであらう。なぜなら、われらが實施する多くの方策が、半ヶ年のうちに作用を始めるからである。一年經過すれば、われらは二三段、階段を登つて居り、それから次々と登つて行くのである。決定的に重要な點は

余が、はつきりとした目標を諸君に示すことが出来、又さうすることを許される、といふことである。それは昔のジ・スチーム時代（註一）とは異なるのである。その時代には諸君は、犠牲に犠牲を要求され、繰り返し流血の運命に遭ひ、始終税金ばかり拂ひ、始終金ばかり出す運命にあり、しかもいつまでも、底の無い桶の境遇から抜け出すことが出来なかつた。當時にあつては、ほんの束の間だけ照した、それも甚だ覺束ない銀條のほかには、いつかはよくなるだらうといふ希望の光りは射さなかつたのである。しかるに今日に於て、われらは、はつきりした目標を目に見てゐる。即ち、目標は其處にある出發點は此處にある。此處をわれらは乗り切らねばならぬ。此處さへ乗り切れば、やがてわれらは自由の丘に出るのだ。實に明瞭そのものである。したがつて、余は本日、ここに於て空手形を振り出す必要は毫もない。余は、それが達成に努力する、確乎たる目標を示すことが出来るのである。さうだとすれば、肉が暫くの間少くしか手に入らぬ半ヶ年が一體何であるか。物資の購入が今暫くの間むづかしい半ヶ年が一體何であるか。それは決して究極的なものではない。それは、われらが、これから迎へんとする大いなるものに比すれば、笑ふべきほど小さなことである。

今日ドイツは物資が不足してゐる。或る種の原料品、食糧品が充分にはないが、この状態にわれらが満足せず、ドイツに物資が充分にないからこそ、われらは、その乏しき物の配分について、天才的な計畫を樹てようとするのだ、と叫ぶのが、余及び余の協働者の任務である。この點について余は一刻も無駄にしない。否、われらは努力し、考へ、活動し、配慮し、更に終始繰り返し、現在足りないものをドイツ民族のために、どうしたら作り出せるかに就いて工夫するのである。足りないものを作り出す。これがわれらの任務であり、この任務のためにわれらのエネルギーを傾注し、われらの決斷力を振はねばならぬ。この事業に國民擧つて協力せねばならぬ。なぜなら、わが民族は地球上の他の、民族よりも劣悪な状態にあつてはならないからである。足りないものを、限られた短日月の間に作り出さんがためには、われらは一時的な購買制限を甘んじて受けるであらう。

ここに於て、余は今一度すべての人に要請する。余の命令と手段に従はれたい。命令が萬人によつて遵守されることが必要である。萬人が裏心から進んで命令を遵守すること、各人が總統に手助けしてゐるのだ、ドイツに手助けしてゐるのだ、といふ感情を抱くこと、これがとりわけ必要である。各人は常に自分に向つて、成否は俺に懸つてゐるのだ、と言ひ聞かせねばな

わけ必要である。各人は常に自分に向つて、成否は俺に懸つてゐるのだ、と言ひ聞かせねばな

らぬ。各人が、この點に心掛ければ、われらは乗り切ることが出来るのである。それこそ、わがドイツ民族の民族協同體に就いて、われらが全世界に示し得る最も立派な證明である。われらが命令を出し、措置を講ずるのは、或る人間を苦しめたり非難したりするためだ、といふ風に考へないで貰ひたい。さういふことは、われらは決してすることは出来ない。

何が行はれねばならないとすれば、それは萬人のために役立つものでなければならぬ。誰かが壓迫される場合には、その者は、誰か自分以外の、或る者の利益になつてゐることを考へ、更に、究極には廻り廻つて自分自身の利益になる、といふことに思ひを致すべきである。その者はこの點をよく理解せねばならぬ。

最後に述べるが、民族の自由を達成し、國民の強力を確保するために、或る種の便益を斷念することは、決して大き過ぎる犠牲と見ることは出来ぬ。われらが強力に武備されて居れば居るだけ、われらの地位は安固であり、他國がわれらを襲ふ可能性は少くなるものである。總統及びこの席にあるわれらすべてのものは、われらすべての指導者は、われら自身が爲し又は與へる心構へのないやうなことを、諸君に望んでゐる。脂肪分を攝り過ぎると——肥満し過ぎる。余自身バターを減らして、二十封度體重を減らした。

われらは強力にして、自主獨往の國民を作り上げんと欲する。故に余は、今ここに諸君並に放送を聴く數百萬人に向つて協力を求めて叫ぶ。余は、先づ第一にすべての發明家、すべての經濟人に向つて、惜しみなき協力を求める。工夫し、研究し、實驗し、新しい示唆、新しい發明、新しい可能性をわれらに與へんことを。諸君は今までも、ドイツのために偉大なることを爲し遂げて來た。余はすべての企業及び經營者に訴へる。自己の利潤のみを考へず、強力にして自主獨往なる、全國家的なドイツ經濟を考へ、諸君の能力、諸君の優れた經驗、諸君の意思、諸君の實行力、諸君の創意を傾注せられんことを。余はドイツの勞働者に訴へる。成否の鍵は諸君に、何よりもまして諸君の手にある。もはや階級なるものは存在せざることを示し、諸君こそドイツの最も信頼するに足る息子なる實を示されんことを。余はドイツの農民に訴へる。農民諸君は國民の生命を維持する。諸君の責任は民族扶養であり、それは最も大きい責任である。扶養を安固ならしめ、パンを確保せしめよ。農民諸君、ドイツは數年前より諸君のために出来る限りのことを爲した。これに感謝し、今日これからドイツのために、出来る限りのことを盡せ。

余は國民社會主義勞働者黨並にそのすべての構成團體に、特別なる熱意を傾けて訴へる。諸



余は國民社會主義労働者黨並にそのすべての構成團體に、特別なる熱意を傾けて訴へる。諸

君が征服し、諸君が創造した、諸君の國家である。諸君に對して余は、諸君が闘争時代の絶頂に示した如き努力傾注を期待する。生え拔きの黨員よ進め、黨の指導者たちよ立て、先頭には地方指導者が立て！ 民族を引き立てて進軍せよ、然らば事業は成功するであらう。國民社會主義運動は、不可能なるものではなく、決して失敗することはないことを證明するのだ。

全民族にも余は呼びかける。全力を發揮しつゝ前進せよ！ 諸君に新しき國家、新しき國民を創造せることにつき總統に感謝せよ！ 總統は余に困難なる職務を托した。余は何も出しやばつたわけではない。余は爲すべき仕事が一抔ある。加ふるに經濟は余の専門ではない。しかし余は、この點は、はつきり言つて置くが、専門家としてではなく、優れた經濟人、優れた企業家としてではなくて、不屈の意思を以つて、わが民族の偉大さに對する燃ゆるが如き信念を以つて、熱烈なる情熱——これによつてのみ偉大なるものは創造されるのであるが——を傾け出来る限りのすべてを盡さんことを期してゐる。余は専門家としてこの任務に就いたものではない。總統は専ら國民社會主義労働者黨員として余を、この職に就けたのである。國民社會主義労働者黨の闘士として、總統の受命者として、國民社會主義労働者黨の受命者として、余は現在ここに立つてゐるのであり、さういふものとして、この事業を完遂するであらう。

意思が分裂崩壊しない限り、世の中では何事も崩壊しない。しかし、意思が打ち破られない限り、その意思が打ち破らうと欲するもの以外の何物も打ち破られないのである。しかして余の背後には國家機關の人々があり、黨の指導者たちがあり、生え拔きの闘士たちがあり、地方指導者があり、われらの運動の支持者がある。彼等は外國新聞の報ずる如く、互に不一致とかテンデンバラバラの闘争をする、とかいふことは更になく、行動への意思に於て一致團結してゐるのである。

しかして、その中に一つのこと理解されてゐる。われらは、われら自身のためにのみ活動してゐるのではなくして、われらの後に來るものの幸福と安固のために、われらの子供の平和と幸福のために活動してゐるのである。子供たちには、われらよりもよき生活をさせねばならぬ。總統への信頼——これが最も決定的なものであるが——總統への信頼、われら相互の間の信頼、これがわれらの有する最大の資本である。全世界の金と雖も、それと同一の價值を有することが出來ず、それは、今日ドイツが依つて以つて生活してゐる、最も安固にして最も優れた本位でもある。

總統は諸君に向つて、不可能なることを要請しはしない。總統が要請するものは創造され得

るものである。なぜなら總統自身、常に創造して來た人であるからである。約束したことは、彼は守つて來た。今日多くの人は、總統は非常に困難な仕事を爲し、苦しみ、特に大きな悩みを持つてゐるに違ひない、總統は弱くなられるであらう、と考へてゐるが、さういふ人は、總統に眼を注げば、この人物が如何に活動し、思考し、如何なる生活を送つてゐるかを知るであらう。われらの指導者たる彼は、われらのために活動してゐるのである。彼の心配を考へて見よ。全國民の運命を自分一人の肩に負つてゐる、彼の日夜を考へて見よ。多くの彼の決心に當つての恐ろしいほどの困難さを考へて見よ。國民の將來に對する、彼の巨大なる責任を考へて見よ。この人こそ諸君のために、この巨大なる負擔をしてゐるのである。何卒諸君は、この人のために、僅かばかりの負擔をする心構へになつて貰ひたい。

権力掌握前のわが國民、わがドイツから彼はどういふものを作り上げたか。なんとわれらを塗炭の窮乏から救つて、今日の高さにまで高めたことか。彼の民族に對する忠誠が、あらゆる困難の克服を助けたことか。われらが住んでゐる時代は實に大いなる時代である。諸君は、それを共にするを許されてゐることに誇りを持て。あらゆる瑣末事を捨てよ。一切の利己心を捨てよ。大いなる時代は大いなる民族を要求する。諸君が大いなる民族なることを、實證を

以つて示せ。われらの偉大なる指導者アドルフ・ヒトラーを辱しめるな。

いま一言述べよう。各人はこの事業の成功のために自己が何を爲し得るか、何を寄與し得るか、を毎日検討せよ。それが總統に對するわれらの感謝であり、信頼であり、われらの總統に對する信倚であるであらう。總統はドイツ民族を信念喪失と自暴自棄の狀態から、今日の、信念に燃ゆる狀態に導き、以つてわれらを極めて強力なものとした。われらはドイツ民族の偉大なる使命なるものを信じてゐる。われらは總統のもとに於て、力の國家、榮譽の國民、自由の民族が成立するであらう、といふことを衷心より信じてゐる。これを現在に於けるスローガンたらしめよ。しかしてわれらは、事業を開始するこの時に當り、全能なるものに對する最大の熱烈なる信仰を籠めて、そのために祈念しよう。全能なる神よ、總統に恵みを垂れさせ給へ。總統の民族に恵みを垂れさせ給へ。總統の事業に恵みを垂れさせ給へ。

(一九三六、一〇、二八、シュボル・バラストにて)

## 食糧の確保と四ヶ年計畫

三月二十三日余の發令した法規は、農業生産の増強によつて、ドイツ民族の食糧を出来る限りドイツ國內で確保することを目的とするものである。これらの法規に對して、ドイツ農民のみならず、全ドイツ經濟界及び全ドイツ民族によつて示された全國的贊同、また農業及び工業に見られる改新的、且つ強化された献身的精神によつて考へるに、われらは決して間違つた道を進んで來たのでないことが分るのである。

民族の食糧の確保は、武力政策的保證と相並んで、政治家の偉大なる平和工作に對する、また、國民の經濟的、社會的、文化的生活の改造に對する、更に又、國際關係の保安及び改善に對する最も重要な前提である。正にその故にこそ、國內の社會的平和並びに世界の平和のための決定的保證の前提を確立すべく、ドイツに於てわれらのなしつつある峻嚴なる統一的論理に對する理解と尊敬が、外國に於ても亦持たれることがいよいよ要望されるのである。

農民は、民族共同體の内部に於て農民に相應する地位を與へられ、最も特殊の法規によつ

て、生産能力を完全に發揮するに必要な平穩の保證が再び與へられた。農民は、更に組織的法規によつて、その立場に於て他の職業階級と並んで、ドイツ民族の生命の戦ひに参加出来ることになつた。農民階級は、がつちりと組合を組織し、昨年度に於ては、凡ゆる村落を組織に引き入れ、昔の農業組合とは全く異つて、今や如何なる經營をも残す所なく包含してゐる。

今や、凡ゆるエネルギーを強力に高めることによつて新たに獲得されたこの闘争力を、新しき使命の達成のために向ける、といふことが必要である。遺憾なき生産力の發揮を尙幾分でも妨害する虞れあるものは過去數週間の間に拂拭された。今や余は、ドイツ農民は最零細農から最大の地主に至るまで凡て、與へられたる標語に従ひ、凡ゆる困難に抗して自己に課せられたるプログラムを遂行せんことを期待してゐる。個人經濟的な考へから、民族經濟の成果を危殆に瀕せしめるが如きは許されない。農業經營は、收穫増強の要求を意識的に取り擧げ、これを完遂し、以つて、彼等の生存の基礎を確保した總統に對する報恩の一部でも返さなければならぬ。生産の廣汎なる増強のための科學的、技術的前提は與へられてゐる。よく指導された經營の經驗は豊富に存在してゐる。余は、ドイツの郷土を耕す名譽を有する凡てのものに對して、かかる經驗を遺憾なく利用し、且つかかる經驗に従ふことを要求する。更に余は、家僕階

級の住居状態の改善のため、今日與へられてゐる可能性を遺憾なく實現せしむることを期待してゐる。といふのは、余は、過去の怠慢がこの方面に於てこそ改善せられなければならないのだ、といふことを知つてゐるからである。家僕も亦、自己の勞働の價値に對する生氣に溢れた感情を抱き、ドイツ民族のための重大なる課題を負ふ喜びを持たなければならぬ。

食料の確保の問題と共に、われらの凡ての課題は、なほ未解の問題として澤山殘されてゐることは謂ふまでもないことである。しかし、緊急の課題の一つとして、日常のパンを確保することが先づ必要であつた。しかし、われらがそのみに止まらず、更に他の領域をも、就中衣服や住宅問題を等閑に附してゐたものでないことは、四ヶ年計畫の進行過程に着手された多くの新生産方法、生産設備、及びわれらの住宅並びに植民政策的法規の最もよく證明するところである。

政治家は一般に如何なる時でも、かかる偉大なる課題の一つだけを他の課題から分離し、獨立したものとして考へ、またこれに着手することは許されない。例へば國民の武裝化或ひは食糧の確保、といふ課題が特に問題となつてゐるときでも、彼は常にそれを全經濟的聯關に於て取り擧げる。例へば、農業收益の増大を目的とする肥料價格の低下は、農業に對する一方的な

惠與として考へるべきではなく、また工業の一方的犠牲として見るべきでもない。この法規は農民と工業家に於けると同様に、窮極は、労働者に對して、日常のパンを同一の價格で——勞賃を變化せしめることなく——確保しようといふ、労働者に對する意味をも持つものである。このことは他の領域に於ても同様である。即ち、如何なる經濟法規の場合に於ても政治家は、その全經濟に對する、また特に労働者に對する効果を常に注意しなければならない。なぜなれば、四ヶ年計畫は、總統の意志に従つて、社會的平和を基礎として遂行されるものであるが、その社會的平和は、部分的に達せられるものではないからである。社會的平和は常に、全民族の、農民並びに企業家、労働者の問題である。それは同様に、農業と工業、國內經濟と輸出貿易、勞賃と價格に關係する。

したがつて、國家の經濟政策上の法規を常に、ただ階級的、職業的利害の如き一面的利害からのみ批判せんとするが如きは、全く間違つてゐるのである。われらが、過去の制度によつて陥つた困難な狀態からドイツ農民を救ひ出したのは、農民のためではなく、健全なる農民階級のみがよく全ドイツ民族の生命と自由を永遠に確保することが出来るためである。そして、同様に新しい法規や救助は、ただ農業に對する救助策といふが如きものではない。それは寧ろ、



民族の食糧確保のための全經濟的法規と考へらるべきである。農業はかくて爾餘の經濟部門と緊密に結びついてゐる。一つの民族經濟の健全にして永續的な繁榮は一つに、自國の農業收穫を以つて、出来るだけ國內の食糧需要を満たし得ることに、かかつてゐるのである。農業がこのやうな状態になれば、したがつてそれだけ、爾餘の經濟の永續的繁榮及び永續的安定の状態のための、重要な基礎が喪失するわけである。かくて農業收穫を増強し、そのための方法を準備することは、ひとり農民のみならず、全經濟界のもの、したがつてまた國家の指導部の人たちも亦、これが達成に最も關心を寄せてゐる課題である。

農業に課せられたる課題の完遂を可能ならしめ、容易ならしめるために必要な法規は、適宜充分實施されてゐる。今やドイツ農民は、自己に與へられたる新たな可能性を、全力を擧げて利用しなければならぬ。余は、農民の献身的精神に對しては、將來も亦何ら疑ひを持たない。かくて余は、一九三七年の收穫感謝祭には、總統に對して、食糧自由の上の、更に廣汎にして、高められたる進歩の報告をなし得ることを望むものである。

## 四ヶ年計畫と自治團體

ドイツ自治團體の秩序と、これによつて更新されたドイツの自治團體は、最近數年の間に、試験済みとなつた。しかして今やより大きな使命をも引受けることが出来るのである。ドイツ自治團體秩序の目的は、強い國家のうちに、強い自治團體をつくることである。これは恐らくまだ凡ゆる處で、完全に果されてゐるとは云へないであらう。しかし余は確信する。自治團體聯合構成の新秩序、或ひは自治團體内部の行政單位の運用に對する立法活動は、遽からず終末を告げ得るであらう。

しかし本日は諸君に向つて細かい自治團體の問題を詳論しようとしてゐるのではなく、四ヶ年計畫に於けるドイツ自治團體の立場を、余が如何に考へてゐるかを諸君に説明したいと思ふのである。總統は余にこの四ヶ年計畫の遂行を課したのであり、これは永い間、余の全活動力を休みなく要求するのである。

この四ヶ年計畫は政治的に見れば、全ドイツ國民の自由の基礎工作と確保のための、強力な

努力である。即ち、餘りに狭い生活基礎を、凡ゆる經濟的、技術的、精神的手段の導入によつて速かに擴大することに、關してゐるのである。これは摩擦なしには行はれ得ない。なぜなら強力な新しい需要が既に力強く動いてゐる經濟に今や、突き當つてゐるからである。この困難の存在によるならば、今日の狀態は、これまでの政治が直面した多くの狀態から區別され得ないのである。ただ如何にわれら國民社會主義者が、このやうな課題に取り掛かるか、といふ方法が新しいのである。これまで人は必要な生産増加を、經濟諸力の所謂自由活動に委ね、國家は精々現在あるものを分配するに止まつてゐた。國家はその上、所謂自憲傾向と將來に於ける自憲の完成とを望んだ。しかし現代ではこの自憲力の發生を、恐らく國家は干渉によつて妨害したのである。この方法は効果が無い。しかしてわれら國民社會主義者には見られぬところである。われらは困難の根本を掴み、危急それ自體の基礎を除くのを常とする。即ち徴候や外見によつてあちこち治さうとはしないのである。

わが四ヶ年計畫に於ては、農業及び工業生産の増進が第一である。しかしてこれは國家の凡ゆる手段を以つて行はれるであらう。國家自身が經營するのではなくて、國家は無制限の指導と形成をなし、自然發生的な經濟法則の完成を待つことをしないのである。われらはもはや、

經濟自身が處理しない經濟的事物のみを司るに止まらず、全國家、全國民に亘つて、計畫的經濟指導を遂行するのである。

この經濟指導と經濟振興に、自治團體は決定的な役割を持ち義務を負ふ。四ヶ年計畫に對する原料供給の困難が需要の増加によつて、なほ一層ひどくなるやうな處では、諸君は例へば支出を抑制しなければならないのである。總統はその見透しの廣い政治に於て、ドイツの四都市を最大規模の建築計畫によつて特別な町とし、發展させ、世界の中心地たらしめんと企てた。

御承知の如く、この四都市とは首都ベルリンと運動の中心地ミュンヘンと黨大會の町ニュールンベルグと國際都市ハンブルグとである。この課題には特別の意義がある。これは必ず遂行されるであらう。しかし他の諸都市も同時に大建築計畫を遂行しなければならないと信ずる必要はない。なぜなら首都ベルリンと所謂「猫や杓子」との間には、劃然たる區別が存在するからである。ここに於ては、自治團體は必要の順序に従はなければならないであらう。如何なる場合にも最も重要な課題が、まづ第一に解決され得るために順序が必要だつたのである。今日は自治團體の物質供給活動の分に應じて、展開と運用によつて協力する方が、市役所や體育館や集團住宅を建てるよりも重要なのである。しかしこれも、いつもなら重要なのであり、その建

設は四ヶ年計畫後の一定期間になされることが必要であらう。

更に余は、増税が停止してゐるのは、自治團體による一般的經濟促進の必然の結果と見てゐる。近年自治團體が既に、その財政の大部分を、再び健全な基礎に戻し、誤れる共和制時代（一九一九年——三三年）の多くの負債を支拂ふことに成功したといふ真ばしい印象を余は持つてゐる。増税に導くやうな支出は抑制されなければならない。なぜなら全國民の財力が専ら大きな國家的課題に参加しなければならないからである。

反對に、自治團體が、定價の中に含まれる間接税を引下げるべしといふ内務大臣の指圖に従つて、凡てを賂けるならば、四ヶ年計畫の目的遂行に役立つであらう。特に農民にとつては、その生産戦には適當なエネルギーの保有といふ準備陣地に多く依存してゐる。といふのは彼等は結局まづ第一に、過勞な農婦の生活を輕減し、農民の物の乏しさから起る軋轢を和らげるところを要求してゐるほどだからである。都會に於ては定價の引下げによつて、特に勞働者家計の目に見える輕減がなさるべきであらう。

このより一般的な方策と相並んで、一聯の特殊課題が生ずる。自治團體は正にこの課題を擔つて、四ヶ年計畫に協力しなければならないのである。四ヶ年計畫のより大きな企畫は、他の

財産によつて經費を賄はれるとしても、普通の金融機關、就中貯蓄銀行は、その信用政策によつて、多くの、より小さい企畫に無制限に、協力しなければならぬ。余はこの際まづ第一に農業に中程度の信用を許したらいと考へる。これなくしては急速な集約化の必要に當つて、會計が持てないのである。この問題こそ、從來種々の困難に遭遇して來たことを余は承知してゐる。しかし、余が自治團體の指導者に、公立貯蓄銀行の支配者の資格に於て、彼等の機關を絶えず前述の課題に役立てることを望んで、その通りになるならば、新しい統制に關する討論はすぐ終り、直ちに新しい秩序が公布されるであらう。次に、貧しい人の小額貯金が、必要な配慮を以つて管理され、投資されることが、當然留意されなければならないであらう。しかし他面、信用交付は國民經濟的見解に従つて、從來以上に活潑に行はねばならない。また信用を受けた者が、その經濟的創意に於て、強化促進されるやうに行はねばならない。

更に余は、自治團體は住宅政策の領域に於ても、大きな使命を果さなければならないといふ見解を持してゐる。官廳を建てゐるよりも、低廉な住宅の心配をする方が、一見しても重要である。その建築は材料の點から見て面倒が少い。なぜなら、これに於ては一般に、その土地で採れる無制限の、建築材料が用立てられるからである。ただここに於ては、勞働力の結合がなさ

れないことが注意されねばならない。この勞働力の結合は、他のさし迫つた建築に於ては必要なことである。總統によつて計畫された移植民事業の手始めの仕事をなすにも、このことは妥當する。これは四ヶ年計畫の遂行の後、成就されなければならない事業である。今や行爲によつて、この計畫が熱心に開始されることを明示しなければならぬと余は考へる。ただ大規模の事業はここ暫くの間、まだ控へて置かなければならない。

わが經濟狀態の調査によつてわれらは、更に古い習慣と便宜から、まだ無限に多くの原料が都市の廢物となつて浪費されてゐることを確認しなければならなかつた。大都市の塵芥の堆積を分解して得た使用し得る原料についての數字を讀むならば、實に驚くべきものがある。この價值ある原料を更に經濟の循環過程に引き出すことは、われら自身には出來ない。それ故自治團體がこの物の利用を合理的になすべく努力しなければならぬであらう。

大都市の廢物の他のものは、ドイツ國民の營養問題によつて利用される。余は特にこの事業の遂行を、國民社會主義厚生協會に委ねたのである。なぜなら同協會は、ドイツ家庭婦人に直接關係があることを立證したからである。この婦人の理解に、この事業の成功がかかつてゐるのである。七大都市には組織があり、よく活動してゐる。しかし他の處ではまだ困難はすつか

り除去され得なかつた。このやうに余に報告されてゐる。この領域に於ては事を圖式的に運び得ないことを余は知つてゐる。さて少し前に代理會長の黨員ワイデマン博士が余に、まだ新鮮な野菜の屑を集めて、無闇と家畜に食はせないで、これを共有地で乾かし、飼料として近所の豚飼ひにやるといふ案を提出した。どういふ風にしようと余個人にとつては同じことである。

この決定は、各自治團體に於ける特殊な事情に應じてなされなければならない。ただ余は、情性或ひは他の理由で、この事業から脱退する自治團體が一つもないやうに望む。百萬の豚に對する補助的飼料をつくることに成功すれば、大きな成果と云ふべきであり、確かに財産に變成したものと認めらるべきである。

昔から農業の遂行にはその退しき興味を向けて來た農村の自治團體及び自治團體聯合は、他の多くの領域に於ても、生産戰に於ける國家の行政と國家の生産階級との方策を支持する便宜を有することになるであらう。他面に於て、自治團體が從來保護して來た使命を、將來國家によつて、より廣く手を加へられ、財政を賄はれんがために排除しようとするならば、それは余の耐へ得ざるところである。さて生産大臣は最近已むを得ず、國家豫算に於ける自治團體果樹栽培の請負金額を告知した。その理由は、自治團體が道路制度の新秩序に關して、若干意見を



異にしたため、從來通りに、この非常に大切な果樹栽培を續けることを拒否したからである。

大藏大臣は余の同意によつて、この豫算告知を却下した。その理由は、このやうな問題で國家財産を持つて行くことは、全く不可能だからである。この使命を、熱意を以て再び引受け、續行することは、自治團體の義務である。

自治團體の四ヶ年計畫への特殊な参加の可能性を、いま全部擧げることは出来ない。しかしこの僅かな例を以つて満足したいと思ふ。これは共有財産の参加なしに行はれるとは限らないであらう。つましい市の會計係を驚かすには當らない。なぜなら余は途方もない要求を課さうとする考へは毛頭ないからである。しかし余は勿論次の如き見解を持つてゐる。即ち大きな目的は時々、一つ或ひは他の行政方策が、現代の根本原則的な經濟政策の促進的方策の後に退却すべきか否かについて、われらすべてが目的に達するまで細心の吟味をなす必要がある、といふ見解である。しかしてこのために、余は貨幣の介人の拒絶を承認することが出来ない。それは豫算局には貨幣が不足してゐるといふ單純な理由によるのである。

自治團體が四ヶ年計畫の仕事に參與するとすれば、ドイツ自治團體秩序がそれに課した使命を、とりも直さず國家目的の達成に協力することによつて、個々に果すのである。自治團體は

國家機關の他の多くの役所よりも、住民と密接な關係を持つてゐる立場として、黨との最も緊密な關係に於て、四ヶ年計畫の大きな目的のために、住民を獲得し、協力せしめる使命を持つのである。國民の必要と希望を、多くの場合、最初に體驗する自治團體の指導者は、また最も密接に國策の多くの一般的ならぬ成果を體驗するのである。しかし彼等は、不利がその權力範圍内にある限り、これを除き、しかして正にこのことによつて國家、活動の目的に對するその協力を示す義務を有するのである。このことは屢々必要となるであらう、なぜなら四ヶ年計畫の期間中は、必ずしも困難が避けられ得るものでないことが明瞭であるからである。われらはみな知つてゐる如く、ある生活必需品市場に於ては、押し合ひへし合ひが起つてゐる、しかして來月も同じことがそこそこで、また起る可能性があるのである。余はかういふ場合に遭遇したならば、事の次第を考へるやうに望むのである。事の次第を住民に明かにし、消費指導の志向を廣い見解で支持するのも、やはり自治團體指導者の課題となるであらう。しかし將來町やバスター、そして恐らく肉や或る品質の賜詰等が缺乏するのを防ぎ得なくても、日々のパンに對しては、余は完全に責任を持つことを、余は保證しなければならぬ。この方面に於ける凡ゆる懸念を不必要ならしめるために、凡ゆる方策が採られてゐるのである。

次には、貯蔵品の消費を基礎として、一つ或ひは他の仕事は一時、短時間労働に移行しなければならぬことになるか、或ひは悲しい哉、もう既に永いこと續いてゐる繊維工業に於ける短時間労働を、もうこれ以上短く出来ないといふことになるのである。ここに於ても、個々の都市に對する策略とは何の關係もないので、鐵鋼の輸入が纖維原料の輸入よりも、一見して重要と思はしめるわが一般的情況の結果に關聯してゐるのである。しかしこの領域に於てこそ、われらは、ステールプルフアイヴァーの製造が進展し、短時間労働者問題が新しく規則だてられるならば、比較的早く労働の軽減をなすことが出来るのである。

價格形成の國家委員の困難な仕事に對する自治團體の協力もこの環境に屬する。永續的な觀察と緊密な個人的連結と展望的な計畫樹立とによつて、自治團體の指導者は、社會平和の維持のために直ちに決定を與へる余の組織の側の政策を支持しなければならぬであらう。自治團體自體は増税によつて價格を騰貴せしめてはならないことを、余は既に少し前に、明瞭に述べたのである。

ドイツ自治團體秩序によつて、新しい確乎たる基礎の上に据ゑられたドイツ自治團體のために、四ヶ年計畫に於ては、活動の廣い領域が提供されてゐる。自治創造者の時代に於ける如

く、今日再び自治團體は、國民の大目的のために、第一線に参加しなければならない。過去の殘滓が片づけられた今日、ドイツ自治團體も、百三十年前の没落の際に於けると同じく、この試練に耐へて行くだらうと余は確信する。自治團體が國家の高い目的への參與に對する責任を證明すれば證明するほど、それだけ強く自治思想を求めてゐるわけなのである。しかしてこの自治思想は、ドイツ自治團體大會に際して、正に諸君の組織の中にその最も明瞭な表現を見出してゐるのである。

(一九三七、四、八、自治團體大會にて)

## 公益 優先

ドイツ史上由緒ある町ハインベルグで、獵人大會を催すことは、新國家になつて始めて許されたのである。ブラウンシュウィクの當局と町と狩獵場は、大掛りな大會の準備をした。そして國立獵人會館の建設によつて、ブラウンシュウィクをドイツ獵人の中心地たらしめた。大なる興味と多くの愛着と斷乎たる意志とを以て、われらは今よりこの最初の大會を行はんとする。必要な事項を論ずるために、またドイツの獵人協會もここに於ては、われらの光榮ある運動の方向と目標に完全に協調するやうに、新國家が創つた現行法と並んで、組織の根本規則を決定するために、われらはここに集つたのである。政權獲得以來の二三年間に、ドイツの森林と獵獸に關しても多くのことがなされた。國家の確乎たる指導のもとに、今やわれらの獵獸の一層廣汎な種類維持、及びわれらの森林維持に役立つ法律が創られたのである。この兩者は不可分の關係にあるのである。

森林と原野と、しかしてそこに神によつて創られた生物は、個人のものではなくして、ドイ

ツ國民の共有財産である。われらの「公益優先」運動の最高原理を、われらは獵人の言葉に翻譯して「被造物の中に造物主を拜まんとする」のだと云ひたい。動物保護一般の領域に於てわれらが劃期的であつた如く、今日なほドイツの森林原野に棲息してゐる獵獸の世話を焼くのは當然のことであり、最大級にドイツ獵人の義務である。われらは神の攝理が最も高貴なるものをここに保持して來てくれたことを感謝する。しかしてわれらは、わが祖國が他の多くの國々に於けるが如く、ここに於ても涸渴せしめられることのないやうに配慮するのである。

われらの光榮あるドイツは、その自然の多様性を保持すべきである。なぜならばそれは激しい勞働をするドイツ國民に、悦びと郷土愛と、しかして休養及び採集の可能性とを與へるからである。それは經濟的觀點から云つても高價な國民財産である。われらはここで、この觀點から問題を取り擧げる。昨年の冬期貧民救濟事業に對するドイツ獵人協會の力強い寄與のみが、國民に、獵獸が全ドイツ國民の營養に於て、如何に大切な要素をなしてゐるかを明瞭に示したのであると、余は思ふ。

獵人協會がこの大きな貧民救濟事業に大いに協力したことは自明である。しかして余はこのことのために獵人協會に特別に感謝する必要はない。また今年も彼等を召集するならば、彼等

は全力を盡すだらうと余は思ふ。ドイツ獵人協會がその義務を盡すならば、彼等は國民がそれぞれこの仕事を可能ならしめるために、各自の義務を盡してゐることを期待してよいのである。ここでも公益優先の原則が當てはまるのである。誰かがドイツの森林中の獵獸に草を食はせる各自の權利を否認することは許されない。獵獸もまた生きる權利を有してゐる。なぜなら神によつて創造されたものであるから。過度の要求による獵獸減少のために、狩獵が不可能になるやうなことがあつてはならない。

マルクス主義と共產主義は常に反狩獵的、反自然的であつた。既にこのために、われらの明瞭な態度が生じたのである。なぜなら共產主義は到る處に破壊しか裔さなかつたことを、われらは知つてゐる。

ここからまたわれらの森林と獵獸、そして狩獵に對する態度が生れたのである。われらはその中に、われらの義務を認識するのである。しかし、われらはまた諸組織と諸階級と國民各自から同じ義務と承認とを期待する。到る處で獲物を追ふことばかりが行はれてゐるとすれば、われらは如何にして自然を保護したらよいであらうか。ドイツの地上にある凡ての物に人工を加へなければならぬと信ずる人は、今や美としてわれらに與へられてゐる自然の泉を破壊す

る者である。このやうなものは必要でないと信ずるものは、ただそのことによつて自分が既に極端な物質主義に陥つてゐることを示すのみである。理想に關聯する凡ゆることをわれらが否定するならば、國民ももはや理想を擁護することなく、理想に向つて行動することが出来るであらう。それ故、人が何も役立たない凡ゆることを言葉で以つて絶滅しようと欲するならば、余はこれを拒否する。

たとへ銀行勘定にも振替へられず、現金にちならなくても、非常な効用を有する物が屢々あるのである。

余は諸組織に、また國民各自にも、われらの森林を神が親しくわれらに與へ給うた高價な財産として取扱ひ、そこに棲む價値ある生物を、愛情を以つて遇されんことを要請しなければならぬ。森林は人が歩き廻るために創られたものでなく、われらにとつて心の鎮靜と教化との場所とならなければならぬ。森林は全能者の本山たることを要請して然るべきである。

われらの祖先は狩獵に先立つて、常に勇氣だとか、用心深さだとか、肉體的熟練だとか、觀念的な思考だとか、隣人愛だとかいふ特別な精神的性格的態度をつくつたことを記憶して頂きたいのである。正にかくあるべきであり、かくあらねばならないのである。



ただ鐵砲を打ち、物質的な獲物のために獵獸を何百ポンドといふ風に算用する獵人は、排除されなければならない。われらは、まづ以つて狩獵の保護者たるべき義務を心に感じてゐるやうな獵人を必要とするのである。

それ故、余はドイツ獵人協會が「何物も個人のためではなく、萬事、全ドイツ國民のために」といふ國民社會主義の道義的理想を採擇せんことを要請する。

(一九三五、一一、三、狩獵祭にて)

## 世界經濟の新秩序

國際商業會議所は、六月末、ドイツの主都に於て、第九回會議を催すのである。經濟界の指導人物、専門家を、全世界から糾合したこの會議は、世界政策、世界經濟を肯定する緊張に直而して、全く別な意味を帯びて来る。

この度、ベルリンが開會の場所となつてゐることは、その商議が、世界經濟の建直しに參與するところの、この會議に對する國際的關心を強めること、著しきものがある。われらは、四ヶ年計畫に制約された、われらの世界經濟政策を、外國に、公明正大に闡明するのに、少しも盡力しなかつたとは云へ、ドイツの經濟的態度は、世界經濟の側から——たとへ、數ヶ月前の如く烈しくはないにしても——どうしても、正當だとは認め得ないやうな批判の眼を向けられてゐるのである。國民的並びに國際的に重大なる經濟組織の問題の論議、國際生産問題並びに國際通商問題の處理は、歡迎された賓客として、わが國に滞在してゐる外國の紳顯たちに對し

て、ドイツの經濟政策の内容を指示することであらう。勞働時間の真相は、國際的制約に基くわれらの經濟政策の、不明瞭性と不確實性を取り除くのを助け、それと同時にまた、國際共同勞働に關しても、一段とよき、強力なる基礎を作るであらう。しかし、就中、余は次のことを希望する。即ち、ドイツの行政、ドイツの經濟にたづさはる人々に對して、彼等が、個人的な討論を行つて、外國の指導的經濟人や經濟専門家と一層親近となり、その際に、なほ一層緊密なる國際共同勞働實現の思想に、盡力する機會の與へられることを。

この雜誌の外國の協力者たちが、彼等に特別に押し迫つて來る問題を、いつも、更に一層立派な國際共同勞働の思想よりも、あと廻しにして論じてゐるやうに、余もまた、國際商業會議所のこの會議に對して、その會合と、その準備が、この側面から充實されてゐることを熱望する。國際經濟關係の新形成を顧慮しての積極的な結果は、われらを凡ゆる側から熱望されてゐる成果に接近せしめるであらう、といふことを余は確信してゐる。

われらは、ドイツの勞働する人々に對して、生活必需品は言ふに及ばず、失はれてゐた精神的満足までも與へようと欲するが故に、われら國民社會主義者にとつては、社會問題といふのは、單に「胃袋の問題」だけではない。これと同様に、われらドイツ人は、世界經濟の問題を

ち、單に個人經濟的な利益からばかりでなく、就中國民政策的見地から見るのである。われらの世界經濟に對する努力は、ドイツの製作にかかる生産品を輸出することによつて、自然が、ドイツや、その生れた土地に生活するドイツの人々に與へてくれなかつた天然の資源を、輸入し得るといふ、一層深い意義を持つものである。さて余は問うてみる。では他の國民にあつては、これとは別な立場を採り得るであらうか。あらゆる自然の恩恵が、平均して、充分與へられてゐる土地があるであらうか。答は明白である。故に余は次の如き意見を持つものである。即ち、いづれの土地にしる、國際的物品交易に關與することを斷念し得る所はあり得ない。もしもその國の住民に、全人類に行き直つてゐる資源の所有と享受を、斷念せしめることが出来ない限りは。かくして、夫々の國に於ける國民經濟は、どうしても、世界經濟的聯關を放棄し得なくなる。この結合から必然的に生れた共同労働は、夫々の國家經濟が、經濟的にしつかりして來れば來るほど、益々堅實圓滑なものとなる。個々の健全なる國民經濟と、あらゆる側面から均等に活氣づいてゐる諸民族間に於ける共同労働に對する意志とは、世界經濟隆盛の前提である。微弱なる、不自由なる、非獨立的國民經濟は、未だ嘗て、規則的な世界貿易を促進せしめたことはなかつた。

ドイツ國內經濟の再建を確固ならしめ、同時にドイツ國民の生活確保を保證すべきドイツの四ヶ年計畫は、それ故、新しき世界經濟建設のための妨害となるものではない。むしろドイツは、確固たる鐵の如き經濟體制を以つて、世界經濟に最も價值ある積極性を齎すものである。

なぜならば、工業國の研究室や建設事務室に於ける發見や技術的改良、そしてまた、そこから新しく發展された産業や工業は、單に自國のための國家經濟的であるのみでなく、同時にまた、國際的にも貴重なる意義を持つからである。この産業から生じた新生產品は、國家經濟の強化と同時に、世界經濟の豊富化に役立つものである。そして、ドイツが先づ眞先に着手した如く、諸他の國々も、今日では、その自己の經濟力の最後の源泉に思ひ至つてゐる。かくして平和なる共同勞働を行ひつゝ自由なる、獨立的經濟國家として、絶えず、世界貿易を不安なもの、不確實なものたらしめてゐた脆弱なる契約者たちよりも、一層安全に、好都合に、世界經濟の問題を解決して行く同權の仲間が作られて行く。

世界經濟を、有益なる、一大全體にまで綜合形成する方法に關しては、種々意見の相違が起つてくるであらう。しかし、この目的設定のために根本原理を樹てゐることは、目下起つてゐる困難が、自由に、公明に論議されるならば、さして困難なことではないであらう。余は個人的

に、輸出を喜ぶ國、輸出の能力のある國も、同時に輸入を喜ぶ國であるべきだ、といふ意見を  
持つてゐる。しかしそれと同時にまた余は、自己の國家的課題を意識した經濟は、輸出もしく  
は輸入すべきものを、外國から命令され得るものではない、といふ信念も持つてゐる。如何  
なる犠牲を拂つても輸入するか、或ひは更に國家的に忍び得べからざる政治的束縛によつてま  
でも輸出可能性を作るか、といふやうなことは、ドイツにとつては、問題とはならない。四ヶ  
年計畫は、かかる逼迫狀態から、われらを超越させてゐる。かくして、この計畫は、われらに  
自由なる貿易を保證する安全係數と見られる。われらは、將來われらの輸入を、われら自身の  
考へで爲すであらう。そして、われらが正當なりと認めたもの、われらの要求に適應するもの  
だけを購入するであらう。そして同様にして、われらは何らの無理をするところなく、われ  
ら自身が不足を感じてゐるやうなものを、輸出することはせずして、外國が要求してゐるや  
うなものを輸出するであらう。何はさて置いて、これこそ、われらの品物融通主義工業の  
實質的な最高性能であり、われらの確固たる進歩的、化學的、技術的研究結果の產物であ  
る。

この原理は、たとへ國家經濟的と云はれ得るものでも、絶対に、妥協は許さない。貿易は貿

易である。且つ、世界貿易を條件づける無數の成員と同様に、自國民族の生活標準は決して忘

易である。且つ、世界貿易を條件づける無數の成員と同様に、自國民族の生活標準は決して忘れられてはならない。そしてまた世界市場の狀態に應じて、自國の生産を調整するといふ、時の必然性も起つてくるであらう。しかし世界經濟のもとに各々の國が、原則的に、先づ第一に、その國の眞に要求してゐるものを輸入し、その自然の資源とか、その勞働力からは生産し得ないものを輸入し、そしてその國に獨特な、自然的精神的實行能力からして、産出し得るものを輸出し、かくして世界經濟を豊富ならしめる、といふことが理解されるならば、國家的な生活確保、即ち、遺憾ながら、非常に屢々誤解されてゐる「自給自足の努力」は、新しき健全なる世界經濟建設のための、必要缺くべからざる前提より以外の、何物でもないことになる。

それ故に、目下行はれんとする國際商業會議所の會議の如き國際的會合にあつても、世界經濟とは、國民經濟と同様に、決して、人々が終始一貫して誘導したり支配したりし得るものではなく、また人々が、絶対に正しい方向や更には法則を與へ得るやうな、具體的、具象的なものではない、といふ一事は看過されるべきではないであらう。世界經濟は、自らを指揮するものではない。それは貨幣本位、貿易本位政策の學說によつて、生命を保つてゐるので

はない。それはむしろ個々の國民が、その中で相互に存続して行く現實の經濟的文化的關聯への政治家たちの正しい洞察によつて、生命を保つのである。世界經濟は、それぞれの、國の限界を超越して、相互の需要供給を行ふべき諸民族の生活力と共に、成立し、消滅するものである。「世界經濟」は、個々の國民經濟の間の豊富なる、經濟的相互關係の總體以外の何物でもない。

今日では、もはや何處の國も、この世界經濟を忌避することは出来ない。何處の國も、今日ではもはや、次のやうなことを言ふことは出来ない。即ち、われらは、世界經濟を否定する、そして、われらだけで、生活し、經濟を營んで行きたいと言ふことは出来ないのだ。世界貿易に及ぼした、それぞれの國民經濟の損失の結果は、充分に知られてゐる。ヨーロッパばかりでなく、全世界は、もしも、これから絶えず惡意と無理解が、破壊の猛威を逞しくするならば、如何にして、最後の破局を喰ひ止めることが出来るのであらう。それ故、今や人々は、國際的な經濟の會合に於て、世界經濟の新秩序に盡力すべき時なのである。

ドイツは常に——現在のベルリンも同様であるが——かかる説に關與する準備が出来てゐる。ドイツは、この方法で、必然的に起らねばならぬことへの洞察を深め、それと同時に、實



際的再建のための第一前提が作られるといふことを望んでゐる。この目的は相互の信頼によつて到達せられ、かくして新しく秩序づけられた全世界の政治的社會的平和の世界經濟の地盤の上に、確保され得る、といふことを、ドイツは確信してゐる。

もしも、國際商業會議所の第九回會議の仕事が、積極的な共同事業、建設事業たるこの精神によつて行はれるならば、その會議には、余の心から希望してゐる結果が期待出来るであらう。しかもそれはまた、新しき世界經濟建設への道の第一歩にしか過ぎないであらう。

(一九三七、六月、「四ヶ年計畫」誌所載)

## 活體解剖に對する闘争

余が活體<sup>一</sup>解剖の動物虐待に對する訓令を發した日以來、余は潮の如く電報や手紙を受取つた。これらは、動物虐待の格闘に對して遂に嚴格な處置に及んだことが、最も當を得たものであると云つて非常な賛意を示し、祝福を表はしたものであつた。余の訓令がかくも突如として、宛も閃光の如く青空からひらめいて來たといふことが、驚きを以つて迎へられたのであらう。數年來、活體解剖に對する闘争が行はれてゐる。多くのものがこれについて演説し、科學的或ひは非科學的な形式に於て論争されたが、しかしどうにも仕様がなかつたのである。國民社會主義の政府は、その最初の日から言明したのであるが、有力な手段を以つてこれを禁止せねばならぬと思つた。しかし數ヶ月を経過してしまつた。そして遂にかかる法律が周到なる準備をしたのちに發布されることになつたのである。かかる準備時期の間、動物虐待が尙一層擴大されることを防止するために、余は今やこの訓令を發するのであり、動物を無生物として取扱ふことが出來るといふ風に考へる者に對しては、中央警察から處罰するといふことになつた

のである。

ドイツ國民は、常に特別な愛情を以つて動物に對し、動物保護の問題に對して來たのである。數千年以來、動物は家族の者として特別な待遇を受けて來たものであり、否、動物は多くの觀點から見ても、家族共働者であつた。そして——馬についてだけはさう考へてゐるのであるが——共に戰つたものであり、神の創造物と見てゐたのである。ドイツ人にとつて、動物は單に有機的な意味に於ける生物であるのみならず、自己の感情生活を行ひ、苦痛を感じ、歡喜、忠誠、從順を表はすところの創造物である。動物を生命のない、死せる、無感覺の事物と同じ視することは、民族感情に相反するものである。動物をただ感覺も精神もない酷使の對象と考へたり、勞働の補助手段と考へ、利用といふ根據から使役し、同様の利用根據から苦しめたり、殺したりすることは、民族感情に相反することである。アーリア民族の童話や傳説、特にドイツ民族のそれは、いかにアーリア人種が動物に對したものであるかをよく示し、その密接なる關係を示してゐる。

從來の法律が、他の種々の領域に於けると同様の點で、民族感情に一致してゐなかつたことは、益々理解しにくいことである。他國の法見解、他國の法概念の影響を受け、法律の指導が

他民族の手によつてなされた不幸なる事實の影響のもとに、動物を死せる事物と同一視するやうな法律が今日まで行はれ、動物を所有してゐる者は、彼の所有にかかる凡ゆるその他の死物に對するやうに、全權が與へられてゐたのである。これはドイツ的感情に反するものであり、動物を無生物と同一視し、その所有者に絶對の處分權が附與されたといふことは、ドイツ人の精神的態度としての國民社會主義的見解には殊のほか、相反するものである。所有者が凡ゆる死物のやうにそれを取扱ひ、それに對して何らの處罰もなされず、價值の低いものであるといふ理由で苦しめられても構はぬといふやうなことを、われらは理解することが出来なかつたのである。

國民社會主義が起るまでは、法律は次のやうなことに限られてゐた。即ちそれが若しも一般の憤怒を惹き起すほどの野蠻な酷使の場合だけ罰せられるといふ風であつた。したがつてその場合には、その動物虐待を見てゐた他の證人が居らねばならなかつた。そこで初めて一般に處罰の可能性が與へられたのである。一九二七年の法律はこの見解を破らうとした。そして動物虐待をそれだけで以つて罰しようとした。しかしながら動物殺害も、もしそれが全く宗教的な或ひは科學的な見地からなされた場合には、例外であるといふ解釋が許された。それはしかし

不十分な解釋であり、それを以つてしては、動物を虐待することから根本的に保護する必然性が正當に主張されないし、またいかなる程度まで科學的目的のために動物を取り扱つたものであるか、それに對する明瞭なる支持點がないわけである。

動物を科學上の目的に用ひることも、實驗に携はる各人が愛情を持つてゐれば出來ないことである。人間の病氣を確めるために、藥劑を得るために、研究の目的に動物を殺すことでも、法律的な統制のもとに、國家の監督の必要がある。なんとなれば、遺憾なことには、それを物質的に、無機化學的に、物理學的に考へ、法律的なことがなかつたため、動物實驗の範圍をドイツ人には堪へられぬほどのところまで擴大してしまつたことは、大戰前の二十年前この方、大戰後までの科學の特徴であつたからである。惡評のあるクロード・フルナールの如きフランスの實驗學者のみならず、ドイツの、大部分は民族に關係を持たぬ實驗學者は、必要な利用以上に慘酷に動物を虐待してゐたのである。ひどく専門化された、更に多くは民族といふことに關係のない科學者が、動物に對する感情も鈍り、一般にそんなものが全然なくなつたといふことは、過去の科學的文獻からの例が澤山これを示してゐる。その人には人間的な同情心が少しもなく、麻酔もかけずに手術をしたり、火傷をさせたり、凍死させたり、飢餓の狀態に置い

たりしてゐることが記述されてゐるのである。

生きたままの、麻酔もかけない動物の活體解剖や切斷がなされたのである。鼠や海豚や家兎などの實驗に用ひる動物、或ひは國民感情にはどうしても反するやうなもの、人間の寵愛物たる犬までも、その體がひき裂かれ、心臓がとり出され、頭蓋が鑿でほられ、四肢がばらばらにされ、いかにして器官が働いてゐるか、除去されたのちに、いかなる結果が起るかを觀察するために用ひられるのである。かうしたことは國民社會主義の感情には理解し得ないことであるが、しかし殘念なことに事實は、手術をする前に動物を出来る限り麻酔さすこととせず、動物を處理するに必要な配慮は少しもなされてゐないのである。

かかる活體解剖が過去數十年に於て、人間の身體の構造や生命の認識にとつて、如何に必要であつたか、そして如何に有用であつたは問題外に置かれたやうである。今日とはともかく科學は、活體解剖による動物の苛酷なる殺害の必要が餘りなくなつた、といふ見地に立つてゐるのである。したがつてかかる實驗は益々減少を示して來た状態である。活體解剖の根本的に斷乎たる禁止は、ただ單に動物愛や動物の苦痛を思ひやるといふことだけではなく、一般に人間性の問題でもある。動物を保護するためにだけ動物愛護が必要なのではなく、同時にわれらは、

動物やその苦痛に對する思慮なき無頓着や、人間の野蠻や慘忍に對しても戰ふべきである。

余はそれ故にプロシアに對しては、凡ゆる活體解剖の禁止令を直ちに發布したのであり、この法律が嚴格な處罰を意味することが出来るまでは、中央警察に連れて行かれるといふ罰を受けるやうにしたのである。余はプロシアの大臣に提議して、出来るだけ速く、これに關する法律が作られることを願つたのであり、余が今日すでに告知し得ることは、これに關係ある内務大臣は、この法律を來週のうちに、既に實施し得るやうにする、といふことである。

活體解剖とは、しかしながら、不必要な動物虐待の凡てを含むものである。科學的な實驗ばかりでなく、日常生活で行はれる動物虐待は全部、法律的な新しい取締りを受けるべきである。そして遂には動物愛護法の全問題が統一的に範例を以つて示されるといふことは、余の訓令によつて刺激された専門家による、動物愛護問題の改變の結果であるであらう。

人間の病氣を研究するため、藥劑を作るため、かくて一般に進歩を促すために、動物を殺すことが必要である限りに於て、今や一つびとつの場合に規定を確立することが、専門家のなすべき問題である。この場合余は、人間と動物とを同様に脅す傳染病などを研究する方法のことを考へてゐるのである。かかる病氣の原因を顯微鏡的な研究によつて確立する見込みのない場

合とか、動物實驗でなければ出来ないときには、麻酔と愛護のもとにこれを用ひてもよいであらう。血液から注射用血清を得るために、動物の血液をとることは、人間の病氣が直接危険に瀕してゐる場合だけ用ひられてよい。しかも小さい、これに對して必要なことは、別に動物虐待とか活體解剖とかいふことは出来ない。そのわけは、それは先づ以つて大部分、困難な傳染病を除去することに貢獻するからである。例へば血清が負傷による硬直痙攣やガスの火傷に對抗するために、いかに驚くべき助けをなしたかといふことは、大戦の經驗を想ひ起せば明かである。もしも血液をとる場合でも、慎重な配慮のもとに行へば、動物に殆ど障害を與へずにすむのである。特に大きな危険に際會したときには、同胞を助けるために、凡ての人間は彼の血の一部を與へる氣持でなければならぬ。

豚を使ふ動物實驗から、睡眠病に對する効果ある薬剤として世界的なものが發見されたとするならば、この藥が更に他の動物にも適用される。しかし、この場合でも、必ず愛護の氣持で以つて必要な麻酔を施して實驗さるべきであらう。

動物の器官からとれる薬剤は、例へばインスリン劑の如く、糖尿病を根治するのに効目あるものであるが、この製造には今では文明國の工場が競争してゐるのである。しかしそれも無機



化學的には實驗されないものであるから、その作用を動物について見るほかに道はないのである。

また、壞血病の如き營養不良の病氣も、ただ動物實驗によつて分ることが出来たのである。かかる營養實驗はわれらの營養問題を新しく考へるために重要な領域であるから、更に一層要求さるべきことがらである。

余はかかる例を一々澤山舉げて見ることをしたくない。これらは、われらの科學の成果ある仕事の證明である。しかしながら、それがいかに必要缺くべからざるものであらうとも、それに必要な動物殺傷は除去されなければならない。そして凡ゆる規準は出来るだけの愛護心を以つて實行されなければならないのである。

全身麻酔とか局部麻酔は人間の手術の際ばかりではなく、もし科學に、したがつて人間に貢獻するのであるならば、人間と同様の程度に、同じやうな配慮を以つて動物にも適用されなければならない。われらと特別な關係のある動物、即ち犬や猫は凡ゆる實驗から除かれ、それは他の、もつと下等な動物で施行されねばならない。鼠のやうなものは、たしかに感覺が鈍いものであるから、家畜よりもわれらの同情を惹くものではない。しかしそれでも矢張り、實驗に

際しては、同様の配慮がなさるべきであり、人間のために何としても必要な場合に限つてなさるべきである。

かかる實驗に従事する人間は、眞面目な科學者にのみ限られねばならぬ。かくの如き人々により、かくて實驗された研究室からは、病人を治すための利用が約束されてよいであらう。しかしながら、それでもなほ、國家は監督を怠つてはならず、もしも誤用が起つた場合には、國家はこれに干渉しなければならない。これに反して、教授の目的のためには、動物實驗の代りに、出来るだけ繪や映畫によつてこれを補ふべきである。

かくの如き凡ゆる個々の問題に關しては、余によつて現在招集されたる科學及び動物愛護の専門家たちの會議が、これを明かにし、彼等の提案を余に交附するであらう。余はわざと先づ以てすでに、永年動物愛護に關係し、永年活體解剖の無慘なる虐待に對して戰つて來たところの専門家を招集したのであるが、それに將來の法律に對する明確な見解を用意するための可能性を彼等に與へんがためであつた。數十年來、動物愛護の必要をすでに認めてゐた人々と、何らの顧慮もなく動物を人間のためにのみ使はうとする人々との間に、鬭争が展開されてゐたのである。醫學を學ぶ人間は、彼が先づ一度は、いかなる動物についても多少うまい實驗をな

し得るものだと思ふのだが、それは宜しくないことである。

余によつて提案された法的な新統制を通して、われらは遂に、この焦眉の問題を解決することになるであらう。かくしてわれらは再び、わがドイツの文化生活の一分野に、内面的平和の建設をもちたらずであらう。必要なことはそのままに留り、慘酷なる活體解剖や動物虐待の如き不必要なことは、無くなるであらうし、また無くならねばならない。かくてわれらの内外の政治的生活の發展にとつて必然的な和協が、ここにも達せられるであらう。

(一九三三、八、二八、放談)

## 藝術意志と民族感情

ドイツは、新しい問題と仕事をひつ提げて、所定の目的に向つて前進する。年を送るに當つて、これまでの成果を回顧するのは誠に當然のことである。國民生活のための諸種の物質的必需品が完全に得られたか、或ひは完全にはなくとも、望み通りに得られたかどうか、といふ問題は兎も角として、われらドイツ人は、より高い幸福への希望を以て、次の一つのことを確認するのである。即ち國民社會主義革命の第二年月は、ドイツ國民の久しく缺如し、熱望してゐたところの統一を實現したのである。もはや利益團體といふものは存在しないのである。黨派は掃蕩され、ドイツ人同志の仲間喧嘩は、ドイツ國民協同體として生れ變つた。無數のエンルギーはわれらの指導者として、且つ國家の首相として、國民の運命を決定し指導するところの、一人の男の手に一括して握られて居るのである。

第二に、亡命者の如き周知の新ドイツの憎惡者やその同情者仲間を除けば、外國も亦アドルフ・ヒトラーとその新國家に對して、漸次理解を持つことを確言することが出来るのは、われ

らの誠に歡喜に堪へないところである。なほ暫くは、世界は、この國民社會主義革命がドイツにとつて如何なる意味を持つものであるか、また將來の世界的事件に對して如何なる意味を内包するものであるか、理解しさうにもない。國民社會主義を誹謗する者は、故意に平和を攪亂しようとする者である。この運命的な一年を送るに際し、ヨーロッパの民族の間に、或ひは世界の間に、暴力的な論戰が開始されるであらうといふ、輕率で暗澹たる豫言が適中しなかつたことを、世界の眞の満足の喜びを以つて確認することは、余の特に欣快とするところである。半年前にも言つたことであるが、余は更に、世界の平和を確保するといふ凡ての政治家の共通の仕事が成功するだらうことを、今後もなほ確信するものである。打開された認識と、平和意志の勝利が最も明瞭に現れるのは、前大戰の勇士の心をつなく共鳴であつて、現に、つい最近もそれは、和解と相互の理解のために貢獻するところ大なるものがあつたのである。

そして、最近クリスマスの鐘が萬人の心に偉大なる平和の使命を新たに喚び醒ましたのであるが、われらとて、そのよき意志を證明し、國民に太陽の輝きをもう一度與へようといふ、偉大なる平和事業に、實際に協力しなければならぬ義務を各自持つものであることを、決して忘れようとするものではない。

ドイツ國民は、運命が課した使命を遂行するために、全力を平和の運動に集中する決意であることを、新たに表明した。ドイツ國民を結びつける鋼鐵の紐帶として、アドルフ・ヒトラーが鍛へ上げた政治意志の統一的共鳴の結果は、その行政第二年目の終りに當つて、既に喜ばしき最初の成果を凡ゆる領域に亘つて示してゐる。ドイツは、經濟的困窮とも戦はなければならぬのであるが、それにも拘はらず、否、正にそのためにこそ、ドイツ國民は、類例のない不可分の協同體の感情に充ち満ちてゐるのである。全ドイツ國民は、手と手を握り合つて、一人の人間の如く一體となり、經濟情勢の改善のために戦つてゐるのである。國民社會主義運動は、内部的對立を克服し、ドイツ人であることを新たに目覺ました。六千五百萬の國民がつちり一體となつて、頑丈な岩石の上に新しく自分の家を建てるのである。それは、あらゆる階層の人間を收容し、一人びとりの國民にわが家を提供し、そこでは誰でもが勞働の權利があり、その仕事に應じた勞銀を與へられる。國民的聯帶性といふことは、われらの合言葉ではない。それは全體性に對する個々人の責任意志なのである。隣人のために喜んで與へるといふ、凡ゆる職業層のこのやうな競争心といふものは、世界中何處にもなかつたのであるし、未だ嘗つて、これ以上有力な協同體思想の證明はなかつたのである。屢々忘れ勝ちのことであるが、

われらは、單に國民社會主義者であるばかりではなく、最もよい意味での労働黨であるのであり、したがつて又、自らの新ドイツを建設する者は、無名の労働者なのである。

世界の他の國々と同じやうに、ドイツも亦經濟的領域に於て異常な努力を拂ひ、大きな困難を克服して行かなければならないであらうが、しかしわれらは、一瞬と雖も、ドイツ人の偉大なる精神的民族財といふものを等閑に附したことはない。國民社會主義運動の見解によれば、社會的、經濟的契機といふものだけが、一つの民族を團結させ、健康を回復するための標準では決してないのである。それよりもつと力強くわれらを動かすものは、精神的、内面的財のためめの配慮であつて、そのためにこそ、民族の一人びとりが、最後の勝利のために全身を捧げようといふ力が沸いて來るのである。更に、「肉體の健康を維持するものは、常に精神」であつたのである。

國民社會主義運動は、國民の全生命の中に、アドルフ・ヒトラーの教義を浸透せしめるといふことを以つて、自己の使命として來た。それは勿論、今日から明日へといふ風に行くものではない。國民社會主義の原理が組織的に實現されて行く進展の仕方は、自然にして撓みなき建設である。われらは、不自然な力を用ふることなくして、日日、この目的に近づきつゝある

のである。なぜなら、國民社會主義的世界觀は、ドイツ民族性の何百年來の宿願を實現するものであり、ドイツの民族的、種族的特性と合致するものであり、且つドイツ民族性は、この國民社會主義のうちに於て、自己を發見し、又そこに自己の最高の完成を見出したのである。なるほど一寸の間は、一つの民族といふものより、珍しい世界觀に興味を持つといふやうなこともあり得るではあるが、永い間には、民族の心にはただ、人間の魂を完全に捉へ、その深い神聖なる憧憬の念を滿たす信仰のみが、根を下すであらう。

かくて、新ドイツに於ける凡ゆる精神的、藝術的創造、並びに、一般に凡ゆる生命の表現といふものは、實際的領域であると、政治經濟的領域であると、或ひは學藝的領域であるとを問はず、ただ、國民社會主義的世界觀の體驗からのみ生れ得るものであることは、言ふまでもないことである。藝術家や學者は勿論、その勞作を以つて民族の心に反響を呼び起さなければならぬ。しかも彼等が、その民族の思想感情と完全なる一體となつてゐるといふことが、彼等の活動の第一の前提である。藝術や學者の仕事は、もしそれが個々人の恣意的な私的作品に止まるならば、たとひ彼等が偉大なる天才であるとしても、眞空の中を根無し草のやうに漂ふであらう。精神的創造の自由は、言ふまでもなく拘束されるべきではない。しかしその原理は、



必ず、國民社會主義的世界觀によつて規定されるのである。

余が個人的に、われらの民族の藝術財の維持と表現に、かくも力を入れ、肩を入れるのは、それは余が藝術を愛好するからといふだけの理由ではなく、もつと深い根據からなのである。

國民社會主義國家の全體的要求は、もしそれが、全藝術的生命を把握するならば、技術的には解決し得ない、寧ろ、民族の一人びとり並びに協同體に對する深い責任を内包するところの義務を藏してゐるのである。故に、われらは、内面的にドイツ民族性と無縁な、誤解された感傷的な考へ方に影響されるやうなことはないものであり、また影響されてはならないのである。個人の全體性に對する意義は、如何なる公的生活の領域に於けるよりも、藝術に於て最も強調されるのである。

國民社會主義が、藝術家に正しい發展の可能性を賦與したのは、藝術家が、新國家の原理、即ち、國民社會主義的民族の原理に完全に到達することを要求するからである。國民社會主義的世界觀との、このやうな内面的な結びつきがなければ、藝術家は、ドイツ民族から決して理解せられないであらう。なぜならば、民族は、抽象的で、民族と無縁な藝術的理念といふやうなものは、理解することが出来ないからである。如何なる場合でもさうであるやうに、藝術

の場合も、その發展は、個々人にとつては往々困難であつたり、特に、理解し難く見えるかも知れないのであるが、しかし、大なる目的のためには、それは斷じてなされなければならないものである。

藝術は、民族的原理と不可分的に結合されてゐるものであると、余は考へてゐる。中世の大なる藝術が種族と結びついてゐることは、誰でも當然のことと考へてゐる。世界の人は、この時代のドイツの巨匠たちの偉大なる作品に驚歎してゐる。その際彼等は、これらの作品がこれらの心を擲むのは、それが一重に民族的性格に根ざしてゐるからであるといふことを忘れてゐるだけなのである。國民社會主義は、ドイツの藝術をこの根本的な認識に導くのである。それ故に、民族の自然感、藝術家が、その創造の原理と目的を、國民の全體性の立場から樹立することを要求するのである。

### 第三國家の建築物

今、ここに彙集せられた諸君は皆、ただに國部にとつてだけでなく、更に廣く、全ドイツ國家にとつても、比類なき一大事件に關與して居るのだ、といふことを知つてゐるであらう。なぜなれば、大なる國家の建物の上棟式が、アドルフ・ヒトラーの名と、國民社會主義の精神に於て舉行せられるといふことは、これを以つて最初とするからである。實にそれは、如何なる精神から生れ創造されたものであるかを、海外に向つて表示するところの唯一の建物であつて、それは、新國家の力を象徵するものであり、更に、以前は諸黨派の費用削減の要求によつて、今度の二倍の時日を要したのを、僅々數ヶ月で以つて一つの建物を完成したといふ、旺盛なる創造の喜びと創造の力を示すものである。更にそれは、重要なことは働くことであつて、しゃべることではない、といふことを證明するものである。強力なる指導のもとに、情熱的な意志と不屈の活動によつて、第三國家の最初の石の作品が出現したのであるが、これはまた諸君の絶大なる支持の賜である。

われらの總統は、屋外ナチス黨會議に於て、ドイツの文化、ドイツの建築、ドイツの將來の創造に就て、驚歎すべき言葉を以つて語つたのであるが、諸君は皆、總統の言葉を、總統の意志を、總統の心を以つて理解して居られる筈である。彼はわれらの言葉を以つて語つてゐる。

それ故に、彼が、困難のどん底から、再び幸福と自由の世界を築き上げた、かの比類なき國民の意志を、後世何千年にまで傳へるために、偉大なるものを創造し、豪壯なる建築物を建設するやうに要求したとき、われらは彼の眞意を理解したのである。總統は次のやうに言つた。物質的困難が人間を壓迫することが大きければ大きいほど、自主的な生活が困難であればあるほど——凡ての人間が一人残らず、その憧憬と希望を満足することは出来ないものであるから——、凡ての者がその勇敢なる精神を變のやうに擲きつけることが出来、また自分自身のものだと感ずるやうな、凡ての人に共通な何かが發生することが、いよいよ以つて必然的になる。かくて、民族協同體の建設を使命とし、人間を鍛へて民族協同體のうちに融合せしめようとする國家にとつては、それは益々必然的なことである。即ち、かゝる國家はまた、國民に魂を吹き込む、彼の偉大なる意志の實證を示さなければならない。

實際、石以上に雄辯に物語る何があるであらうか。時は流れ、民族は死滅し、種族は灰色の

前時代の中に姿を消したけれども、偉大なる建築物はその偉大なる時代を越えて聳え立ち、そして、嘗つて、不羈の力と天馬の誇りに充ち満ちた種族が生存したこと、その彼等は何千年の後までも、かくの如き證據を傳へることが出来たのであることを、われらに物語るのである。

もし、われらが今日、われらを心から揺り動かし、過去の偉大なるものを想ひ起さすところの、かくの如き比類なく偉大なる建物の前に立つたとするならば、余がこの建物を眺め、そして、今日のためでもなく、明日のためでもなく、遠い未來のための報告者として、われらも亦石によつて明らかに話したのであることを、本日ここに確認出来ることが、如何に余の感激に堪へないところであるかを、諸君は諒解するであらう。しかして、このドイツの力とドイツの美意識の證明のために、必要以上の裝飾を省いて、今日われら凡てを支配するところの、かの峻嚴なる精神の表現としての、峻嚴なる線條を表はしてゐる建物のために、諸君が協力し、助力したことを諸君は誇りとし、喜びとしなければならぬ。

民族の協同體の原理は、この建物の建築原理のうちに表現されてゐる。この建物は、諸君がその如何なる部分に協力したかに論なく、諸君自身の意志と能力とを物語つてゐる。如何なるものも、緊密に組合つて努力するのでなければ、出来るものではない。如何なるものと雖も、

石をしつかりと組み合はし、セメントを以つて固めなければ、永持ちすることは出来ない。鑱らしく正面を飾り立て、異國精神を一杯盛り込んだ、今日の宮殿や百貨店は、僅々數十年を目當ての建物であつて、既に割れ目や龜裂を見せてゐるのに反し、ここに出来上つた、奔放にして粗朴な建物は、堅牢確實であるのであつて、それといふのも、民族協同體がまた堅實緊密に組織されてゐるがためである。如何に風雨や嵐が荒れ狂ふとも、この堅牢なる民族協同體のうちに於て、われらはこれに堪へて行くであらう。恰もこの建物が、諸君の熱誠と細心の注意によつて、自然の暴力によつて龜裂を生じないやうに。かくてドイツ民族も亦、不信や猜疑、墮落が巢喰ひ、そこから、現在徐々に成長しつつある事業に龜裂を生ぜしめ、破壊せしめるが如き割れ目の一つでも作つてはならないのである。

この仕事に携はつた諸君は皆、民族協同體を象徵するものは、一つの建物以上のものではないといふことを感ずることであらう。この建物を建設するといふことは、一つの文化活動であつたのである。余の住居は、この建物と目と鼻の所にある。余は、そこから、この工事を監視して來たのであるが、夜眠れないやうなとき、ハンマーの響きに耳を傾けたり、投光機の光が、窓から流れ出てゐるのを眺めるのは、誠に楽しいことであつた。それは、新國家の音楽であり、

ドイツの仕事の永遠に平等な、輝かしい交響曲であつた。われらの民族がすっかり忘れてしまつてゐるところの、この驚くべき音楽を、再び盗み聴くことが出来るのであれば、誰でも睡眠の時間を喜んでそのために捧げるであらう。

數年前には、さういふことは未だなかつたのである。何百萬人の飢餓たる國民が、職もなく街頭を彷徨してゐたのである。彼等が働き口もなく、食べる物もないとき、彼等の飢渴せる心と頭腦に浮ぶものは、彼等を毒殺する腐敗物しかないのであつた。さういふ時代は何處へ行つたのだらう。そして今日はどうかだらう。今は、あらゆるものが再び活動を始め、經濟の車輪は到る所で唸り聲を擧げ、凡ての場所での國民の價值が認められてゐる。八ヶ月で一つの建物が建設される、といふ時代に生きるといふことは、誠に比類なく美はしいことである。しかし、われらは、それが出来たのは、總統の意志が仕事に従事する最後の勞働者に至るまで浸透するといふ、かの比類なき組織に由來するものであることを忘れてはならない。一つの意志、一つの精神が、彼等を支配し、前へ前へといふ衝動が彼等の心に充ち満ちてゐる。諸君は言辭に絶する犠牲に堪へて來たのである。それは、今日ここに參集した諸君だけでなく、既に、また他の場所であつてゐる諸君の仲間もさうであつて、彼等に對しても亦、余は感謝の意を表するもの

である。諸君は諸君の全力を集中して、晝となく夜となく活動を續けて來た。日曜日も仕事は休むことなく、同じ速さで行はれた。死語にのみ拘泥し、死語の下僕であるところの者は、或ひは日曜日の安息を破ることに就て論をなすかも知れない。しかし諸君、かくの如き建物を建設するといふことは、神の心に適つたことなのである。神はわれらの、この建物に祝福を垂れ給うたのである。でなかつたら、どうしてこの建物が出来上つたであらうか。しかして、もしわれらが十度び、祝祭日に労働をしたとしても、それは、それと同様に重要な祝祭日の仕事をしたことになるのである。なぜならば、この建物は、國家の外面的表現としてのみでなく、ドイツ航空事業のための内面的必然性としても亦、出現しなければならなかつたからである。

かくて、この建物は、また誠に、われらの航空機の新しき生誕の象徴であり、突進する精神の象徴であり、嘗つてはわれらを打ち倒した、かの兵器に對するわれらの勇氣を鼓舞する情熱的な精力の象徴である。その兵器は、それに對して、われらが如何なる精神を盛り込むかといふことが周知のことであつたので、われらの手へは斷じて手渡されなかつたのであるが、われらは今日國家を防衛するために、再びわれらの手に取り戻したのである。この航空機はし、かし又、一つの建物を、一つの中心を、最後の部隊、最後の中隊にまで流れ込む、力の流れの源



泉としての精神的中心點を必要とする。この建物は、總統の召しを受け、祖國と總統のために空の護りにつく、光榮を持つ凡ての人々のための力の源泉であり、且つ源泉でなければならぬ。それは、強烈な精神的波瀾と流れの源泉であり、何ものを以つてしても打ち破ることの出来ない團結であり、何ものを以つてしても阻止し得ない勇氣であり、何ものを以つてしても妨碍し得ざる實行力であり、祖國と總統と民族に捧げる情熱的な意志である。

かくて、將來、この建物の中で働く人々は、自分等のために、この美はしき労働の故郷を作つてくれたのは、ドイツの労働者の逞しい拳であつたことを、感謝して記憶しなければならぬ。彼等は、財産は、善き意志と善き思想のある場合にのみ生れるものであることを、考へて感謝しなければならぬ。彼等は、彼等のためにかかる家を作つたのは、ただ總統によつて創造せられた民族協同體だけであつたことを、感謝して理解しなければならぬ。なぜなれば、そこで働かなければならない建物が、猜疑と憎惡のうちに建てられたといふことと、われらの住み、労働する建物が喜びのうちに建てられ、そして、その仕事に對する愛と、その仕事を創造した労働者たちの喜びとによつて作り出されたといふことは、若干の相違があるからである。かくて、この建物の中に於て又、筋肉労働者と精神労働者との間に、民族協同體性が比類

なく強化され、また、この協同體性が、この建物の中で働く人々に對して垂範たらんことが望まれるのである。

この建物は更に、國民社會主義的精神財の監視所とならなければならない。諸々の場所で勞働し、書き、読み、製圖をかき、研究し、計畫を立て、組織する人たちはさういふことが皆出来るやうになつたのは、國民社會主義が勝利を得たからであり、その結果、われらの總統の驚歎すべき思想財が全民族に分け與へられたからであり、總統からわれらに贈られた世界觀の中から、階級憎惡、身分的高慢、嫉視、猜疑、増長等の分裂的なものを全部追ひ出さなければならなかつたからであり、ただ善きものの、堅實なものだけが、この思想財の中で成長し得るからであることを常に知つてゐて欲しいのである。絶えず感謝の心を忘れず、國民社會主義として、民族を解放し、民族を新たに鼓舞し、民族を再生せしめたかの光輝ある理念、絶望し、失神し、無数の傷口から血を吹き出してゐる民族の手に、光り輝く炬火として、再び返してやるために、總統が天から取つて來た理念の忠實なる下僕たることを、義務と感ずることを望むものである。この中で働く者は、總統は、その運動と理念とを以つて、ドイツの暗夜に忠誠の炬火を、ドイツの將來に對する新しい信仰の炬火をたいたのであることを、またさうすることに

よつて、われらの民族を團結せしめ、そして又、この建物を八ヶ月で建設せしめたのであることを忘れてはならない。正に、國民社會主義の輝かしき實證である。しかし、この思想財を理解しない者、或ひは内心だけでも、われらの理念の純粹性を犯すが如き者は、自ら慚愧して、この建物から出て行つて貰ひたい。さうでない場合、この建物は、凡てのものに災を與へて、自己の世界を超えて成長する自由を許すであらう。それは、一旦緩急ある場合、國民社會主義的建物としての、この建物の中から流れ出づべき、この理念の力によつて、彼等が自己の能力以上の偉業を遂行するやうな努力を、彼等に與へるであらう。

これは比類なき信條である。ここにわれらの建物が立つてゐる。そして、ここからつい目と鼻の處に又一つの建物がある。——昔の州議事堂が——以前、今と違つた時代に、今と全然別個の目的のために建てられた建物がある。此處では勞働がなされるが、彼處では、冗言と無駄口が行はれた。此處には誠實な意志があるが、彼處には誠意のない意志のやりとりがあり、此處には民族に對する活潑な興味があるが、彼處には個人的問題に關する無數の興味があつた。これはわれらの深く考ふべき對立であつたのである。しかして、彼處の建物を、その本來の目的から救ひ得たこと、かのブロシアの古い國會から、再び目的達成に役立つ建物を建設し得た

こと 彼處の建物に集合してゐた凡ゆる黨派を掃蕩し、彼等がわれらを分離してゐた、かの深淵の中につき噬し得たこと、そして、その深淵は今や口を閉ぢて、黨派や職業や階級を超えた一つの統一的民族と國家が形成されたことは、余の言ひやうのない喜びである。

數ヶ月のうちに、彼處の建物に接して、一つの建物が完成される筈である。その曉は、われらは、われらの意慾と意志とを携行して、そこへ引越する筈である。即ち、かくして、われらは仕事を民族と結びつけるのである。

しかし、われらは又同じく、この新しい建物に接して建つてゐたもので、新しくこの土地に建て替へられる、いま一つの建物を想ひ出す。上述した國會の建物が、無意味なおしやべりに使用されてゐたのに反し、その建物は、靜肅で、熱意と誠實な仕事の場所であつた。今日われらの省の最後の建物が着手され、徐々に高くなつて行つて居る、この場所には、嘗つては、昔のプロシアの陸軍省があつたのであつて、そこには、以前は自由戦争の偉大なる人々や、百戦百勝の軍隊を創設したシャルンホルストやグナイゼナウが坐してゐたのである。その建物では、義務と忠誠と仕事が支配してゐた。われらは、そこから最もよきプロシア―ドイツの傳統を引繼ぐのである。われらは、その土臺の中から、同様に熱心に、義務に忠實に、且つ恭順に

仕事をする力を汲み取らうと欲するものである。

かくて、嘗ては違つた目的のために建てられた兩翼の二つの建物は一つに結合され、その間にあつて、われらの偉大なる新しい建物はその兩腕を擴張、彼等を抱き寄せてゐるのである。そして、そこから汲み取つた力と傳統を、われらは新たに他のものに注ぎ込むのであるが、しかし、それも結局は一つの全體的な作品を、即ちドイツ航空の家を、ドイツ飛行界の中心を、ドイツ航空機の最高司令部を建設するためにである。諸君のうちに、われらと思想を異にし、これらのことを敢へて理解しようとせず、そして、おい、どうだ、國民社會主義者たちは、贅澤な建物をじやんじやん建てろぢやないか、等と言ふやうな者が、なほ若干居るかも知れないが、考へて見給へ。彼等はその際、この建物が如何に多くの人々に仕事を與へたかといふことは言はないのである。彼等が輕薄にも云ふところは、贅澤なものを建てる必要はない、贅澤なものを作るべきではないといふのである。しかし、國民を飢ゑさすことも亦贅澤ではないか。諸君の中には、僅か數ヶ月、數年前には働き口のなかつた者が澤山ゐる筈であつて、ドイツ人殊にドイツの勞働者は施し物で生活したり、物乞ひをすることを潔しとしないものであつて見れば、彼等は結局、もう一度仕事にありつけるといふことで幸福になれたわけである。彼等は

勞働を欲して居るのであり、その勞働に對する正常な賃銀を要求するのである。アドルフ・ヒトラーが、總統が建築し全國民の生命を覺醒せしめようと決意したからこそ、仕事が與へられたのである。それだからこそ、今日再び、前に増した満足と喜びの顔が見られるのである。凡てのこのことのあらを探したり、批評を加へたりすることは容易なことである。なんでも、これに何か別の解釋を加へたり、その中にある偉大なものを押し隠したりすることは容易なことである。われらが、ここに設立したものは、決して贅澤な建物ではないのである。寧ろそれは、勞働と、確固たる義務遂行のための建物である。この建物は、ドイツ航空を鼓舞する精神の故郷なのである。

本日、われらは、その上棟式をここに舉行し、更に、この建物がその落成に向つて進む日を鶴首して待つものである。そして、本日この上棟式に於ては勿論のこと、將來永遠にわれらは、この中で、働くことが出来ることに對して、満腔の感謝の念を持つと共に、この建築に協働せられた凡ての諸君に對して、深く心からなる感謝の意を表するものである。

諸君の一人ひとり、この家に自分も關與したのだといふ感じを抱いて居るやうに、余も亦最初から、この光輝ある建物の成立に關與して來ることが出来たことがを、心から喜びとし、

最初からこの光輝ある建物の成立に關與して來ることが出来たことを、心から喜びとし、

誇りと感じてゐるのである。この建物が、大した災害に遭遇することもなく實現することが出来たのは、誠に天佑の然らしむるところである。この作品が強く確固たる地歩を固めるまで、この民族に與へられた仕事に對して、その強く偉大な保護の手が加へられんことを、われらは神に祈るものである。

しかし就中われらの又感謝してやまない者、それは、この建物に對して精神的、民族的基礎を置き、今日のドイツ航空機、及びこの建物の出現の前提を創造し、また、一つの民族が喜びを以つて、またその活動の能力を傾けて共同の目的に向つて協力一致するための豫備條件を創造したところの人である。その總統に對してわれらは心からの感謝の念を捧げるものである。彼の精神を奉戴して、われらはこの家の中でも亦なにびとをも苦めようとするものではない。

ここに於てわれらは、何事をも畫策しようとは思はないし、外國遠征の軍を考へるものでもないしかしわれらは、ここでわれらも亦、何者からも苦しめられることのないやうに計畫し、考案しようとするものである。諸君、總統は、ピラケベルグに於てわれら飛行家を激勵する演説を諸君が眞に將來常に負ふべき義務を示した。即ち總統は言つた、「有能にして、勞働好きの民族をなし、以つて護るものは、國民の力であり、ドイツ航空機である」と。即ちそれは諸君の

義務である。言ふまでもなくわれらは、總統と民族を上空から守護するであらう。この建物もそのために出来たのである。石たるこの建物が、諸君の熱烈なる意慾によつて、即ち、總統がわれらに名づけた「國民の力、ドイツ民族の守り」たらんとする不屈の精神と意志によつて、赤熱し、満たされることは、われらの義務であり、諸君の義務である。

われらの總統、ドイツ國家の首相萬歳を叫んで、このことをここに誓ふものである。

(一九三五、一〇、一二、航空省上棟式にて)



## 航空技術と航空の研究

本日はわれらの祝賀すべき新しきドイツ航空の記念日である。本日午前には、戦争の結果破壊されたドイツ軍用機の再建に成功したかの一九三六年三月一日の記念式が舉行せられた。この日は、全ドイツ航空の轉回點をなし、且つまた、われらの民族史上永遠に忘却され得ない日である。この日は、總統が、陸軍及び海軍と共に、われらの神聖なるドイツの祖國の國境を守護すべき獨立のドイツ軍用機建設の命令を發した日である。

われらはこの日を回想して又感謝の念に堪へないのは、航空政策上の全體の情勢が、總統の決意によつて改變され、それが動機となつて、ドイツ航空の凡ての他の分野が、内部的に革新される一つの出發點となつたのがこの日であるといふことである。即ち、航空スポーツ及び航空輸送は、新しい強力な軍用機を自由に發展せしめることが出來たし、また就中、科學上、工業上、航空技術は偉大にして、空前の發達を上げたのである。

われらの内面的、外面的改新に對する感激の聖火を掲げ、總統の命令に従つて、われらは仕

事に着手した。われらは、われらの仕事をわれらの想像力を以つて遂行し、過去の遺産と、發育盛りで、生命を凡ゆる美と多面性として包擁する青年の創造的形能力とを結合した。かくてわれらは、われらの民族と國家に對する聖なる信仰を抱くことによつて、心の疑念と懦弱とを克服し、且つ、われらの民族の世代をして永遠に進展せしめる事業を創造すべく、新しく偉大なるものを實現した。

權力繼承當時のわれらには、われらの航空技術改新のために必要な出發點が缺けてゐた。ただ不充分的な研究が行はれて、それに關する理論が存在してゐただけである。航空工業は、非常に萎靡してゐた。かゝる状態に於ては、ただ完全なる新しき建設によつてのみ成功し得るといふことを、當時余は知つてゐた。

五年間に、われらの工業は、新軍用機と共に、その技能及び創造的價値を高め、その創造的能力は、今日全世界の注視と驚異の的となつてゐる。

偉大で、近代的な航空の研究が樹立され、獨立した航空科學は比較的短時間の間に發生して斯界の指導的列強に追ひつき、凡ての重要な領域に於て最高の能力を争ふに至つた。

航空研究には特殊な困難が伴つた。といふのは、航空研究には、他の場合と比較して、技術

的準備と完成、及び新人の養成といふことが、より多く必要であるからである。高度の馬力を持つ風洞が発見され、目下建設中である。小規模の工場設備でもある動力試験場に於ては、これらの發動機は、馬力の絶えざる増大と、最大限の飛翔度とを目指して、進歩改良を加へられてゐる。航空輸送の保安上、重要な無線設備は、特殊なる研究機關に於ける挽まざる研究によつて完成されるであらう。快速軍用機及び高度航空による搭乗者に及ぼす肉體的、精神的影響、即ち、所謂航空醫學の領域は、われらの科學的研究上、更に重要な領域となつた。

航空技術研究のための五つの國家機關、及び航空醫學研究のための一つの機關が、過去の航空界に新設され、或ひは既存のものを改裝して設立された。全航空研究に従事する人員は、權力把握の時に比べて、十倍以上に増大した。

技術的機具に對するかゝる素晴らしい物的改善がなされたとは云へ、しかし、それだけに權力把握の時代に存在した航空界の恐るべき低調を、速かに除去し得ることは出来なかつたのである。一般的進歩のためにも亦、航空技術及び科學を、精神的に基礎づけることは必要であつたのである。そのために、かゝる専門化した今日の科學界に於ては、目新しい七つの法規が發せられた。

一、何らかの形で航空の研究に關係してゐる凡ての方面に對してなされる技術的課題の指令は、國家航空省の技術局の特殊部課の管理下に於て統一に行はれた。同時にそこでは、凡ての建設計畫及び凡ての器具の分配を、現在及び將來の全航空界の技術的要求に即應せしむべく計畫された。

二、研究者の生活條件及び勞働條件は、技術生活や科學生活以外の生活に妥當する原則に準據して決定された。この場合、特殊の研究學者を創り出すことが重要な仕事であつた。

三、科學、教育、民族の教養に關し、航空工業及び技術研究上必要なる後進を養成するため法規が既に早く、國家の首相と打ち合せられた。といふのは、これら後進の確立がなかつたならば、全ドイツの航空技術及びその甚だしく多岐に亘る製作物の販路は、必然的に非常な危險に陥つたであらう。包括的な教育機關をベルリン、ブラウンシュウィク、ストットガルトに設立することは既に早く計畫された。

四、國民的反感を買ふまでに、ばらばらで、非概觀的な技術的科學的報告は、全國家の航空界のために綜合され、そして——科學上の個人的方法の價值を維持しながら、——そこから統一的觀點が導出された。

五、研究機關に於ける科學者を、工業機械の構造と結びつけ、更にこの兩者をして、航空將校團及び航空技術隊と意見を交換せしめ、更に、例へば自然科學者、數學者、醫學者、氣象學者、特にわがドイツ青年の教育家等、外部の科學分野に、ドイツ航空の進歩に協力する機會を與へるべく、余は、航空研究のためのリリエントール協會の設立を命令した。わが多方面の近代科學は、この協會に於て、征空の進展に寄與せんとする同一の目的を持つ共通の仕事に結合した。

六、總統が一年半前から着手してゐたドイツ航空研究翰林院の設立の目的は、わが全航空科學及び航空技術の指導部が、軍用機の指導部と協力して、大空征服の廣汎なる問題に對して精神的に共同作業をすることである。

この翰林院に於て、一般科學、就中、自然科學及醫學の指導的代表者は、又この若き航空界に對して、彼等の經驗の寶を提供しなければならない。この若き翰林院も、そこに於けるそれらの人たちの共同と研究方法が、指導的地位に就けらるべきわれらが後進の選拔に當つても、寄與し得るであらう。

この翰林院に於て行はれるものは、絶対に、科學的作業である。リリエントール協會が、非

常に具體的で、主として物質的な課題と、航空機自體及びその部分品を製造するための精神的事業とを綜合するものとすれば、この翰林院で行ふものは、航空研究の原理的、基礎的課題である。

かくて、この兩者の重點及び仕事の方向の相違は充分明瞭である。この翰林院は、したがつてわが國土の民族の將來にとつて、非常に重要な領域の、偉大なる前面的進歩のための開拓者でなければならぬ。翰林院は、その所屬の各人が、最初の任期の五ヶ年以上留任する權利を與へられるのは、ただその精神勞働の内容が非常に高い場合に限られてゐるのだ、といふ事實を知つてゐるときにのみ、よくその課題を遂行し得るであらう。

事實、航空技術全般に對して課題を課することは、先づ、國民的問題なりと考へらるべきことである。なぜなれば、工業の創造するものは凡て、正にわが民族の幸福の増大、或ひは更にわが國土の防衛のためのものであるべきだからである。

加之、近代航空の領域には、個々の國家の利害を超越して、協同體としての文化國家の生命のために重大なる意義を持つところの領域が少からず存在してゐる。これらの領域の多くの場合、その急速にして有効なる助成を永續的になすことは、友好的な國際的協同なくしては絶對

に考へ得られないことである。特に、工業的利用が直接實行されてゐないやうな、未開拓の處女地に於ては、かかる國際的共同作業はわが、文化の本質的標記である。かゝる高遠なる目標を目指す航空研究の領域に於てこそ、かくの如き國際的共同作業はやり甲斐があるのである。それ故に余は、名聲高き外國の科學者及び技師が、通信員として、本翰林院のみならず、航空研究のリリエントール協會にも亦加入して居られることに對して、歡びと満足とを以つて挨拶するものである。

外國に對する、特に、アメリカ合衆國の航空科學や諸多の近接國に對する、かかる友好關係は既に古くからあるのである。それは——個々の研究員の人間的友好感情は勿論のこと——相互の經驗の交換の寄與するところ大なるものがある、といふ認識を基礎としてゐるのである。この翰林院の記念すべき日に當つて、余の希望するところは、外國の科學、及び技術界の重鎮が、本翰林院の名に於て、今後更に一層共同的作業に献身せられんことである。

航空研究の翰林院はなぜ必要であるか。余が、本翰林院の設立を總統に建議しようと思つたとき、これは、科學生活の領域に一つの新しい道を開くものだ、といふことを余ははつきり知つてゐた。古い翰林院は、重要な文化活動の擔當者として偉大なる歴史を持つてゐる。し

かし、それらは、次の點で何らかの自己革新をし得なければ、今日既に、その何百年間の創設者たちを偲ぶ何ものでもないのである。即ち、それは、全國民の最高にして抱括的な知識を、共同の仕事に綜合するところの、全國の最も著名な學者の、唯一にして精神的な指導的結合である。今日わが科學は全體的に餘りに多岐多面となつてゐるがため、凡ての専門部門の最高の代表者たちを、その共通の仕事のための個々の組織に排他的に結合して置く、といふことは、もはや許されなくなつたのである。

全科學の分科的な發展は、前世紀の精神的な力をわれらの時代に送つた、かの發展の方向の一般的特徴である。過去に於ては經濟が、その後種々の方面に於て、國家行政も亦、その國內的建設と共に、この方向に向つて進んで來たのである。航空の領域に於ては、今日の一般科學に見られるが如き分科主義的發展は許容出來ない。若き航空界は——各特殊部門に對する専門知識の養成のほかに——全領域に亘る經驗の緊密なる交換を必要とするのである。専門家としての航空機製作者は、その設計に當つては、例へば發動機の特性を、その最後の構成要素に至るまで設計の基礎に置かなければならないが、同時に彼はまた高度飛行に對する醫學的前提、及び、飛行士や航空旅客に對する設備の効果をも知らなければならない。航空科學の根本領域



としての氣流學は、その仕事の中に、航空機の製作並びに航空モーターの製作及び軍用機部門を包含してゐる。

かくて、本翰林院は、科學者と技術家をしてその一面的作業部面を出でて、近代精神勞働の廣汎なる領域に觸れしめ、且つ、この兩者をして、時代の進展に即應して常に新しく相提携して進歩發展せしむることを以て、その職分とする。

われらは未だ始めたばかりである。しかし大空への侵入は、自然の法則上必然的である。地球の距離は短縮する。大洋は生活を細斷する力を喪失し、遠隔の大陸は、明け行く新時代の熱きぶきを感じず。成層圏への侵入は既に開始せられてゐる。人間の研究意志と挑みなき努力は、既に、冷酷に、敵對的に、わが地球を包被する、かの地球から遠く離れてゐて、人間の生命に敵對する空氣の層に侵入してゐる。同時に、この人間の飛行を促進するものに對する新しい認識は、既に、民族を結合するところの航空交通に利用された。この全世界の發見者たちは、確實にして信頼し得る航空の、最大の敵たる霧と氷を征服すべく、休みなき活動を續けてゐる。この場合、われらの努力が完全無缺なる成果を挙げ得るものではないであらうが、しかし、われらの危険を防止すべき、諸種の個々の手段を完成すれば、將來遂に、益々擴大される

航空の危険も、航海やその他全交通機關以上のものではなくなるであらう。

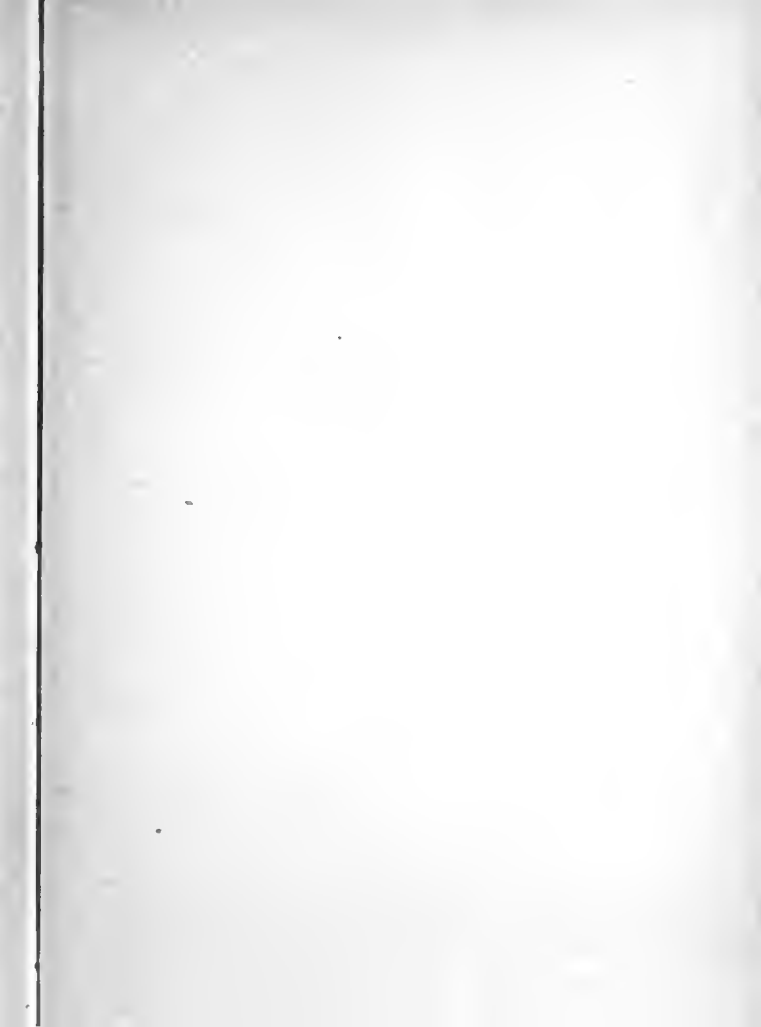
われらは轉換期に立つてゐるのである。かの不幸なる第一次世界大戰の兵士の年齢の者が、飛行士を本質的な目標として育成し、常に、かゝる人間生命意志の新しき表現は、先づ人類に文化の財寶と平和を與へるべく希望する時代の初頭に生活することを、われらは幸福と考へ、その惠まれたる運命に感謝しなければならぬ。われら人類の思想感情に何千、何萬年來永遠に靜止することなき、破壊されることなき宿願を宿せる夢が實現された、この時代に生きるわれらは、誠に幸福である。諸君に課せられた課題の偉大さは、諸君の全人格を捧げるに値するものである。即ち、精神的武器を持ち、われらの科學的原理と、人間の創造的精神に對する寛度ある助成とによつて、この大空征服の思想を押し進めなければならない。

諸君がこの課題を完遂するならば、諸君の仕事は、將來の全世界の人類に利益を齎すであらう。それは、陰險なる物質や人間の認識の缺如と戦はなければならない困難なる戦ひである。この戦ひはしかし、人間生活及び物質的價值に對する人類の犠牲を、減少するところ大なるものがあるのであつて見れば、それは人間の進歩のために益々必要である。かくて、諸君の仕事は、もし成功の榮冠に輝くその時は、全世界に向つて航空の必要を合圖することになるのであ

る。

かくて、わがドイツの會員の仕事は、わがドイツ航空の科學能力を全世界に注目せしめる、といふ特殊の目的にも捧げられなければならないが、それを以つて最後のものと考へてはならない。就中、翰林院のドイツ會員は、研究に捧げられる全力を擧げて、わが軍用機の必勝的優秀性、わが民族の保護、及びドイツ國民の輝かしき偉大さのために、用ふことを義務とするものである。かかる努力の上に完全なる成果が齎されることを、余は心から熱烈に希望するものである。

本日ここに、ドイツ航空及び特にわが輝かしき勇敢なる軍用機のために、かくの如き設備萬端を以て、祝祭日を舉行した所以のものは、同時にまた、われらの總統が斷乎たる意志を以て、ドイツの空に自由を取り返した、かの歴史的瞬間を回想するためでもある。われらは、祝福すべきこの時に當つて、心からなる感謝の意を總統に捧げるものである。われらは、彼の行く處常に忠誠なる従者として、彼に従つて行くものであることを誓ふ。



水邊の民衆

昭和十六年八月廿五日 印刷  
昭和十六年八月廿八日 發行

定價 壹圓六拾錢

著者 高野 瀏

刊行 常泉 歲夫  
東京市神田區三崎町一ノ八

印刷 會社 新陽堂印刷所  
東京市神田區三崎町二ノ一

製本 橫田製本所  
東京市神田區三崎町二ノ九

發行所

青磁社  
東京市神田區三崎町一ノ八

電話東京一七二三一八番  
會社神田二二五四番

配給元 本日出版 配給株式會社

東京市神田區高橋二ノ九

獨逸宣傳省  
大臣

ゲッベルス著

高野

劉譯編（拾版）

# 宣傳の偉力

B 6 刊三〇〇頁  
フランス裝美本  
一・五〇 千一四

宣傳は最も  
嶄新な政治  
的手段であ  
り最も近代  
的な政治闘  
争の表現方  
法である！

前大戰に於て完全に潜伏せる獨逸の真相を目撃したる者は  
誰か再び起つて正に歐洲全土を席捲せんとする輝かしき大  
獨逸の今日を想像し得たであらう。雖伏廿年、その間の苦  
闘と勝利の姿はヒットラーの『わが闘争』に判然と示され  
てゐるが、そのヒットラーと手を握つて、陰に陽に彼を援  
け、今日のナチス・ドイツを建設せる偉大なる功勞者の第  
一人者は、實にゲッベルス博士である。

本書はドイツ宣傳大臣ゲッベルスの、宣傳による闘争の記  
録であり、燦たる勝利の金子塔だ！

ゲッベルスの聲による「わが闘争」！

譯 德 恒 谷 菅

クイワツ・ンアフテス

# 史 歴 の 熱 白

ツワイクは本書に於て、人類の歴史を——歴史を通して人類の運命に關する命題を探究せんとした。ナポレオン、ゲーテ、ドストイェフスキ、南極探險家スコット等を拉し來つて、歴史に於けるわづかの瞬間が、如何に人類の世界と悠久の歴史とに、異常な變化と刺戟とを齎したか、世紀のドラマを語る珠玉篇。

入函 頁〇〇二 判 5 A

製 特 刷 度 二 文 本

四 一 ・ 送    〇 五 ・ 二

村上菊一郎譯

ルーレトーボ

# 散文詩

『惡の華』の詩人ボードレールは、此の散文詩一卷の中に最も人間性に徹した、飽くことなき肉欲の異臭と近代的な苦悶とを盛つた。而も今猶ボードレールの萬人に愛誦せらるゝ所以は、その暗黒と汚濁の裡に、絶えず光明と希望とを求めて止まぬ魂の呻吟と、熾烈なヒューマニティとを抱含してゐるからに他ならぬ。

二・五〇・送

特製二部限定

三・八〇・送



著 三 修 山 菱

集 詩

# 望 郷

孤高の詩人菱山修三氏の『懸崖』『荒地』に次ぐ第三詩集である。著者が永らく病床にあつて死に直面しつゝ思索し、激しい闘病の後にこの一卷は編まれた。『懸崖』といひ『荒地』といひ、共にその題名の示す如きけはしい境地から脱却して、健康恢復期にある目下の著者の心境は、自ら『望郷』の二字に具現されてゐる。

四 一・送 ○ 五・二

定 限 部 百 二 製 特

二 二・監 ○ 八・三

近刊豫定書

ゲ  
高野  
リ  
潤  
ン  
ゲ  
譯  
永遠の民族

菱  
山  
修  
三  
譯  
ヴァレリイ詩集

ス  
中  
タ  
本  
ン  
ゲ  
ア  
保  
ル  
譯  
愛について

ベ  
瀬  
ギ  
尾  
・  
昌  
ス  
コ  
ッ  
ト  
文  
譯  
空爆下の英國婦人

村上菊一郎著詩集  
夏の鶯

高  
三  
好  
村  
光  
達  
治  
郎  
小林秀雄  
堀口大學  
村  
上  
菊  
一  
郎  
辰  
雄  
菱  
山  
修  
三  
山  
内  
義  
雄

佛蘭西詩集





中里廉譯

# 支那の空



